２０１６年度

事 業 成 績 報 告 書

社 会 福 祉 法 人

聖 隷 福 祉 事 業 団

2016年度　事業成績報告書 目次

はじめに … 1
2016年度事業成績報告 … 4
聖隷三方原病院 … 7
三方原ベテルホーム … 15
聖隷浜松病院 … 17
聖隷淡路病院 … 20
聖隷横浜病院 … 22
聖隷佐倉市民病院 … 24
保健事業部 … 26
聖隷健康診断センター … 27
聖隷予防検診センター … 29
聖隷健康サポートセンター*Shizuoka* … 31
地域・企業健診センター … 33
浜松市リハビリテーション病院 … 35
聖隷袋井市民病院 … 37
在宅･福祉サービス事業部 … 39
＜和合せいれいの里＞
特別養護老人ホーム和合愛光園
和合愛光園デイサービスセンター
障害者支援施設みるとす
障害者相談支援事業所くすのき
生活支援ハウスやまぶき
和合愛光園和合サテライト
訪問看護ステーション住吉
聖隷ヘルパーセンター
聖隷巡回ヘルパーぐるり和合
聖隷ケアプランセンター浜松
聖隷ケアプランセンター和
地域包括支援センター和合
聖隷放課後クラブはなえみ和合
… 42
聖隷めぐみ保育園 … 46
＜聖隷ケアセンター初生＞
和合愛光園初生サテライト
聖隷デイサービスセンター初生
聖隷ヘルパーセンター初生
聖隷巡回ヘルパーぐるり初生
… 48
いなさ愛光園 … 50
もくせいの里 … 52
＜細江地区在宅複合事業＞
訪問看護ステーション細江
聖隷ケアプランセンター細江
… 54
＜聖隷ケアセンターいなさ＞
地域包括支援センター細江
聖隷ケアプランセンターいなさ南部
聖隷リハビリプラザいなさ
… 55
＜三方原地区在宅複合事業＞
訪問看護ステーション三方原
聖隷ケアプランセンター三方原
… 57
聖隷デイサービスセンター三方原 … 58
＜高丘地区在宅複合事業＞
訪問看護ステーション高丘
地域包括支援センター高丘
… 59
聖隷リハビリプラザＩＮ高丘 … 60
＜浅田地区在宅複合事業＞
訪問看護ステーション浅田
聖隷ケアプランセンター浅田
… 61
訪問看護ステーション住吉第二 … 62
聖隷デイサービスセンター住吉 … 63
聖隷コミュニティケアセンター … 64
聖隷厚生園讃栄寮 … 65
聖隷厚生園信生寮 … 67
＜聖隷厚生園　障害児者在宅事業（浜松）＞
ナルド工房
チャレンジ工房
きらめき工房
生活訓練事業所ナルド
障害者相談支援事業所ナルド
地域活動支援センターナルド
… 69
＜聖隷厚生園　障害児者在宅事業（磐田）＞
磐田市発達支援センターはあと
児童発達支援事業所かるみあ
児童発達支援事業所かるみあ豊田
… 71
浜松市生活自立相談支援センターつながり … 73
浜北愛光園 … 74
森町愛光園 … 77
松戸愛光園 … 79
＜浦安市高洲高齢者福祉施設及び
猫実高齢者デイサービスセンター＞
浦安市特別養護老人ホーム・短期入所生活介護
浦安市ケアハウス
浦安市高洲高齢者デイサービスセンター
浦安市猫実高齢者デイサービスセンター
浦安市高洲地域包括支援センター
… 81
浦安愛光園 … 83
浦安ベテルホーム … 85
聖隷ケアプランセンター浦安・
浦安せいれいクリニック
… 87
聖隷訪問看護ステーション浦安 … 89
横須賀愛光園 … 90
聖隷訪問看護ステーション油壺 … 94
宝塚すみれ栄光園 … 95
ケアハウス宝塚 … 97
結いホーム宝塚 … 99
宝塚栄光園 … 101
花屋敷栄光園 … 103
ケアハウス花屋敷 … 106
＜宝塚第二地区在宅複合事業（社会福祉事業）＞
聖隷ヘルパーステーション宝塚
聖隷逆瀬川デイサービスセンター
聖隷逆瀬川デイサービスセンター虹
… 108
＜宝塚第二地区在宅複合事業（公益事業）＞
聖隷訪問看護ステーション宝塚
逆瀬川地域包括支援センター
聖隷ケアプランセンター宝塚
… 110
＜北神戸地区在宅複合事業＞
聖隷訪問看護ステーション北神戸
聖隷ケアプランセンター北神戸
… 112
＜宝塚第五地区在宅複合事業（公益事業）＞
聖隷訪問看護ステーション山本
聖隷ケアプランセンター花屋敷
… 113
聖隷逆瀬台デイサービスセンター … 115
聖隷デイサービスセンター結い … 116
聖隷コミュニティケアセンター宝塚店 … 117
聖隷カーネーションホーム … 118
淡路栄光園 … 120
＜淡路地区在宅複合事業＞
聖隷訪問看護ステーション淡路
聖隷ケアプランセンター淡路第二
… 122
聖隷ヘルパーステーション淡路 … 123
奄美佳南園 … 124
のぞみ園 … 126
春日保育園 … 128
聖隷かがやき 130
＜沖縄地区在宅複合事業＞
聖隷訪問看護ステーションゆい
聖隷居宅介護支援センターゆい
… 132
聖隷こども園わかば … 133
聖隷こども園桜ヶ丘 … 135
聖隷こども園ひかりの子 … 137
聖隷浜松病院ひばり保育園 … 139
こうのとり保育園 … 141
磐田市子育て支援総合センター「のびのび」 … 143
こうのとり東保育園 … 145
聖隷こども園こうのとり豊田 … 147
逆瀬川あゆみ保育園 … 149
御殿山あゆみ保育園 … 151
御殿山児童館 … 153
野上あゆみ保育園 … 155
野上児童館 … 157
高齢者公益事業部 … 159
浜名湖エデンの園 … 161
宝塚エデンの園 … 163
松山エデンの園 … 165
油壺エデンの園 … 167
浦安エデンの園 … 169
横浜エデンの園 … 171
＜聖隷藤沢ウェルフェアタウン＞
藤沢エデンの園一番館
藤沢エデンの園二番館
藤沢愛光園
聖隷デイサービスセンター藤沢
聖隷ケアプランセンター藤沢
聖隷ヘルパーステーション藤沢
聖隷訪問看護ステーション藤沢
… 173
奈良ニッセイエデンの園 … 177
松戸ニッセイエデンの園 … 181
明日見らいふ南大沢 … 183
法人本部 … 185
2016年度施設整備事業報告 … 189
法人の概要 … 194
実施する事業の概要 … 195
役員の状況／理事会、評議員会運営の状況 … 205
附属明細書 … 206

2016 年度事業成績報告にあたり

理事長　山本敏博

聖隷福祉事業団の中期計画 2016-2020 の最初の年度として、最高の質、使命の追求、人づくり、女性活躍、新たなサービス創造、地域包括ケアへの取り組み、健全経営の推進を掲げましたが、関係の皆様のご協力、職員の努力によりこの１年間で順調に進展したと評価をしています。また、社会福祉法改正という社会福祉法人にとってたいへん大きな法改正が行われ、新たなガバナンス体制が求められましたが早期に準備を完了することができました。社会福祉法人としてより一層の地域貢献や情報公開を進めてまいります。

聖隷三方原病院は地域を支える機能がバランスよく整備され、安定した経営を継続しました。特に改修した介護老人保健施設三方原ベテルホームの改善が顕著でした。聖隷浜松病院では高い機能性を活かしてデイサージャリーセンターの設置などさらなる強化を図りました。聖隷淡路病院は積極的な地域連携体制の構築により高い稼働率を実現しました。聖隷横浜病院は利用者の安全・利便性に配慮しつつ新外来棟建築工事が進められています。聖隷佐倉市民病院も新病棟の建築計画を推進し、地域ニーズに合わせた医療体制への変化を進めています。指定管理受託施設である浜松市リハビリテーション病院、聖隷袋井市民病院はともに順調な経営がなされました。

保健事業部では予防医療や健康経営への関心が高まる中、巡回健診の受注が進みました。在宅福祉サービス事業部では地域ニーズに応えこども園、保育園の新設、定員増を実現しました。さらに障害福祉サービスへの取り組みを進め地域共生への貢献を図りました。高齢者公益事業部では浜名湖エデンの園の改築工事を開始し、永続的なサービス提供の確保をしていきます。

聖隷福祉事業団全体としては、人口減少や社会保障財政などの厳しい状況の中、質にこだわる姿勢など聖隷福祉事業団の事業・サービスをご支持いただき、過去最高となる利益を残すことができました。引き続き、地域の医療福祉ニーズに全力で貢献していくとともに、将来にわたり安定した経営を行える基盤づくりを推進してまいります。地域の皆様、日本財団様をはじめご支援をいただいた皆様には厚く御礼を申しあげます。

聖隷福祉事業団　理念～目標体系

基本理念

キリスト教精神に基づく

「隣人愛」

使命

・いのちと尊厳のために
・利用される人々のために
・地域社会とともに
・未来を築く
・最高のものを

ビジョン2020

人・地域・社会・時代が必要とする
ヒューマンサービスを追求し、
新たな価値を創造する

次ページへ

中期事業計画

事業部中期事業計画

事業団年度目標

事業部年度目標

職員行動指針

わたしたちは、
ひとりひとりの
命と尊厳を守ります

わたしたちは、
サービスを求める
すべての人々に、
誠実かつ献身的に仕え、
その自立を支援します

わたしたちは、
「保健・医療・福祉・介護」
サービスを通して
社会に貢献し、
地域の人々との
強い絆を育みます

わたしたちは、
先駆的・開拓的精神で
新たなニーズの発見に努め、
常に課題に挑戦します

わたしたちは、
ひとりひとりが専門職としての
倫理と誇りを持ち、
最高の技術を提供します

【用語の定義】
○使命：職員は何を大切に考えて仕事をするか　○ビジョン2020：2020年にどのような組織であるべきか

聖隷福祉事業団　中期事業計画　2016-2020

ビジョン2020
人・地域・社会・時代が必要とする
ヒューマンサービスを追求し、
新たな価値を創造する

1. 最高の質を追求し提供する
2. 社会福祉法人としての使命を追求する
3. 職員は高い専門性と経営的視点を持ち、能力を発揮する
4. 多様な能力、価値観を持った人材や女性の活躍を推進する
5. 社会のニーズに応える先駆的な事業・サービスを創造する
6. 地域包括ケアシステムを構築し、シームレス※1なサービスを提供する
7. 事業を継続し発展するためにサービス活動収益　年2.5%※2成長を維持する

2016年度　2017年度　2018年度　2019年度　2020年度

1. 最高の質を追求し提供する

- ①利用者視点に立った良質なサービス提供の実践
- ②人口動態の変化に伴うサービスの変革
- ③最新医療・介護技術、システムの導入・構築

2. 社会福祉法人としての使命を追求する

- ①社会福祉法人としての公益活動の推進・情報発信
- ②新たな組織体制の追求

3. 職員は高い専門性と経営的視点を持ち、能力を発揮する

- ①サービスの質を意識し、専門職としての知識・技術・価値の追求
- ②経営を担う人材、新たな価値を創造する人材の育成
- ③中期事業計画を理解し、自ら考えて行動する人材の育成

4. 多様な能力、価値観を持った人材や女性の活躍を推進する

- ①多様な働き方の創出
- ②女性の活躍を推進するためのキャリア形成支援

5. 社会のニーズに応える先駆的な事業・サービスを創造する

- ①効果的な投資による経営資源の最大活用
- ②社会環境の変化を先取りした事業の展開
- ③地域に求められるサービスの提供

6. 地域包括ケアシステムを構築し、シームレス※1なサービスを提供する

- ①地域枠での聖隷独自の事業展開と事業部の融合
- ②聖隷と他法人の連携による地域包括ケアシステムの構築
- ③地域包括ケアシステムにおける連携の仕組み作り

7. 事業を継続し発展するためにサービス活動収益　年2.5%※2成長を維持する

<2020年度到達目標>

①サービス活動収益 対2015年度比	112.5%以上
②経常増減差額率 5か年累計平均	3.0%以上
③職員一人あたりサービス活動収益 対2015年度比	107.0%以上
④職員一人あたり経常増減差額 対2015年度比	112.0%以上
⑤実質資金増加額 5か年累計	60億円以上
⑥純資産比率（自己資本比率）	40.0%以上
⑦人件費率	58.0%以内
⑧有利子負債比率（対サービス活動収益）	30.0%以内
⑨公益活動比率（対サービス活動収益）	後日検討

※1 シームレス：地域において保健・医療・福祉・介護サービスを事業団内、他法人との連携により継ぎ目なく受けられること。

※2 成長率 年2.5%：新たな事業展開、医療・福祉人材の確保等を行う中で、安定的な経営を行うために年2.5%以上の成長が必要である。
2020年度終了時、サービス活動収益対2015年度比112.5%以上

（2015.11.27 理事会承認）

2016 年度　事業成績報告

常務執行役員　青木　善治

(1) 事業の経過及びその成果

当期は、診療報酬の改定の年であり、改定率は▲0.84%と 2008 年度以来のマイナス改定が行われた。一方、人事院勧告も 3 年連続でプラス改定となり、月例給改定率としてはプラス 0.2%という改定となる等、2015 年度に引き続き経営上厳しい要因が重なった年度であった。しかしながら継続して質の向上と地域ニーズへの対応を行い、第 4 四半期には成績が回復し、最終的にサービス活動収益は 1,098 億円、2015 年度より 43.4 億円（対前年 4.1%増）の増収を達成することができ、経常増減差額においては、経営効率向上を図る中で予算を大幅に上回る、プラス 46.8 億円（経常増減差額率 4.3%）の実績を計上することができた。

(2) 医療・保健事業

医療事業において、聖隷三方原病院は高度救命救急センターのスタッフの増員や、認知症疾患医療センターの相談機能の強化など体制の充実を図った。熊本地震に対しては医療チームを派遣した。また診療報酬改定への対応を図り、適正管理及び精度の向上に努め、着実な経営実績（税引前当期活動増減差額 7.43 億円）を上げることができた。

聖隷浜松病院においては、プロジェクトネクサスの最終年度として高度急性期医療体制とアメニティ強化を図り、6 床増床と、ICU、救命救急病床の再編により、重症救急患者の受入体制を強化したことなどにより、税引前当期活動増減差額において予算を達成し、前年も上回ることができた（税引前当期活動増減差額 4.06 億円）。

聖隷淡路病院においては、12 月に出産数累計 200 件の達成や、地域包括ケア病床の稼働率アップなど地域のニーズを反映した病院運営を行うとともに、経営改善に対する強力な取り組みを行った結果、税引前当期活動増減差額において予算を達成し、マイナスではあるが、前年を大幅に上回ることができた（税引前当期活動増減差額　前年▲2.55 億円→▲1.19 億円）

聖隷横浜病院においては、経営的に大変厳しい状況が続いている中、救急受入れ態勢の再構築や健康診断事業の拡大、将来構想を踏まえた医師の採用などの対応策を行い始めたが、更なる抜本的な改善への取り組みが必要である。

聖隷佐倉市民病院においては、先天性側弯症、救急診療など診療機能の強化がなされ、透析患者の増加により、税引前当期活動増減差額において予算を大幅に上回る結果（予算＋0.01 億円→＋1.34 億円）を出すことができた。

保健事業部では新しいストレスチェック制度が 7 万人を超える実績を上げ、MCI ドックなどの新健診コースも開発された。静岡・浜松地区ともに巡回健診における新規顧客の獲得が増加することができ、更に、産業保健・健康経営への質の高い取り組みが結果となって表れ、受診者総数が 680,475 人（対予算 111.5%）となり、予算の達成とともに 9 年ぶりの黒字転換（税引前当期活動増減差額　前年▲0.31 億円→＋1.83 億円）がなされた。

指定管理を受け 9 年が経過した浜松市リハビリテーション病院は、在宅支援室や高次脳機能センターを設置し医療の質の向上へ更に力を注ぎ、経営的にも順調な運営が行われた。また 4 年が経過した聖隷袋井市民病院は、当初予定通り回復期リハビリテーション病棟 50 床の開設を含む 3 病棟が揃うことにより、中東遠医療圏の医療機関とも連携し、地域全体として効率的な医療提供体制の整備が進められた。　経営的にも累計赤字を解消し順調な運営が行われた。

(3) 在宅･福祉サービス事業

当期は「聖隷ぴゅあセンター磐田」、「聖隷こども園めぐみ」等の新規開設に伴う整備や、「聖隷こども園わかば」「聖隷こども園ひかりの子」増築など、障害福祉・保育事業の拡充が進められた。特に保育事業については待機児童の解消の為の対策として施設整備を前倒したが、保育士など多くの職員採用も成功し、質を担保しつつ順調な運営がなされた。

一方、大変厳しい経営状況が続く浦安ベテルホームにおいては、地域の医療機関や福祉施設等との連携により利用者減への対応や新規加算の取得などにより、経営改善に向け継続的な取組みを行なわれた（税引前当期活動増減差額　前年▲1.02 億円→▲0.44 億円）

介護福祉施設全体では入所対象者が介護度 3 以上とされた影響は大きかったが、現場の努力により経営的に大きな影響を受けることなく運営ができた。事業部全体でサービス活動収益において、178.2 億円（対前年 103.2%、対予算 100.7%）を達成し、税引前当期活動増減差額 11.0 億円となり着実な実績を残すことができた。

(4) 高齢者公益事業

長年のテーマであった浜名湖エデンの園の耐震対策のための建替え工事がスタートした。そのような中で、新規契約数（目標 105 件→実績 82 件）と入園契約金額（目標 40 億円→実績 28 億円）がともに目標達成できなかった。これは募集方法の課題と 1 年契約の数が多かったことに起因する。会計上の特殊性から、税引前当期活動増減差額が＋8.49 億円であったにもかかわらず、7.4 億円の資金不足となっている。今後はキャッシュフローの管理もますます重要となってくる。

(5) 財務の状況

資産整備としては 83.2 億円であり、うち新築工事・高額備品等の特別整備は 53.0 億円の投資を行った。特別整備の中では、11.6 億円は聖隷横浜病院の新外来棟建築工事の支払いであり、聖隷浜松病院の A･B 棟、リハ棟の改修工事が 8.0 億円、浜名湖エデンの着手金が 6.5 億円であった。また、前述のこども園３園の整備は 11.3 億円であった。この資産整備に伴う新規借入額は 35.4 億円であり、一方、長期借入金並びにファイナンスリース債務等の返済金額は 46.5 億円である。この結果、長期借入金残高は 330 億円となり、サービス活動収益に対する有利子負債比率は 30.4%（前年度 32.8%）に下げることができた。一方、運営資金である短期借入金は、2011 年度から借入実績はなく、賞与借入金についても、全額を自己資金でまかなう等、事業が拡大する中で継続的に財務体質の健全化を進めている。

≪直近５年間のサービス活動収益及び経常増減差額≫　　（単位：百万円）

サービス活動収益	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度
医療･保健事業 計	70, 307	72, 458	75, 207	79, 831	83, 437
高齢者公益事業	8, 722	9, 010	9, 034	9, 333	9, 405
在宅･福祉サービス事業	15, 104	15, 831	17, 747	17, 269	17, 820
本部会計	2, 104	2, 585	2, 705	307	508
内部取引	－	－	－	▲1, 237	▲1, 331
合　　計	96, 237	99, 884	104, 693	105, 503	109, 839
経常増減差額					
医療･保健事業 計	2, 240	1, 224	1, 231	1, 780	2, 685
高齢者公益事業	▲191	49	245	1, 160	1, 277
在宅･福祉サービス事業	619	273	502	788	871
本部会計	1, 249	1, 336	1, 288	▲795	▲156
合　　計	3, 917	2, 882	3, 266	2, 933	4, 675

※医療・保健事業には浜松市リハビリテーション病院及び聖隷袋井市民病院含む

※2015 年度より新会計基準に変更

➢ 中期事業目標進捗状況（2016年～2020年）

経営分析指標	目標	実績
サービス活動収益　対2015年度比	2020年度 112.5%以上	104.1%
経常増減差額率	3.0%以上	4.3%
一人あたりサービス活動収益 対2015年度比	2020年度 107.0%以上	101.2%
一人あたり経常増減差額 対2015年度比	2020年度 112.0%以上	155.0%
実質資金増加額　5年累計	2020年度 60億円以上	15.4億円
純資産比率（自己資本比率）	2020年度 40.0%以上	38.4%
人件費率	58.0%未満	57.3%
有利子負債比率	2020年度 30.0%未満	30.4%

医療保護施設　総合病院　聖隷三方原病院

2016 年度の診療報酬改定は 2008 年度以来のマイナス改定となり、病院にとっては厳しいものとなった。国は 2020 年度の財政健全化を達成すべく、医療費の伸びにも抑制がかかったと考える。また、2025 年に向けて地域包括ケアシステムの推進と医療機能分化・強化が明確に打ち出された年であった。

指定を受けて 2 年目の高度救命救急センターは、二次救急当番日などにスタッフを増員し患者の利便性向上と地域関係機関との円滑な連携が可能となるようセンター機能の強化を図った。4 月には震度 7 が 2 回観測された熊本地震が発生し甚大な被害となった。当院では静岡県からの支援の一環で、第 3 陣医療救護班として医療チームが数日間現地に入り派遣業務を担当した。改めて自然災害の恐ろしさを痛感するとともに、これらの経験を今後の活動に活かしていきたい。

基幹型認知症疾患医療センターとして浜松市と協力して作成した「はままつオレンジガイドブック」（認知症ケアパス）が普及したことで各医療機関の役割が明確となり、より基幹型病院としての業務を遂行する環境が整いつつある。

初期研修医はマッチング面接後、きめ細かいフォローアップを行うなどした結果、マッチング受験者は定員を大幅に超え 2016 年度もフルマッチとなった。新専門医制度の実施は 2018 年度へ延期されたため、基幹病院としての条件が変わる可能性があり、いつでも手上げできるよう行政の動向に注意を払っていく。

2015 年に開始された医療事故調査制度は 6 月に一部改訂がなされ、職員への周知を図るため、医療事故調査機構の方を招き講演会を開催した。

7 月に相模原で起きた障がい者施設での事件を踏まえ、おおぞら療育センターでは警察の指導のもと防犯訓練を行った。病院でも監視カメラの設置を含めた院内セキュリティの整備を 2017 年度に予定している。

2 月には日本病院機能評価機構の更新審査が行われた。受診するにあたりプロジェクトを発足し、そのメンバーを中心に業務改善に取り組んできた。今後も改善サイクルの日常化を目指したい。

最後に、2016 年度は入院・外来ともに患者数が減少傾向にあったが、11 月以降入院患者は予算を上回り病棟では大変忙しい状況が続いたこともあり、2016 年度も予算を達成することができた。職員が頑張ってくれた結果であると心より感謝したい。

	予　算	実　績	対予算	対前年		予　算	実　績	対予算	対前年
入院患者数	630 名	631 名	100.2%	99.7%	外来患者数	1,080 名	1,011 名	93.6%	95.2%
入院単価	61,600 円	62,410 円	101.3%	101.2%	外来単価	15,300 円	16,591 円	108.4%	107.6%
職員数	1,426 名	1,420 名	99.6%	101.5%	病床利用率	82.5%	82.6%	100.1%	99.6%
サービス活動収益	20,160 百万円	20,425 百万円	101.3%	100.8%	サービス活動費用	19,587 百万円	19,610 百万円	100.1%	100.5%

（注：外来患者数、外来単価は歯科を除く）

１．安全で、質の高い医療の提供

（ア）安全な医療の提供

指定を受けて２年目の高度救命救急センターは、二次救急の準夜帯に看護相談職員を配置し患者からの電話相談に対応した。また連休の二次救急時には採血室を開けるなど患者の利便性を向上させ、さらに地域連携室の職員を増員し地域関係機関との円滑な連携が可能となるよう努め、センター機能の強化を図った。病棟出張生理検査の訪問病棟を拡大し、患者転倒リスクの低減を図った。2015 年度に施行された医療事故調査制度の周知を図るために医療事故調査機構の方を招いて講演会を開催した。

（イ）質の高い医療の提供

7 月より泌尿器科において腎臓部分切除術におけるダヴィンチ手術が開始され 2 月末までに 13 件実施した。膵石・胆石に対する ESWL(体外衝撃波結石破砕治療)の施設認定を取得した。内視鏡室・手術室へ出向いて迅速出張細胞診検査を実施したことで病理検体の質の向上と再検査などによる患者負担の軽減を図った。外来看護にて入院サポート業務を開始し、早期から退院後の在宅準備ができるよう入院前より地域と連絡をとるなど地域連携の強化を図った。

２．人づくり文化の継承と働く支援

（ア）医師・看護師・介護職の人材確保と定着

初期研修医採用の取り組みとして、2016 年度は新たに岡山の合同説明会への出展を行った。残念ながら採用には至らなかったが、今後も各地域から偏らない採用を目指したい。介護職員の採用については、2016 年度より指定校制度を導入し介護職の採用強化を図った。

３．地域における多施設連携の取り組み

（ア）地域包括ケアシステムの推進

障がい児の幼稚園や保育園での受け入れの理解を促進させるため、幼稚園教諭や保育士の見学を受け入れ、障がい児受け入れの指導を行った。退院調整が円滑に進むよう北区在宅サービス事業所連絡会、訪問看護連絡会、引佐医師会が開催する研修会に積極的に参加し、顔の見える関係作りに努めた。褥瘡ケアやストーマケアなど専門ケアに関して当院の専門看護師が他施設からの相談を受け、時に指導することで地域における看護のレベルアップに寄与した。入院患者の円滑な退院のため、入院決定時から患者家族が入退院準備に取り組めるように、外来看護師が入院オリエンテーション、リスクアセスメント等を実施し、必要な支援者と連携を図るようにした。また、訪問看護ステーションの看護師と退院前後の同行訪問を推進し、処置方法等の引継ぎを実施した。

（イ）高度救命救急センターの体制充実

ドクターヘリの運航をはじめとして、救急医療の実践を円滑に行うために、地域医療機関や消防機関など関係各機関と連携をしている。2015 年に引き続いて管内の各消防機関に出向いての訓練や勉強会を実施し顔の見える関係作りを継続した。高度救命救急センターとして熱傷・急性中毒・指肢切断などの特殊疾患にも各診療科と連携し対応ができた。

（ウ）認知症疾患医療センターの体制充実

2016 年度は認知症看護認定看護師と医療相談員が、認知症に関する様々な相談を受ける認知症相談会を定期開催し相談機能の強化を行った。9 月には「認知症を知ろう」と題して一般市民向けの講演会を開催した。その際市民の方からの質問も多く関心の高さを実感した。また浜松市主催の「キャラバン・メイト養成研修」へ講師派遣をし、認知症サポーター養成講座の講師養成に協力した。この他にも多くの研修会や講演会において地域全体で認知症の人やその家族を支えることの重要性を啓発した。

認知症せん妄サポートチームは「高齢者に対する向精神薬の適性使用についての推奨ガイドライン Ver.1.1.1」を普及し、適正な薬物使用を推進した。

（エ）地域がん診療連携拠点病院の体制充実

2016 年度は市民公開講座を 2 回、医療従事者研修会を 2 回開催した。がん患者の就労に関する相談会も 2015 年度に引き続き隔月で開催したが、2016 年度は職員が当院の取り組みを理解し、患者様に積極的に声掛けできるよう職員向けの勉強会を 2 回企画した。

浜松・湖西地域を対象に、がんの治療と仕事の両立支援に向けて連携を図るべく、浜松市内のがん拠点 4 病院を中心に、医療機関や商工会議所等の経済団体、公的支援機関などで構成されている「がん患者就労支援ネットワーク」が発足した。当院も事務局の一端を担い、主な経済団体へ本ネットワークの説明及び参画を依頼するとともに、第 1 回ネットワーク協議会や就労支援講演会を開催した。

（オ）地域医療支援病院の体制充実

回復期リハビリテーション病院では対応できない透析・精神科などの入院を受け入れている。結核や透析に関しては近隣の病院・クリニックが定期的に集まり、学習会・情報交換会を開催して地域としてのレベルアップを図った。また、へき地医療拠点病院である佐久間病院へ医師を派遣し、地域医療を支えるべく協力している。

（カ）災害拠点病院としての体制充実

2016 年熊本地震に対する静岡県からの支援の一環で、医療救護班として当院医療チームが派遣業務を担った。8 月に行われた政府による大規模地震時医療活動訓練に災害派遣医療チーム（DMAT）が参加し災害拠点病院として、またドクターヘリ基地病院として静岡県防災計画の中で重要な役割を担い自衛隊・県庁などの関係機関と連携しながら活動することができた。2017 年 3 月には、静岡災害派遣精神医療チーム（静岡 DPAT）の指定機関として指定を受けた。

４．地域に望まれる病院環境の整備と社会貢献

（イ）地域医療構想への対応

地域に必要とされている医療を提供し続けるという方針の中で、病床機能報告制度においては、県西部医療圏の需給予測、や近隣病院の報告状況を注視しつつ、病棟毎の機能分析を行った。病床機能は B4 病棟を急性期へ変更し、高度急性期 353 床、急性期 287 床、慢性期 170 床で報告を行った。

（エ）精神科救急医療基幹病院としての体制充実

2016 年度は障がい者施設事件の影響により一時緊急措置入院が急増し対応に苦慮した。静岡県精神科救急医療対策事業における西部地区精神医療相談窓口の委嘱を受け活動し

ており、24 時間 365 日如何なる入院にも対応できるよう体制をとっている。

（カ）病院ボランティアの充実

院内行事へ参画や松葉杖のメンテナンスなど 2016 年度も様々なことを行って頂いた。4 月からはエスカレーターでの転倒防止のためエスカレーター前で利用者に対して注意喚起を行い、安全面でも多大な貢献をして頂いている。病院ボランティア説明会を 3 回開催し、説明会の参加者に対してボランティア講座として、感染の知識・車椅子介助・認知症と高次脳機能障害など病院ボランティアに必要な知識に関する講義を実施し、新たに 7 名のボランティア登録者を得た。

（キ）障がい者雇用の継続

安定して雇用ができるようにハローワーク主催の障がい者を対象とした説明会や面接会に参加し 2016 年度は 3 名新規に雇用した。受け入れ職場も増え、既に就労実績のある職場においては簡易な業務は新規雇用者へ委譲、既雇用者には新たな業務を行ってもらうなど、業務の拡大にも努めている。

５．安定した経営基盤の確保

（ア）診療報酬改定への対応

重症度、医療・看護必要度の厳格化に伴い改定内容の周知徹底を図った。また、看護部と事務部が連携し、二重チェック体制を強化し適正管理および精度の向上に努めた。

６．地域における公益的な取組

院内ボランティアの受け入れを行い、高校生の看護体験は 99 名、高校生、中学生の職業体験 29 名を受け入れた。

市民公開講座は 5 件実施し 270 名、患者、一般利用者対象の栄養講座は 24 名が参加した。

医　療　保　護　事　業

生活困窮者、無保険者、外国人労働者等に対する医療費・室料の減免を行った。引き続き福祉施設等への医師・薬剤師・理学療法士等の派遣協力を行った。

第 一　種　助　産　施　設

2016 年度に助産制度を利用された方は１名であった。診療体制も徐々に整いつつあり今後も生活困窮者への支援の一助となるよう、利用に向けての情報を多くの方に周知するよう努めていく。

聖隷おおぞら療育センター
「医療型障害児入所施設／療養介護（重症心身障害児施設）・短期入所（ショートステイ）」

聖隷おおぞら療育センターの施設入所サービスは、2012 年の障害者総合支援法の成立以降、医療型障害児入所施設（18 歳未満）と療養介護（18 歳以上）の並立施設運用になっている。2016 年度の利用実績は 4 月時点の入所者は 135 名であったが、2017 年 3 月末では 132 名（期間限定の入所者 2 名を含む）となった。
また、保護者など家族の事情により一時的な入所が必要と判断したケースで実施している期間限定入所の受け入れは 2016 年度は 12 名となり、緊急時など必要な時に安心して利用できる施設としての役割を果たすことができた。

ショートステイの 2016 年度利用実績は、1 日平均利用者数が 15.0 名（定員 20 名）、新規契約者は 7 名で契約者総数は 313 名となり、在宅の重症心身障害児者及びその家族を支援する為の重要なサービスとして地域の期待に応えることができた。

2016 年 7 月に神奈川県の障害者施設で起きた事件以降、利用者の安全を確保するための防犯対策が大きな課題となった。警察官による施設周辺の夜間巡視を依頼すると伴に、11 月には細江警察署と合同で不審者侵入に対する防犯訓練及び護身術訓練を実施した。また、浜松市の補助金を受けて、防犯カメラと警察への非常通報装置を設置し防犯対策の強化をすることができた。

あさひ「生活介護」

2016 年度は利用者数 49 名からスタートし、年度途中の利用開始者が 3 名、利用終了者が 4 名あり、48 名で年度を終了した。利用実績は、1 日平均利用者数 33.4 名（定員 35 名）となった。職員配置では、看護師を 3 名体制とし、医療的ケアの必要な利用者に安全なサービスを提供できた。また、常勤専従の生活支援員の配置を維持し、安定した日中活動支援を継続的に提供することができた。重度の医療的ケアの必要な方が増えている中で、小グループ単位で日中活動に重きを置いたサービスを提供することができた。

児童発達支援センターひかりの子
「児童発達支援・放課後等デイサービス・保育所等訪問支援・障害児相談支援・特定相談支援」

児童発達支援センターは、通所利用の障害児への支援だけでなく、在宅障害児の支援を積極的に行い地域の中核的な療育支援施設としての役割を果たす必要がある。当施設は 2015 年に保育所等訪問支援を開設し、必要な体制をすべて整えることができた。

児童発達支援は、障害や発達に沿った遊びや保育を重視して実践した。2016 年度は利用者数 21 名からスタートし、年度内の利用開始者が 9 名あり、最終的には 30 名となった。利用実績は、1 日平均利用者数 12.1 名（定員 15 名）となった。

放課後等デイサービスは、静岡県西部圏域の特別支援学校に通う医療的ケアのある重症心身障害児を主な対象とし、学校の授業終了後や休日に利用できるサービスである。2016 年度は利用者数 35 名からスタートし、年度内の利用開始者が 1 名あり、最終的には 36 名となった。利用実績は、1 日平均利用者数 4.7 名（定員 5 名）となった。

2014 年に開設した相談支援事業所おおぞらは、児童を対象とした障害児相談支援と主に成人を

対象とした特定相談支援を行っている。2015 年度は登録者数 174 名であったが、2016 年度は新規契約者 26 名、契約終了者 11 名と、最終的な登録者数は 189 名となった。

	入　　所		短期入所		あさひ		ひかりの子	
	予　算	実　績	予　算	実　績	予　算	実　績	予　算	実　績
入院患者・利用者数	140 名	137 名	16 名	15 名	－	－	－	－
入院単価（医療）	28,500 円	28,107 円	－	－	－	－	－	－
入院単価（福祉）	8,637 円	8,530 円	23,270 円	25,105 円	－	－	－	－
外来患者・利用者数	57 名	53 名	－	－	36 名	35 名	20 名	19 名
外来単価（医療）	5,400 円	5,113 円	－	－	13,450 円	13,960 円	14,830 円	14,013 円
サービス活動収益	2,143,000 千円	2,052,970 千円	左記含む －	左記含む －	120,000 千円	121,270 千円	79,000 千円	71,411 千円
サービス活動費用	1,825,000 千円	1,816,783 千円	左記含む －	左記含む －	126,000 千円	134,305 千円	62,100 千円	60,502 千円

（注：外来患者数、外来単価は歯科を除く）

地域における公益的な取組

・ボランティアの受け入れ（延人数 157 人）

・中学校、高等学校の福祉・職業体験（延人数 10 人）

1. 科別入退院状況

項目	総診	腎内	ホスピス	消化	循環	呼内	結核	内分	脳卒	呼外	外科	整形	形成	産科	婦人	小児	泌尿
入院	151	168	132	1,222	1,192	1,312	27	87	371	876	1,171	1,407	238	254	264	949	858
退院	159	181	289	1,175	1,170	1,373	29	94	351	882	1,238	1,500	252	252	257	952	872
延入院	4,641	3,964	9,360	16,778	13,361	25,130	1,420	2,048	8,869	11,066	14,940	31,236	3,646	1,646	1,936	6,003	6,486
1日平均	12.7	10.9	25.6	46.0	36.6	68.8	3.9	5.6	24.3	30.3	40.9	85.6	10.0	4.5	5.3	16.4	17.8
平均在院日数	28.9	21.7	43.1	13.0	10.3	17.7	49.7	21.6	23.6	11.6	11.4	20.5	13.9	5.5	6.4	5.3	6.5

項目	眼科	耳鼻	皮膚	脳外	精神	麻酔	救急	神内	リハ	心外	肝臓	放治	化療	感リ	血内	お小	合計
入院	1,918	427	52	506	432	5	1,043	11	24	275	115	8	−	18	155	349	16,017
退院	1,913	432	59	500	483	5	536	10	70	300	124	8	1	34	166	343	16,010
延入院	4,920	3,125	1,254	12,175	21,820	12	6,481	297	4,281	4,328	1,352	45	4	1,007	6,682	49,880	280,193
1日平均	13.5	8.6	3.4	33.4	59.8	−	17.8	0.8	11.7	11.9	3.7	0.1	−	2.8	18.3	136.7	767.7
平均在院日数	1.6	6.3	21.5	23.2	46.6	1.4	7.5	27.3	89.6	14.0	10.3	4.6	6.0	37.4	40.6	143.2	16.5

2. 月別一日平均入院・外来患者数

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
入院	617.1	618.6	609.0	609.8	608.5	600.5	601.1	631.8	633.5	680.3	705.5	661.2	631.0
入院【おおぞら合算】	755.7	756.9	745.6	746.6	745.0	737.1	737.6	767.3	769.4	815.9	843.6	796.5	767.7
外来(医科)	972.1	1,051.9	988.6	1,006.4	1,014.7	1,033.2	989.7	1,032.9	1,052.3	1,015.3	998.4	988.7	1,011.2
外来(医科)【おおぞら合算】	1,025.6	1,102.7	1,042.3	1,061.2	1,064.3	1,086.6	1,039.2	1,088.2	1,107.8	1,067.5	1,052.7	1,045.6	1,064.5
外来(医・歯科)	995.8	1,076.7	1,011.1	1,025.5	1,036.7	1,055.0	1,010.0	1,058.8	1,077.5	1,045.1	1,032.2	1,020.8	1,036.2
外来(医・歯科)【おおぞら合算】	1,051.7	1,129.4	1,067.5	1,082.6	1,088.1	1,111.3	1,061.7	1,115.8	1,135.3	1,099.3	1,088.8	1,080.2	1,091.8

3. 月別入退院状況

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入院	1,283	1,289	1,264	1,375	1,345	1,329	1,366	1,312	1,328	1,457	1,315	1,354	16,017
退院	1,304	1,272	1,273	1,395	1,344	1,298	1,397	1,277	1,425	1,276	1,319	1,430	16,010

4. 科別外来患者数

項目	総診	ホスピス	心内	外科	呼内	精神	婦人	産科	小児	耳鼻	眼科	整形	形成	泌尿
新来	297	253	−	546	984	536	507	221	3,488	1,025	1,130	1,220	426	640
再来	3,015	131	56	12,130	17,960	19,080	7,366	3,068	8,572	12,522	15,711	29,970	6,764	9,510
延患者数	3,312	384	56	12,676	18,944	19,616	7,873	3,289	12,060	13,547	16,841	31,190	7,190	10,150
1日平均	11.3	1.3	0.2	43.3	64.7	66.9	26.9	11.2	41.2	46.2	57.5	106.5	24.5	34.6

項目	循環	脳外	皮膚	呼外	麻酔	消化	腎内	腎透	心外	肝臓	脳卒	神内	内分	救急
新来	645	529	850	269	29	1,766	142	1	143	95	122	74	93	8,921
再来	7,871	5,754	13,801	6,983	6,140	11,921	3,339	12,648	3,194	3,098	2,497	1,546	8,875	6,413
延患者数	8,516	6,283	14,651	7,252	6,169	13,687	3,481	12,649	3,337	3,193	2,619	1,620	8,968	15,334
1日平均	29.1	21.4	50.0	24.8	21.1	46.7	11.9	43.2	11.4	10.9	8.9	5.5	30.6	52.3

項目	放治	放射	リハ	化療	感リ	血内	歯科	お内	お小	お歯科	合計	
新来	12	1,915	78	5	93	52	1,186	−	6		28,299	※おおぞら歯科含まず
再来	5,723	749	13,662	2,306	2,746	4,068	6,134	3	15,599		290,925	※おおぞら歯科含まず
延患者数	5,735	2,664	13,740	2,311	2,839	4,120	7,320	3	15,605	672	319,896	
1日平均	19.6	9.1	46.9	7.9	9.7	14.1	25.0	0.0	53.3	2.3	1,091.8	

5. 科別手術件数(入・外合計 ※手術室使用)

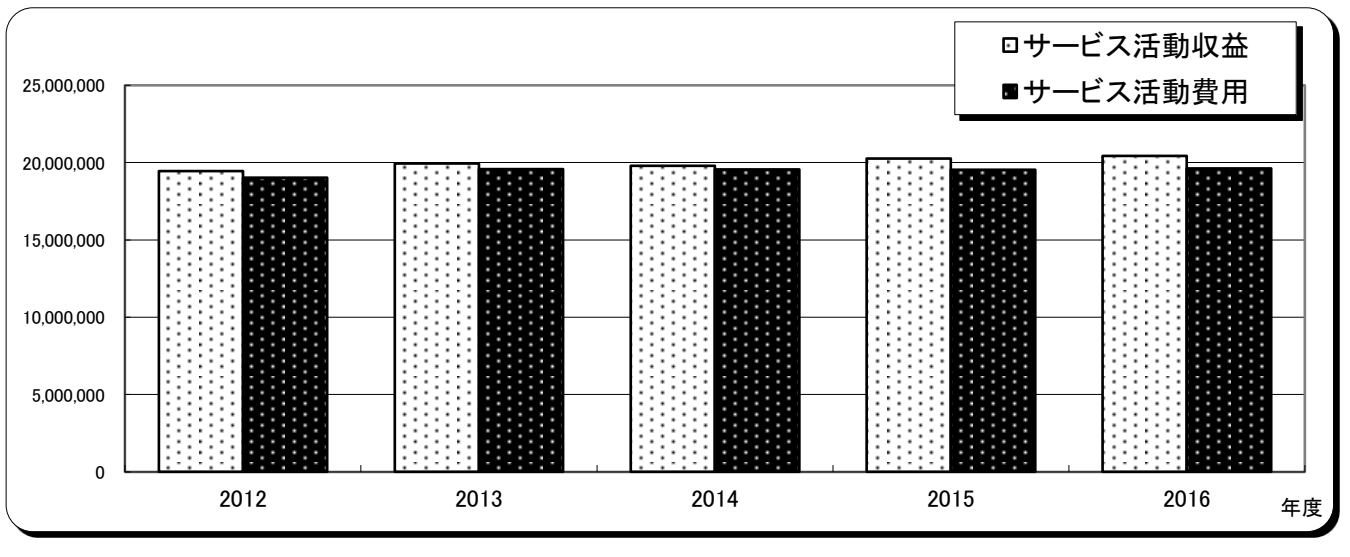
項目	外科	呼外	産婦	整形	形成	脳外	眼科	耳鼻	泌尿	心外	リハ	循環	腎内	精神	麻酔	合計
件数	924	394	179	1,580	536	184	1,990	245	433	285	2	76	40	109	7	6,984
比率%	13.2	5.6	2.6	22.6	7.7	2.6	28.5	3.5	6.2	4.1	0.0	1.1	0.6	1.6	0.1	100.0

6. 最近5ヶ年の医業収益・費用動態

【単位:千円】

項目	2012	2013	2014	2015	2016
サービス活動収益	19,435,342	19,938,038	19,774,062	20,254,175	20,424,547
サービス活動費用	19,020,195	19,572,500	19,546,370	19,515,454	19,610,158

◆サービス活動収益・費用動態

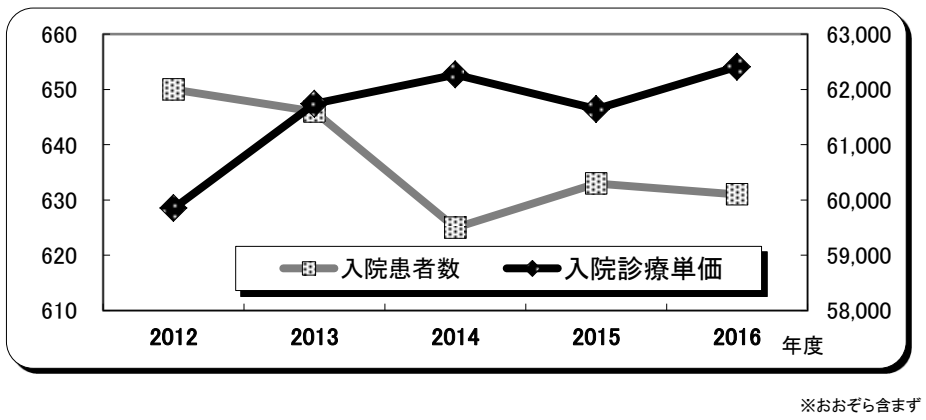


7. 最近5ヵ年の一日当り入院・外来患者数・単価の動態

項目	2012	2013	2014	2015	2016
入院患者数	650	646	625	633	631
入院患者数【おおぞら合算】	771	771	753	768	768
入院診療単価	59,850	61,741	62,267	61,646	62,410
入院診療単価【おおぞら合算】	55,254	56,793	56,928	56,431	56,307

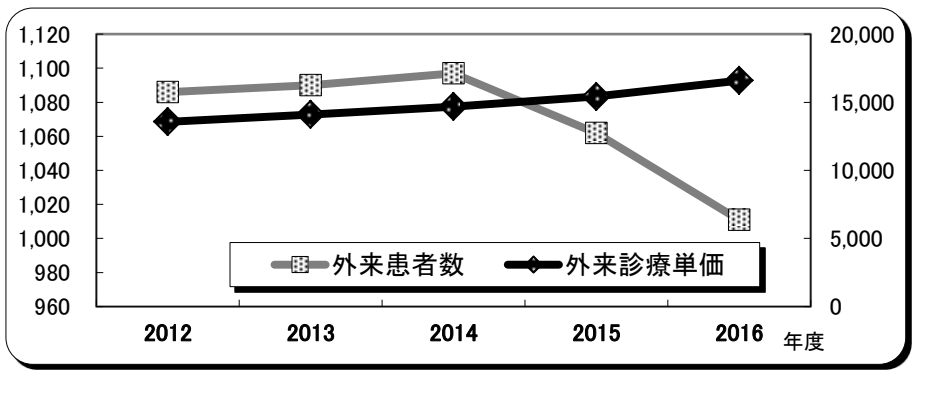
項目	2012	2013	2014	2015	2016
外来患者数	1,086	1,090	1,097	1,062	1,011
外来患者数【おおぞら合算】	1,134	1,140	1,152	1,118	1,065
外来診療単価	13,571	14,102	14,675	15,418	16,591
外来診療単価【おおぞら合算】	13,228	13,724	14,239	14,931	16,016

◆入院　患者数・単価の動態



※おおぞら含まず

◆外来　患者数・単価の動態



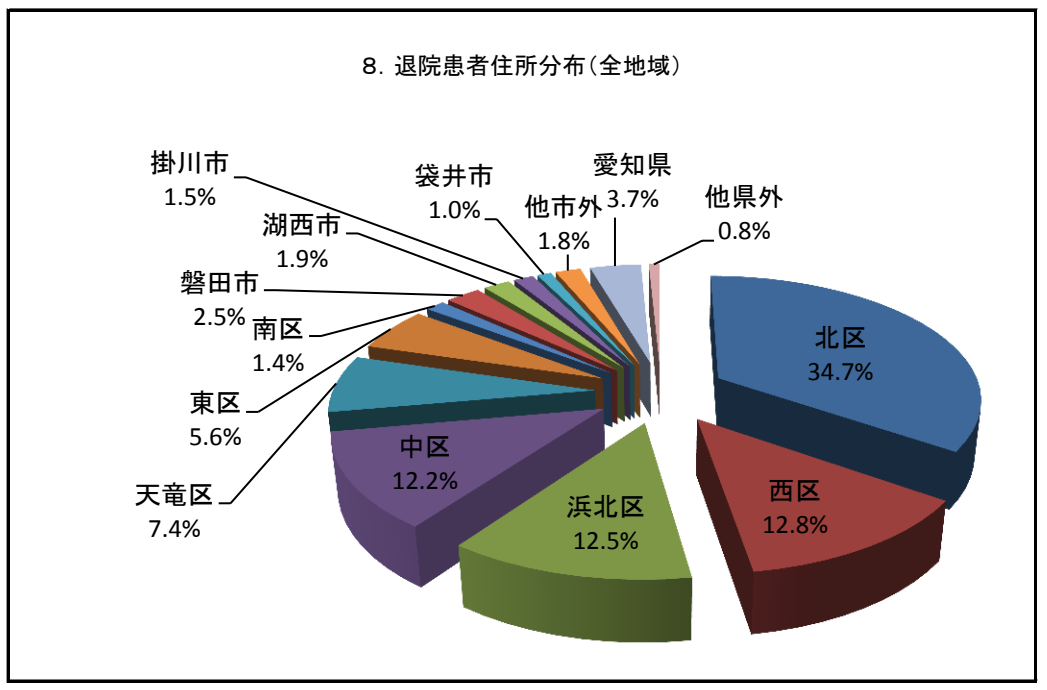
※おおぞら含まず

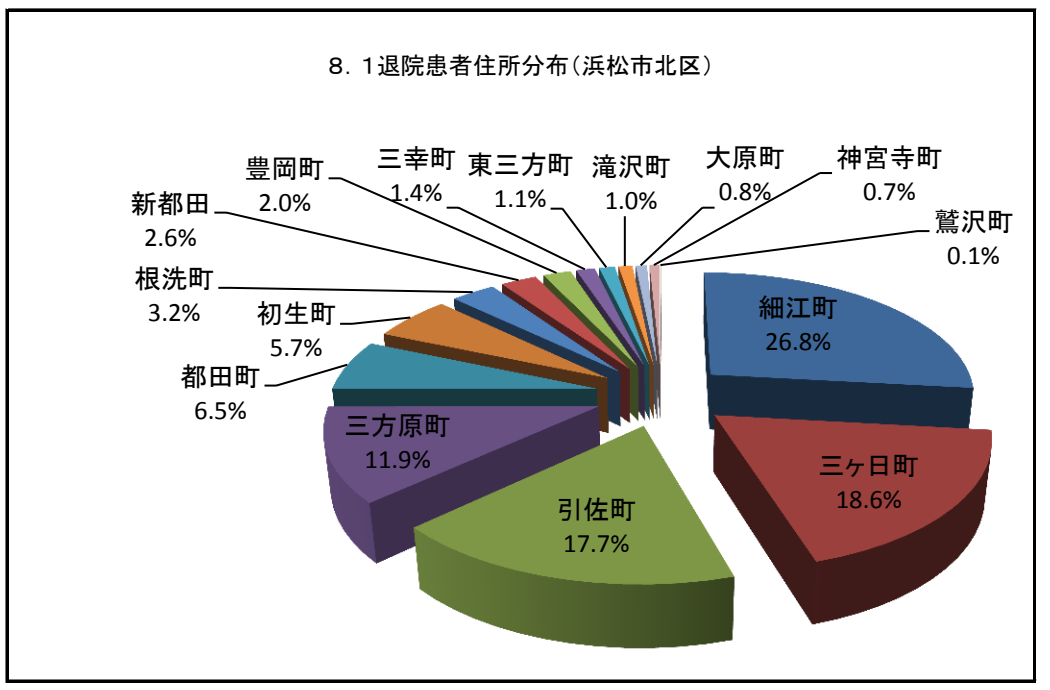
8. 退院患者住所分布（全地域）

項目	北区	西区	浜北区	中区	天竜区	東区	南区	磐田市	湖西市	掛川市	袋井市	他市外	愛知県	他県外	合計
件数	5,554	2,055	1,994	1,957	1,185	904	229	405	310	236	166	296	595	124	16,010
比率%	34.7	12.8	12.5	12.2	7.4	5.6	1.4	2.5	1.9	1.5	1.0	1.8	3.7	0.8	100.0

8. 1退院患者住所分布（浜松市北区）

項目	細江町	三ヶ日町	引佐町	三方原町	都田町	初生町	根洗町	新都田	豊岡町	三幸町	東三方町	滝沢町	大原町	神宮寺町	鷲沢町	合計
件数	1,487	1,032	985	660	359	317	177	145	111	75	63	55	45	38	5	5,554
比率%	26.8	18.6	17.7	11.9	6.5	5.7	3.2	2.6	2.0	1.4	1.1	1.0	0.8	0.7	0.1	100.0



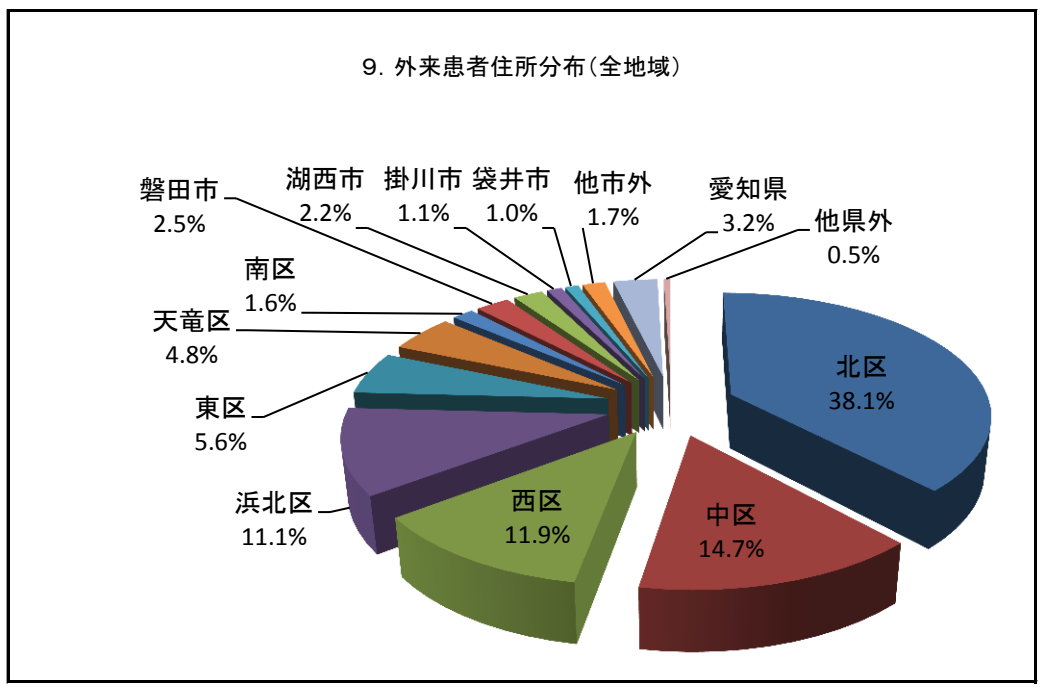


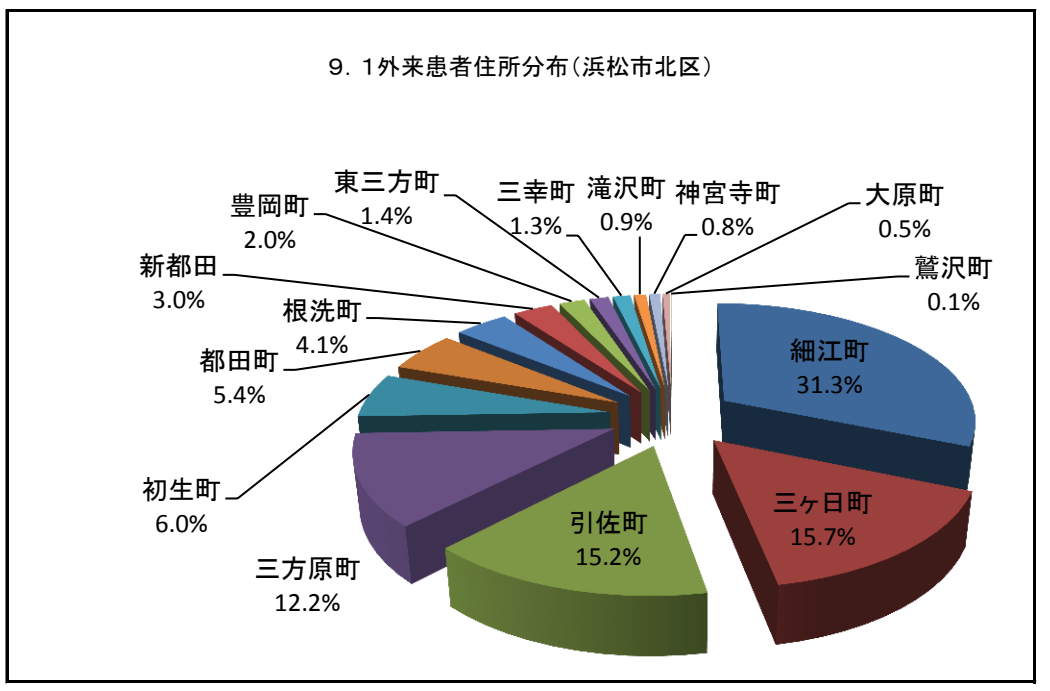
9. 外来患者住所分布（全地域）

項目	北区	中区	西区	浜北区	東区	天竜区	南区	磐田市	湖西市	掛川市	袋井市	他市外	愛知県	他県外	合計
件数	118,740	45,864	37,221	34,706	17,403	15,084	4,958	7,790	6,756	3,453	3,091	5,217	10,112	1,509	311,904
比率%	38.1	14.7	11.9	11.1	5.6	4.8	1.6	2.5	2.2	1.1	1.0	1.7	3.2	0.5	100.0

9. 1外来患者住所分布（浜松市北区）

項目	細江町	三ヶ日町	引佐町	三方原町	初生町	都田町	根洗町	新都田	豊岡町	東三方町	三幸町	滝沢町	神宮寺町	大原町	鷲沢町	合計
件数	37,159	18,683	18,061	14,489	7,070	6,428	4,847	3,561	2,322	1,688	1,570	1,092	995	643	132	118,740
比率%	31.3	15.7	15.2	12.2	6.0	5.4	4.1	3.0	2.0	1.4	1.3	0.9	0.8	0.5	0.1	100.0





聖隷三方原病院併設　介護老人保健施設　三方原ベテルホーム

2016 年度は、長年の懸案であった大規模改修工事を実施することができた。工事期間中は利用者の受け入れを制限せざるを得ず、利用者や家族、地域に多大な迷惑をかけたが、療養環境を大幅に改善することができた。工事完了後は申し込みから利用開始までのスピードアップに努め、緊急受け入れを積極的に推進した。また、6 月には在宅強化型施設の再認可を受け、2016 年度は合計 10 ヶ月間、在宅強化型での算定を行った。施設収益にも大きく寄与し、当初の改修計画で対処できなかった内容にも着手することができた。

地域包括ケアシステムの構築を見据えて、聖隷三方原病院との人事交流を推進したほか、訪問看護ステーションでの研修や浦安ベテルホームへの業務支援など、施設の枠を超えた人材育成や取り組み支援を実施した。

また、職員に対して年度当初に事業計画説明会を実施し、介護老人保健施設が単に在宅復帰だけではなく緊急受け入れや終末期ケアも含め、地域を支える役割を担うことを説明し、事業方針の浸透を図った。

１．在宅復帰・在宅生活継続支援の継続

在宅復帰率は通年で 60.3%となった。また、リハビリマネジメント加算Ⅱの算定件数も着実に増加している。

２．安定した経営基盤構築への取り組み

工事完了後の速やかな利用者受け入れや在宅強化型算定の継続により、予算を上回る経営成績を収めることができた。今後は、利用者ニーズや報酬改定を見据えたサービス提供体制の再構築が不可欠である。

３．安全で質の高いケアの提供

年度当初に事業計画説明会を行い、事業方針を職員に浸透することができた。看護業務の見直しを図り、病院への受診・入院件数減少など様々な効果が出た。また、ＤＣＭ（認知症ケアマッピング）を用いたパーソンセンタードケアの評価を実施した。2017 年度も継続実施する。

４．次世代を担う人材育成と働く支援

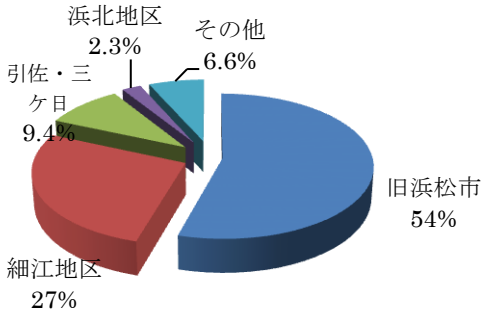
他施設での研修や業務支援、人事交流を通して、施設の枠を超えた人材育成の取り組みを実施した。ＥＰＡ候補生 2 名が介護福祉士資格を取得することができた。職員勉強会を開催し、緩和ケア、感染対策、口腔ケア、認知症ケア、一時救命処置などの知識向上に努めた。

５．地域社会に期待される施設づくり

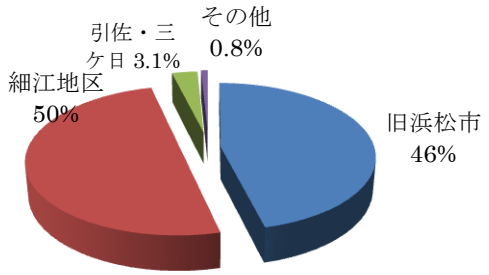
長年の懸案であった大規模改修工事を実施し、療養環境の改善を図った。また、緊急時や困難ケースの受け入れを積極的に推進した。これまで入所利用者に限定していた納涼祭の参加対象を通所利用者にも拡大するとともに、利用者がリハビリテーションの成果を披露するための目標の場とすることで、意欲向上に繋げることができたと考える。

無料低額利用事業として、生活困難者への経済的支援を行い、生活自立に向けての支援を行った。

入所者 地区別利用状況



通所者 地区別利用状況



入所者 性別年齢別状況(%)

	男 (36.7)	女 (63.3)
65 歳未満	3.1	0.4
65 歳～	2.0	0.8
70 歳～	3.1	3.1
75 歳～	2.3	5.1
80 歳～	10.2	12.1
85 歳～	8.2	20.3
90 歳～	6.6	14.8
95 歳～	1.2	6.6

通所者 性別年齢別状況(%)

	男 (46.6)	女 (53.4)
65 歳未満	2.3	0.8
65 歳～	4.6	2.3
70 歳～	4.6	3.8
75 歳～	8.4	4.6
80 歳～	9.9	10.7
85 歳～	8.4	15.3
90 歳～	6.9	11.5
95 歳～	1.5	4.6

入所(短期含)利用状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
定員(人)	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150
1 日平均(人)	102.8	102.8	108.7	115.9	125.6	130.9	129.1	128.9	130.0	125.5	125.1	128.5	121.2
延人数(人)	3,085	3,187	3,262	3,594	3,893	3,928	4,001	3,866	4,031	3,890	3,502	3,982	44,221
稼働率(%)	68.5	68.5	72.4	77.3	83.7	87.2	86.0	85.9	86.7	83.7	83.4	85.6	80.1
平均要介護度	3.0	3.0	3.1	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	2.9	3.1

通所リハビリテーション利用状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
定員(人)	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50
1 日平均(人)	31.4	30.0	30.2	29.7	28.6	30.3	31.7	31.6	30.0	31.7	30.0	31.0	30.5
延人数(人)	817	781	785	771	771	789	825	821	750	761	721	836	9,428
稼働率(%)	62.8	60.1	60.4	59.3	57.1	60.7	63.5	63.2	60.0	63.4	60.1	62.0	61.0
平均要介護度	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.2	2.2	2.2	2.1	2.2	2.2	2.2	2.1

総合病院　聖隷浜松病院

2016 年度はプロジェクトネクサスの最終年度として高度急性期医療の体制強化と患者・職員アメニティの向上を図った。8 月より病床数を 744 床から 750 床に増床し、C 棟 3 階フロアを ICU12 床・救命救急病棟 18 床に再編したことで重症救急患者の受入れ体制を強化した。入院診療においては「手術室の効率利用」「診療の標準化」に取組み、手術件数の増加と在院日数の短縮を進めた。また 10 月より退院支援加算 1 を取得し、退院支援体制の整備と地域連携の推進に取り組んだ。

【病院使命】

“人々の快適な暮らしに貢献するために最適な医療を提供します”

【病院理念】

“私たちは利用してくださる方ひとりひとりのために最善を尽くすことに誇りをもつ”

【運営方針 2020】

私達は常に信頼される病院であり続けます

■望まれる良質な医療を提供します　■地域とのつながりを大切にします

■良い医療人を育てます　■働きやすい環境を作ります　■健全な経営を継続します

【事業・運営計画】

「利用者価値」の視点（患者・職員の満足のために）

1．利用者満足度の向上

（ア）患者満足の向上

①患者満足度の向上　この病院に満足している

入院 65%以上(実績:65%)、外来 45%以上(実績:41%)

この病院を家族や知人にすすめたい

入院 65%以上(実績:64%)、外来 45%以上(実績:40%)

②紹介加算算定件数　2,100 件/月　以上（実績:1,931 件）

（イ）職員満足の向上

①職員満足度の向上　この病院で働いていることに満足している　57.8%以上(実績:54%)

②家族、友人、知人などが病気になったらこの病院をすすめる　65.5%以上(実績:66%)

③個別職員（サテライト職員）満足度調査結果　47.0%以上(実績:23%)

④目標管理制度、研修、個人面接などを行い、人材育成に力を入れている

74.0%以上(実績:73%)

⑤1 年に 1 回以上、自分の成果や能力向上について評価を受ける機会がある

60.0%以上(実績:58%)

「価値提供行動」の視点（病院機能・質の向上のために）

1．地域包括ケアにおける機能分化の推進

（ア）後方病院との連携強化

①転院患者の DPCⅡ期比率　27.5%以上　（実績:25.5%）

２．高度・急性期医療の充実

（ア）断らない医療の提供

①救急車受入れ制限時間の低減　120 時間/月　以内　（実績:81.8 時間/月）

②直来患者断り率の低減　30%以下　（実績:29.2%）

③紹介患者断り率の低減　5%以下　（実績:4.8%）

④救急車応需率の向上　95%以上　（実績:94.1%）

（イ）病床の有効活用

①医療看護必要度の安定維持　26%以上(実績:29%)

②特定入院料病床の稼働率・算定率・重症率の向上

ICU　稼働率　92%以上(実績:91%)・算定率 73%以上(実績:71%)・重症率　85%以上(実績:88%)

救命救急病棟　稼働率　83%以上（実績:86%）・算定率 73%以上(実績:69%)

NICU　稼働率　95%以上（実績:97%）・算定率 85%以上（実績:81%）

GCU　稼働率　80%以上（実績:80%）

MFICU　稼働率　90%以上（実績:92%）・算定率 75%以上（実績:73%）

③病床稼働率　94.1%以上（実績:93%）

（ウ）外来手術の推進

①外来手術推進計画工程の進捗　年度内に外来手術機能設置・運用開始

（エ）手術室の効率利用

①手術件数の増加　11,000 件以上　（実績:10,751 件）

②術間時間の短縮　2015 年度比 5 分短縮　（実績:5.9 分短縮）

③手術単価　2015 年度比 5%増加　（実績:2%増加）

３．安全の保証と質の向上

（ア）安全管理の徹底

①65 歳以上入院患者の IA レベル 1 以上転棟転落発生率　0.96‰以下（実績:0.83‰）

（イ）診療の標準化

①クリニカルパス適用率の向上　50%以上　（実績:26%）

②DPCⅡ期超退院患者比率　25%以下　（実績:26%）

（ウ）診療の効率化

①同意書一括署名の導入件数　100 件以上　（実績:81 件）

②入院初期評価テンプレート使用率　75%以上　（実績:74%）

③看護師による時間外の記録時間の短縮　2015 年比 5%短縮（実績:3%増加）

「成長と学習」の視点（人材確保・成長のために）

１．職員の現場力の向上

（ア）現場主体の質改善活動の推進

①CQI サークル活動　提案数　　30 件以上　　（実績:46 件）
②CQI サークル活動　完遂率向上　80%以上　　（実績:83%）

２．仕事のやりがい

（ア）認められる組織づくり

①認める、認められる組織調査　回収率　　70％以上　（実績:職員の情緒分析実施）

３．明日を担う人材育成

（ア）新専門医制度への対応

①専門医研修見学者数　定員の 1.5 倍　　（実績:30 名）
②専門医研修医採用数　　100％　　（実績:17 名）

（イ）看護師の確保

①看護師必要数の充足率 7:1 病棟　　100%以上　（実績:109%）
②看護師必要数の充足率特定入院料病棟　100%以上　（実績:136%）

「財務」の視点（経営・運営の安定のために）

１．目指す医療が出来る安定した財務　※引越し・再編時の経営維持

（ア）年度予算の確実な達成

①サービス活動収益　　28,804,350 千円　　（実績:29,573,645 千円）
②職員一人あたり収益　　14,331 千円　　（実績: 14,669 千円）
③経常増減差額　　750,000 千円　　（実績: 1,109,883 千円）
④人件費率　　51.7％　　（実績:50.9%）

（イ）業務のスリム化

①超過勤務時間低減　2015 年度比 10%低減　　（実績:3.8%低減）

【数値指標】

項　　目	予　算	実　績	対 予 算	対 前 年
入 院　患者数	701 名	694 名	99.0%	99.9%
入 院　単　価	76,400 円	79,481 円	104.0%	104.7%
外 来　患者数	1,576 名	1,567 名	99.4%	99.2%
外 来　単　価	17,042 円	17,702 円	103.9%	105.8%
病 床　稼働率	94.1%	93.0%	98.8%	99.3%
サービス活動収益	28,804 百万円	29,573 百万円	102.7%	104.4%
サービス活動費用	28,180 百万円	28,599 百万円	101.5%	102.9%
職　員　数	2,010 名	2,016 名	100.3%	103.7%

（注：入院単価、外来患者数、外来単価は歯科を除く）

【地域における公益的な取組】

がん患者の就労支援活動

2016 年度は就労世代のがん患者を支えるために、様々な活動を検討した。がん患者の就労実態を踏まえ、浜松市内の地域がん診療連携拠点病院を中心に、がんになっても安心して働き暮らせるための仕組み作りをスタートさせた。

聖隷淡路病院

2016 年度は全職員が勝負の年という共通認識を持ち“職員が目指す医療を実践できる”を掲げ、経営改善に積極的に取り組んだ。その結果 2015 年度以上の大幅な収支改善を見せ、予算を達成することができた。

淡路市唯一の分娩機能を持つ産婦人科は 12 月には出産数累計 200 件に達し、淡路島内で産み育てる使命を果たす役割を担い、また地域包括ケア病床の稼働率向上など各病棟機能の適正化は地域住民のニーズに則した病院運営を進めることが出来た。

2017 年度は 2016 年度の取組みに更なる磨きを掛け、質の向上と共に経営改善に積極的に取り組むことで今後の希望を掴み取る年にして行く。

１．病院機能の強化

3 階地域包括ケア病床の稼働率向上をはじめ、4 階及び 5 階病棟の運用の適正化は地域住民のニーズに則した病院運営に繋がり、病床の安定稼働と経営的な改善を進める要因となった。

病院としての機能向上を目指した診療技術課の活躍は病院運営にも大きく貢献した。地域医療連携の強化を目指すための相談員 3 名体制は、看護師との入退院調整の連携を強化し、兵庫県立淡路医療センターや地域の診療所からの紹介件数を増加させた。法人関連病院の支援も数多く受け、各種専門外来を開設することができた。保健事業では、保健事業部から全面的協力を受けることで、成果を得ることが出来た。また、新人看護師や助産師の採用も順調に進み、病棟運営に必要な人数を確実に確保できた。

２．安全な医療サービスの提供と人材育成の推進

医療安全管理、感染予防、褥瘡予防等、各委員会、職場の徹底した推進活動により、大きな事故も無く運営できた。人材育成に於いては、病院の将来を担う係長が積極的に行動し、問題解決や経営参画意識を高める取り組みも行った。2016 年度は職場長を含む遠隔地異動者や、中途採用者が本拠地選択を淡路地区に変更した。将来を担う人材が淡路で働き続けたいと考えてくれたことは当院にとって大きな財産である。

３．利用者及び職員の満足度向上

継続して患者満足度調査を実施し、職員の接遇に関する意見や要望を調査することができた。1 週間実施の満足度調査では、特に入院中における接遇面でのリハビリの満足度向上が目立った。また、外来に設置されたご意見箱を活用し、要望やクレームに対して迅速な改善を行い、満足度の高い病院運営に繋げた。

４．コンプライアンス経営とエコロジーの取り組み

経営改善を進める中、どの部署も業務多忙な 1 年であったが、同時にコンプライアンス経営も進めることが出来た年度であった。具体的には、臨床検査では医師及び患者様の要望に応えるこ

とで超音波検査の件数を増加させつつ、毎月の超過勤務は減少させる等の業務効率を図ることが出来た。人数も限られ、兼務者が多く、知識・技術は特定の担当者が持つこれまでの体制から、複数で共有し合う体制構築を目指すことで質の高いコンプライアンス経営を進めたいと考える。

また、省エネルギー対策にも力を入れ、契約電力の見直しや節電の意識を全職員が持ったことで電気代が 2015 年度比 9%削減できた。

５．健全な経営基盤の確立

医業収益は 2015 年度比で入院診療収益 110.1%、外来診療収益 101.3%、保健予防活動収益 112.6%であった。入院患者は 130 名を超える月もあったが、予算人数に及ばず、単価も手術件数の減少により伸びなかったため、入院診療収益は予算未達成となった。費用削減に於いては物品等の見直しを行い、サービス活動収益が 109.2%と増加している中、サービス活動費用を 2015 年度比 101.2%に抑える事ができた。経常増減差額では－101,412 千円となり、予算を上回る改善となった。

６．地域における公益的な取組

2015 年度から開催しているせいれい健康フェスタも昨年に引き続き開催することが出来、市民公開講座等で地域住民の期待に応えることが出来た。

【無料又は低額診療事業】

無料又は低額診療事業を行う施設としての使命感を持ち、事業内容の広報及び生計困難者の受入に力を入れた。具体的には、院内掲示・病院ホームページへの事業内容掲載・淡路市社協の広報誌への記事掲載依頼を行い、当事業の周知広報に努めた。減免実施率は 11.3%であった。

【数値実績】

	予　算	実　績	対予算	対前年		予　算	実　績	対予算	対前年
入院患者数	125 名	122 名	97.6%	114.0%	外来患者数	132 名	125 名	94.7%	97.7%
入院単価	30,000 円	28,092 円	93.6%	97.4%	外来単価	8,700 円	8,720 円	100.2%	102.2%
サービス活動収益	1,829 百万円	1,699 百万円	92.9%	109.2%	サービス活動費用	1,922 百万円	1,797 百万円	93.5%	101.2%
病床利用率	82.2%	80.3%	97.7%	114.1%	職　員　数	177 名	172 名	97.2%	104.2%

聖隷横浜病院

2016 年度は当院の中長期の課題を明確にした“将来構想 4 本柱”「救急診療体制の再構築と強化」「高齢者医療（生活支援型医療）の充実」「将来を見据えた診療体制の再編」「地域連携部門の強化」を具体的に推し進めた年度であった。地域の現状を踏まえ、当院の将来像を見据えた上で“4 本柱”を事業計画として具現化し、目標達成のために全職員が一丸となって取り組んだ。

１．安全で質の高い医療を効率的に提供する

2015 年度から引き続き“断らない”診療体制の構築に努めた結果、救急車受入総件数は目標の年間 4,000 台を超え、4,358 台となった。既に体制構築されていた循環器疾患に加えて、2017 年 2 月からは脳神経外科も 24 時間（365 日）対応で院内待機の専門医が直接電話を受ける体制となった。増えつつある重症度の高い患者に対し集中した管理を行うことを目的として既存病棟の改修工事により 8 床の治療室を整備した。同治療室は 2017 年度早期に「ハイケアユニット入院医療管理料」を算定する病棟として届出を行う予定である。

急性期を中心とした医療を効率的に提供するために 2017 年 5 月稼働予定で電子カルテの導入準備を開始した。本体システムのほか各部門システムの導入決定やベンダーの選定を行った。新外来棟建築計画は先行した新立体駐車場整備が完了し 2017 年 4 月より使用を開始する。

２．利用者の立場に立った医療を提供し、地域連携の推進を図る

地域や利用者に対して病院情報を積極的に発信するツールとして既存のホームページを見直し、2017 年 6 月に全面的に更新を行う。デザイン一新だけでなく SEO 対策を行って閲覧数の増加を目指す。地域連携を推進するツールとして、現在稼働している開業医向けの画像検査予約システムの更新検討を行った。撮影した画像と読影レポートを開業医に配信する新システムでのサービスを 2017 年 5 月より開始する。

健康診断事業の拡大のため 2017 年 2 月に健診専用室の増築（仮設）を行った。2017 年度以降も院内の健診受診者増に努めるほか、健診事業の一環として予防接種を事業所訪問して接種するサービスも拡大する。横浜市交通局と連携して開設した地域貢献型バスサービスによる新路線「聖隷横浜病院循環」は 2016 年 4 月から運行を開始し順調に利用者を伸ばしている。2017 年 4 月から増便した新ダイヤで運行を継続する。

血管撮影装置はバイプレーン型装置を新設し、既存のシングル型も更新を行った。院内 2 台体制で脳血管・心血管を中心に広く診断や低侵襲な治療を行い緊急対応も可能となった。

関東地区聖隷施設との連携では複数施設からの要請により医師をスポット派遣した。2017 年度からは複数施設に外来診療や産業医業務を行うため定期的に医師を派遣する。訪問看護事業においては民間企業が開設する居宅介護支援事業所を敷地内に開設した。双方の密接な連携による実績をもとに 2017 年度早期に機能強化型の訪問看護ステーションの認可取得を目指す。

３．人材を確保、育成する

将来構想を踏まえた戦略的な医師採用活動を行い、心臓血管センター内科・脳血管センター

に常勤医師を増員した。2017 年 4 月採用の初期臨床研修医の採用は連続して定員 6 名のフルマッチであった。同様に 2017 年 4 月採用の看護師募集においても必要な人員確保ができた。救急救命士は病院における専門職として業務確立を目指し、夜勤シフトを行う 6 人体制となった。

障がい者雇用促進のため栄養課（調理）・事務部内での業務検討や対象者の体験入職を行った。

4．職員が働きやすい環境を整える

2015 年度中に新築移転された院内保育所「ひだまり保育園」は子育て中の看護師を中心に利用者が増えているが、保育内容の充実とともに病児保育への対応など新たな課題に取り組む。新外来棟建築計画に伴い、女子ロッカー室や看護管理室等を改修・移転し環境が一新された。

5．長期安定的に発展するために経営基盤を確立する

病床稼働率は年間平均で 91.4％であった。（2017 年 2 月期は過去最高の 99.4％）一方で入院診療単価は 2015 年に比べて 2,072 円増となったが予算単価に到達せず、2017 年度に向けた当院の大きな経営課題として抜本的な改善取組みが必要となった。

6．その他の地域における公益的な取組

（ア）健康講座の院内開催（心臓血管センター内科医師による患者及び地域住民を対象とした「ちょっと良い話」を毎週月曜日に開催）

（イ）市民公開講座の外部開催（広く市民を対象として 5 回開催）

（ウ）ジャパンマンモグラフィーサンデーの実施（日本乳がんピンクリボン運動、39 名が受診）

（エ）高校生看護体験の実施（16 名の参加）

（オ）中学生職業体験の実施（近隣中学生を対象に看護師等の 1 日体験を実施。5 名の参加）

（カ）救急フォーラムの開催（市内救急隊員を対象とし 9 回開催、延べ 212 名の参加）

（キ）地域住民との交流を目的に講演会・演奏会・健康相談会等を含む半日イベントを開催。

【無料又は低額診療事業】

低所得者に広く事業を実施し、国が定める基準 10％を超えて 10.1％の実績であった。また、神奈川県医療福祉施設協同組合の難民支援事業に参加し、難民患者の受入れを行った。

【数値実績】

	予算	実績	対予算	対前年
入院患者数	270 名	274 名	104.4%	109.6%
入院単価	55,800 円	52,526 円	94.1%	104.2%
外来患者数	560 名	565 名	100.8%	104.8%
外来単価	12,600 円	12,920 円	102.5%	107.5%
ｻｰﾋﾞｽ活動収益	79.3 億円	76.3 億円	96.2%	112.6%
ｻｰﾋﾞｽ活動費用	78.6 億円	78.1 億円	99.3%	112.7%
職員数	547 名	559 名	102.1%	107.7%

聖隷佐倉市民病院

2016 年度は、地域性や社会の動向を見据えたうえで、一般病棟入院基本料の病棟群単位での届出を行うなど、地域の中での自院の役割を見定めた柔軟な運営を行ってきた。2017 年度中に予定している病院機能評価の更新、電子カルテの導入といった大きなプロジェクトに取り組む一方で、満床による入院患者の受入れ制限も多く発生し、救急隊からの搬送を他医療機関へ依頼せざるを得ない状況や、ベッドコントロールが難しい状況が続いたため、病棟増築をメインとした第 4 期建築計画を本格的にスタートした。

2016 年度の主な活動は以下のとおりである。

2016 年	4 月	VEPTR を用いた拡張性胸郭形成術の実施
	6 月	認知症サポーター養成講座の開催
	7 月	病院機能評価受審プロジェクトの立ち上げ
	10 月	一般病棟入院基本料を病棟群単位で届出 （3 棟 148 床：7 対 1 入院基本料、2 棟 100 床：10 対 1 入院基本料） 第 4 期建築工事プロジェクトの立ち上げ
	12 月	CT 撮影装置の更新
2017 年	3 月	B 号館照明を LED に変更

１.最高のサービスの提供

肋骨異常を伴う先天性側弯症患者に対する VEPTR を用いた拡張性胸郭形成術が行える体制を整備し、実施できる医療機関を求め、首都圏にまで通院・入院をせざるを得なかった患者に対する負担の軽減を図ることができた。救急委員会を設置し、救急患者に対する診療が円滑になる運用・体制の構築に取り掛かった。言語聴覚士の採用、摂食・嚥下障害看護認定看護師の養成により、摂食嚥下センターの機能強化が図られた。看護師の特定行為研修の修了により、慢性疾患管理（糖尿病ケア）の領域において、切れ目のない治療を提供できる基盤を整備した。職員が経験した IA 事例をモデルにした講演会を実施し、IA レポート報告を積極的に行う組織風土の形成に取り組んだ。病院機能評価の受審に向けて業務内容の見直しを行い、より良いサービスが提供できるよう課題の改善に取り組んだ。

２.将来のニーズに応えた病院機能の変革

看護補助者全員と多くのボランティアが佐倉市認知症サポーター養成講座を受講し、認知症への理解を深める取り組みを行った。佐倉市役所健康増進課と合同で、生活習慣病の予防に関する市民公開講座を開催し、行政と一体になって市民の健康増進・住民検診の受診率向上に取り組んだ。増床・手術室増室及び健診センター拡張をメインとした第 4 期建築計画を本格的にスタートし、医療安全・感染対策・快適性の向上などを意識したプラン設計に取り掛かった。2017 年 5 月のシステム更新、2018 年 1 月の電子カルテ導入に向けて、情報システム委員会を立ち上げ、記録の電子化・PDA（携帯情報端末）などの新機能導入に対応できる運用の再構築に取り組んだ。

３.専門性の高い職員の育成

専門性の高い職員を育成・支援するための環境整備として、図書室司書の採用、電子ジャーナルの充実、図書室ホームページの開設を行った。優れた人材の離職防止・継続的就労につなげるため、能力の高いパート職員に対するゾーン正職員登用基準を策定した。

４.安定した経営基盤の確保

満床時のベッドコントロールが適正に行える運用を再構築し、病院全体の病床稼働率の向上に取り組んだ。透析センターでは、透析患者の増加により全台で透析装置が設置され、101 床のフル稼働を実現した。広報活動においては、これまで開催回数が少なく院外への PR が不足していた診療科の市民公開講座の開催や、医療・看護関連の専門雑誌や医療経営雑誌の取材も積極的に引き受け、様々なメディアを使って病院の取り組みを院外に発信することができた。

５.職員が笑顔で働ける職場環境の整備

仕事への誇り・モチベーションアップにつながるよう、患者からの投書でお礼や感謝の言葉が多く寄せられた職員・職場を表彰する制度を新設した。職場別ヒアリングで職員から出された処遇改善案と環境整備案を整理し、実現可能性・必要性などの順位の高いものから取り組んでいった。院内図書室ホームページでの職員著作の紹介や、職場活動・業績をポスター形式で紹介することにより、職員の努力・成果が目に見える活動を行った。

６．地域における公益的な取組み

（ア）無料又は低額診療事業（減免実施率 20.7%）

（イ）地域の高齢者・住民、介護施設利用者を招いたロビーコンサート（年 6 回）

【実績】

	予　算	実　績	対予算	対前年		予　算	実　績	対予算	対前年
入院患者数	278 名	277 名	99.6%	104.9%	健診受診数	102 名	110 名	107.8%	114.6%
入院単価	51,910 円	52,106 円	100.4%	101.3%	健診単価	31,110 円	24,279 円	78.0%	100.3%
外来患者数	792	776 名	98.0%	103.2%	ｻｰﾋﾞｽ活動収益	9,208 百万円	9,188 百万円	99.8%	104.9%
外来単価	13,080 円	13,213 円	101.0%	102.2%	ｻｰﾋﾞｽ活動費用	9,054 百万円	8,987 百万円	99.3%	104.5%
病床利用率	91.4%	91.1%	99.7%	104.9%	職員数	693 名	675 名	97.4%	103.2%

せいれい訪問看護ステーション佐倉

2016 年度の主な動きは以下のとおりである。

介護保険	予　算	実　績	対予算	対前年	医療保険	予　算	実　績	対予算	対前年
利用回数	265 回	290 回	109.4%	119.3%	利用回数	85 回	60 回	70.6%	81.1%
単　　価	8,800 円	8,471 円	96.3%	96.5%	単　　価	10,500 円	11,233 円	107.0%	99.5%

保健事業部

2016 年度は、「経営基盤の安定」と「人材育成」を主な方針として運営を行ってきた。「経営基盤の安定」としては、受診案内の発送業務の外部委託化や予約業務の統合など業務の効率化を図ることができた。予約業務については静岡地区の業務統合も進め一元化ができるよう継続的に効率化を進めているところである。この他、2015 年度 12 月に施行されたストレスチェック制度は、7 万人を超える受検実績となり受入れ体制を整えることができ、収益面においても成果となった。また、新しい健診コースとして MCI ドックを開始し、現在広報活動を進めている。

効果が出る保健機関が求められる中、今までのような健康診断の実施とフォローアップに留まらず企業と連携し健康経営推進の支援を進めることができた。支援を進めた企業の中に「健康経営優良法人 2017（大規模法人部門)」の認定を受けた企業があった。

「人材育成」としては、渉外担当者のスキルアップを図る研修や中堅職員を対象としてブラッシュアップ研修を実施した。2016 年 4 月より、聖隷沼津健康診断センターとデータ統合が完了し静岡県内全域をカバーできる体制が整い連携を更に進めることができた。

保健事業部の経営の課題であった静岡地区については、営業の強化と開設当初から取組みにより受診者の増加、巡回健診の拡大につながり、2015 年度比 123.9%の実績となった。また、浜松地区の巡回健診も新規顧客が増加し 2015 年度比 116.6%の実績をあげることができた。反面、契約において入札制度の導入が増えたことによる経営的な課題も出てきているが、浜松地区の聖隷健康診断センター、聖隷予防検診センターは 2015 年度に比べ人間ドックは受診者増となった。

2016 年度保健事業部は、各センターが経常増減差額について予算を達成することができ、保健事業部としても経常増減差額において 2015 年度比 370.2%、予算比 163.9%の実績をあげることができた。

各センターの詳細報告は次頁以降となっている。

【数値実績】

	予算	実績	対予算(%)	対前年(%)
人間ドック	59,672 名	61,415 名	102.9%	104.5%
健康診断	509,148 名	578,525 名	113.6%	119.9%
外来精密	41,049 名	40,535 名	98.7%	99.1%
ｻｰﾋﾞｽ活動収益	7,577,050 千円	7,693,103 千円	101.5%	103.4%
ｻﾋﾞｰｽ活動費用	7,331,670 千円	7,341,782 千円	100.1%	100.5%

聖隷健康診断センター

2016 年度は、高齢化社会の進展とともに認知症が社会問題となる中、MCI（軽度認知障害）のリスクを調べ、認知症の予防に繋げる「MCI ドック」を開始した。診察室・超音波検査室の増室、コンシェルジュの導入とハード面、ソフト面で課題であった待ち時間対策を実施した。
また、利用者サービスの向上と健康への意識向上を目的に、人間ドック食でのサラダバーを開始した。

利用者に対して継続的な健康管理としての二次精密検査については、3 ヵ月後の再検査未受診者へ受診勧奨、内分泌の精密外来の開設などにより精密検査の受診者数を増やすことができた。

サービス活動収益は、医師、保健師を安定して確保できたことで、人間ドックの利用者増を図ることでき、2015 年度比 102%と増加した。また、PET 健診の利用者数が 2015 年度比 105%となり、高単価な人間ドックの利用が増加した。結果、サービス活動収益は予算に対し 7,893 千円の増収となり、税引前当期活動増減差額は予算を 17,000 千円上回った。

2017 年度は、「膵がんリスク検査」の導入、マンモグラフィの更新など、利用者ニーズにあった検査、より精度の高い検査を実施する。また利用者への質の高いサービス提供として、コンシェルジュ機能の強化、人間ドック食でのデザート選択など、リピート率向上を図る。

引き続き、保健指導・栄養指導・運動指導を柱としたより質の高いサービスが提供できる体制を構築し、経営の安定、人材の育成を推進する。

１.質の高いサービスの提供

検査室、診察室の増室により、検査での待ち時間の削減ができた。また、コンシェルジュを導入し、検査に不安を軽減する取組みを実施し、利用者から好評を得ることができた。人間ドック利用者の健康意識を高めるために、栄養面では野菜を多く取ってもらう試みとしてサラダバーを導入し利用者から高評価を得ることができ、リピーター増に繋がった。

顧客である企業や、事業団内の施設に対し、予約が取り易いと好評であった出張予約センターを拡大したことで利用者増に繋げることができた。

２.経営基盤強化のための取り組み

検査室、診察室の増室により、待ち時間の短縮、スムーズな検査の流れができるようになり、多くの利用者の受け入れができた。しかし、利用者ニーズの高い上部内視鏡検査の検査枠の確保、当日のキャンセル（平均 3.3 人）対策など、予約枠の考え方を含め、検討していく。利用者の利便性、業務に効率化からインターネット予約の拡大を行っているが、インターネットでの予約が取りにくいなどの課題があるため、ホームページ予約画面の見直し、予約枠、インセンティブを含め、検討をする。

３.人材の育成と確保

2016 年度は「人材の育成」を最重要課題と捉え、4 月より「課長会」「係長会」を立ち上げ職位で捉えられる課題解決への取組みを実施した。9 月に「健診センターBSC」を作成し、施

設の目標への取組みを明確にすることで、目標達成に向けた課題への取組み、職場間連携ができた。7月に行った「ストレスチェック」の結果を受けて、職場長面談を実施し、職場環境改善に取り組んだ。目標参画では、引き続き職場長との面談を実施し、目標達成への支援を行った。

医療安全委員会、ISMS 委員会にて各職場で提出された IA レポートを分析し、自職場で共有のみならず、他職場での課題とそれに対する取り組みを共有することができ、施設での課題解決に繋げることができた。

4.連携強化

産業保健チームとして、保健事業部が持つデータを活用し、産業保健企画推進課・統計情報課・営業契約室が連携し、各企業様・健保様への積極的な提案を行うことができた。

また、作業環境測定室を持つ健診施設として、地域・企業検診センターの営業契約室と連携し、顧客である企業に対し、特殊健診の適正化及び結果に基づいた労働衛生管理の取組みを実践した。

各職場間では、BSC を作成し目標を共有化することにより、連携し目標達成に取り組むことができた。

5.健康経営への取り組み

健康経営委員会と衛生委員会が連携し、職場環境改善・メンタルヘルスに関する目標の可視化を行い、健康経営に取り組むことができた。

毎月、衛生委員会にて産業医・衛生管理者の職場巡視を実施し、労働衛生環境の整備を実施した。健康情報発信 Web サービス「QUPiO(クピオ)for 聖隷」の利用については、全職員への利用促進を図り、80%を超えるログイン率となった。

6.地域における公益的な取組

（ア）自治会（萩丘地区他）無料講演の実施。5 回実施　160 名参加。

（イ）シニア倶楽部向け無料講演の実施（富塚地区他）2 回実施　35 名参加。

（ウ）浜松市商工会主催いきいきフェスタ、いかまい検診音楽祭 2016 へのブース参加。

【数値実績】

人間ドック	PET 健診	一般健診	特定保健指導	婦人科健診
26,705 名	304 名	49,181 名	3,068 名	22,773 名
特殊健診	外　来	合　計	サービス活動収益	職員数
2,605 名	19,585 名	124,221 名	2,461,444 千円	218 名

聖隷予防検診センター

2016 年度は、聖隷予防検診センターとして選ばれ続ける健診機関を目指し、内視鏡・婦人科枠を拡大して人間ドックの利用者増加に繋げることができた。一般健診も予約機能の効率化と人員配置の再編をしたことで、当センターへの利用者誘導をスムーズに行うことができた。スピード・ドックも順調に利用率を上げることができ、時間差受付による受診の流れもスムーズとなり、受診者満足度も向上した。しかし、宿泊ドックのニーズが低く、利用者減少となった。これは、各健康保険組合の財政難により補助対象外となった影響も多いにあるが、魅力ある健診内容を提供できるように再検証して行きたい。人材育成では、継続的に中堅・新任役職者の経営参画により、各プロジェクト計画の実現化が図られた結果、運用改善に貢献し、職員も着実に成長している。保健事業部内での連携も良く、職員応援体制や業務の集約ができた。継続的に職員満足度を高め、自らが組織の健康経営を意識し、利用者の期待に応えられる施設づくりを実践するために個々が考え業務を行う組織風土を構築していきたい。

経営数値としては、受診者数 77,622 人（対予算 106.1%、対前年 104.4%）、医業収益 1,405,850 千円（対予算 102.7%、対前年 103.8%）であった。

【事業・運営計画】

1.　利用者の目線に立った質の高いサービスの提供　（顧客視点）

ホスピタリスタイルを基本に顧客サービス課中心に実践研修を継続して利用者滞在時間短縮及び、業務効率向上を目的に時間差受付と同時検証を実施。スピード・ドック 85%稼動にて全般的な滞在時間短縮に繋がっている。更衣室統合計画による会議室移転改修を実施完了。下期に更衣室改修及び、歯科診察室移動を実施してプライバシー確保及び動線の効率化を図ることができた。浜松リハビリテーション病院の介護技術講習を 15 名が修了し、介助業務に関わる全職員の習得がはかれた。情報セキュリティ関連の項目では、月ごとの委員会検証が実施できている。検査制度管理では、A 評価を取得しているが、作業環境における管理区分は、評価が低いことから、機器を購入して環境改善につとめることができた。顧客窓口の統合に向けて関係各課検討し、再編した結果、業務を集約することができ、効率化を高める基盤ができた。

2.　経営基盤安定のための取り組み

業務改善委員会メンバーを中心とした各プロジェクトを推進できる体制を構築でき活動も出来た。二次精密受診率向上のために DM・リーフ配布などの聖隷予防検診センター単独での活動を実施し、利用者数は 2015 年度比で人間ドック 1,150 名・一般健診 723 名増となった。特定保健指導受診率も 2015 年度比で 3.5%増となった。内視鏡機器更新によって機能標準し、3 ラインのフル稼働体制が整い、1 日 9 枠増となった。婦人科は、午後健診枠火・金曜日各 5 枠増とすることで、1,072 名増となった。

3.　人材の育成と確保

継続して中堅・係長による新規提案・改善プロジェクトチームを編成して、他職場との交流と連携強化を図る（現場力を高める）活動した。スピード・ドック及び、午後健診の運用も再検証し、合わせてオプションの検討を行った。各課運用調整や意見交換を活発に実施することで、医師・看護・技師・事務の連帯感が生まれ意識も高まった。キャリアアップへの支援では、全体会議において資格取得者発表を行い、職員への意欲向上を促すことができた。近隣開業医との連携強化を図ったが、継続して消化器内科・婦人科専門医招聘に向けても活動していきたい。

4.　働きやすい職場づくりの実践

衛生委員会を中心に職員へクピオイベントの積極的な参加を促し、昨年度より参加者が増加した。また、体力測定など健康管理にたいするイベント開催をした。職員労働環境改善及び、職場長とのコミュニケーション強化をした。休憩スペースも 1 階に設けることができた。時間外労働時間短縮に向けて勤務時間変更案を作成し、運用まで至った。2015 度における事例を踏まえ全体・管理会議での防止検証や職員へのコミュニケーションを積極的に発信した。

5.　連携の強化

保健事業部グループのデータ連携では、日々のデータ抽出方法の変更など随時対応ができている。また、データガイドラインを作成してミスを防ぐ効果も現れている。健康情報発信 WEB クピオログイン率は、2015 年度より 2%改善された。統計情報課よりのデータ利用率も高まり有効に情報発信が可能となったが、保健事業部の方向性が定まっていない。大学企業との共同研究では、浜松医科大学 1 件完了・名古屋大学 2 件継続中である。業務応援体制で、聖隷予防検診センター施設内健診・施設外健診の連携は、強化された。高齢者施設への健康推進支援は、浜名湖エデンの園との連携を継続している。また、近隣開業医との連携構築では、浜松地区 23 箇所・袋井地区 5 箇所・磐田地区 3 箇所・掛川地区 2 箇所と新たに連携できた。今後更に連携窓口を設けて強化していきたい。

6.　地域における公益的な取組について

近隣過疎地への無料送迎を行い施設内健診受診しやすい環境をつくり、地域健康寿命延伸のため、健康増進普及につとめた。

【数値実績】

宿泊ドック	一日ドック	一般健診	特定保健指導	婦人科健診
603 名	19,011 名	28,141 名	2,244 名	15,740 名
特殊健診	外　来	合　計	ｻｰﾋﾞｽ活動収益	職員数
1,810 名	10,676 名	77,622 名	1,409,937 千円	159 名

聖隷健康サポートセンター*Shizuoka*

2016 年度、聖隷健康サポートセンター*Shizuoka* は、開設 7 年が経過し当初からの営業戦略、並びに質の向上への飽くなき探求が徐々に地域に認められ、受診者数・経営改善が結果として表れた１年であった。『経営基盤の強化』 『質の向上』を重点とし運営を行った年度ではあるが、特に施設として重要視した事が施設方針を実践できる人材育成への取り組みである。業務における個人のスキル UP 向上は当然であるが、階層別研修はもちろん、何よりも積み上げられた日々の OJT が着実に根付き始めた 1 年間でもあった。

経営面では、課題であった巡回健診の業務拡大についても営業契約課・運営管理課・健診看護課・検査課・放射線課などの横断的連携が順応し 2015 年度比 131.0%の経営改善に繋がった。また施設内の人間ドック・一般健診についても 2015 年度を上回り聖隷健康サポートセンター*Shizuoka* としては 2015 年度比 110.0%の実績となった。また、聖隷静岡健診クリニックに関しても一般健診・婦人科を中心に 2015 年度比 105.0%と改善が図れた。

常に利用者目線に立ち最高の質の医療サービスを提供できるよう職員一人ひとりが自ら気づき考え行動する自立した組織構築を目指していきたい。

１.質の追求と静岡地区における『聖隷』ブランドの確立

（ア）ストレスチェックに加え、労働衛生機関として産業医、産業看護師と連携し、事後フォローまでを含めた包括的なサービスの提案・提供。実施団体数 30、　実施人数約 8,000 名。今後、産業医契約無しに対する事業所の受入準備が必要と思われる。

（イ）利用者ニーズに合ったサービスの提供

①60 歳以上の利用者に継続受診いただくためのサービスを検討

シルバープラン 3 名実施。740 通 DM 発信、今後も継続する。

②内視鏡、婦人科等、ニーズの高い検査における受診者枠の調整

内視鏡 2 枠増/週　婦人科 2 枠増/日の業務改善し受入体制を強化した。今後も引き続き検討する。

③運動指導の導入を積極的に行った。

（ウ）聖隷静岡健診クリニックにおける利便性や早朝健診等の強みを更に活かすための設備投資

稼動していない MRI を撤去し同時に 5 階フロント横にトイレ増設を行った。今後効率的な業務遂行の為にレイアウト変更を検討する。

２．健全経営の推進と新たなサービスの創造

（ア）巡回健診を充実させるための営業活動とサービスを実施

聖隷富士病院と連携し、巡回健診の強化を図った。

（イ）より多くの利用者を受け入れるためのサービスの検討

新たなオプション検査としてアルコール体質検査、SAS(睡眠時無呼吸症候群検査)を導入

３．人づくり文化の醸成

（ア）目標参画システム、ラダー等の活用により課題に気付くことができる職員を育成する。

サポートセンターの求める人材像『自ら、気付いて、考え、行動できる』を目指し、課長

会などを通じて日々の OJT に取り組んだ。

（イ）継続的かつ一歩進んだ接遇勉強会を実施し、『おもてなし』意識を持続する。

①職員の接遇意識を持続させるための勉強会の実施

②衛生委員会を中心に 4 回/年勉強会を実施。また行政との協力体制の下、安全講習会を実施した。

（ウ）2015 年度に行った世代別ミーティングを引き続き行った。

（エ）職員が課を越えて広い知識を得るため、検査・放射線を中心に勉強会を実施した。

４．健康経営の実現

（ア）衛生委員会を中心に、職員の健康意識を向上

①職員ドックにおける結果説明受診率 100%であった。

②職員が自身の健康度を意識するため、健康講和を実施した。

５．地域における公益的な取組と連携の可視化

（ア）静岡県立大学等と協力を継続し、地域公益活動の実績を作る。

内臓脂肪減少に着目した日本型食生活推進モデル事業の健診機関における有用性の検証

（イ）静岡市内健診機関との連携し、静岡市における特定健診の受診率向上を目指す。

①健診センターMEDIO・静岡健康増進センターと年度内に 3 回情報交換を行った。

②静岡市特定健診受診券配布時期を 6 月から 5 月に変更する事を行政と交渉し実施した。

（ウ）地域のイベントに継続して参加し、地域との繋がりをより密にする。

日本対がん協会主催リレーフォーライフ参加をはじめ多くのイベントに参加した。

【数値実績】　聖隷健康サポートセンター*Shizuoka*

1 日ドック	一般健診	特定保健指導	婦人科健診	特殊健診
15,395 名	77,211 名	1,769 名	15,924 名	2,848 名
外来	合計		サービス活動収益	職員数
10,274 名	123,421 名		1,607,108,380 円	139 名

サービス活動収益内訳	聖隷健康サポートセンター*Shizuoka*	1,133,740 千円
	巡回健診事業	215,383 千円
	聖隷静岡健診クリニック	257,985 千円

地域・企業健診センター

2016 年度、健診車の稼動率の向上を図り、繁忙期においてもストレスチェックの導入と相まって、新たに多くの事業所を取り込むことができ、予算達成に寄与した。

産業保健活動の推進では、渉外担当者能力向上研修や実践報告研修を開催して人材育成に取り組んだ。市町村健診では、既存の契約団体に加え、焼津市肺がん検診の新規獲得で、課題としていた 8 月の収益に大きく寄与した。また、静岡県下のファミリー健診の低迷を課題として、全国健康増進協議会等他の健診機関との連携強化、協会けんぽの需要の掘り起こしを図り、予算達成の確保のみならず、閑散期対策への布石とする基盤整備を推進した。

2017 年度は、2016 年度の取り組みを継承し、さらなる発展を目指す。そのためには、職員の健康管理や活き活きと働ける環境づくりが重要であり、過重労働対策も踏まえ役割分担を明確にし、顧客管理の強化を図るべき組織基盤の整備に取り組む。

経営数値としては、受診者数 355,511 人（対予算 116.6%、対 2015 年度 124.8%）、医業収益 2,209,890 千円（対予算 104.7%、対 2015 年度 107.5%）と好調であった。

【事業・運営計画】

１．質の高いサービスの提供

（ア）健診情報・安全管理の向上の一環として、発送業務の委託化を推進した。

（イ）ISMS を継続的に推進し、リスクマネジメントを強化した。

（ウ）県内一元管理を推進し、統計情報の有効活用で差別化を推進した。

（エ）利用者目線での健診サービス等を推進した。

①胃・胸部一体型検の検診車輌を整備し、小規模事業所への巡回健診を強化

（オ）巡回健診現場運用システムの導入について、実物等で説明会を開催した。

２．　経営基盤安定のための取り組み

（ア）利用者数の確保と拡大を推進した。

①受診率 100%（一般健康診断等）についてポスターで啓発

②他機関との連携で被扶養者健診・ファミリー健診の拡大

③午後健診の稼働率を向上させ、中小事業所等の健診を推進

④ストレスチェックの適正運用で、新規事業所との契約を推進

（イ）オプション検査を啓発し、単価アップを図った。

①血液オプション検査リーフレットを作成し事業所へ展開

（ウ）営業力強化のための顧客管理を推進した

①ハイリスク事業所への産業保健の展開

②各企業・事業所への適正検診項目の見直しと推奨（法令順守への勧奨）

（エ）検診に係る原価計算を徹底し、コスト低減を推進した。

①派遣医師・派遣スタッフのコスト管理の徹底

３．　人材の育成と確保

（ア）「目標参画」と連携した OJT を推進した。

（イ）顧客管理充実のため渉外担当職員（運営管理課、営業契約課）のスキル向上を図った。

（ウ）各課職員において衛生管理者国家資格の取得を推進した。

（エ）実践型の産業保健教育を実施した。

４．健康経営の実践と発信

（ア）健康経営により、衛生委員会を活性化して組織的に職員の健康管理・保持増進に取り組んだ。

（イ）ES を推進して働きやすい職場作りの実践・充実を推進した。

５．　データヘルス計画に向けて

（ア）保健事業部グループ（聖隷沼津健診センター含む）のデータ連携と円滑な運用を開始した。

（イ）保健事業部保有データを活用し、事業所ごとの評価指標に対し比較データとして活用した。

６．連携の強化

（ア）静岡地区運営管理課との連携を強化し、効率的に巡回検診を推進した。

（イ）施設間医師の連携を強化し、巡回健診医師派遣費用を抑制した。

７.地域における公益的な取組について

（ア）「第４回　がん検診いかまい浜松 2016」に参加し、出張乳がん検診（マンモグラフィー）を実施した。

【数値指標】

一般健診	婦人科健診	特殊健診	特定保健指導	合　計	ｻｰﾋﾞｽ活動収益	職員数
290,746 名	29,164 名	35,148 名	153 名	355,211 名	2,214,603 千円	134 名

注）一般健診は予防接種（9,940 名）、ストレスチェック（69,586 名）を含む

浜松市リハビリテーション病院

聖隷福祉事業団が浜松市リハビリテーション病院の指定管理を受託して9年が経過した。

2016年度は、病院機能評価受審を経て7月に認定証が届いたことで、よりいっそう回復期医療の充実および医療の質の向上への意識が高まった。10月には、患者が自宅に帰るための支援に入院時から関わっていく在宅支援室を設置し、運用を開始。11月には、高次脳機能センターを設置し、医学的治療に続く就労・就学支援を視野に入れた活動を開始した。高次脳機能障害の分野において、地域ニーズに対応する新たな医療を提供し、地域社会に繋げていく体制を整えることができた。3月には、指定管理の節目を迎えるにあたって『10年目を語ろう』と題した意見交換会を開催し、全職員に対し病院長の考えや病院の方針を伝え、かつ職員の希望や要望を聴く機会を持つことができた。

2017年度も、継続的に質改善に取り組みながら、地域包括ケアの中心的役割を担えるよう活動していく。

１．安全で質の高い医療の提供

（ア）回復期医療の更なる充実を図るため、10月より回復期リハビリテーション病棟入院料1を算定する病棟を2病棟に増やし、同入院料2を算定する病棟を1病棟とした。さらに、2017年度からは3病棟すべてを同入院料1とするための取組みを行った。

（イ）医療安全管理では転倒予防のための設備を充実させた。感染制御活動では、院内を重点的に、かつ、地域での取組みに広げるため、隣接する浜松市立泉小学校にも手洗いの指導・啓発を行った。

（ウ）各職場で業務改善活動を実践し、職場長会で発表した。病院機能評価の付加機能受審を次なる目標とし、明確な数値目標を持って改善していくための準備となった。

２．地域に求められるサービスの充実

（ア）11月に高次脳機能センターを設置した。自動車運転再開への取組みは報道にも取り上げられ、勉強会では地域の企業も参加し職場復帰への取組みが共有されるなど、地域での必要性を再確認することができた。また、特色ある医療を提供する上で必要な倫理観を醸成するため、3月には院外にも開かれた臨床倫理セミナーを開催し約80名が受講した。

（イ）2016年3月より在宅福祉サービス事業部と連携して在宅支援看護師を配置、10月には院内の看護師も含め在宅支援室を設置した。入院時から自宅退院に向けた関わりを行い、地域のサービスに円滑に繋げていく仕組みを構築した。

（ウ）防災対策では、院内の防災訓練の参加率99%を継続達成しており、静岡県の開発した避難所運営ゲームも活用し、有事の際の混乱を疑似体験している。また、地域の防災訓練に2回参加した。2017年度は、自治会・小学校・浜松市と合同で計画している。

３．人材の育成と労働環境の整備

（ア）採用については、はじめてオーダ数を満たす採用ができた。学校訪問だけでなく、実習の受入れ、インターンシップの積極的活用など、各部門と事務部が一丸となって取り組んだ成果であると言える。

（イ）病院ボランティアは新規登録者があり、活動場所も増やすことができた。感謝会において、職員ともっと意見交換したいとの声もあがり、2017 年度に小規模のミーティングも企画していく。障がい者雇用も新規で 3 名採用でき、それぞれの部署で活躍されている。

（ウ）5 月より浜リハ・ラーニングを開講した。家庭とのバランスの中でなかなか外部研修に赴けないスタッフも含め、多様なテーマで広く学べる環境を提供するため、月 2 回 1 時間で 30 分ずつの講義を行うものである。一人一回以上の参加を目指し、71.4%が参加できた。また看護助手が介護福祉士資格を取得するなど、モチベーションを高くして仕事に向かう環境が整い始めた。

（エ）産後復帰率 100%。事業所内保育所は丸 2 年が経過し、職種を制限することなく療法士や事務職も利用することができ、最大限活用することができた。

４．安定した経営基盤の確立

（ア）病床利用率 94.9%。入院判定会議に看護管理室が参画し体制を構築した。10 月より在宅支援看護師にバトンを渡して運用を確立できた。

（イ）年々ホームページの閲覧数が増え、タブレットやスマートフォンからのアクセスが全体の約半数に達したことから、そのサイズに対応できる仕組みに更新し、同時に全体イメージの変更も行った。

５．地域における公益的な取組

（ア）いきいきトレーナー養成事業は、2011 年から開始、累計 413 名のトレーナーを養成してきた。そのトレーナーを指導できるアドバンスコースも開催し、累計 20 名を輩出できている。それぞれの活動を振り返り、称え合うことのできるトレーナー総会も開催し、活動が続けられる仕組みを創出できている。

（イ）地域リハビリテーション広域支援センターとして、セミナー4 回を開催し、のべ参加人数は 374 人であった。

（ウ）浜松市より受託している市民向け運動器機能向上トレーニング教室事業には、14 名が参加した。

（エ）隣接する浜松市立泉小学校への手洗い指導は、2 年目となった。対象である 4 年生が興味を持って取り組めるよう工夫し、2017 年度も継続していく。

【数値指標】

	予　算	実　績	対予算	対前年		予　算	実　績	対予算	対前年
入院患者数	203 名	214 名	105%	105%	外来患者数	177 名	183 名	103%	103%
入院単価	33,800 円	33,719 円	99%	108%	外来単価	7,080 円	7,158 円	103%	101%
職員数	338 名	335 名	99%	106%	病床利用率	90.2%	94.9%	－	－
サービス活動収益	2,948,595 千円	3,082,913 千円	105%	111%	サービス活動費用	2,922,953 千円	3,003,200 千円	103%	110%

＜病床別患者一人あたりリハビリ実施単位数＞

	単位数
回復期病床	5.6 単位
一般病床	3.6 単位

＜病床別入院単価＞

	単　価
回復期病床	35,767 円
一般病床	31,131 円

聖隷袋井市民病院

2016 年度は開設から 4 年目を迎え、着実に機能の充実と事業規模の拡大が図れた年となった。4 月に回復期リハビリテーション病棟 50 床を開設し、当初の計画通り一般病棟、療養病棟をあわせ 3 病棟を整備することが出来た。回復期リハビリテーション病棟については、袋井市内で初めて開設されたものであり、今まで他市の医療機関に転院せざるを得なかった急性期病院からの患者を受入れられる貴重な機能となった。3 病棟が揃うことにより、中東遠医療圏での地域包括ケアシステムの一員として、地域の急性期病院はもとより、在宅復帰など地域診療所とも連携し、地域全体として効率的な医療提供体制の整備が進められた。

診療機能の質向上の取り組みとして、5 月から袋井市内の歯科医院の協力のもと、良好な口腔環境維持を目的として訪問歯科診療の受入を開始した。口腔ケア、義歯洗浄等、地域診療所の支援により、今まで院内で機会を得ることの難しかった治療が可能となった。また、1 月から外来フロアの一部を改装し、上部消化管内視鏡検査を開始した。2017 年度は入外患者の検査に加え、袋井市住民健診の内視鏡精密検査の実施も考えている。

働きやすい病院作りでは、職場環境の整備が促進され、子育て中の看護師も安心して働くことが出来るよう院内保育所を開設した。この保育所は、改正子ども・子育て支援法の施行に伴い企業主導型保育事業に認定された。運営費補助等の支援を受け、順調な運営が出来ている。

組織体系的には、地域包括ケア推進、保健、福祉などの機能を集約した「袋井市総合健康センター」が同一建物内に開設して 2 年目となった。市の健康支援を進める担当部署や社会福祉協議会との連携が強化され、認知症初期集中支援チームへの参画等、公益的な活動が行えた。

経営面は、開設からの累計利益にあたる次期繰越活動収支差額のマイナス予算を組んでいたが、病床稼働数の向上や経費の削減等により、9 月には黒字化することが出来た。これは職員ひとりひとりが経営の重要性に目を向け、事業の発展に努力した成果だと考える。

今後も中東遠医療圏で当院の役割を果たすことが出来るよう、関連機関との連携を深め、地域全体として切れ目のない医療が提供出来るよう職員が一体となって頑張って行く。

１．地域ニーズに対応した安心・安全で質の高い医療サービスの提供

地域医療構想による機能分化と連携の推進が検討され、中東遠医療圏も医療需要に対する医療供給を踏まえた病床必要量が示された。4 月に開設した回復期リハビリテーション病棟は同地域において充足が望まれる機能であり、地域ニーズの高い病床である。亜急性期機能も担う当院において今後の発展に必要な大きな機能といえる。更にリハビリテーション医療の質向上を目指し、嚥下造影検査よび嚥下内視鏡検査の開始にむけて準備が進められた。

リハビリテーションは理学療法士・作業療法士の増員により、更なる機能強化に繋げる事が出来た。リハビリテーション介入基準を作成し、リハビリテーションを要する患者に提供量の増加が可能なった。また、2017 年度の開始を予定する休日リハビリテーション提供の体制整備も進められた。医療安全、院内感染防止に関しては職場及び委員会活動の熱心な取り組みや職員全体に対する勉強会を開催することで、大きなアクシデントの発生を防ぐことが出来た。

２．急性期病院・地域診療所との懸け橋となる連携体制の構築

中東遠医療圏を中心とした急性期病院から円滑な患者受入に努めることが出来た。更に地域連携活動の推進により、志太榛原医療圏の病院からの紹介も増加した。入院紹介件数は毎月 40 件前後の紹介を受け、増加率は前年度比約 160%と連携が更に進んだ結果となった。また、地域診療所の先生方との連携体制も進み、紹介件数も増加した。

３．在宅復帰や療養施設への入所を支援し、地域全体として切れ目のない医療の提供

介護事業所・行政と年間 3 回の介護保険連携連絡会、年間 1 回の介護支援専門研修会を開催する事が出来た。多くの参加者を招き、連携事業所との積極的な情報交換が出来た。

４．安定した経営基盤の確立

回復期リハビリテーション病棟を開設し、3 病棟体制による病棟連携が促進され入院患者数の増加に繋がった。看護師採用も病院全体の取り組みにより、施設基準数の確保が行われ、安定した病床稼働が実現できた。しかし、すべての病床の本格稼働までは至らず、2017 年度に達成する予定である。

今後も医療需要の増加に対応すべく、常勤医師、看護師の採用に力を入れていく。

５．働きがいのある職場づくりと人材育成

教育活動が積極的に行われた１年であった。感染対策勉強会、嚥下勉強会、呼吸リハ勉強会等職種間の垣根を越えた連携が意識され、人材育成に繋がった。

また、働きやすい職場環境の整備の実現で子育て中の看護師も安心して働くことのできるよう院内保育所を開設することが出来た。

６．地域における公益的な取組

（ア）袋井市総合健康センターとの共働と発展

お元気教室講師派遣 6 回、認知症初期集中支援チーム参加 10 回、

介護予防・日常生活支援推進会議参加 4 回

【数値実績】

	予算	実績	対予算	対前年
一般病棟入院患者数	35 名	33 名	94.3%	103.1%
一般病棟入院単価	22,600 円	22,498 円	99.5%	96.8%
療養病棟入院患者数	38 名	37 名	97.4%	108.8%
療養病棟入院単価	19,900 円	19,685 円	98.9%	95.6%
回復期病棟入院患者数	30 名	28 名	93.3%	－
回復期病棟入院単価	23,900 円	27,803 円	116.3%	－
外来患者数	64 名	74 名	115.6%	110.4%
外来単価	6,300 円	6,236 円	99.0%	98.6%
サービス活動収益	1,166 百万円	1,174 百万円	100.7%	135.7%
サービス活動費用	1,151 百万円	1,127 百万円	97.9%	135.3%
職員数	118 名	123 名	104.2%	136.7%

在宅・福祉サービス事業部

【2016 年事業目標】

実験し、実践し、実感できる新たな福祉の視点を見出す

1. 地域に根差した**小さな拠点**づくりを行い、地域包括支援体制の布石とする
2. 小さな拠点を支え、生み出すために**大きな拠点**の機能強化を進め、新たな発想をもって事業の見直しと ICT 化の時代に即応する
3. 将来に向けて聖隷が取り組むべき地域と事業を定め、拡大または撤退の方向性を検討していく傍ら、従来の制度等に縛られない新たな領域の福祉活動を考えこれに取り組む
4. これらを支える人材確保、人材育成、施設保全、事業戦略決定等の本部機能について事業部としての主体性を発揮する

社会福祉事業が多くの事業者に支えられ成熟期を迎えた。特に介護保険制度においては参入事業者過多の弊害から在宅事業では事業の撤退も多くみられ、入所事業においては都市圏を除いて入所待機者減に苦しむ状態となっている。しかし、福祉的課題の多くは複合的に生じ、課題解決の方法も一様ではない。そして高齢者福祉は介護保険制度、障害者福祉は総合支援法、児童福祉は子ども子育て支援法に支えられ、多くのサービス提供が為されるようになったが、タテ割りの福祉制度では解決出来ないこともある。地域の相談窓口である地域包括支援センターであっても、高齢者に特化されて総合相談の窓口とはなっていない。今後の地域包括支援を行っていく上でも福祉の視点を「自らの地域」に集中して取り組む必要を感じている。

事業部においては 2015 年度に取り組んだエリア毎による体制を更に進化させ、入所施設を有する「大きな拠点」と在宅事業の複合施設であるセンター化を進め、「小さな拠点」の設置を行った。小さな拠点であっても自らの意志と決定権限を有し、自分の地域が必要としている福祉ニーズを発見、考察し、取り組んでいける組織を目指した。人材面においても中堅以上の職員が育成され、更なる成長段階へ進む機会を提供できる組織風土の構築に努めた。

事業面では介護福祉施設の入所対象者が介護度 3 以上に位置づけられた影響は全国的にも大きく、4 割以上の施設が入所者・待機者不足に喘ぐ中、現場の努力に支えられて経営的に大きな影響を受けることなく運営することが出来た。しかし、介護保険計画に位置付けられた施設整備計画は着実に遂行されることとなり、入所待機者対策の継続的な取り組みは、更に進めねばならない課題となっている。そのような介護保険事業が困難を極める中で、事業部では障害福祉と保育事業を拡大することに努め、新規事業の開設を進める事が出来た。特に保育事業においては待機児童対策として 2019 年までの施設整備を 2017 年末までに前倒し整備することの方針が掲げられ、こども園の定員増、新規開設に取り組み、中途採用を含む多くの保育職員が入職し、「量の拡大」を図った。一方、保育士ラダーの活用、年間を通した保育研究、研修を通じて「質の拡大」にも職員全体で取り組んでいる。また、障害福祉事業においては磐田市の要請を受けて就労支援、児童発達支援等の事業を開設すると共に、障害者の相談支援事業所の増設や特別養護老人ホームにて空床利用による障害者の短期入所の受け入れ、高齢者デイサービスセンターに基準該当障害福祉サービスによる障害者の受け入れ等、障害福祉事業の拡大にも取り組むことが出来た。

事業の拡大と共に管理すべき事業数は多く、法人の行う管理手法を超えている。このため、各エリアにある複数の事業拠点の経営管理と経営支援、拠点における事業の複合化の推進に伴う専門性の支援等の経営的課題に対し、本部機能の体制強化を図った。労務業務においては、各種申請手続きの WEB 化をスタートさせることにより、本部による集中管理業務の見直しを図った。経理業務においては、大きな拠点での集約、本部での集約の両面で取り組みを行っているが、経理システムの運用に関しては電子決裁等の導入が為されておらず、アナログ処理が前提に運用しているため、各地に複数事業所がある事業部では更なる取り組みが必要となっている。また、介護保険事業、障害福祉事業、保育事業において、業務の抜本的見直しと、職員の労働負荷軽減に取り組むべく各事業のシステムの導入と変更に向けて準備を進めた。各事業共に 2018 年度に制度や報酬改定を控えており、2017 年度内に完全移行を行い将来の IoT 社会に備えた業務に変更し、職員の働き方や考え方の見直しに繋げていく取組みを行った。また、新人事制度の変更に伴い、職員処遇加算の要件でもある職員が成長出来るためのスケールとして「介護ラダー」「相談員ラダー」「保育ラダー」がある程度完成し、段階的に運用を開始した。これにより、職員においては自分の成長を自覚し、将来の人材育成に繋がる取組みになることを期待している。

最後に、法人の中期事業計画に位置付けられる取組みとして「新たな住い」の具体的な提案内容を各事業に精通した職員と共に議論を重ね、2017 年度への提言をまとめた。聖隷福祉事業団が社会福祉法人として地域福祉に貢献していくこと、日本の福祉における課題について正面から向き合うこと、これに資する組織体質と職員育成に取り組むことを心に刻みつつ、2016 年度の取り組みが将来に繋がるよう努力を継続していきたい。

【高齢者福祉・介護保険事業】

① 介護保険施設待機者が激減する中、市町村を超えて営業活動を行うと共に入所待機者リストの共有化のシステムを作り、入所ニーズの変化に対応した。
② 障害・介護保険報酬改定にあたり、請求ソフト、記録ソフトの更新、変更を検討した。
③ 福祉の倫理観に基づいた理論構築を行い、導入モデルとなった北欧の福祉事情の変化を実際に見ることで、利用者にとって最上のケアは何かを再確認できた。
④ 地域における小さな福祉拠点をケアセンターとして位置づけ、拠点の再編成と整備を行った。既存の入所施設は大きな拠点として支援機能を有するべく強化を推進した。

【障害福祉事業】

① 聖隷厚生園の組織改編を行うとともに、厚生園所属の障害福祉サービス事業を各拠点施設に移管させ、高齢、障害、児童を問わない支援体制を確立した。
② 磐田市と共に発達障害児支援を更に進め、聖隷ぴゅあセンター磐田（聖隷こども発達支援センターかるみあ、聖隷放課後クラブはなえみ磐田、相談支援事業所磐田みなみ、障害者就労支援施設聖隷チャレンジ工房磐田)を開設した。
③ 和合せいれいの里内に、放課後等デイサービス（聖隷放課後クラブはなえみ和合）を新規開設し、2017 年度に高丘地区での開設に向けて準備を進めた。
④ 奄美大島における発達障害児支援の輪を更に拡大し、奄美市に続く龍郷町での児童発達支援事業所『聖隷かがやき』を開設した。

【保育事業】

① 保育園における教育機能を重視した運営を行うと共に、2017 年度に向けて幼保連携型認定こども園への移行を進めた。

○こうのとり豊田保育園より聖隷こども園こうのとり豊田に変更　120 名→155 名

② 浜松市における待機児童対策に基づく定員増を行った

○聖隷こども園桜ヶ丘　160 名→190 名（2016 年 4 月）

○聖隷浜松病院ひばり保育園　120 名→145 名（2016 年 4 月）

○聖隷めぐみ保育園　19 名→30 名（2016 年 4 月）

○聖隷こども園わかば 150 名→200 名（2017 年 4 月）

○聖隷こども園ひかりの子 150 名→230 名（2017 年 4 月）

○聖隷こども園めぐみ　新規開設 160 名（2017 年 4 月）

③ 宝塚せいれいの里内の事業所内保育を企業主導型保育事業として申請し、「宝塚すみれ保育園」として助成決定された。

④ 淡路市の公立こども園の公募を受けて、2017 年 4 月に「岩屋認定こども園」として運営を受託した。

【生活困窮支援、生活保護事業】

① 学習支援事業に該当しないの子ども(小 3～中 2 年)、高校中退者の受け入れを行った。

② 学習サポート事業の拠点を中区高丘に加えて、東区にも拠点を置き活動を広めた。

【主な施設整備】

○浦安愛光園 4 床増築工事

○聖隷ぴゅあセンター磐田の建設（2017 年 4 月開設）

○聖隷こども園めぐみの建設（2017 年 4 月開設）

○聖隷こども園わかば定員増に伴う増築工事

○聖隷こども園ひかりの子定員増に伴う増築工事

和合せいれいの里

2016 年度の和合せいれいの里においては、新たな障害福祉サービス事業として聖隷放課後クラブはなえみ和合を開所した。2015 年度に開園した聖隷めぐみ保育園は、2016 年度に定員を 30 名と増員を行った。聖隷こども園めぐみの建築も進められ、敷地の中で絶えず工事が行われている 1 年であった。今回こども園開設により和合愛光園厨房機能も移転集約され、併せて利用者への食事提供方法の見直しを行った。

高齢者・障がい者・こどもの全世代対応型の福祉拠点としての体制を確立するための、新たなスタートをきる重要な年となった。

1．高齢者・障害者・こどもに対応できる重層的かつ継ぎ目のないサービスを実施する。

（ア）特別養護老人ホームにおいて権利擁護の視点に立って、サービス提供体制を再構築する。

① 和合サテライト運営推進委員会等、地域に支援内容を知って頂く機会を持った。

② 医療的依存度の高い利用者の受け入れ体制を整え、退所ルールの変更を行った。

③ 広域型施設の役割を追及する為、募集範囲の拡大と宣伝方法の見直しを行い実行した。

（イ）ショートステイの受入体制を強化し、一人でも多くの利用者に利用してもらう。

① 多様な利用目的に対応するため、介護・看護・相談員の連携を深め支援体制を作った。

② 緊急短期入所受入加算 114 件、医療連携体制加算 726 件と算定を促進することができた。

③ ショートステイでの個別機能訓練加算の算定件数が、2015 年度の 100 件から 304 件と増加した。

④ 地域で就労訓練している方のショートステイの定期的な利用が 1 件できた。

（ウ）新たな高齢者デイサービス対象者づくり

① 地域の潜在的なニーズに対応する為、6 月より短時間デイを開始し一週間で 15 名の利用実績となった。

② 認知症カフェを開催できなかったが、一般デイから認知症対応型へ 2 名移行できている。

③ 市が実施するロコモーショントレーニング事業では、登録 9 名、年間延べ 170 件の実績となり登録 9 名の内、ささえあいボランティア制度の登録が 5 名となった。

（エ）新たなサービスの拡大と社会参加、自立支援を促進する。

① みるとす第 2 単位利用者の重度化に伴い人員配置体制加算を 2：1 から 1.7：1 に変更した。

② 障がい児童に対応するため、児童相談支援の契約件数を目標年 30 件に対し 7 件であった。

③ より多くの世代の障がい者に対応できるよう聖隷放課後クラブはなえみ和合を開設した。

④ 2017 年度開始目指し現厨房での給食提供を行う就労継続支援 A 型事業の検討を進めた。

（オ）生活支援ハウスでは、より多様なニーズの利用者を受入可能にする。

① 2015 年度より開始した 3 交代のチームケア体制を取り職員の対応力を高めた。

② 現行以外の用途を行政と協議した。

（カ）訪問介護、巡回ヘルパーぐるり和合について利用者のニーズに対応できる体制を構築する。

① 非常勤ヘルパーの給与体系の見直しや、採用力の強化は 2017 年度への継続課題となった。

② 新総合事業を見据え、基準緩和の事業申請はできた。低額有償サービスの検討を行った。

（キ）訪問看護ステーション住吉は、聖隷浜松病院と連携しての在宅移行の実績をつくることができた。

（ク）居宅介護支援事業所においては、特定事業所集中減算を発生させずに運営できた。

（ケ）地域包括支援センター和合では、圏域ケア会議や生活支援体制づくり勉強会を開催して、課題の洗い出しまで行った。

２．生産性向上活動を通じ、業務の効率化を行い、サービスの質を高める。

（ア）人口減社会に対応したケア体制を確立するため、介護職以外でも働ける業務を検討した。

（イ）デイサービスでは車両の送迎、運営体制の見直しを行い、2 台の車両削減を図った。

（ウ）高齢者デイサービスにおいてロボットスーツの導入を検討したが、効果的な活用は見出すことができず、入所施設での見守りシステムの導入とした。

（エ）巡回ヘルパーぐるり和合では 9 月までデイサービスとの兼務化を図ることができたが、デイサービスの職員減で難しくなった。

（オ）訪問、ケアプラン事業所では音声入力システムの導入には至らなかった。

３．他事業所と相互に協力関係を築き、利用者がその人らしく地域で暮らせるよう支援する。

（ア）ベッドメイキング等周辺業務をチャレンジ工房へ委託し、工房の工賃向上を支援した。

（イ）聖隷就労支援が提供を開始するパンを納入、提供することができた。

（ウ）生活支援ハウスやまぶきへの、巡回ヘルパーぐるり和合のサービスを取り入れた活動には至らなかった。

（エ）相談支援事業所くすのきとケアプランセンター和が連携し、障害者ケアプランの作成、モニタリングを、ケアプランセンター和でも実施することができた。

（オ）法人内病院との連携を強化し、退院支援ナースの配置や交換人事を進めることができた。

（カ）保育浜松エリアと協力して 2017 年度に開設する保育園の開設準備を行うことができた。特に、併せて実施される給食設備統合について、子どもに適した給食への対応ができた。

４． 職員が成長を実感できる体制強化と多様な働き方の創出。

（ア）プリセプター制度は導入できている。新たに相談員ラダーの運用を開始した。

（イ）個人別研修計画と目標参画、利用者等への報告制度を推進した。

（ウ）各種委員会の責任者に主任も任命し、その運営を通じ役職者・リーダーの育成を実施した。

（エ）認知症介護実践者研修とキャリア段位制のアセッサーの研修者数の増加を図った。

（オ）フィリピン EPA 卒業生(2 名)が EPA 候補生（5 名）を指導する教育体制を構築することができた。

（カ）障がい者支援施設みるとすの、第 2 単位のアセスメント機能を強化し、障害者雇用率を前年度より向上させた。

５．全職員が健全な経営を意識できる仕組みつくり

（ア）36 協定や権利擁護等、コンプライアンスの意識を高めるための勉強会の開催を行った。

（イ）防災委員会、安全運転委員会、安全衛生委員会等を再編成し、効果的な体制とした。

（ウ）業務マニュアルを再整備し、法令の遵守とサービスの質の見直しには至ってない。

（エ）空調管理の徹底や計画的な修繕、備品購入を進め経費の削減を行うことができた。

【数値実績】

高齢者入所・和合サテライト・通所関係事業

	和合愛光園			和合サテライト	和合愛光園デイサービスセンター			やまぶき
	特養入所		短期		通所介護			生活支援ﾊｳｽ
	従来型	ユニット型	従来型（障害）	ユニット型	一般型	予防介護	認知症対応型	
利用者定員	50名	40名	20名	29名	50名		12名	20名
利用延数	18,541名	14,408名	6,544名	10435名	6,934名	483名	1,951名	4,941名
一日平均利用者数	50.8名	39.5名	17.9名	28.6名	22.37名	1.56名	6.3名	13.5名
稼動率（％）	101.6%	98.7%	89.6%	98.6%	47.9%		52.5%	67.7%
稼動延日数	365日	365日	365日	365日	310日		310日	365日
平均介護度	3.98	4.33	3.49	3.83	2.29		3.44	―
単価（一人一日）	11,711円	14,000円	11,620円	13,593円	10,150円	5,537円	13571円	4,530円
サービス活動収益	227,845千円	203,054千円	74,346千円	142,962千円	73,497千円		26,480千円	22,450千円
正職常勤換算数	24.8名	22.2名	7.1名	13.1名	5.6名		1.0名	0.7名
パート常勤換算数	13.4名	5.3名	2.8名	5.1名	10.6名		3.3名	2.0名

障がい者入所・通所・相談関係事業

	障害者支援施設　みるとす					相談支援くすのき浜松市受託特定・児童	高齢障害合計
	施設入所支援生活介護Ⅰ	生活介護Ⅱ	短期入所	入浴ｻｰﾋﾞｽ	日中一時支援		
利用者定員	20名	20名	2名	5名	10名	ｻｰﾋﾞｽ利用	―
利用者延数	7,239名	5,369名	1,066名	93名	延2,016 h	142件/年	―
一日平均利用者数	19.83名	22.09名	2.92名	―	―	継続ｻｰﾋﾞｽ	―
稼動率（％）	99.2%	110.5%	146.0%	―	―	475件/年	―
稼動延日数	365日	243日	365日	365日	365日	障害児	―
平均区分	5.65	4.93	4.45	―	―	ｻｰﾋﾞｽ7件/年	―
単価（一人一日）	17,107円	13,364円	8,315円	―	―	継続20件/年	―
ｻｰﾋﾞｽ活動収益	124,013千円	71,615千円	9,437千円		1,833千円	18,214千円	995,746千円
正職常勤換算数	14.8名	4.7名	―	―	―	2.0名	96.0名
パート常勤換算数	2.8名	8.1名	―	―	―	1.0名	54.4名

放課後等デイサービス事業

	聖隷放課後クラブ はなえみ和合	
	学校日	休校日
利用定員	10 名	
利用者述べ人数	561 名	
一日平均利用者数	4.7 名	
稼働率	46.75%	
稼働日数(延べ)	105 日	14 日
単価(一人一日当り)	9,956 円	10,156 円
ｻｰﾋﾞｽ活動収益	5,623 千円	
正職常勤換算数	2.2 名	
ﾊﾟｰﾄ常勤換算数	1.3 名	

訪問・居宅介護支援・地域包括支援事業

訪問看護ステーション住吉	平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価	ｻｰﾋﾞｽ活動収益	常勤換算職員数
	165 名	886 件	1980 件	9,486 円	102,337 千円	13.3 名

聖隷ヘルパーセンター	介護給付			予防給付		単価		ｻｰﾋﾞｽ活動収益	常勤換算職員数
	平均利用者数	訪問件数		利用者		介護(回)	予防(月)		
		月間	年間	月間	年間				
	89 名	1,019 件	12,228 件	45 名	538 名	3,284 円	20,995 円	68,778 千円	14.1 名

聖隷巡回ヘルパーぐるり和合	介護給付		単価	ｻｰﾋﾞｽ活動収益	常勤換算職員数
	月間利用者数	年間利用者数	介護 (月)		
	7 名	87 名	150,698 円	13,901 千円	3.3 名

ケアプランセンター	年間請求件数		平均単価		訪問調査		ｻｰﾋﾞｽ活動収益	常勤換算職員数
	介護	予防	介護	予防	年件数	単価		
浜松	2,820 件	326 件	15,538 円	3,960 円	11 件	4,320 円	47,497 千円	7.9 名
和	2,224 件	180 件	17,702 円	4,206 円	15 件	4,320 円	42,893 千円	7.7 名

地域包括支援センター和合	浜松市受託収入	予防プラン請求件数	うち再委託件数	予防ﾌﾟﾗﾝ単価	ｻｰﾋﾞｽ活動収益	常勤換算職員数
	26,443 千円	3,579 件	2,415 件	4,390 円	43,498 千円	6.4 名

聖隷めぐみ保育園

和合せいれいの里の敷地内に事業所内保育所が開設して2年目を迎えた。

2015年度は19名であった定員を、2016年度は30名に拡大した。その内、地域枠7名が事業所内保育となり、和合せいれいの里と浜松リハビリテーション病院で働く職員のこども達を受け入れた。待機児童が多い浜松市において、聖隷内に事業所内保育所が存在することは、育休明けの職員が職場復帰するために保育園を探す必要もなく、復職の時期は職場との調整だけで済む。また、子育てをしている新規採用職員にとっても、事業所内保育所があることで働きやすい職場となったように感じている。

定員の増加に伴い保育環境を整える必要性があるため、隣接していた部屋を保育室として整備した。また、第一生命財団の助成金を活用し、乳児用の室内遊具と絵本を購入し保育環境を整えた。

１．入所状況

年間入所率は76.4%であった。4月は19名の入所であったが3月は28名となり、年度途中での入所は大半が育休明けの0歳児であった。

地域枠は2015年度の6名に対して2016年度は1名のみとなった。

２．重点目標及び重点施策への取り組み

（ア）2016年度事業の振り返り

①利用者に質の高い保育サービスを提供する

・保育計画を作成するにあたり、年齢に応じた発達にあわせて保育活動（絵本、玩具等の保育教材）及び基本的生活等の見直しを行なった。

・子どもの生活リズムを整えることの大切さを学び、保育学会につなげた。

・保育室の拡張整備、こども園めぐみ増築工事に伴い従来の園庭が使用困難になるために敷地内に新たに園庭を整備した。

（イ）地域における公益的な取組

①和合せいれいの里内の利用者（デイサービス利用者含む）との交流

・収穫した野菜にコメントをつけてプレゼントを行った。

・園行事（花の日・収穫感謝祭等）で訪問した。また、持ち寄った花や野菜果物の贈呈も行なった。

・日々の活動の中で、互いに訪問や見学、出迎えを行い、交流を深めた。

【数値実績】

①歳児別入所保育児童数(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	3	3	4	4	6	9	9	11	11	12	13	13	98	8.12
1歳児	9	9	8	8	8	8	9	9	9	9	9	9	104	8.67
2歳児	7	7	7	6	6	6	6	6	5	5	6	6	73	6.08
計	19	19	19	18	20	23	24	26	25	26	28	28	275	22.91
												入所率	76.4%	

②保育日数及び延べ出席(利用) 状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数(名)	338	324	261	295	339	405	439	428	392	425	518	480	4,655	387.9
保育日数(日)	25	23	23	25	26	24	25	24	23	23	23	26	290	24.2
一日平均(名)	13.5	14.1	11.3	11.8	13.0	16.9	17.6	17.8	17.0	18.5	22.6	18.8	193.0	16.1
延長保育(名)	13	16	21	13	12	16	25	21	40	28	30	31	266	22.2

③職員の状況 (名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長(非)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正)	6	6	6	6	5	5	5	5	5	5	3	3
保育士(パ)	4	4	4	4	6	6	6	6	6	6	7	9
管理栄養士(委託)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員(パ)											1	1
計	12	12	12	12	13	13	13	13	13	13	13	15

聖隷ケアセンター初生

2016年度は聖隷の地域密着型拠点としてのモデルとなる体制づくりを目指し小規模多機能型居宅介護事業の開設、それに並行し、ヘルパーセンターの移転を計画していたが現在の地域の状況から集客の可能性が不明瞭であるため保留となった。しかし、それぞれの事業を強化する方向で出来ることを検討し、通所介護における機能訓練の充実、訪問介護における障害サービスの強化、地域密着型特別養護老人ホームの空床利用型短期入所の柔軟な受け入れを進めた。また「聖隷ケアセンター初生」として一体的な運営を推進し、委員会等の施設運営機能を事業所合同で行い、事業間の温度差を無くし、互いの特性を理解、共有して意見を提案しあえる体制となった。

１．地域ニーズに合わせ、利用を続けることができる提供体制を整備する

（ア） 小規模多機能型居宅介護事業の開設について、必要性の理解は得られたもの現在の地域の状況や、簡易の改修設備での集客が不明瞭であり保留とし今後の検討課題とした。

（イ） 定期巡回随時対応型訪問介護看護事業について、利用者数の減少と人材確保の困難さの課題が解決できず、2017年2月末をもって事業を閉鎖した。

（ウ） 初生サテライトにおいて管理栄養士の配置ができ、食事の評価やアプローチなどのサービス提供と加算の取得ができた。また、施設衛生管理や防災訓練など施設機能の充実を図ることができた。

（エ） 広報誌の発行開始と、地域自治会回覧板への掲載などの広報活動ができた。また、地域の居宅介護支援事業者や地域の連携会議、勉強会へ参加等についても積極的に進めることができた。

（オ） 利用者ニーズに合わせて各事業の質の向上の取り組みができた。

① 通所部門において、機能訓練の充実のため、古くなっていたリハビリ機器を新しく購入した。機能訓練加算Ⅱの取得は緩やかに増加しており、今後も更なる充実を図っていく。

② 入所部門での看取りケアは実施継続できた。今後はさらに充実した内容になるよう勉強会等計画していく。入院日数の減少に向けた取り組みについて、概ね1か月以内で退院できているが、その間の空床利用については継続的な取り組みが必要である。

③ 訪問部門においては、和合とのエリアの重複や労働力の確保が進まず、定期巡回サービスを廃止するという形になった。しかし障がいヘルパーの問い合わせに対し、定期巡回廃止で出来た時間を充てることが可能になったため、拡大できている。

④ 通所での活動を入所と共同することでのメリットは共有出来たため今後も実施していく。

⑤ 入所、訪問部門において喀痰吸引研修をそれぞれ計画的に実施できた。

２．新総合事業を見据えた通所・訪問事業の提供体制の変更

① 介護予防通所介護の体制や短時間型の見直しを検討し、2017年度10月を目安に再計画とした。

② 聖隷デイサービスセンター三方原と共同して浜松市ロコモーショントレーニング事業を実施した。

（イ） 訪問介護の従来のサービスと有償サービスの組み合わせをパッケージ化して提案していく仕組みについて検討し、今後も継続して取り組んでいく。

３．人材、設備の有効活用と事務機能の計画的な整備による施設機能の強化

（ア） 経理機能、書類保管機能、受付機能の実務集約の計画を進め、2017 年度に実施となる。

４．拠点軸、事業軸でのリーダー・新人・パートの人材育成の推進

（ア） センター内での体制整備の必要性の意識ができ 2017 年度へつなげることができた。

（イ） 各ラダーの運用が進んでいないため再度運用実施の計画を可視化して進めていく。

（ウ） 専門研修の実施が計画的に行われており 2017 年度も継続して行う。

（エ） センター内での委員会はリーダーを中心に活動できた。

５．地域における公益的な取組

（ア）聖隷クリストファー大学「老年看護学実習」8 名

（イ）聖隷クリストファー大学「臨床理学療法実習」2 名

（ウ）浜松市ささえあいポイント高齢ボランティア事業　延べ 132 名

【数値指標】

	和合愛光園 初生サテライト	聖隷デイサービスセンター初生		聖隷ヘルパーセンター初生			聖隷巡回ヘルパー ぐるり初生
		介護給付	予防給付	介護給付	予防給付	総合支援・有償等	
利用者定員	29 名	50 名	(50 名)	―	―	―	―
利用延数	10,364	10,043	341	5,769	198	5,950	44
一日平均利用者数	28.39	32.5	5.8	―	―	―	―
稼動率（％）	97.79	76.5		―		―	―
稼動延日数	365	309	309	365	365	365	334
平均介護度	3.8	2.0	―	2.4	―	―	―
単価（一人一日）	13,846	9,456	32,181/月	4,022	17,597/月	―	146,303
総収入（千円）	143,506	105,839		23,750		21,557	6,192
職員数（正・ゾ）	13.5	7.0		3.85			1.91
職員数（パ・ア）	4.3	12.0		1.33			0.64

いなさ愛光園

いなさ愛光園は 1997 年 4 月に開設して、20 年の節目の年となった。各サービスの稼働率が順調であったことで施設運営は全般的に安定して推移することができた。介護の質の評価の一環として、特別養護老人ホームは「福祉サービス第三者評価事業」を受審し、ほのぼのケアガーデンは「認知症高齢者共同介護におけるサービスの質の評価」を受審した。取り組むべき課題が明確になったので計画的に改善を目指していく。

特別養護老人ホームは入院者数及び入所者の空床期間が短縮したことで安定した稼働で推移した。ベッド更新、フローリング部分の床修繕等については、計画的に実施することができた。短期入所は旧引佐郡の利用者だけでなく、新城市の利用者が増え延べ人数は全体の 20%まで拡大した。通所介護は理学療法士を採用したことで、リハビリニーズのある利用者に対応することができた。認知症対応型通所介護は園芸療法を柱に、利用者の意欲を効果的に導き出すことができた。グループホームは畑で野菜作りや取れた野菜での食事作り等を通して、利用者主体のサービスを提供することができた。訪問介護は介護予防・日常生活支援総合事業や障害者総合支援法による居宅介護(ホームヘルプ)の開設準備をした。居宅介護支援事業所は職員体制が大幅に変わったが、利用者及び家族へのアセスメントを実施し各サービス提供者と連携することで在宅支援を実践した。配食サービスは年間約 1,850 食を提供した。全額自費での利用者は年間約 240 食となった。在宅介護支援センターは引佐町の中山間地域を中心に福祉の総合的な相談窓口として運営してきたが、浜松市の受託事業が 2016 年度末で廃止された。

１． ケアプランに基づいた個別ケアを充実する

(ア)「その人らしさ」を支援するため、ひもときシートを活用し理解に努めた。

(イ)利用者の希望に沿った、自宅訪問や故郷訪問へのドライブは好評であった。

(ウ)利用者の馴染みがある野菜作りを各部署で企画し収穫を楽しんだ。

(エ)サービス単位毎、利用者の状態に合わせ、生活環境やケア環境の見直しを行った。

２． 安心、安全、快適な生活を支援する

(ア)特別養護老人ホームの退去者 12 名のうち、ご家族と嘱託医、看護師、管理栄養士、介護職員等が連携し、6 名の利用者に施設での看取り介護を実施させて頂いた。

(イ)病院受診を伴う介護事故は 12 件であったが、早期に対策を立て再発予防に努めた。

(ウ)短期入所の緊急対応希望者を迅速に受け入れる体制を構築し、延べ日数は 77 日に達した。

(エ)利用者や家族の声を拾い上げるために、訪問介護でアンケートを実施した。

３． 職員の資質向上をする

(ア)介護テクニカルラダー、相談支援スキルラダー、福祉施設看護ラダーの運用を始めた。目標参画に連動し OJT を活用しながら、各々のスキルアップの支援をした。

(イ)介護福祉士実務者研修を修了した 3 名が介護福祉士に合格、介護支援専門員実務研修受講試験に 2 名の職員が合格をした。

（ウ）健康保険組合に講師を依頼し、腰痛予防の勉強会を開催した。また、移乗の勉強会も開催し、トランスファーボードを新たに購入するなどして、施設全体で腰痛予防に対する意識づけを行った。

４．　地域における公益的な取組

（ア）渋川・伊平・川名・久留女木地区にて家族介護者教室を開催
（延べ回数　4 回、延べ人数　80 人）

（イ）幼稚園児、小学生等の世代間交流　（延べ回数　5 回、延べ人数　70 人）

（ウ）中学校生、高等学校生の福祉介護体験等　（実人数　29 人、延べ人数　37 人）

（エ）高齢者サロン活動（伊平）の支援　（延べ回数 11 回、延べ人数 306 人）

（オ）サロン型ロコモーショントレーニング事業　（延べ回数 12 回、延べ人数 90 人）

（カ）社会福祉法人利用者負担軽減事業　（全事業対象者総数　12 人）

（キ）介護福祉士実習受入れ　（実人員　12 人、延べ日数 99 日）

（ク）社会福祉士実習受入れ　（実人員　1 人、延べ日数 23 日）

【数値実績】

高齢者入所・通所関係事業・委託事業

	特別養護老人ホーム　いなさ愛光園			いなさ愛光園デイサービスセンター	
	特養入所		短期入所	通所介護	
	従来型	ユニット型	ユニット型	通常規模型	認知症対応型
利用者定員(名)	30 名	40 名	20 名	35 名	10 名
利用者延べ人数(名)	10,805 名	14,925 名	6,214 名	8,341 名	2,362 名
一日平均利用者数(名)	29.6 名	40.9 名	17.0 名	26.9 名	7.6 名
稼動率(%)	98.7%	102.2%	85.1%	76.9%	76.1%
稼動日数（延べ：日）	365 日	365 日	365 日	310 日	310 日
単価（一人一日当り：円）	12,850 円	13,688 円	12,851 円	9,261 円	12,181 円
サービス活動収益	139,050 千円	204,588 千円	79,859 千円	77,246 千円	28,773 千円
職員数（常勤換算：名）	46.5 名		15.1 名	14.2 名	6.3 名
	ほのぼのケアガーデン	いなさ愛光園ヘルパーステーション	聖隷ケアプランセンターいなさ	いなさ愛光園在宅介護支援センター	配食サービス
利用者定員(名)	9 名	—	—	—	—
利用者延べ人数(名)	3,204 名	3,836 名	2,003 名	—	1,847 名
一日平均利用者数(名)	8.8 名	10.6 名	—	—	6.2 名
稼動率(%)	97.5%	—	—	—	—
稼動日数（延べ：日）	365 日	361 日	365 日	365 日	296 日
単価（一人一日当り：円）	13,497 円	4,774 円	13,925 円	—	705 円
サービス活動収益	43,243 千円	18,733 千円	30,065 千円		1,302 千円
職員数（常勤換算：名）	9.0 名	5.2 名	4.0 名		—

もくせいの里

2016年度は「一人一人の人生の終盤、生活の安心が得られ、豊かに幸せに過ごすことができるようにする」ことを基本に、利用者の「この施設で安心して生活を続けたい」との思いに向き合いながら施設運営を行ってきた。しかし、自立支援を中心とした軽費老人ホームにおいても、高齢化、要支援者の割合が多くなる中、様々な課題が見えてきた1年でもあった。

軽費老人ホームの職員配置の中で、要支援者に対するサービス提供の在り方や在宅サービス、特養との連携強化を早急に確立する必要性を感じた。

1.　安心と安全を重視したサービス

（ア）月1回の防災訓練の中で、夜間をはじめ職員の少ない状況を想定し、繰り返し訓練を実施しできた。このことで各職員の連携を確認しあうことができ、施設全体の防災意識を高めることができた。

（イ）身寄りのなくなった利用者に備えて身元保証人にかわる仕組みの検討については、実施することができなかった。
利用者に対する後見人制度の説明会等を実施するなど、今後の課題として残された。

（ウ）軽費老人ホームA型を維持したままでの耐震補助の働きかけを浜松市に行ってきた。
引き続き協議を行うのとともに、築40年を経過する施設であるので、必要な設備更新を行いながら、施設の将来像を検討していく。

2.　利用者に寄り添うサービス

（ア）　デイサービスセンター三方原に実施して頂いているロコモティブ・トレーニングは、平均6名の参加があり、利用者からは好評を得ている。
今後も介護予防等の観点から利用者への働きかけを行い、増員を図る。

（イ）　配食サービス利用者の情報交換については、充分とは言えず、利用者・家族、ケアマネとの連携方法について、引き続き検討していく。

（ウ）　入居者アセスメントの方法を検討した。2017年度は様式、運用方法の決定を行う。

（エ）　外部で行われる講座やイベントに、利用者とともに参加し、他の参加者との交流を深めることができた。

（オ）「役に立ちたい」という利用者ニーズに答える活動として、近隣の伝統織物店に6、7名の利用者が、ボランティアとして6回程度作業へ行くことができた。

3.　職員の資質の向上

（ア）老人施設協議会等の研修をはじめ、年12回の外部研修へ参加し、施設内研修については、毎月実施することができた。

（イ）スチームコンベクションセミナー等の研修へ参加し、調理技術等の向上を図った。

（ウ）目標参画システムについて、個々の資質を高める目標の設定が十分にでなかった。

4.　地域における公益的な取組

（ア）近隣の調理に不安のある住民に対し、配食サービスを実施した。（年 3,259 食）

（イ）高台幼稚園とのふれあい活動を実施した。

（ウ）入居者へのロコモティブ・トレーニングに合わせ、地域住民への啓蒙を行った。

5.　設備の更新

エレベーターの交換工事、厨房冷蔵庫の交換、管理棟の防水シートの交換等設備の更新については、計画通り実施できた。

【数値実績】

	軽費老人ホーム	食事サービス	計
利用者定員	50 名		
利用者数（延べ）	18,300 名	10,743 名	29,043 名
利用者数（日）	50 名	34.8 名	
稼働率（％）	100%		
稼働日数（延べ）	366 日	309 日	
単価（一人一日当り）	6,048 円	677 円	
サービス活動収益（千円）	110,863 千円	7,281 千円	118,144 千円
職員数	15.4 名	0.5 名	15.9 名

細江地区在宅複合事業

訪問看護ステーション細江
聖隷ケアプランセンター細江

１．訪問看護ステーション細江

（ア）聖隷三方原病院との協働

聖隷三方原病院からの出向看護師の受け入れと共に、訪問看護師が病棟カンファレンスに参加する等の活動を通し、協働の体制が大きく進んだ一年となった。これにより病院から直接紹介される新規利用者が確実に増加した。

（イ）聖隷ケアセンターいなさとの協働

利用者の発掘からサービス利用まで、いい形で協働が行われている。三ケ日地区利用者は順調に増加した。

２．聖隷ケアプランセンター細江

（ア）法人内近隣ケアプランセンターにとってのハブ事業所となる

聖隷三方原病院サテライト機能を活かし、近隣法人内ケアプランセンターと協力して利用者をフォローできている。転院する患者様に対してのサポートも開始した。

（イ）聖隷三方原病院との連携

訪問看護師が病棟カンファレンスに参加し介護保険の知識などをアドバイスすることで、より具体的な退院調整を行う手助けができた。

３．地域における公益的な取組

（ア）エコキャップ活動の継続と、高齢者相談センターに協力し地域の家族介護者教室等に講師として参加

【数値実績】

訪問看護ステーション細江

年間利用者数	年間訪問件数	サービス活動収益	当期活動収支差額	職員数(常勤換算)
1,505 人 月平均　125 人	8,643 件 月平均　720 件	82,058　千円	-1,400 千円	11.2 名

ケアプランセンター細江

年間請求件数		平均単価（円）		サテライト年間対応件数	職員数（常勤換算）
介護	予防	介護	予防		
1,912 件	113 件	17,638 円	4,331 円	460 件	50 名

聖隷ケアセンターいなさ

地域包括支援センター細江
聖隷ケアプランセンターいなさ南部
聖隷リハビリプラザいなさ

2016 年度は、組織的に拠点化を意識したひとつのセンターとしてのスタートとなった。地域連携の柱として地域包括支援センター細江は、幅広く地域の福祉ニーズに対応し、地域見守りネットワーク拠点として継続的に機能した。また、聖隷ケアプランセンターいなさ南部は、特に三ケ日地区に潜在化していた訪問看護ニーズ、リハビリテーションニーズを掘り起こし、具体的なサービス提供につなげる役割を担うことができた。聖隷リハビリプラザいなさは、「いつまでも、健康的で、元気で暮らしたい」という利用者ニーズに応え、積極的に機能訓練サービスを提供してきた。

今後も、聖隷三方原病院の診療圏として細江町、引佐町及び三ケ日町方面での分野を問わない福祉ニーズを掘り起こし、「隣人愛の精神のもと、地域とつながり、共に生きる。」を拠点理念として地域の期待を担える新たな事業展開を進めていきたい。

１.地域包括支援センター細江

（ア）2017 年度の新事業、「介護予防・日常生活支援総合事業」の開始を見据え、その目的と内容の周知、よりよい運営の為、関係者と意見交換等を行い、地域活動の支援と地域住民との連携を図った。

（イ）職員へ積極的な研修参加を促し、OJT 通じ様々な相談に対応できる人材育成をすすめた。併設事業所のケアプランセンターやリハビリプラザ、訪問看護ステーションと事例共有の機会を定例化し連携強化と協働体制作りをさらに進めた。

（ウ） 認知症カフェとして「さんさんカフェ」を運営し、高齢者と認知症の方の孤立化予防、支援を具体的に進めた。

（エ） 医療と介護の連携促進を図るために、地域の行政、医師会、社会福祉協議会、地域住民、民間介護事業所等との問題の共有の場として、地域ケア会議を積極的に運営した。

２．聖隷ケアプランセンターいなさ南部

（ア） 地域包括支援センター細江をはじめ、サービス付き高齢者住宅等と連携する機会が増えた。特に三ケ日地域の依頼数は当初の 3 倍となり新規利用者をスムーズに受けることが出来た。

（イ）併設事業所と定期的に事例検討する機会を月 1 回設け、相互の情報交換をし、連携して支援を行う体制作りを進めた。

（ウ） チーム会での事例検討や報告を積極的に活かし、ケアマネジメントの能力、質の向上を図った。

（エ）PC ソフトの機能を積極的に活用し、スタッフ全員が滞りなく使用できるように業務の効率化、働きやすい環境づくりをすすめた。

３．聖隷リハビリプラザいなさ

（ア） 機能訓練特化型通所介護の強みを活かし、「いつまでも元気で、現役ですごしたい」という地域のニーズに応える為 OT を増員し、プラン、記録、評価の仕組作りと送迎体制強化を進めた。

（イ） 各職種がそれぞれの役割を認識し、利用者の個別性に対応できるように、職場会議や、朝の申し送りの場で時間を取って情報共有の声かけ、確認を着実に行った。

（ウ） 正職員の増員を効果的にするため、既存の業務内容を整理し、役割を明確化し分担することで効率的に仕事を行えるシステム作りに努めた。

（エ） 聖隷ケアセンターいなさの併設事業所と定期的に事例検討する機会を月 1 回設け、相互の情報交換をし、連携して支援を行う体制作りを進めた。

４．地域における公益的な取組

（ア） 介護予防活動への積極的な取り組みとして、ノルディックウォークのグループ活動支援や、ロコモーショントレーニング体操の住民による自主運営体制作りをすすめた。

【数値実績】

地域包括支援事業（地域包括支援センター細江）

浜松市 受託収入 （千円）	予防プラン 請求件数	内 再委託件数	予防プラン 単価（円）	サービス 活動収益 （千円）	職員数 （常勤換算）
32,110 千円	4,949 件	3,366 件	4,532 円	56,079 千円	5.5 名

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンターいなさ南部）

年間請求件数		平均単価（円）		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価（円）	サービス 活動収益 （千円）	職員数 （常勤換算）
介護	予防	介護	予防				
1,151 件	107 件	15,759 円	4.176 円	0 件	0 円	19,749 千円	4.0 名

通所介護事業(聖隷リハビリプラザいなさ)

	介護	予防
利用者定員	45 名	（45 名）
利用者延べ人数	5,850 名	640 名
1 日平均利用者数	19.0 名	11.1 名
稼働率	67.0%	
稼働日数（延べ）	310 日	
単価（一人一日当り）	5,992 円	28,268 円/月
サービス活動収益	53,293 千円	
職員数	13.6 名	

三方原地区在宅複合事業

訪問看護ステーション三方原
聖隷ケアプランセンター三方原

１．訪問看護ステーション三方原

（ア）　病院・地域・相談支援部門との連携を強化し、特に医療保険利用者獲得を目指す

① 緩和ケア認定看護師を中心にターミナル利用者は確実に増え、意思決定支援により自宅看取りへ意向するケースが増加し、ターミナルケア加算が 10 件/年達成できた。相談部門へ積極的に情報提供を行い、スムーズなサービス介入につながっている。

（イ）　自治会・民生委員との活動を通じ、訪問看護を地域に広める

① 地域ケア会議に必ず参加し、地域の課題を意識し柔軟なサービス介入に取り組んだ。

（ウ）　新卒看護師を迎え、体制整備と教育をスタッフ全員で行う

① 静岡県教育マニュアルを活用し、職員全員で指導に当たり年間教育目標の単独訪問ができるまで到達できた。

（エ）　聖隷ケアセンター三方原内の三事業所の連携を生かし、充実したサービスを実践する

① 2016 年度事例発表会を開催し、改めて互いの事業所の役割分担、連携の重要性を意識することで、よりタイムリーなサービス介入につながっていることが理解できた。

２．聖隷ケアプランセンター三方原

（ア）　エリア内の病院・施設・地域包括支援センターとの連携を強化する

① 地域包括支援センター主催の研修に協力することで、地域介護の現状把握と他事業所主任介護支援専門員との交流ができた。ターミナル患者を通じ病院、訪問看護との連携ができた。

（イ）　総合事業への知識を深める

① 包括支援センター職員との情報交換、合同研修に参加し総合事業への準備を行った。

（ウ）　三事業所の取り組みから、他職種の視点や知識を学び、実践に生かす

① 事例発表会、事例検討会などの取り組みでお互いの役割の確認と調整で利用者サービスの向上につながった。

【数値実績】

訪問看護事業（訪問看護ステーション三方原）

平均利用者	月平均訪問件数	年間訪問件数	単価（円）	サービス活動収益	職員数（常勤換算）
125 人	673 件	8,084 件	9,731 円	78,108 千円	11.52

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター三方原）

年間請求件数		平均単価（円）		訪問調査年間件数	訪問調査単価（円）	サービス活動収益	職員数（常勤換算）
介護	予防	介護	予防				
1,931 件	344 件	15,567 円	4,113	15 件	4,320 円	32,395 千円	5.0 名

聖隷デイサービスセンター三方原

2016 年度は、稼働、収益共に予算を達成することができた。リハビリ特化型デイサービスとして、地域の方々や居宅支援事業所に認知されており、概ね順調に新規ご利用者を伸ばすこともできた。また、10 月からは「聖隷ケアセンター三方原」として、通所介護、訪問看護、居宅介護支援事業所が一つの組織となり、より連携の強化ができるようになっている。

１．聖隷内他事業所との連携の強化を図る

（ア）浜松市リハビリテーション病院を退院した患者様へのシームレスな支援

①浜松市リハビリテーション病院に外来通院している利用者のカンファレンスを行い、情報の共有、役割分担ができた。

（イ）ロコモーショントレーニング体操サロンへの取り組み

①月 1 回のサロンを 2 か所で行うことができた。

２．リハビリテーション・ケアの効果をまとめ、サービスの質の向上を図る

（ア）結果をまとめ、利用者・家族・ケアマネジャーに伝える「サービスの見える化」

①運動機能の結果をグラフ化し、伝えることができた。

（イ）学会、研修会で発表し「発信力」を高める

②聖隷福祉学会で「個別性を重視したケア『ご利用者のやりたいことを支援する』」の演題で発表し、受賞することができた。他にも聖隷リハビリテーション研究会でも発表した。

３．職員一人ひとりが「やりがい」をもって健康的に仕事ができる

（ア）目標参画システム、ラダーを活用する

①十分に活用することはできなかったが、職員は健康的に仕事に取り組むことができた。

４．三方原 3 事業所が協働して、研修会、地域における公益的な取組を行う

（ア）地域住民も参加ができる「秋祭り」を開催できた。また、地域の清掃活動にも参加した。

【数値実績】

	通所介護	
	介護	予防介護
利用者定員	65 名	
利用者延べ数	11,502 名	689 人
稼働延べ日数	310 日	
一日平均利用者数	37.20 人	13.51 人
稼働率	78.9%	
単価	6,160 円	35,036 円
サービス活動収益	95,062 千円	
職員数（常勤換算）	15.3	

高丘地区在宅複合事業

訪問看護ステーション高丘
地域包括支援センター高丘

１．訪問看護ステーション高丘（訪問看護事業）

（ア）「リハビリ強化型ステーション」として訪問看護ステーション高丘が中心となって、聖隷内 7 つの訪問看護ステーション新採用職員のリハビリテーションオリエンテーションを行なった。3 回に分け実施しフォロー体制を作り上げた。

（イ）浜松市リハビリテーション病院の「在宅支援ナース」は病院の体制変更により、2 月で終了したが継続的な関わりは出来ており、顔の見える関係が構築出来つつある。

（ウ）パートも含め、看護職員全員のラダーの運用を開始した。職場内での意識はかなり高くなってきている。内容を充実させながら質の向上に繋げたい。

２．地域包括支援センター高丘（地域包括支援事業）

（ア）ロコモーショントレーニングコーディネーターの資格を取得し、高丘地区の中心となって働きかけが出来た。また、いきいきトレーナーのロコモーショントレーニング事業への参加も開始でき、活動内容の充実を図ることができた。

（イ）高丘地区自治会と協力し、高丘市営団地での高齢者相談会の実施、個別訪問を行った。複数課題を持つ家庭も多く、今後も継続して圏域内市営団地の訪問を実施していく必要性がある。

（ウ）圏域内地域サロンの一覧の作成、フォーマル・インフォーマルサービスの社会資源情報冊子を作成した。今後、地域の生活支援体制づくりに繋げていく。

（エ）浜松市との連絡を密にし、速やか、かつ詳細に情報共有を行うことが出来た。今後はシステムへアセスメント内容を入力し「情報の見える化」していくことが課題である。

３．地域における公益的な取組

（ア）高丘拠点の事業所が集まり、「ロコ友高丘」を月に 1 回開催し、地域住民に参加していただいた。

【数値実績】

平均利用者	月訪問件数	年訪問件数	単価（円）	サービス活動収益	職員数（常勤換算）
188 名	978 件	11,740 件	8,926 円	109,775 千円	13.2 名

浜松市受託収入（千円）	予防プラン請求件数	うち再委託件数	予防プラン単価	サービス活動収益	職員数（常勤換算）
27,378 千円	3,968 件	2,417 件	4,516 円	45,918 千円	6.2 名

聖隷リハビリプラザ IN 高丘

2016 年度は、9 月からの移転、拠点化により訪問看護や地域包括支援センター、放課後クラブはなえみとの連携が取りやすくなり、今まで以上に質の高いサービスの提供が可能となった。また、下半期は新たなサービス提供単位の開始（ステップ倶楽部 5-7 単位）により定員数の増加を行ったが、前半の稼働率が予算より低く年間では予算が未達となった。

１．併設する事業所と共に地域の拠点として活動する

（ア）訪問看護ステーション高丘、地域包括支援センター高丘との共通利用者の情報共有、お互いの役割の確認を各職員が意識して行えるようになった。

（イ）訪問看護ステーション高丘、地域包括支援センター高丘から当事業所のサービスが必要な利用者の紹介を受け、新規利用者へと繋がった。

２．浜松市リハビリテーション病院と連携し、切れ目のないサービスを提供する

（ア）病院と連携していきいきトレーナー講習会に参加し、事業所紹介を実施したが、外来リハビリを継続している利用者の目標設定や、情報共有を行うまでには至らなかった。

３．リスクに対しての気づく力を高め、質の高いサービスを提供する

（ア）変化発見報告書の導入を行い、報告件数は上がったが、集計やレベル分けを行うまでには至っていない。危険箇所マップの導入を行うことができた。

４．職員がやりがいや楽しみを持って働くことができる環境を整える

（ア）研修計画に沿って研修を行ったが、下半期は職員体制が整わず参加できなかった。

５．介護保険外サービス（ロコ友活動の継続や新たな教室開設）に取り組む

（ア）浜松市が薦める廃用症候群予防に対するトレーニング事業を開催することができた。

（イ）利用者との外出企画（有料）を予定したが、利用者の集客ができず中止となった。

【数値実績】

	通所介護	
	介護	予防介護
利用者定員	65 名（2016 年 9 月まで 50 名）	
利用者延べ数	7,022 名	626 人
稼働延べ日数	308 日	
一日平均利用者数	22.85 人	11.02 人
稼働率	59.58%	
単価	5,492 円	32,096 円
サービス活動収益	58,780 千円	
職員数（常勤換算）	10.6	

浅田地区在宅複合事業

訪問看護ステーション浅田
聖隷ケアプランセンター浅田

2016 年度は 10 月に同事業所内に、聖隷が提供できていなかった浜松市南エリアに居宅介護支援事業を開始できた。これに伴い機能強化型 2 の算定要件が整い、12 月より加算算定する事ができた。介護保険事業の成熟に伴い、訪問看護事業の対象者は重度・ターミナル等の体調の不安定な利用者が多く、利用期間も短く、訪問件数は伸びず厳しい経営が続いた。しかし小児の依頼が出始めており、今後も様々な形で訪問看護の運営ができる強みを生かし、近隣する関係事業所と顔の見える関係作りを更に進めたい。

１．訪問看護事業

（ア）医療依存度の高い利用者を受けられるよう他機関にアピールする

①病院・医療機関・居宅と電話や文章で細やかな連絡をとるよう務めた（2 年目）。

②居宅介護支援事業所に評価とアピールを兼ねアンケートを実施し、今後の課題も見えた。

（イ）根拠に基づいた、高い専門性と親しみやすさを兼ね備えた質の高い看護の提供

① 毎週カンファレンスを実施し、精神訪問看護研修等外部研修にも積極的に取り組んだ。

（ウ）安定した経営基盤を作る為、関わりの長い利用者を確保する

① 浜松市医療センター等の連携看護師に PR を行い、ケースを通した連携が深まった。

（エ）浅田の将来取り組みたいとする障がい児・者への関わり方を模索する

①児童発達支援事業所かるみあへの研修を行ったが、業務の兼務等は継続課題である。

２．居宅介護支援事業

（ア）ケアプランセンター浅田の存在を南エリアの他事業所に PR し、顔の見える関係を作る

① 地域の関係機関に挨拶や広報活動を行うことに併せ、新規依頼を断らず積極的に受けた。

（イ）訪問看護ステーション浅田が機能強化型 2 を取得する援助を行う

①ターミナルや重度の急な依頼にもタイムリーに関わり、在宅での見取りを可能にした。

②毎週、訪問看護事業のカンファレンスに参加し担当の有無に関わらず検討を共に行った。

３．地域における公益的な取組

（ア）当事業所建物二階の障がい者施設との避難訓練、アルミ缶収集への協力を行った。

（イ）浅田地区自治体の「防災の日」の避難訓練に事業所として 2 名が参加した。

【数値実績】

	保険区分	延利用者数	年間訪問件数	単価（円）	サービス活動収益	職員数
訪問看護事業	医療	468 名	3,299 件	10,849 円	35,711,075 円	
	介護	1,191 名	5,657 件	9,125 円	51,258,110 円	11.45 名
居宅介護支援事業	年間請求件数		平均単価		サービス活動収益	職員数
	介護	予防	介護	予防		
	171 件	32 件	12,857 円	5,513 円	2,305,637 円	1 名

訪問看護ステーション住吉第二

職員が一丸となって様々な利用者層に速やかに対応するように努力した結果、年度半ばには安定的に新規依頼が得られるようになり、訪問件数が増加し始めた。利用者数・訪問件数増加に伴い、繁忙によるサービス低下を招くことがないように訪問職員の増員を図った。

１．様々な利用者層に対応できる訪問看護ステーションになる

（ア）在宅看護職ラダーを活用し、個々がキャリアアップに向けて課題達成に取り組んだ。

（イ）精神科訪問看護算定要件研修に１名が参加し、精神科を担える職員が２名になった。

２．いつでも受け入れる体制づくり

（ア）訪問スタッフ１日６人体制とし、新規、連日・長時間・複数回訪問ニーズに対応した。

（イ）他事業所が難色を示す利用者を率先して受け入れた結果、利用者数が増加した。

３．地域における公益的な取組：利用者と家族の社会参加やリフレッシュを支援する

（ア）併設事業所と連携し自宅に籠りがちな利用者が気軽に通所を継続できるよう支援した。

（イ）浜松市難病患者家族リフレッシュ事業等を実施し利用者家族から高評価を頂いた。

４．経営基盤の安定を図る

（ア） いつでも、どんな利用者にも対応することをアピールし、ケアマネジャーや病院からの依頼に速やかに対応した結果、利用件数が増加し、医療保険の訪問単価が上昇した。

（イ）紹介元居宅へ挨拶、居宅・相談支援専門員への情報提供をこまめに行ったことにより、滞ることなく新規利用者を得られるようになった。

５．仕事もプライベートもいきいきと居られる職場づくり

（ア）訪問件数の増加により、「仕事を楽しもう」という余裕がない日も多々あったが、急な病気や欠勤者が発生しても、快く助け合うことができた。

（イ）スタッフ６人体制、１人１日 4～5 件を目標としたが件数増加に伴い、１日６件が常態化し、職員の疲労度が増加した。有休休暇は 80%以上取得できた（繰越日数除く）。

６．他事業所とともに電子システム試用のチャンスがあれば、積極的に取り組む

電子システム導入の検討にあたり、訪問看護師の視点で意見を述べることができた。

【数値指標】

平均 利用者数	月平均 訪問件数	年間 訪問件数	平均単価	サービス活動収益	職員数 （常勤換算）
90 名	580 件	6,970 件	9,464 円	67,539 千円	13 名（10.1）
関係医療機関数		関係居宅介護支援事業所数			
37		33			

聖隷デイサービスセンター住吉

2016年度の上半期は登録者数、利用件数ともに増やすことができたが、下半期は入院、体調不良による長期の休みが増え、増やすことができなかった。

個別機能訓練加算Ⅰは年間通して100%取得できた。また、個別機能訓練加算Ⅱを継続して実施することができた。

１.「利用者一人ひとりの個性・ニーズを把握し、在宅生活の維持、QOL（生活の質）の維持できるサービス」の提供

（ア）定期的に通所介護計画書の作成・評価を実施し、利用者個々に合ったサービスを提供することができた。

（イ） 認知症介護実践者研修に1名参加や、ロコモーション指導員養成講座の講師派遣を通じ、個々の職員の視野拡大、能力向上に繋げることができた。

（ウ）各職種が統一して情報共有ができるよう、利用者向け記録用紙の内容変更や、日々の記録方法の統一化に取り組んだ。

２．運営の安定化の推進

（ア）訪問看護ステーション住吉第二を利用されているALS等の要介護3以上の重度で医療依存度の高い利用者を新規に繋げることができた。

（イ）訪問看護ステーション住吉第二、聖隷浜松病院ひばり保育園と一年を通して安全管理（事故・感染・防災）の委員会を合同で行った。

（ウ）ロコモーショントレーニングや老人会(住吉交流会)での体操指導を実施した。

３．地域のおける公益的な取組

（ア）ロコモーショントレーニング事業の実施

（イ）老人会（住吉交流会）の体操指導へ派遣

（ウ）「夏休みチャレンジボランティア」の学生受け入れ

【数値実績】

介護給付		予防給付			単価	
平均 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数	介護 （月）	予防 （月）
25.6人	658人	7,897人	14人	168人	10,011円	32,956円
サービス活動収益				職員数（常勤換算）		
84,883千円				16.5名		

聖隷コミュニティケアセンター

１．事業報告

（ア）レンタル件数は目標の 800 件を越え、12 月からは常時 900 件以上を維持し、3 月には 948 件まで件数を伸ばした。これに伴い、住宅改修工事の件数も増加し、レンタルと合わせた売上金額の予算目標達成の要因となった。

（イ）店舗販売は 2015 年度と同様の売上だが、施設売上が伸び全体では予算が達成できた。施設職員との信頼関係が出来てきた事と、病院への営業活動強化の取組み成果が少しずつ出てきたと思われる。店舗の活用方法や住吉、三方原各エリアの特性を活かしたセール等の取り組みは、2017 年度から「販売部門」を作り人員を増やして強化する。

（ウ）職員の世代交代に伴い、営業職員が若くなり、人材育成が急務であることが判明した。利用者へ質の高いサービスが提供できる、様継続的な育成システムの開発が今後の課題である。

２．地域における公益的な取組

（ア）各事業所の地元に向けた研修や勉強会へ福祉用具の貸出や試供品の協賛を行った。

（イ）浜松市介護保険サービス事業者連絡協議会の活動他、浜松市在宅医療・介護連携協議会への取組みに福祉用具貸出及び参加を行った。

【数値実績】

	レンタル件数（件）	介護保険収益（千円）	住宅改修（千円）	販売収益（千円）	サービス活動収益（千円）
浜松店	10,485 件	151,048 千円	21,606 千円	313,121 千円	485,775 千円

聖隷厚生園讃栄寮

2016 年度、聖隷厚生園讃栄寮は組織変更を行った。障害者相談支援事業所ナルド・地域活動支援センターナルド・生活訓練事業所ナルドと同一拠点となった。生活保護法と障害者総合支援法の事業がより密接な協力をとることで、新たな方法の利用者支援に取り組むことを目標として、各事業の連携に取り組んだ 1 年となった。

また、地域移行や地域生活継続に必要な服薬管理や調理・買い物支援などは、介護保険系の訪問看護やヘルパーステーションを活用し、制度に囚われない支援を行った。

全国でもこのような取り組みをしている救護施設は少なく、今後も利用者を中心に置いた支援を進めていく。

１．利用者が主体的に自己決定できる生活支援

（ア）個別支援計画の書式の見直しを行った。アセスメントをチェック方式に変更して同じ評価項目で利用者の全体像を把握できるようになった。

（イ）一部の利用者ではあるが、本人が支援計画作成に参加し、自らの目標を取り入れることで、自己決定を尊重した支援計画を作成することができた。

（ウ）利用者が主体となって活動する行事を年 4 回実施し、主体的行動や役割分担の意識を高めることができた。しかし、秋のサンマ塩焼きでは頭から骨ごと食べる利用者も多く、骨なし魚の提供の検討も必要と思われた。

（エ）施設内作業場では委託先の依頼で作業の複雑さも増したが問題なく実施でき、利用者の適応力も高まった。

２．地域の福祉ニーズに応じたサービス

（ア）これまでの高齢者施設移行は養護老人ホームが大半だったが、2016 年度は特別養護老人ホームやグループホームへの移行があり、要介護者の新たな移行先の開拓ができた。

（イ）2016 年度の入所の傾向として、親が高齢となり障害を持った子の支援ができなくなり入所となった、“老障世帯”のケースが見られた。高齢化社会に伴い今後このような問題は増加すると考えられるが、50 才以上で入所する場合は地域移行が困難なことが多いため、早期介入が必要と考える。2017 年度は民生児童委員や地域包括支援センターなどと定期的に情報交換を行い、必要なケースは讃栄寮から行政に働きかけを行っていく。

（ウ）保護施設通所事業を終了して讃栄寮の支援がない卒寮生がアパートの家賃を滞納したり、失踪したりするケースが複数あり対応した。不動産管理会社とも情報を共有して、地域との関係を悪くしないよう必要時には今後も介入していく。

３．居宅生活訓練事業・保護施設通所事業・短期入所の安定的な運営

（ア） 保護施設通所事業の利用者増を目的に救護施設居宅生活訓練事業の期間を 1 年間から半

年間で修了するようにプログラムを見直した。生活保護法の支援が不足する部分は障害者総合支援法の生活訓練、就労支援、訪問看護、訪問介護などを組み合わせて地域移行を進め、通所事業利用者は2015年度比40%増えた。

（イ） 短期入所事業を「もう一度利用したい」利用者を増やすため、カーテンや家具を新調し、アメニティを整えた。また、利用者向けのチラシを作成して500部を障害者相談支援事業所等に配布した。利用率は2015年度比25%増となった。

4．サービスの質の向上と次世代の育成を目的とした人材育成

（ア） 20代職員をフロアリーダーに任命し、年上の職員がサポートする体制を試行した。当初は戸惑いもあったが、徐々に意識が高まり積極的にリーダー業務に取り組むことができた。

（イ） 正職員はほぼ全員、外部研修に参加した。また、研修内容を職員会議で報告し共有した。

（ウ）精神保健福祉士、社会福祉士の実習指導者養成研修を受講させ、実習受入体制を整えた.

（エ）信生寮の作業療法士が作成したリハビリ計画を介護職員がPDCAサイクルで実施することで、実践から新たな知識の習得ができた。

5．環境に配慮した施設整備への取組

（ア） 冷暖房設備の大規模修繕は法人本部と調整中であり、2016年度は実施しなかった。

（イ） 職員が各居室のこまめな冷暖房管理を行う等で光熱水費を2015年度比15%削減した。

（ウ） 不審者侵入対策の補助金を利用して防犯カメラを6台設置した。

【数値実績】

	讃栄寮		
	救護施設	救護通所	短期入所 （総合支援法）
利用者定員	60名	10名	4名
利用者延べ人数	24,062名	2,554名	950名
一日平均利用者数	65.9名	7.0名	2.6名
稼働率	109.9%	70.0%	65.1%
稼働日数（延べ）	365日	365日	365日
単価（一人一日当り）	9,434円		6,092円
サービス活動収益	251,086千円		5,787千円
職員数（常勤換算）	28.2名		

聖隷厚生園信生寮

障害者支援施設　聖隷厚生園信生寮
まじわりの家
障害者相談支援事業所　信生

聖隷厚生園信生寮の利用者は疾病や身体状況、年齢層が幅広く、求められるサービスも多様である。2016 年度は、肢体不自由児・者の障害福祉サービス範囲内の既存概念に拘らない発想で、サービス等の組み合わせによる付加価値を見いだすことのできる施設運営を目指した。具体的には、高齢者在宅部門（訪問看護、訪問介護等）の信生寮１階部分への移転を検討したが移転には至らなかった。また、聖隷厚生園ナルド工房との協働による就労継続支援 A 型事業（雇用型、定員 10 名）についても事業開始には至らなかった。しかし、福祉体験や介護実習等の受け入れを積極的に行い、介護の担い手を増やすための取り組みを行うことができた。

１．“利用者主体”“できること”に着目した支援の提供

（ア）　個別支援計画に最低１つ以上“できること”に着目したプランを立案し、利用者が主体的に生活できるように支援した。

（イ）　利用者が健康に過ごせるように排便コントロールを見直し、苦痛のない自然排便ができる支援を多職種協働で行った。

（ウ）　経管栄養者が希望している経口移行支援を多職種協働で実現させ、厚生園学会、聖隷福祉学会で発表した。

（エ）　施設行事計画に利用者が参画できるよう取り組みを行った。

（オ）　利用者による多様な日用品購入方法について、十分な検討はできなかった。

（カ）　介護職員によるたん吸引・経管栄養、医行為除外行為の安全性を確保するため、看護職員によるチェック体制を継続することができた。

２．多様なサービスの組み合わせによる新たなサービスの創造

（ア）　訪問看護ステーション細江等、高齢者在宅部門の１階ピロティ部分への移転は見送りとなった。

（イ）　ナルド工房就労継続支援 A 型事業への取り組みの一環として、信生寮シーツ交換作業について取り組むことができた。

（ウ）　短期入所事業においては障害児や緊急性の高いケースの受け入れを行った。

（エ）　医療的ケア（たん吸引、胃ろう）が必要な利用者の受け入れを行うことができた。

３．相手の尊厳を守る支援の実践

（ア）　接遇のあり方を見直し、相手の尊厳を大切にした言動ができる職場作りに取り組んだ。

（イ）　職員による虐待防止セルフチェックを年 2 回以上実施し、虐待につながる言動を職員が意識できるように促した。

４．人材育成と発掘のための啓発活動の推進

（ア） 事例や実務に基づいた介護技術向上のための勉強会を実施した。

（イ） 『教育担当者委員会』での新人育成のあり方を振り返り、効率的な教育が行えるように改善を図った。

（ウ） 介護福祉士、社会福祉士の各養成校と連携し実習受け入れを積極的に行った。

（エ） EPA 候補生の円滑な受け入れを行うことができた。

５．施設会計の円滑化と衛生管理体制の向上

（ア） 「聖隷ぴゅあセンター磐田」開設に向けて運営管理部門の準備と担当者育成を行うことができた。

（イ） 感染予防対策を見直し、利用者への集団感染を防ぐことができた。

（ウ） 職員の作業手順、作業環境管理を見直し、腰痛予防に取り組んだ。

６．環境に配慮した経営

（ア） 水光熱費基準年度－2%を目指したが、水道使用量 0.3%減、電力使用量 6.3%増、ガス使用量 1.7%減となり、トータルでは達成できなかった。

（イ） 修繕費について、予算対比 57.5%、2015 年度対比 79.4%と効率の良い運営ができた。

７．地域における公益的な取組

（ア）介護体験講座を開催し、21 歳から 68 歳までの地域住民 13 名の参加があった。

（イ）福祉に関心のある学生や地域住民の活動場所として受入れを行い、年間延べ人数 144 名を受け入れた。

（ウ）地域住民が自ら主宰する集会に、無料での出前講座を行った。

【数値実績】

	信生寮			まじわりの家		信生		シオンハウス
	入所	短期	日中一時	生活介護	機能訓練	浜松市相談支援	指定相談支援	障害者賃貸住宅
利用者定員	60 名	10 名	－	14 名	6 名	－	－	5 名
利用者延べ人数	21,959 名	4,108 名	188 名	4,050 名	1,303 名	－	911 名	730 名
一日平均利用者数	60.2 名	11.3 名	－	15.6 名	5.0 名	－	－	2.0 名
稼働率	100.3%	112.5%	－	111.7%	84.5%	－	－	40.0%
稼働日数（延べ）	365 日	365 日	365 日	259 日	257 日	257 日	257 日	365 日
単価(一人一日当り)	16,436 円	9,290 円	15,707 円	14,414 円		－	13,961 円	1,410 円
サービス活動収益	360,919 千円	38,163 千円	2,953 千円	77,160 千円		9,095 千円	12,719 千円	1,030 千円
職員数（常勤換算）	57.9 名			14 名		4.0 名		－

聖隷厚生園　障害児者在宅事業（浜松）

ナルド工房
チャレンジ工房
きらめき工房
生活訓練事業所ナルド
障害者相談支援事業所ナルド
地域活動支援センターナルド

2016 年度は「聖隷ぴゅあセンター磐田」開設準備を着実に進めた。また事業拡大に向けた既存施設のさらなる安定的経営として就労継続支援 A 型事業の開設準備を進め、包括的相談支援に対応すべき人材の育成及び確保を行い、在宅事業の中で連携強化を図る一年となった。

１．就労支援事業

（ア）　利用者が仕事にやりがいを感じられる新たな就労モデルの創出と実行

① 新規作業の導入、新商品の開発を行い、工賃額の向上が見られた。

② 高水準の就職実績と工賃実績が両立する就労支援施設として機能する事ができた。

③ 就労継続支援 A 型事業創設の為、介護分野における就労支援モデル事業を実施した。

④ ベッドメイク作業のパッケージ化を図り、関連施設へ拡大し多様な支援展開ができた。

（イ）　「就職 3 年定着」を意識した就労支援の実践

① ナルド工房 10 名、チャレンジ工房 9 名、きらめき工房 9 名の就職者を輩出した。

② ジョブコーチセンターの設立を目指し、体制・人員・方法の具体的検討を行った。

③ 就職 3 年以上者に対し継続的支援（ステップアップ就職や再訓練の検討）を展開できた。

④ 法人内施設のリネン、介護補助、厨房系、その他の就職ルートを確立した。

（ウ）　「聖隷ぴゅあセンター磐田」開設に向けた取り組み

① パン製造販売をきらめき工房で先行開始し、事業部内関連施設の販売ルートを確立した。

② 磐田市等との連携により、作業メニューの確立、利用者確保等、開設する準備ができた。

２．生活訓練事業

（ア）　利用者が生活の中で訓練成果を実感できる支援の提供

① 利用者自身がプランの目標を意識できるように、個別支援を中心に取り組んだ。

② 訪問看護事業所と連携し紹介する機会を設け、年度末には自己評価調査を実施した。

③ 生活全般の個人目標の設定を行い、機能・体力維持に繋がる企画を年 3 回実施した。

④ 家庭でできるストレッチや筋力トレーニングを日々の訓練に取り入れた。

３．相談支援事業等

（ア）　包括的相談支援を意識した相談支援事業への取り組み

① 地区担当を定め、民生児童委員、高齢者相談支援センター等からの相談に対応した。また、地域の老障世帯に同行訪問するなどしてニーズを発掘しサービスにつなげた。

② 民生児童委員主催の会議等に毎月参加し、地域の実情報告と顔見知りの関係を築いた。

４．共通事項

（ア）新規契約者獲得のための受け入れ体制の構築

① 新たな事業所からの利用を得る為、内覧会を実施した、送迎体制の構築も行った。

② 特別支援学校の教員や保護者、相談支援専門員向けの工房作業体験会を開催した。

③ 離職者の再チャレンジの受け入れを積極的に受け入れができた。

（イ） 利用者理解を深める人材育成と業務改善

① 正職員は年１回以上外部研修に参加し、職員会議などで報告し共有した。

② 勉強会の年間計画を立て、職員が毎月の職員会議で事例を用いて講義を行った。

③ 毎月の職場会議にて、事故報告、問題行動等について検討し、個別支援に反映させた。

④ 相談支援専門員現任研修・相談支援専門員初任者研修・サービス管理者研修を受講した。

⑤ 就労施設移行希望者に対する、専門のアセスメントシートを 2015 年度に作成し、2016 年度はシートを活かしたプランの立案を実施した。

⑥ 浜松市リハビリテーション病院との情報交換を行った。今後も連携に努めたい。

５、地域における公益的な取組について

（ア）特別支援学校教諭対象に、就労支援事業についての講師派遣を年３回実施した。教諭全体研修受け入れを行った。特殊学級保護者の会を対象に、イベント企画を２回開催した。

【数値目標】

	ナルド工房		チャレンジ工房		きらめき工房	
	就労移行	就労継続	就労移行	就労継続	就労移行	就労継続
利用者定員	20 名	15 名	15 名	15 名	15 名	15 名
利用者延べ人数	4,770 名	4,870 名	3,475 名	3,522 名	5,364 名	4,561 名
一日平均利用者数	15.3 名	15.6 名	12.9 名	13.0 名	17.0 名	14.6 名
稼働率	76.2%	103.7%	85.8%	87.0%	113.3%	97.3%
稼働日数（延べ）	313 日	313 日	270 日	270 日	314 日	313 日
単価(一人一日当り)	13,254 円	9,322 円	11,263 円	8,292 円	11,069 円	9,241 円
サービス活動収益	63,220 千円	45,397 千円	49,447 千円	37,714 千円	59,374 千円	42,147 千円
職員数（常勤換算）	12.7 名		9.8 名		10.4 名	

	生活訓練ナルド		相談支援事業ナルド	
	生活訓練	生活介護	浜松市相談支援	指定相談支援
利用者定員	14 名	6 名	- 名	- 名
利用者延べ人数	2,862 名	1,870 名	- 名	1,080 名
一日平均利用者数	10.7 名	6.0 名	- 名	- 名
稼働率	76.3%	120.8%	- %	- %
稼働日数（延べ）	268 日	258 日	257 日	257 日
単価(一人一日当り)	8,499 円		- 円	14,009 円
サービス活動収益	36,870 千円		9,075 千円	15,130 千円
職員数（常勤換算）	4.4 名		3.0 名	

聖隷厚生園　障害児者在宅事業（磐田）

磐田市発達支援センターはあと
児童発達支援事業所かるみあ
児童発達支援事業所かるみあ豊田

2016 年度は、児童発達支援事業所「かるみあ豊田」（以下、かるみあ豊田）を開設し、利用希望児童の待機期間減少につなげた。また、乳幼児期から就労まで途切れることなく総合的な支援を提供することを目的とした施設「聖隷ぴゅあセンター磐田」の 2017 年度開設に向けて準備を行った。「磐田市発達支援センターはあと」（以下、はあと）では、磐田市の乳幼児健診後のフォロー体制の変更に伴い、市と支援内容を協議し、必要な支援を提供できるよう体制を整えた。一方で、増え続ける特別な支援を要する子どもへの対応への取り組みは、待機期間短縮等一定の成果はみられるものの、継続して行うことが必要である。

１．子どもの“できそうなこと”に着目した支援の実現

（ア）子どもの発達段階を正確に把握するため、アセスメントシートを改定した。

（イ）療育プログラムの立案、実行、振り返りが効果的に行えるよう、書式を整えた。職員からも「時間も短縮でき、ポイントを絞って行えた」と声が聞かれた。

（ウ）スモールステップを基本として、達成可能な目標設定を行った。ご家族からも「子どもが頑張っていることが分かる」と評価をいただいた。

２．家族支援の充実

（ア）親子療育内で、振り返りの時間を設けた。子どもの行動の理由が分かるようになり、関わり方に活かしたいという声が聞かれた。また、単独通園の活動の様子をビデオで撮影し保護者と共有した。子どもの頑張っている姿や家庭では見えない表情を見ることができると毎月楽しみにしている保護者も多く、職員との関係構築の一ツールともなった。

（イ）全利用児を対象に家庭訪問を実施した。生活全般を視野に入れ支援するという考えに基づき、各担当者が個別支援計画作成時に訪問の必要の有無を検討した。

（ウ）保護者満足度評価を実施した。職員間で共有し、自施設の強み・弱みを再確認できた。

３．地域からの要請に応じたサービスの展開

（ア）待機児童に対する対応を検討する。

①2016 年 4 月、「かるみあ豊田」を定員 10 名で開設し、年間利用率 100％を維持した。

②利用状況を月 1 回共有し、新規受け入れ時期について調整を行った。全体的には待機期間は減少したものの、発達年齢によっては待機期間を解消することは難しかった。

②「はあと」相談希望者に対して、待機期間に所属機関と連携し、フォロー体制を整える仕組みを整えた。

（イ）機関支援の強化

①実施可能な支援方針であったか、定期的に振り返る場を設け、0JT の場として活用した。

②「客観的な指標」に基づき、園・学校に対してコンサルテーションを行った。支援困難時、園・学校が自発的に指標を活用できるよう、継続的に働きかける必要がある。

③健診事後教室の変更に伴い、親子通園の役割・方法について検討・検証を行い、2017 年度の受託内容の修正につながった。

（ウ）「聖隷ぴゅあセンター磐田」開設に向けた準備

①放課後等デイサービスのプログラム構成を検討し、年案・月案を作成した。

②認知機能能力別のクラス編成を行い、クラスの年間目標を作成した。

③内示の遅れがあったものの、保護者説明会を実施し、理解と協力を得た。

４．職員が成長できる体制の確立と安定した人材確保に取り組む

（ア）「かるみあ豊田」では、クラス担任ができるよう、目標時期を設定し OJT を行った。

（イ）全職員が外部研修に参加する機会を設け、施設内にて伝達研修を行った。

（ウ）効果的・効率的に業務を遂行できるよう月 1 回業務の振り返りを実施し改善を図った。

（エ）ボランティアを定期的に受け入れる体制を整えた。

５．地域における公益的な取組

幼稚園・小学校・中学校・民生児童委員・地域対象に、講師派遣を年 5 回、学生の実習は年 3 回、定期的に食事・イベントのボランティア受け入れを実施した。また、発達障害の理解促進を目的とした施設見学は年 10 回受け入れた。

【数値指標】

	はあと	かるみあ			かるみあ豊田	
	発達支援センター	児童発達支援	保育所等訪問	日中一時	児童発達支援	日中一時
利用者定員	-名	20 名	- 名	- 名	10 名	- 名
利用者延べ人数	-名	5,002 名	825 名	2,649 名	2,612 名	1,047 名
一日平均利用者数	-名	20.3 名	-	-	10.7 名	-
稼働率	-%	101.7%	-	-	107.0%	-
稼働日数（延べ）	-日	246 日	243 日	243 日	244 日	242 日
単価（一人一日当り）	- 円	10,360 円	10,242 円	3,009 円	11,933 円	1,368 円
サービス活動収益	27,171 千円	43,848 千円	8,450 千円	7,971 千円	31,169 千円	1,432 千円
職員数（常勤換算）	8.0 名	12.9 名			5.7 名	

浜松市生活自立相談支援センターつながり

2016 年度は、生活圏ネットワークモデルの強化・充実、個別支援関係のさらなる重視、負の世代間連鎖の解明と阻止の 3 点について重点的に取り組むとともに、学習支援や就労支援にも積極的に取り組んだ。

１．生活圏ネットワークモデルの強化・充実
（ア）浜松市西区のあんしんネットワークを中心に、圏域会議・地域会議に定期的に参加した。
（イ）地域会議（圏域会議）に参加した結果、民生委員や関係機関からの紹介が増えた。
２．負の世代間連鎖の解明と阻止
（ア）就労概念が未形成な事例を対象に、社会生活技能訓練等を中心とした企画を実施した。
（イ）事業報告書等で生活困窮事例の分析を行い、その傾向を把握した。
３．学習サポート事業の拡大
（ア）浜松市中区を含め、2 カ所目となる学習サポート事業を、浜松市東区に開設した。
（イ）学習サポート事業の卒業生を「学習サポーター」として招き、企画等にも協力を依頼した。
４．就労支援
（ア）50-60 代の単身者、一人親世帯、再就職女性等を対象に月 6.3 名を就職につなげた。
（イ）就労支援対象者のうち、就職率 80%および 6 ヶ月定着率 70%を達成した。
（ウ）「中間的就労」の場を法人に 3 ヶ所開拓した。
５．実践の言語化
（ア）静岡県が行う伝達研修において講師を務めた。
（イ）全国の研修や学会等において日頃の実践を発表した。
６．地域における公益的な取組
（ア）学習支援事業に該当しない子ども(小 3～中 2 年)や、高校中退者の受け入れを行った。
（イ）学習支援事業および学習サポート事業の参加者を対象に、「職業体験」を企画・運営した。

【数値指標】

	浜松市生活自立相談支援センターつながり	
	浜松市生活困窮者自立支援事業	学習サポート事業
利用者定員	- 名	- 名
利用者延べ人数	507 世帯	1,174 名
一日平均利用者数	2 名	5.9 名
稼働率	- %	- %
稼働日数（延べ）	252 日	198 日
単価(一人一日当り)	- 円	- 円
サービス活動収益	49,056 千円	-千円
職員数（常勤換算）	9.1 名	2.1 名

浜北愛光園

特別養護老人ホーム　浜北愛光園
高薗デイサービスセンター
障害者相談支援事業所　浜松東
訪問看護ステーション貴布祢
聖隷ケアプランセンター浜北
地域包括支援センター北浜

2016 年度は介護保険の在宅サービスと障害者総合支援法の障がい者（児）サービスの共生型への模索の年であった。静岡県の提唱する「ふじのくに型福祉サービス」のうち介護保険の短期入所空床利用型障害者短期入所の提供については定期利用者の増加が見られた。拠点内外の日中活動系の事業所利用前後の宿泊も増えてきていることから、新たに日中一時支援事業を開始し障害者やその家族の利便性を向上させることができた。拠点内の就労支援事業所については利用者の増加が著しく、地域の福祉関係者における浜北愛光園の認知度が高まってきたと感じている。

浜北区の障害者自立支援連絡会で共有化されている課題として「老障介護（高齢の親が障害を持つ子を介護していること）の諸問題」については、区内の介護保険事業所と障害サービス事業所を横串にした「老障連携研修」の企画に主体的に関与し、相互に学びあうとともに、制度を超えた専門職種の顔の見える関係作りに貢献することができた。

上記のような活動を支える各事業においては、大きなマイナス要因なく安定した経営を行うことができている。介護保険事業では稼働率は上限に達しており、取得可能な加算も網羅している。人材確保については介護職・看護師において採用困難な状況は継続しているが、目標参画や職場風土の改善により離職者は抑制できている。職場風土については、若年の職場長のマネジメントを上長がサポートすることで変化が見られていることは、次世代リーダーの育成の観点からも評価できる。加えて、中堅職員を新規にフロアリーダーに任命し研修や 0JT を活用して育成を図っており、人材の多重層化については継続して取り組んでいかなければならない。

浜北愛光園が地域に貢献できることは何かを事業ごとや拠点全体の視点で検討を重ね、認知症カフェや出前講座などできることから開始している。活動のなかで、当施設が浜北区の南東に位置し人口密集地から離れているため地域住民の認知度はさほど高くない現状が把握できたため、発信力を高めていくことが課題である。

１．利用者満足の向上

（ア）園内の事業所連携を推進し、在宅利用者へのシームレスなサービス提供へ取り組んだ。訪問看護ステーションと短期入所の連携により在宅中重度者や障害者の受入を継続して行い、在宅ターミナルの利用者を短期入所で受けることができた。

（イ）個別ケアの質の向上につなげるため、ケアプラン・サービス・記録が連動する運用の定着を図った。業務改善によりできた時間を有効活用し、フロア協同でレクリエーションを実施することができた。また、特別養護老人ホームにおける経口維持加算取得のための運用方法を改定し、対象者を増やすことができた。

（ウ）接遇研修や環境改善に向けた研修を実施し、ホスピタリティの向上を図った。

（エ）障害者サービスについては浜松市障害者（児）日中一時支援を開始し、就労支援と短期入所とあわせて地域ニーズへの対応を図った。少しずつではあるがサービスを併用する方が出てきている。

２．職員満足の向上

（ア）職員の専門スキル向上のため、介護福祉士については無資格者に対する実務者研修の受講を促進できた。介護支援専門員については森町・浜北愛光園共催で試験対策講座を実施した。介護職員の喀痰吸引研修も継続的に受講し医療対応力を強化している。

（イ）各職種のラダーの試験運用を確実に実施し、本格導入への準備を行った。既存の園内研修との連動を図り、人材育成のツールとして活用できることを目標にしている。

（ウ）就労支援事業所への介護周辺業務の委託検討や障害者・高齢者雇用による業務分化により、専門職が本来業務に取り組める環境づくりを実施した。

３．健全な経営の継承、向上

（ア）法令・規則に基づく適正経営と問題解決に努めた。また、広報誌やホームページでの広報活動を行った。

（イ）在宅事業の安定した運営ができた。特に就労支援事業と通所事業は利用者が増加した。関係事業所への情報発信や営業訪問などの効果により、サービスの質の周知や担当者同士の顔の見える関係作りができたと評価する。

（ウ）就労支援事業では、聖隷ぴゅあセンター磐田計画の準備として、パンの製造、販売を開始し、法人内の福祉施設の給食へのパン食献立の導入の協力もあり、作業メニューとして確立することができた。

４．地域貢献等のための活動（地域における公益的な取組）

（ア）地域住民や利用者の家族向けに気軽に相談できる「場」として、月 2 回の認知症カフェを始めた。広報の方法に課題を残すが、定期利用者も出てきており、相談の輪が広がるように継続していく。

（イ）地域包括支援センターと協力し地域のシニアクラブで福祉講座を開催した。

（ウ）高校の福祉科、専門学校等の介護実習、相談援助実習、看護実習、管理栄養士、喀痰吸引の実地研修の実習を受け入れた。また、高校生対象の親子見学会の開催や中学生の職場体験受け入れにより、多くの生徒・学生に福祉・介護・医療分野の魅力を発信した。

【数値実績】

高齢者入所・短期入所・通所・相談支援関係事業

	浜北愛光園					高薗デイサービスセンター		障害者相談支援浜松東
	特養入所		短期入所			通所介護		
	従来型	ユニット型	従来型	ユニット型	障害	一般	予防	
利用者定員	50名	100名	20名	20名	―	～10月 35名 11月～ 40名		
利用延数	18,732名	37,176名	5,208名	4,457名	461名	7,970名	582名	
一日平均利用者数	51.3名	101.9名	14.3名	12.2名	1.3名	25.9名	1.9名	
稼動率（％）	102.6%	101.9%	71.3%	67.4%		75.0%		
稼動延日数	365日		365日			308日		
平均介護度	4.2	3.8	3.2	2.8	―	2.1		
単価（一人一日）	12,915円		11,852円			10,091円		
サービス活動収益（＊）	722,055千円		120,014千円			86,301千円		14,912千円
職員数(常勤換算)	96.5名		23.3名			13.5名		3.5名

訪問看護事業（訪問看護ステーション貴布祢）

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価(円)	サービス活動収益（*）	職員数（常勤換算）
126名	705件	8,457件	9,669円	81,773千円	11.2名

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター浜北）

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査年間件数	訪問調査単価(円)	サービス活動収益（*）	職員数（常勤換算）
介護	予防	介護	予防				
2,349件	175件	16,008円	3,997円	37件	4,320円	39,730千円	6.1名

地域包括支援事業（地域包括支援センター北浜）

浜松市受託収入（千円）	予防プラン請求件数	うち再委託件数	予防プラン単価（円）	サービス活動収益（*）	職員数（常勤換算）
24,735千円	2,034件	1,221件	4,390円	36,309千円	5.2名

（*）内部取引消去前

森町愛光園

特別養護老人ホーム森町愛光園
地域密着型森町愛光園
森町愛光園天宮サテライト
短期入所生活介護及び短期入所:障害
デイサービスセンター
ホームヘルパーステーション　訪問介護及び居宅介護
聖隷ケアプランセンター森町
在宅介護支援センター

2016 年度は、介護保険事業の運営を維持、向上しつつ、拠点における事業の多様性を考え、2017 年度から新たに障害福祉サービス（放課後等デイサービス、生活介護、相談支援）事業を開始できるよう準備を行った。

介護保険在宅事業においては、タイムリーに利用者ニーズに応えることを第一に考え、2015 年度よりも稼働率を伸ばすことができた一方で、特別養護老人ホーム従来型において、延入院日数が 2015 年度比 12%上昇した。重度化している入居者の日々の健康管理に課題があることが判明した。また森町地域包括支援センターの要請に応えて認知症介護講話や家族座談会に参加したり、遠江総合高校の生徒へ福祉の魅力を伝える機会を作ったりと、地域貢献を意識した取り組みを行った。

2017 年度は新規事業をいち早く軌道に乗せ、高齢者介護と障害福祉サービスの多様な事業展開から新たな森町愛光園の価値を見出していきたい。

１.【入所部門】重度化に向けたケアの質の向上と経営リスクを回避する

（ア）嚥下機能低下者への食事介助・口腔ケア技術の向上を図るための研修や、喀痰吸引等研修参加を進めた。一方で喀痰吸引研修修了後の継続的な手技チェックが不十分であり、2017 年度の課題とした。

（イ）経口維持加算の取得体制の構築でき、40%の入居者に対して算定することができた。

（ウ）看護師・相談員が森町病院と連携し、入居者の退院支援をタイムリーに行った。

（エ）認知症介護実践リーダー研修の参加を勧め、2017 年度から天宮サテライトで認知症専門ケア加算を取得できる体制が整った。

（オ）DVD 教材を用いて、接遇の勉強会を職場単位で実施することができた。

２.【在宅部門】在宅生活者を軽度から支えるサービスの充実化を図る

（ア）ショートステイのリピート率は保つことが出来ているが、新規契約が伸びず利用者数が減少した。（月平均実利用者数 2015 年度 49 人⇒2016 年度 36 人）。緊急時に受入れすることができるベッドコントロール方法の確立が必要であることが分かった。

（イ）通所介護における個別機能訓練加算や認知症加算を算定させることができた。通所介護の稼働率は 2015 年度比 3%上昇した。

（ウ）訪問介護では６月から介護保険外の実費サービスを導入し、７月から障害福祉サービス事業における訪問介護を開始することができた。

（エ）森町病院内への居宅介護支援事業所窓口を開設するに至らなかったが、ケアプランセンターが病院等と連携し、入院時から訪問してシームレスな利用につなげる取組ができた。

（オ）相談員等が民生・児童委員の会合へ参加し、積極的に意見交換した。また森町地域包括支援センターと連携し、家族向けの認知症介護講話・座談会を実施することができた。

３．【地域における公益的な取組】森町地域包括ケアのネットワーク作りの一翼を担う

（ア） 地域包括ケアを担う人材作りのため、遠江総合高校のライフデザインコースの生徒と愛光園職員とで意見交換会を行い、介護の仕事の魅力や内容について伝えることができた。

（イ） 森町地域包括支援センターからの要請に応え、2017 年度から森町に設置される「認知症初期集中支援チーム」に愛光園職員を派遣することを決めた。

４．【災害対応】大規模災害に備えた体制を強化する

（ア） ライフライン障害を想定した訓練は導入できなかった。

（イ） 森町と協議し、災害時等に地域の要援護者の受け入れに備えることができた。

（ウ） 大規模災害時、森町愛光園と天宮サテライトとの連携マニュアル整備を引き続き精査し、整備していく。

【数値実績】

2016 実績	特養		ｻﾃﾗｲﾄ特養	短期入所	通所介護	
	従来型	ユニット型	ユニット型	従来型	介護	予防
利用者定員	60 名	20 名	29 名	12 名	42 名	
利用者延べ数	21,382 名	7,070 名	10,245 名	3,457 名	7,886 名	916 名
１日平均利用者数	58.58 名	19.37 名	28.07 名	9.47 名	25.60 名	2.97 名
稼動率	97.63%	96.85%	96.79%	78.92%	68.31%	
稼動日数（延べ）	365 日		365 日	365 日	308 日	
単価（一人一日当り）	11,527 円	14,283 円	12,771 円	11,191 円	10,597 円	6,023 円
サービス活動収益	348,855 千円		130,945 千円	38,689 千円	89,082 千円	
職員数（常勤換算）	40.12 名	12.23 名	20.39 名	8.43 名	14.95 名	

2016 実績	在宅介護支援ｾﾝﾀｰ	居宅介護支援		訪問介護		配食	合計
		介護	予防	介護	予防		
利用者定員							
利用者延べ数		1,600 名	230 名	4,865 名	457 名	63 名	
１日平均利用者数				13.55 名	1.27 名	0.25 名	
稼動指数		26.7 件	3.8 件	65.7 件	6.17 件		
稼動日数（延べ）				359 日		257 日	
単価（一人一日当り）		16,190 円	5,076 円	3,754 円	3,214 円	600 円	
サービス活動収益		26,980 千円		19,688 千円		37 千円	654,276 千円
職員数（常勤換算）	0.1 名	5.0 名		6.17 名		0.1 名	107.49 名

松戸愛光園

特別養護老人ホーム松戸愛光園
松戸愛光園ショートステイ
松戸愛光園デイサービス
松戸愛光園ケアプランセンター

2016 年度は、近隣に大規模な特別養護老人ホーム新設などがあったが、各事業の連携強化を進めて、質の向上を図りながら、地域へ積極的に松戸愛光園を知ってもらえるような活動を実施し、入居待機者の確保やショートステイ事業の稼働率を向上することができた。

人材育成と確保については、各専門職ラダーと目標参画システムを連動させながら実施することができた。また、地元の高等学校から実習を受入れるなど、関係を深化させ新卒採用に繋げることができている。

関東地区という地域性もあり、年度当初から職員の欠員状態が続く中で事業を運営してきた。今後も人材確保については大きな課題があると考えており、法人内の各施設、事業部と連携しながら必要な人材の確保を進めていきたい。

１．事業の成長・社会福祉充実（最高の質を追求し提供する）

（ア） 居宅介護支援事業の特定事業所加算算定は、人材の確保が行えず算定できなかった。しかし、2016 年度の主任介護支援専門員研修に職員を参加させることができたため、2017 年度に特定事業所加算算定に目途を立てることができた。

（イ） 各事業の相談員について連携をすすめ、入居待機者の確保、ショートステイ事業における稼働率の向上を図ることができた。

（ウ） 嘱託医、看護師、相談員等との協働を強化して、新規入居者の受入期間が平均 7.3 日短縮でき、入居者の入院期間は平均 11.8 日短縮できた。

（エ） 嘱託医との連携により、ショートステイでの看取りを行うことができ、常勤の理学療法士を採用し、入居における個別機能訓練加算算定ができた。

２．人材育成と確保

（ア） 介護テクニカルラダー、相談支援スキルラダー、施設在宅看護ラダーを実施できた。

（イ） 認知症関連研修 1 名、喀痰吸引研修 4 名の参加と指導看護師 2 名の養成を行った。

（ウ） 千葉県ユニットリーダー研修への参画を継続し、千葉県高齢者福祉施設協会が千葉県より受託して行う研修に講師派遣や、13 名の実習生の受入れを行った。

（エ） 千葉県立松戸向陽高等学校からの実習生受入れを継続でき、学校との関係を深化させることができ、卒業生を当施設で職員として 2 名採用することができた。

（オ） 人事企画部関東採用センターと連携し、職員確保のためのリクルーター活動を継続できた。

３．　業務の ICT 化、介護ロボット導入の検討

（ア）　事業部全体での記録入力システムの検討を推進し､2017 年度には新システムの導入を予定している。

（イ）　安全・安心な介護を提供するため、見守りロボットを 3 台導入した。

４．施設保全

（ア）　ガスエンジン・ヒートポンプについては計画通り入替えができた。

（イ）　老朽化した厨房機器について、買替えなどを行った。

（ウ）　ショートステイの送迎車両を 1 台更新し、安全で快適な送迎サービスの提供を行うことができた。

５．地域への貢献（地域における公益的な取組・住み慣れた地域で暮らしていくために）

（ア）　松戸愛光園チャリティバザーを開催し、売上金全額を松戸市社会福祉協議会へ寄付した。

（イ）　隣接団地住民への、新たな生活支援事業開始は実施できなかった。

（ウ）　地域交流ホールにおいて、高塚新田地区の住民活動の利用を継続できた。

（エ）　6 月のあじさいが見頃の時期には、多くの地域住民の方々に屋上庭園を見てもらい、松戸愛光園の認知度の向上を図ることができた。

（オ）　周辺地域の清掃を年 2 回、松戸ニッセイエデンの園と一緒に実施できた。

【数値実績】

	特養入居	短期入所	通所介護		ケアプランセンター	総計
			一般	予防		
利用者定員	100 名	20 名	29 名			
利用者延べ数	35,412 名	6,067 名	4,981 名	166 名	1,181 名	47,807 名
一日平均利用者数	97.0 名	16.6 名	16.2 名	0.5 名		
稼働率（%）	97.0%	83.1%	57.6%			
稼働日数（延べ）	365 日	365 日	308 日			
単価（一人一日当り）	13,742 円	13,665 円	10,490 円	6,056 円	10,226 円	
サービス活動収益	486,649 千円	82,904 千円	53,255 千円		12,077 千円	634,886 千円
職員数（常勤換算）	68.7 名	12.4 名	10.8 名		3.0 名	94.8 名

浦安市高洲高齢者福祉施設及び
浦安市猫実高齢者デイサービスセンター

浦安市特別養護老人ホーム・短期入所生活介護
浦安市ケアハウス
浦安市高洲高齢者デイサービスセンター
浦安市猫実高齢者デイサービスセンター
浦安市高洲地域包括支援センター

2016 年度は、地域包括ケアシステムの確立に向けて地域包括支援センターの指定管理を受け、浦安市医師会の多職種在宅医療連携ネットワーク「Ippo」への参画、浦安市歯科医師会との協力歯科契約の準備を進めた。また、各事業の総合化力を強化するため、訪問看護ステーション浦安を含む「浦安地区」での利用者対応を強く意識し、利用者情報の共有化を進めた結果、ケアハウスから老人保健施設、特別養護老人ホームへとスムーズな住み替えも実施できた。

人材確保では従来の募集媒体等採用活動の見直しを行い、様々な取組みの結果、看護職・リハビリ職は予定通り確保できた。また、介護職の確保は無資格の方の採用を拡大するため、まずは介護周辺業務で採用することにより募集の間口を広げた。2017 年度は介護周辺業務を定着すること、介護の記録システムを導入して介護職の時間外勤務の削減に努め専門職としてやりがいを持って働きやすい職場環境を整備したい。

1. 安心・安全に基づく個別計画書の充実と実践

各職場での OJT とサービス担当者会議での検証により、ICF（国際生活機能分類）の視点に基づいたその人らしい個別計画書の作成ができるようになった。個人差はあるため、今後も勉強会の開催と現場での OJT を継続していく。

利用者個々の生活リズムを再度見直し、利用者本位のケアができるように業務の見直しを行った。しかし、生活リズムを可視化することはできていないため、2017 年度への課題とする。

2. 職員が専門職としての意識を持った仕事に取り組む

職員に対する施設内研修内容を見直し、対象者と研修内容が明確になるように計画を立て実施することができた。研修での学びはあるが、実際のケアに活かすことが難しかったため、今後は研修後のフォロー体制も検討していく必要がある。

2016 年度は職員研修に加え係長のリスク管理を意識した役職者研修を毎月実施した。実例を通して役職者として判断すべき視点を共有化することができた。

3. 経営の安定化を図る

特別養護老人ホームは待機者も多く、退居からの新入居までの空床期間短縮に努め安定した稼働率であった。短期入所は、送迎体制を強化して 2016 年度から稼働率 10%上昇、在宅中重

度加算の体制を整備したが、実施までには至らなかった。

ケアハウスは、ゲストルームの柔軟な活用により空室期間を作る事なく待機者の案内が可能となった。二人部屋に関しても、事前の体験入居をする事により納得して入居につなぐことができた。通所介護は、後期に長期利用の方の解約が続き、新規利用に結びつかなかった事で、稼働の伸びは今一つであった。2017 年度は、新総合事業も含めプログラムの見直しと業務改善により経営の安定を目指したい。

4. 地域における公益的な取組・地域への貢献活動に取り組む

各専門職の実習の受入れ、就労準備支援事業での受入れを実施したとともに、近隣の浦安南高等学校から将来介護職を目指す学生を夕方のアルバイトとして採用した。

（ア）介護福祉士の実習受け入れ　（実人数 8 名　延べ人数 88 名）
（イ）浦安市薬剤師会見学実習　（実人数 24 名　延べ人数 24 名）
（ウ）了徳寺大学　看護学科　（実人数 15 名　延べ人数 48 名）
（エ）浦安市社協からの実習受け入れ　（実人数 1 名　延べ人数 22 名）
（オ）浦安市就労準備支援事業　（実人数 7 名　延べ人数 39 名）

5. 防災体制の確立

敷地内の浦安せいれいの里との連携体制をより強化するため、防災体制を検討し、合同訓練を実施した。

また、集中豪雨による水害を想定した訓練や浦安市が指定する福祉避難所としての役割を果たす為にマニュアルを整備した。浦安市役所高齢者福祉課にも参加していただき、一般避難所からの受入れ訓練等を実施し、今後の検討課題の洗い出しをした。

【数値実績】

	特 養	短 期	ケアハウス	高 洲デイ	猫 実デイ	地域包括	地域包括（予防）	総合計
利用者定員	100 名	50 名	50 名	20 名	20 名	－	－	240 名
利用者延数	36,203 名	16,126 名	17,443 名	5,287 名	5,467 名	－	－	
一日平均利用者数	99.1 名	44.1 名	47.7 名	17.2 名	17.8 名	－	－	
稼働率（%）	99%	88%	96%	85%	90%	－	－	
稼働日数（延べ）	365 日	365 日	365 日	307 日	307 日	－	－	
単価（一人一日当り）	－	－	－	－	－	－	－	
サービス活動収益（千円）	492,976 千円	213,794 千円	91,481 千円	39,231 千円	49,847 千円	26,555 千円	1,384 千円	915,268 千円
職員数（常勤換算）	65.5 名	22.6 名	5.8 名	7.2 名	7.9 名	3.8 名	0.5 名	113.3 名

浦安愛光園

2016 年度は開設から 3 回目となる増床を実施し介護保険収入の増収を図ったが、予算未達成となった。大きな要因として増床工事着工の時期が遅れたため 3 ヶ月分の収入見込みが無くなったことがあげられる。この差異を埋めるために空床期間の短縮を重点目標として取り組みを行い、新規入居までの期間の短縮については結果を出すことができた。一方、空床ショートステイについては受け入れ体制はできたが実績には至っていない。

新たな専門職として 2 月から歯科衛生士を採用し、入居者の摂食・嚥下機能の向上、口腔ケア、誤嚥性肺炎の予防に取り組み始めた。

高洲地区全体での雇用対策については介護と介護以外を切り分けた介護周辺業務の採用を積極的に行った。

1.　利用者一人ひとりの個性や生活リズムにあわせた、質の高いサービスを提供する

（ア）　中堅職員以上についてはケアマネジメントサイクルの理解が深まり個別ケアの充実が図れた。一方で新人・中途採用者への教育には課題が残った。

（イ）　ターミナルケア委員会を設置し、指針・マニュアルの確認と活用方法について検討することができた。

2.　安心・安全・快適な生活の場を提供する

（ア）　リスクマネジメントにおいては委員会での検討・分析が現場で活用されるようになり、職員ひとりひとりの意識向上と現場でのリスク管理が浸透した。

（イ）　防災訓練は可能な限り入居者にも参加していただき、より現実的な訓練にすることができた。

3.　職員の資質向上とやりがいのある職場作りを推進する

（ア）　介護テクニカルラダーの本格運用を開始し、年度末にはレベル認定まで達成した。

（イ）　内部研修は対象を新人と中途採用者に分けることで計画的かつ効果的に行うことができ、研修参加率の向上に繋った。

4.　地域ニーズに応える施設づくりと地域貢献

（ア）　第 6 期介護保険事業計画に基づき 4 名の増床を行った。

（イ）　ボランティア、看護・介護実習、職場体験等の受け入れに積極的に協力した。

（ウ）　浦安市高齢者福祉課と合同で福祉避難所の開設訓練を実施、マニュアル作成にも取り組んだ。

5.　業務効率化・ICT 化

（ア）　障がい者雇用・高齢者雇用の拡大には至らなかったが、ケアサポーターという形態で雇用継続できている。

（イ） 2017 年度の介護記録システム導入に向けて現状の整理を行った。

6. 経営改善の継続

（ア）稼働率向上のため具体的な方法をスケジュール化して取り組むことができた。空床期間の短縮化は確実にできており、2017 年度は空床ショートステイの利用を実現していく必要がある。

7. 地域における公益的な取組

（ア） 社会福祉法人による利用者負担軽減制度　利用実績 1 名

（イ） 浦安市内の社会福祉法人（就労継続支援 B 型）で製造したお菓子の移動販売を通じて行う障がい者と入居者の定期的な交流　毎月 1 回実施

【数値実績】

	特養（ユニット型）
利用者定員	74 名
利用者延べ人数	25,456 名
一日平均利用者数	69.7 名
稼働率	96.7%
稼働日数（延べ）	365 日
単価（一人一日当たり）	13,993 円
サービス活動収益	356,198 千円
職員数（常勤換算）	46.0 名

＊2016 年 8 月まで定員 70 名
2016 年 9 月から定員 72 名
2016 年 10 月から定員 74 名に変更

浦安ベテルホーム

2016 年度は、地域包括ケアシステムがより一層具体的なものとなり、在宅復帰支援施設として医療機関との連携を強化し、他職種協働で在宅復帰に向けた支援に取り組んだ。その結果、在宅復帰率がユニット型居室では在宅復帰率が 41.0%、従来型居室で 33.6%となり在宅復帰支援施設としての機能を維持することができた。経営面では、入所においての稼働率は 85.5%と予算 80.0%を大きく上回り、通所リハビリテーションでは、月平均利用人数が 29.6 名、2016 年度より 1.9 名増加した。また、無料低額老人保健施設として、生活保護の適用を受けている方のみならず、2017 年度は生活保護の適用を受けていない方 3 名を受け入れた。今後も地域における公益的な取り組みを積極的に継続していく。深刻な人材不足については、関東採用センターとの連携により採用実績を残すも、離職者抑制に至らず課題を残した 1 年となった。

1．利用者を主体においたその人らしい生活の支援

（ア）利用者、利用者家族との接触の機会を増やし、意向を多職種で共有することができ、丁寧な対応との評価を得ている。

（イ）各種会議等を通し、その人らしい生活の支援のあり方を共有する機会は増えているが、全職員の実施レベルには至っていない。

（ウ）リハビリテーション係で体制の再構築をすることによって他部署との密な連携による支援につなげることができた。

（エ）利用者や利用者の家族から、行事等に対して高い評価をいただくことができた。

2．専門職としてのスキルと経営的視点を併せ持った人材育成と職員を大切にする施設づくり

（ア）看護、介護、相談員各ラダーの評価、認定まで実施することができた。今後は目標参画との連動をすすめていく。

（イ）事業団中期事業計画、事業目標、事業部及び施設運営方針の理解と浸透のために会議や研修時に読み合わせを実施するも、各職員による自己評価では理解度 50%に満たなかったため今後の課題となった。

（ウ）経営的視点を併せ持った人材の育成のために、経営報告は意識的に実施出来たが、理解度及び職場での実践の面で課題となった。

（エ）いいとこプロジェクト等の取り組みを開始することができた。

3．多職種連携による在宅復帰支援と在宅療養（生活）への関わり強化

（ア）地域で最期まで暮らせる支援を多職種協働で実践することができているが、連携方法や効率化の面で課題があった。

（イ）従来型居室においても在宅復帰・在宅支援機能加算を取得、ユニット型居室ともに在宅復帰率は高まっている。パスの必要性、有用性は継続して検証していく。

（ウ）在宅復帰の可能性を拡大するため、ADL・IADL 評価を可視化することができており、利用者家族からの高い評価をいただくことができた。

４．運営の安定化

（ア）入所前後において、訪問看護、ケアプランセンター及び医療機関、他事業者との連携が強化され実績も上がっている。また医療機関からの受入れを拡大するために、2016年度はムースゼリー食を提供する体制を整えた。

浦安地区近郊の医療機関のみならず、船橋市や江戸川区・江東区まで営業範囲を拡大、施設のＰＲを行うも認知度はまだまだ低く継続して営業広報の強化が必要である。

（イ）従来型居室において在宅復帰・在宅支援機能加算を取得した。今後はその維持とユニット型居室の在宅強化型加算取得や認知症ケア加算取得が目標である。

（ウ）システム導入による業務効率化、運用の簡素化が課題である。設備更新は経営を鑑みながら入居者視点で優先度の高さを考慮し順次更新できた。

（エ）職員確保においては関東採用センターとの密な連携により実績を残す。

（オ）利用期間の目安の再設定とベッドコントロールにより稼働率向上を図ることができた。

５．　地域における公益的な取組

（ア）順天堂大学医療看護学部看護師の実習受け入れ　（32名　15日間）
了徳寺大学看護学科看護師の実習受け入れ　（4名×3日×4クール）
理学・作業療法士の実習受け入れ　（東京平成大学作業療法士1名）
〃　（千葉県立保健医療大学1名）
〃　（東京福祉専門学校1名）
介護福祉士の実習受け入れ　（東京福祉専門学校1名）
ボランティア受け入れ　（9グループ　11イベント）
障害者雇用　（パート職員2名継続雇用）
高齢者雇用　（パート職員3名継続雇用）
介護フェアの開催　（3月5日　44名参加）

（イ）生活保護受給者の受入れは月1～3名、減免者は3名であった。今後も無料又は低額老人保健施設利用事業を適正に実施していく。

【数値実績】

	入所		短期入所	通所リハビリ		合計
	従来	ユニット		一般	予防	
利用定員	56名	44名	空床利用		40名	140名
利用者延べ数	17,565名	12,354名	1,289名	8,177名	934名	40,319名
一日平均利用者数	48.1名	33.8名	3.6名	26.5名	3.0名	115.0名
稼動率	85.5%			73.9%		—
稼動日数（延べ）	365日		358日	308日		—
単価（1人1日当り）	13,901円			11,610円		—
サービス活動収益	433,833千円			105,784千円		539,617千円
職員数（常勤換算）	60.1名			16.8名		76.9名

聖隷ケアプランセンター浦安

2016 年度は、2017 年度特定事業者加算Ⅲの取得に向けて職員を増員した。その結果、浦安ベテルホームの在宅復帰ケースなど調整可能となり、安定した利用者数を確保して収益につなげることができた。

１．良質なサービスの提供

（ア）利用者・家族の中で満足度調査を行う目的意識が高くなったことで、2016 年度の満足度調査は、2015 年度と比べ回収率が 60%から 68%に増えた。しかし現在使用している書式からは傾向など読み取ることが出来ない為、2017 年度は書式の見直しが必要である。

（イ）報酬算定チェック表を使い各サービス事業者からの計画書の確認と居宅サービス計画書との連動性の確認までは出来た。サービス担当者会議で各サービス事業所の計画書を基に一体的に行うことが今後の課題である。

２．地域包括システムの構築

（ア） 利用者の課題に対して地域ケア会議を開催することで多職種連携を強化し地域での生活を包括的に支援することはできた。しかし、包括支援センターや地域住民と共にケア会議内で話されたニーズについてどのように社会資源を構築していくかが課題である。

（イ） 2016 年度は 10 件の在宅復帰ケースを支援した。引き続き浦安ベテルホームと連携を図り在宅復帰ケースを支援する体制を整えていく必要がある。

（ウ） 聖隷訪問看護ステーション浦安の紹介率が 50%強と伸びていること、みずたま介護ステーション浦安との連携を図ることで看取りの支援を強化することができ、各所との連携により事業所として支援の幅が広がった。

３．専門性の高い人材の育成

（ア） 2016 年度は研修への参加が計画的ではなかったため、2017 年度は研修スケジュールに沿って目的をもって計画的に研修を受けることが課題である。

（イ） 下半期に高洲包括支援センターと事例検討を行なうことができた。2017 年度は事業所の定例会議を使い各事業所に呼びかけ積極的に機会を作りスキルアップの場を作る必要がある。

４．地域における公益的な取組

（ア） 8 月に浦安高洲地区で夏祭りを開催した。2017 年度は次世代の子たちに対して仕事の楽しさ、やりがいなどを伝える取組みを行う。

【数値実績】

一日平均利用者	年間利用者数	稼働日数	単価（1 人あたり）	サービス活動収益	職員数（常勤換算）
-	942 人	365 日	12,418 円	12,180 千円	3.1 人

浦安せいれいクリニック

１．年間外来利用者数は 1,501 名、2015 年度より 184 名増加、2016 年度の目標であった地域住民からの利用は 29 名増加した。また、聖隷関連施設（浦安愛光園・浦安市特別養護老人ホーム）からの利用が 155 名増加と大幅に増え、新規で健康診断の契約先が増えたため、サービス活動収益としては予算を上回ることができた。

２．利用者、入居者の初期診療、日常的な健康管理を担うことができたが、地域住民の利用までには至らず継続課題となった。

３．高洲地区全体の感染症拡大防止のため、聖隷関連施設からの相談に応じることができた。

【数値実績】

一日平均 利用者数	年間 利用者数	稼働日数	単価（１人 １日当り）	サービス 活動収益	職員数 （常勤換算）
6.3 名	1,501 名	240	3,236 円	16,932 千円	1.5 名

聖隷訪問看護ステーション浦安

2016 年度は、開設 1 年目であったため、周辺の関連機関、地域に周知してもらうように努めた。職場運営において、訪問看護未経験者や、他事業所兼務者の育成をしながら訪問に対応できる体制を整備した。2017 年度は、浦安エリアで選ばれる訪問看護ステーション、市川・江戸川地域の一層のエリア拡大を目指し、サービスを提供できるように取組みを継続する。

１．聖隷訪問看護ステーション浦安を開設し、浦安エリアの在宅事業の充実を図る。

（ア）　地域の関連機関への挨拶周りや、実績等の報告を直接事業所へ届ける等、顔の見える関係作りに取り組んだ。結果、新規の利用者の依頼に繋がり、訪問看護サービスを提供することができた。

（イ）　医療機器の業者を招いての勉強会、病院への退院前訪問、ターミナルケアチェック表の活用で医療依存度の高い利用者に対応した。

２．東京海上日動ベターライフサービス株式会社の訪問介護事業、居宅介護事業と同フロアで事業展開することで、法人を越えた新しい事業運営の在り方を成功させる。

（ア）　月 1 回の運営会議を実施し、相互を知り戦略を立て、運営や企画を行った。

（イ）　共有スペースの物品管理や清掃の分担をし、経費・時間の節約に繋がった

（ウ）　行政、居宅、医院、連携室への挨拶まわりでは両社のパンフレットを持参配布し、居宅介護、看護が連携している活動を周知することができた。

３．浦安ベテルホーム、浦安愛光園、浦安市特別養護老人ホームと連携し、地域からの在宅・設のニーズに対応できる体制を構築する。

（ア）　入所施設と訪問看護共通の利用者について、状態変化時には情報を伝え継続してケアが実施できるようにした。今後連携の方法、情報の活用の仕方についてはシステム導入と共に検討課題である。

４．地域における公益的な取組

浦安市高齢者福祉課主催、高齢者地域作りの推進事業「最期まで自分らしく生きる」の講演会に共催参加し、地域の方に在宅医療、自宅での看取りについて講演し、訪問看護で支援ができることにについて理解を深めていただくことができた。

【数値実績】

平均利用者数	月平均訪問件数	年間訪問件数	平均単価	ｻｰﾋﾞｽ活動収益
26 名	145 件	320 件	10,102 円	19,042 千円

横須賀愛光園

特別養護老人ホーム横須賀愛光園
デイサービスセンター
西第二地域包括支援センター
せいれい訪問看護ステーション横須賀
せいれいヘルパーステーション横須賀
聖隷巡回ヘルパーぐるり横須賀
せいれいケアプランセンター横須賀

【特別養護老人ホーム】

2016 年度は、開設 25 年目を迎え、「横須賀愛光園に関わる全ての人を大切にする」ことで、入居者・利用者・地域・職員、それぞれの自己実現に向けて全職員で取り組んだ。

サービス提供面では、介護福祉士・介護支援専門員・精神保健福祉士の資格取得が進み、一段と職員の専門性を高めることができた。設備・備品の改修も進み、高機能ベッドへの入替など、生活しやすく・働きやすい環境も整えた。また、口腔ケアを強化し、2015 年度より誤嚥性肺炎による入院者数（7 人、47%）及び入院日数（224 日、62%）を減少させることができた。一方、繰り返しの事故など、予防的活動の課題が残った。

安全・安心な施設づくりでは、BCP（事業継続計画）の策定や、入居者・利用者・委託事業者も含めた全員参加型防災訓練を継続実施し、意識だけでなく行動力が向上した。また、感染症は万全の態勢で予防に努め集団発生を回避し、設備・備品の充実や改修・更新を順次進めることで、入居者・利用者の生活環境と併せ、職員の就業環境改善にも努めた。

その他、2016 年度も年間 900 名を超えるボランティア活動が行われたことは、地域とのつながりが保たれていることの証であり、各サービスを通じ、職員が誠実に取り組んだ結果が表れたと考える。人材確保の困難性は依然高いが、今後も地域とともに施設づくりが継続できるよう、取り組んでいく。

１．住みやすく・働きやすい施設づくりを行う

（ア）人と人とのつながりを意識することで、看取り期における関わりの強化につながった。
（イ）多床室環境もあり、プライバシーに配慮した対応は課題が残った。
（ウ）4S（整理・整頓・清掃・清潔）の意識が向上した。
（エ）防災訓練の充実とともに、BCP（事業継続計画）と防犯マニュアルを策定した。

２．入居者・利用者の自己実現につながるサービスを提供する

（ア）入居者・利用者の行事等への参画意識が高まった。
（イ）積極的に他入居者の死と向き合う機会を設けた。
（ウ）認知症周辺症状や精神疾患の知識は深めたが、実対応は課題が残った。
（エ）繰返しの事故や、気配りの不足による苦情発生の課題が残った。
（オ）カンファレンスや面談場面での OJT を実践するとともに、資格取得支援を強化した。

３．安定した経営を行う

（ア）第三者評価を受審し、実態把握に努めた。

（イ）入院による空床期間が 2015 年度比 35%（17 人、295 日）減少した。

（ウ）メリハリの効いた省エネルギー活動を行ったが、設備の老朽化等によりコスト削減は限定的であった。

（エ）必要性・緊急性など、優先順の高い設備から改修・交換を行うことができた。

４．地域ネットワークの一員として活動する

（ア）聖隷内の連携はエリア会議を通じ強化したが、他法人事業所との連携に課題が残った。

（イ）地域行事への入居者・職員の参加や、計画的な地域美化活動を行った。

（ウ）ボランティアや実習生などに対し、社会活動実践の場を積極的に提供した。

５．地域における公益的な取組

（ア）地域の中学校（特別支援学級含む）から依頼された介護体験実習受入れ（2 校、30 名）

（イ）介護福祉士及び看護師養成校から依頼された実習受入れ（3 校、17 名）

（ウ）ボランティア受入れ（26 団体、延 947 名）及び幼稚園の交流受入れ（1 幼稚園、100 名）

（エ）社会福祉協議会及びボランティアセンター主催地域行事支援（年間計 2 回、延 6 名）

（オ）武山養護学校評議員及び地区ボランティアセンター運営委員の受託

（カ）地域清掃活動の実施（年 2 回、延 22 名）

（コ）寄付型飲料自動販売機の設置による寄付（寄付年額 166,260 円）

【数値実績】

	特養入所		短期入所
	従来型	ユニット型	
利用者定員	64名	40名	16 名
利用者延べ数	22,772名	14,248名	4,864 名
一日平均利用者数	62.4名	39.0名	13.3 名
稼働率（%）	97.5%		83.3%
稼動日数（延べ）	365 日		365 日
単価（1人1日当り）	11,516円	14,247 円	11,675 円
サービス活動収益	465,238千円		56,772 千円
職員数（常勤換算）	59.4名		10.9 名

	通所介護	地域包括支援センター	配食サービス	合計
利用者定員	40名(30名)	—	—	—
利用者延べ数	4,681名	—	1,438名	—
一日平均利用者数	16.1名	—	67.3名	—
稼働率（%）	48.4%	—	—	—
稼動日数（延べ）	290日	—	197日	—
単価（1人1日当り）	8,520円	—	550円	—
サービス活動収益	39,872 千円	31,603千円	(803千円)	594,288 千円
職員数（常勤換算）	8.7名	4.0名	—	

【在宅事業】

2016 年度は、介護予防・日常生活支援総合事業の開始（横須賀市では 2016 年 1 月より実施）により、第一号通所事業及び第一号訪問事業がみなし指定されるとともに、9 月に訪問看護ステーション横須賀逸見サテライトを開設し、多様な利用者ニーズに応える環境を整えることに注力した。

また、定期巡回随時対応型訪問介護看護事業を軸とした横須賀愛光園との連携についても、継続して取り組むことで、利用者情報の共有など、施設職員との関係強化につながった。

一方、人事企画部と協力し、事業所見学・職業体験の企画や、迅速な面接を行うなど採用活動を強化したが、介護保険事業所の乱立や人口減少・高齢化率上昇がより顕著で、介護・看護を中心に、職員確保が困難な状況が続いている。その中において、ワークライフバランスのとれる就業環境や、やり甲斐を持つことができる業務の在り方、職員同士・事業間の和を保つ職場環境の創出について、各職場が取り組みを強化し、職員の資質向上につながったことは、職員の努力に他ならない。

今後も継続して人材確保に努め、既存事業の充実・整理、新たな地域への進出など、横須賀エリアにおける面的事業展開を推進し、強固な事業基盤整備を積極的に行っていきたい。

１．訪問看護事業（せいれい訪問看護ステーション横須賀）

（ア）人材を育成し、ケアの質を向上させる

①ケースカンファレンスはチーム分けにより頻回に行われ、ケアの質の向上につながった。

②看護ラダー活用は課題が残ったが、新人教育は、教育相談係によって着実に行われた。

（イ）健全経営を維持する

①他事業所や医療機関へ適宜空き状況の提供を行い、利用者確保につなげた。

②看護体制強化加算及び機能強化型訪問看護管理療養費Ⅰを維持できた。

③タブレットの導入・活用により、業務がスリム化した。

④就職説明会の開催・広告募集などを行ったが、人材確保は困難を極めた。

（ウ）防災対策を推進する

①訪問など外出時に、職員個々がその場で最善の行動が出来る様になる課題が残った。

２．訪問介護事業（せいれいヘルパーステーション横須賀）

（ア）ヘルパー事業を支える専門性を向上させる

①介護ラダーや基本介護技術チェック表で評価したが、実践力向上にはつながらなかった。

②全職員が個々の目標にあった外部研修を受講できた。

（イ）更なる業務効率向上により、就業環境を改善する

①有償サービスのカルテ整備などで、業務効率が向上した。

②登録ヘルパーを含めた職場会議・勉強会への参加率が向上し、情報の共有を強化した。

（ウ）地域が求めるサービスを提供する

①喀痰吸引対応可能職員の登録人数が 5 名となり、地域ニーズに対応できる幅が広がった。

３．定期巡回随時対応型訪問介護看護事業（聖隷巡回ヘルパーぐるり横須賀）

（ア）人材を確保し、専門性を向上させる

①人材（夜間対応）確保ができなかった。

②経過記録をパソコンで情報共有する事ができ、業務がスムーズになった。

（イ）他職種・地域との連携を強化する

病院連携室への啓蒙・啓発活動や、地域の文化祭・包括的ケア会議の参加は出来たが利用者増に繋げる事はできなかった。

４．居宅介護支援事業（せいれいケアプランセンター横須賀）

（ア）安定した経営を継続する

①特定事業所加算Ⅱを継続し、収益の維持・向上に努めた。

②訪問看護や訪問介護など各種サービスを併設している強みを活かし、病院や利用者の知人からの紹介率が高まり、新規利用者確保につなげることができた。

（イ）質の向上を図る

①計画に基づいた研修を実施し、相談援助技術の向上に努めた。

②キャリアアップの為の講師派遣を計画したが、実施する事が出来なかった。

５．地域における公益的な取組

（ア）訪問介護事業による介護福祉実習受入れ（1 校、2 名）

（イ）訪問看護事業による看護師養成校受入れ（3 校、24 名）

（ウ）訪問看護事業による訪問看護師養成講習（6 名）見学体験研修（2 名）地域連携相互研修（3 名）の実習受入れ

【数値実績】

１．訪問看護事業（訪問看護ステーション）

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価(円)	サービス活動収益
135 人	740 件	8,885 件	11,377 円	103,125 千円

２．訪問介護事業（ヘルパーステーション）

介護給付		予防給付		総合事業		単価(円)			サービス活動収益
月　間訪問件数	年　間訪問件数	月間利用者	年間利用者	月間利用者	年間利用者	介護(回)	予防(月)	総合事業(月)	
768 件	9,220 件	13 人	150 人	5 人	61 人	3,943 円	16,232 円	16,470 円	55,741 千円

３．定期巡回随時対応型訪問介護看護事業

介護給付		単価(円)	サービス活動収益
月間利用者数	年間利用者数	介護　(月)	
8 人	100 人	133,531 円	13,372 千円

４．居宅介護支援事業（ケアプランセンター）

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査年間件数	訪問調査単価(円)	サービス活動収益
介護	予防	介護	予防			
2,683 件	44 件	16,617 円	4,242 円	134 件	4,4780 円	45,686 千円

聖隷訪問看護ステーション油壷

2016 年度は、「三浦地域の居宅・施設における訪問看護サービスの強化」を目指し、在宅利用者の健康維持だけでなく、人生の最終段階を穏やかに迎えられるための支援を充実させるため、他事業所を含めた緩和ケアの勉強会を開催した。また、市内にある他法人の訪問看護ステーション閉鎖や人材不足もあり、連携強化のために行ってきたグループホームへの看護師派遣業務委託が中止することになったが、一年を通し安定した経営となった。今後も、聖隷福祉事業団だからこそ成し得るサービスを展開し、地域で選ばれるサービスを提供できるよう取り組みを継続する。

１．重度医療・障害・認知症に対応できる職員を育成する

（ア）重度医療・障害・重度心身障害児・認知症研修へ参加をした。また、事業所で緩和ケアの学習会を開催することができた。

（イ）研修は積極的に参加できたが、職場内伝達講習の強化は課題が残った。

（ウ）定期的なカンファレンスを実施し、利用者ニーズに沿った看護を提供することができた。

（エ）マニュアルの整備・修正は一部のみに留まった。

２．新たな加算を取得しサービスの質の向上を図る

（ア）退院時共同指導加算取得の為の医療機関との連携を強化することができた。

（イ）利用者の退院に係るカンファレンスに積極的に参加した。

（ウ）加算の勉強会を関東地区で開催ができたが、サービスの質を高めるためのスタッフへの伝達講習に課題が残った。

３．運営状況の分析を共有する

（ア）朝礼や職場会議で収支、利用者状況等を分析し、全職員で共有した。

４．地域における公益的な取組や環境活動

（ア）エコキャップ活動に参加や、地域美化活動を行った。

（イ）業務用・自家用車に限らず、エコドライブを実施した。

【数値実績】

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価	サービス活動収益
76.75 人	365.5 件	4,386 件	10,487 円	45,995 千円

宝塚すみれ栄光園

特別養護老人ホーム宝塚すみれ栄光園、短期入所生活介護
宝塚すみれ栄光園デイサービスセンター
聖隷ケアプランセンターすみれ

開設3年目となる2016年度も、我が家のように安心できる居場所として、ゆったりと過ごして頂き、健やかな生活を楽しんで頂く施設として、安定した運営の構築を目指した。特養入所において退所者20名の内、4名を看取る事ができた。退所者の平均在所日数は1年11か月と、在籍入居者の2年4ヵ月より短く、入居時点で体調管理が難しい方が多い事が伺える。入所の平均稼働率は予算をやや下回ったが、短期入所の空床利用・緊急受入を積極的に進め、全体では97.2%と予算を上回る実績を残す事ができた。4 月に聖隷ケアプランセンターすみれに聖隷ケアプランセンター結いを統合し、特定事業所加算を取れる体制とした事も稼働率の安定に繋がっている。デイサービスでは、通常型は年間を通して72%と高い稼働率を維持したが、土曜日に行っている若年性認知症対象デイサービスは、関係機関からの注目度は高い反面、平均4.2名と伸びていない。受入対象者やサービス内容は2017年度の課題である。事業所内保育所は利用者15名（児童数は17名）の内5名が新規採用者であり、職員採用・就労支援に貢献している。

入所においては、利用者の状態に合わせた住替えを行い、個々の心身状態に応じたケアを行うための生活環境の整備、フロアやユニット毎に行う日常的な行事にも取り組み、祭事や季節感といった生活の潤い、楽しみの部分も意識した運営が行えた。食事形態の変更も進め、8月より「やわらか食」を導入し、これまでのきざみ食から変更する事で、誤嚥リスク・摂食機能低下の減少と共に、食材の形のある料理を提供する事で、食事の楽しみ向上に繋がった。

ICT活用による新たな見守りセンサーや、2棟双方の映像を見ることができる防犯カメラの設置は、今後、より有効的に活用する事で業務内容の見直しを図っていく。

また、11月より職員住宅で借り上げている安倉団地において、兵庫県住宅供給公社の依頼により、高齢化の進む団地における相談機能として「宝塚安倉あんしんケアセンター」を開設した。市内聖隷施設の専門職による相談機能の地域貢献事業として、今後も取り組んでいく。

１．入居者・利用者一人ひとりに安心と穏やかな暮らしを提供する

入居者個々の状態に応じたケア、環境整備を意識し、体調不良や事故による入院を少なくすることができた。インフルエンザ等の感染症は流行期においても蔓延する事なく、予防・発生時の対応をしっかりと対応する事ができている。

家族懇談会では多くの家族より参加希望を頂き、フロア毎に開催するに至った。食事形態変更の説明、やわらか食の試食を行うなど、施設のケアを体験して頂く事で、ケアへの理解、信頼に繋げる努力を行った。

２．宝塚せいれいの里「人材育成システム」の構築

次世代を担うリーダー育成を中心に考え、多くの職員にユニットのリーダーを担当する機会を持たせた。その中の1名より役職登用を行い、新しい世代が育ってきた。また、資格取得支援

も行い、2名が介護福祉士を取得する事ができた。

この他、看取りやスキンケアなどの委員会活動にも力を入れ、認知症ケアグループでは、認知症介護実践者研修受講者がリーダーシップを発揮し、施設内研修を開催するなど、施設として介護の質向上に取り組んだ。

3．宝塚せいれいの里内事業・宝塚地区施設における連携強化とシームレスなサービス提供

宝塚せいれいの里の特徴である複合施設を活かす為、情報活用を目的に導入した待機者情報管理ソフトにより、入居案内センター、相談員に集まる情報を共有し、入居希望者へタイムリーな情報提供を行い、入所3施設の併用申込が増えた事が、入所施設の高い稼働率へ繋がっている。

給食委託業者とは、契約更新に長い交渉を要したが、聖隷逆瀬川デイサービスセンターへの夕食配食を同じ委託業者である宝塚栄光園から変更し、センター厨房化へ向けた取り組みが始まった。

4．様々なニーズに応え、地域に信頼される施設運営

地域コミュニティの運営会議へ定例参加し、施設の情報発信を行うと共に、地域行事の中で小学生を対象とした車椅子体験学習を実施するなど、地域とも積極的に関わりを持った。また、地域サロンへの参加や、安倉あんしんステーションの開設、訪問看護事業へ管理栄養士の派遣など、施設の専門職が地域に出向き、得られた情報を関連機関と連携し解決をはかった。

障害者雇用の促進に加えて、施設園庭・緑地の整備を市内の障害者福祉施設へ委託し、地域福祉事業者との連携は継続して行っている。

5．環境活動への取り組み

新しい施設として設備機器の省エネルギー化は進んでいる。運用面で、照明の点灯範囲・時間、空調の温度・時間設定など、利用者へ影響を与えない範囲内で実施した。

6．地域における公益的な取組

（ア）市内各地区の民生委員や、関係諸機関の研修の場として、施設を解放した。

（イ）近隣大学生の学びの窓口として、施設においてインターンシップを開催し、学生と入居者が直接関わりを持てる場を提供することができた。

【数値実績】

	特養入所（ユニット）	短期入所	通所介護（一般）	居宅介護支援		合計
				介護	予防	
利用者定員	100名	20名	30名			
利用者・請求延べ数	35,094名	7,488名	5,740名	2,012件	541件	
一日平均利用者数	96.1名	20.5名	18.4名			
稼働率	96.1%	102.6%	62.4%			
稼働日数（延べ）	365日	365日	312日			
単価（一人一日・件当り）	14,687円	14,035円	10、486円	17,222円	4,249円	
サービス活動収益	582,460千円	107,042千円	60,188千円	37,495千円		787,185千円
職員数（常勤換算）	78.3名	12.5名	14.7名	6.8名		112.3名

ケアハウス宝塚

開設3年目となった2016年度も、入居者数70名の維持が達成できた。また、入居者の個々のニーズを受け止めその人らしい生活が営める施設づくりに取り組んだ。心身の状況に応じた住替え実施後の1年間でユニット毎のコンセプトが明確となり、入居者の状況に応じたケアの提供に努めた結果、2016年度の年間入院者延数が2015年度38名から12名減の26名まで減少したことは、安定したケアが提供できた結果と考える。また、個浴に省スペースで使用できるリフト付きシャワーキャリーを導入し、介護職員の負担の軽減を図った。今後も介護ロボット等の導入を進め、業務の改善、職員負担の軽減に努めていく。食事の提供に関しては、新たに「やわらか食」をきざみ食に代えて導入した。食事の外観は普通食と変わらず、柔らかく飲み込みやすい食形態とすることで、食事の楽しみが増え、摂取量も向上した。

2016年度の年間退居者数は15名（内、看取り1名）に達したが、結いホーム宝塚、ケアハウス花屋敷からの紹介により、年間を通じて70名の入居者数を確保することが出来た。宝塚せいれいの里内での連携については、結いホーム宝塚からの入居者が3名、宝塚すみれ栄光園への住替えによる退居者が4名と、里内において入居者の心身の状況や希望に応じた住替えができており、2017年度も引き続き連携を強化していきたい。

行事・イベントについては、ボランティアの協力が得られ、アフタヌーンコンサート、お茶会、聖書を読む会、傾聴ボランティア等、種類・回数ともに大幅に増やすことができた。また、複数の選択肢の中から自身の好む外出先や余暇活動を選択できるようにして、参加意欲を持っていただけるように趣味活動の充実に努めた。

開設当初から入居されている入居者の家族の中には、ギターコンサートや習字の会を主催していただくなど、施設の行事等に自主的に参加される方も見られるようになった。今後も多くの家族に施設の行事等の運営に参画いただけるよう、良好な関係継続に努めていく。

１．入居者の希望をかなえ、その人らしい生活を実現する

（ア）夜間入浴・洗濯・食材取り寄せ等、自宅での生活スタイルが継続できるよう自由な環境を用意できた。

（イ）お花見、紅葉狩り、喫茶店、レストラン等入居者のニーズを確認しながら外出企画を計画し、実施した。

（ウ）多くのボランティアの方々に協力いただき、新たに傾聴ボランティア、聖書を読む会、お茶会等を導入することができた。

２．他職種と協働し、個別支援ができる人材の育成

（ア）（イ）専門研修に職員を参加させたが本人が退職してしまい、伝達講習含めケアハウス全体での共有ができなかった。

（ウ）相談員を2名体制とし、介護職員のアセスメント能力向上のためにOJTを通じて助言、介入し全体の底上げを図った。

（エ）危険予知トレーニングの実施までには至らなかったが、カンファレンスを実施し事故予防

に繋げることができた。

３．宝塚せいれいの里内並びに宝塚地区施設における連携強化と、シームレスなサービス提供

（ア）待機者情報管理システムを活用し、里内入所３施設の待機者情報を集約、共有することで、各施設担当相談員間の連携が向上した。また、入居申込書を３施設併用申込可能に変更したことで併用申込者が増え、３施設の高い入居率に繋げることができた。

（イ）宝塚せいれいの里が大規模厨房を有していることから、逆瀬川デイサービスセンター虹の夕食配食を里が担当するよう運用を変更した。これをセンターキッチン化への足掛かりとしたい。

４．地域における公益的な取組

（ア）地域コミュニティの運営会議へ定例参加し、施設の情報発信を行うと共に、地域行事の中で小学生を対象とした車椅子体験学習を実施するなど、地域とも積極的に関わりを持った。

（イ）地域サロンへの参加や、安倉あんしんステーションの開設など、施設の専門職が地域に出向き、得られた情報を関連機関と連携し解決を図った。

（ウ）市内各地区の民生委員、訪問看護ステーション、ケアマネジャーの研修の場として、施設を解放した。

（エ）近隣大学生の学びの窓口として、施設においてインターンシップを開催し、学生と入居者が直接関わりを持てる場を提供することができた。

５．環境活動への取り組み

（ア）夜間における共用部（各階ホール・廊下）の照明点灯範囲を限定した。

（イ）利用者への影響がでない範囲内での空調コントロールを実施した。

【数値実績】

	軽費老人ホーム （特定施設入居者生活介護）
利用者定員	70 名
利用者延べ数	24,645 名
一日平均利用者数	67.5 名
稼動率	96.4%
稼動日数（延べ）	365 日
単価（一人一日当り）	13,761 円
サービス活動収益	342,834 千円
職員数（常勤換算）	38.5 名

結いホーム宝塚

2013 年 11 月に開設した結いホーム宝塚は、2016 年度も入居者 100 名の維持を達成することができた。これは聖隷の宝塚地区での施設・在宅事業が地域からの信頼を得ていることが寄与していると考えている。また、結いホーム自身も入居者や入居中、退去後を問わず、家族から当施設を知人に紹介していただくことも多く、これまで行ってきたサービスが高く評価されたものと受け止めている。2016 年度の退居者数は 24 名（内、看取り 4 名）となり、4 分の 1 近くの入居者が入れ替わったことになるが、入居待機者増（2017 年 3 月末：33 名）により、短期間の空床期間で対応ができた。反面、病院退院後の早急な施設入居への要望には十分応えきれない状況が生じている。

入居者の介護度は、要介護 4・5 の人が 25%、要支援 1・2 の人が 18%を占め、要介護度の平均は 2.2 前後で推移している。平均年齢は、88.6 歳（男性 85.8 歳、女性 89.1 歳）である。平均介護度は決して高くないものの、開設後年数を経て心身の状況が変化し、元々の疾患の重度化による長期入院や入退院が繰り返される状況が見られるようになってきた。

入居者一人ひとりの生活の質の向上につなげるために、イベントやアクティビティーには、給食業者やボランティアの協力を得ながら、積極的な取り組みを継続している。クリスマス会や春の花見、ゆず湯・菖蒲湯、作品展など季節に応じた企画の実施と、3 周年記念行事の開催をすることができた。

１．入居者のその人らしさを支えるためのケアの提供

（ア）認知症の入居者に対して、本人・家族と相談の上で居室内のレイアウトを変更し、生活しやすい環境の整備を行った。

（イ）入居者の意向を確認しながら企画を実施した。外出企画では家族も巻き込んで、一緒に参加いただくなど新たな取組を行った。また、これまで外出先は宝塚市内が中心であったが、市外にまで足を延ばすことができた。

（ウ）やわらか食を導入し、見た目からも実際に食べても楽しめる食事を提供できた。ステーキ、寿司など季節に応じた実演での食事提供を行い、食のイベントを充実させた。

（エ）ターミナル期に、介護、看護、相談員、栄養士、訪問看護師の職種間で連携したケアを提供し、看取りにつなげることができた。また、振り返りのカンファレンスにも訪問看護師に参加していただき、充実した振り返りができた。

（オ）アセスメント表を更新し、各フロアにケアプラン担当者を設けた。ケアプラン担当者とケース担当者間での密な話し合いによりアセスメントが充実し、より現場に即したケアプラン作成に繋げることができた。

（カ）何かあった都度、家族への報告相談を細目に行う事で家族との円滑な協働関係の維持ができた。

２．フロアの特性に合わせた人材育成のための体制作り

（ア）中途採用者に対して指導担当者を配置し、OJT を実施した。

（イ）委員会活動では、情報発信を行うなど役割を発揮できた。

（ウ）認知症実践者研修、リスクその他の外部研修へ参加しスキルアップに努めた。

（エ）２階フロアと関西学院大学と共同でアクションラーニングを行い、成果をフロアにフィードバックすることができた。

（オ）技術チェックツールを用いて自己チェックし、ケアの統一を図った。

３．宝塚せいれいの里内事業・宝塚地区施設における連携強化とシームレスなサービス提供

（ア）宝塚せいれいの里として 3 施設の職員が共に委員会活動に参加し、情報を共有化することができた。

（イ）宝塚せいれいの里内 3 施設で申込書を統一書式とし、またソフトを導入したことにより相談員間で入居申込時からの情報共有・入居判定に結びつけることができた。

４．地域住民との協働と地域社会への貢献

（ア）地区コミュニティの運動会に参加、車椅子体験を主催した。

（イ）地区コミュニテイの会合へ参加し、各種情報交換を行った。

（ウ）近隣の学生の窓口としてインターンシップの受け入れを行い、福祉現場に触れてもらう機会を提供することができた。

（エ）県住宅公社との連携事業として「安倉安心ステーション」を開設、住民向けに介護に関するセミナー、相談会を実施した。

５．環境活動への取り組み

（ア）電気契約の見直し、節電の実施により水光熱費の削減につなげることができた。

（イ）隣地の分譲マンション、地域コミュニティとともに、施設近辺、公共スペースの清掃活動等を行った。

【数値実績】

	介護付有料老人ホーム
利用者定員	100 名
利用者延べ数	34,594 名
一日平均利用者数	94.8 名
稼動率	94.8%
稼動日数（延べ）	365 日
単価（一人一日当り）	15,272 円
サービス活動収益（千円）	528,320 千円
職員数（常勤換算）	58.5 名

宝塚栄光園

2016 年度は、利用者にとって安心できる施設づくりを実践するとともに、認知症に関わる職員のレベルアップを果たせた年度となった。

歯科医師と協力して口腔ケアの取り組みを行なうことで、誤嚥性肺炎による入院者が減少し、入院日数は前年度より 3 割近く減少した。ショートステイの稼働率も安定して予算を上回ることができ、運営面においても安定することとなった。また、認知症実践者研修に 4 名、認知症実践リーダー研修に 4 名参加することができ、宝塚栄光園全体の認知症ケアの基礎とその指導を行う体制が整い、2017 年度からは認知症専門ケア加算の取得が可能となった。看取りケアを行なっていくため、たん吸引研修についても介護職員の 80%以上が取得し、利用者に安心して過ごしてもらうことができる環境づくりができた。

課題として、今後も人員の採用が厳しいことが見込まれるため、業務の最適化をしっかりと行なっていくとともに、記録の電子化や介護ロボットについて積極的に取り入れていく所存である。

1. 利用者の「できること」に注目できる「気づき」から生まれる創造的ケア

(ア)利用者の「できること」をエビデンス（根拠）に基づき、しっかり支えるケアを実施する。

① ICF（国際生活機能分類）の勉強会を実施し、職員の学びを深めた。

② 介護プロフェッショナルキャリア段位制度において 1 名のレベル認定を行なった。

(イ)「人生の最期のとき」まで創造的ケアを提供する。

① 歯科医師と協力し、多職種による嚥下評価や食事形態の検討を実施した。

② たん吸引研修の実地研修を 7 名行なった。

(ウ)丁寧な言葉遣いを身につける

① 研修にて職員が意識すべき言葉遣いについての講習を行なった。

(エ)パーソンセンタードケアを実践する。

① 認知症実践者研修に年間 4 名、認知症実践リーダー研修に年間 4 名、修了できた。

2. サービス持続力の強化

(ア)相談員機能を強化する。

① 「相談係」を再配置し、入所や短期入所の「司令塔」の役割を持たせることで、稼働率アップに寄与した。

(イ)介護業務と周辺業務の切り分けの実施

① 2016 年度は 2015 年度からの業務の切り分けは出来なかった。

(ウ)介護業務の省力化を進める。

① 記録システムについては 2017 年度の導入予定である。

② 見守り型介護ロボットである、シルエットセンサーの導入を行なった。

3.　地域への貢献

(ア)兵庫県地域サポート型特養事業（地域見守り事業）を定着させる。

①　2016 年度の実績はなかった。

(イ)ゆずり葉自治会食事会の開催を目指す。

①　自治会と協議は行なったものの、食事会開催につながらなかった。

4.　地域における公益的な取組

(ア)LSA（地域サポート型特養）事業の実施。

(イ)宝塚市福井町自治会への給食材料の提供事業、またお花見の送迎実施。

(ウ)地元大学から 2 名の管理栄養士の現場実習受け入れの実施。

(エ)地元大学生の教員過程における介護等体験に 7 名の受入実施。

(オ)地域住民対象で、参加費無料の「介護技術講習会」4 回/年開催し、51 名参加。

【数値実績】※特養・短期とも従来型のみ。(個室 19 室、2 人室　3 室、4 人室　15 室)

	介護老人福祉施設	短期入所生活介護	合計
利用者定員	70 人	15 人	85 人
利用者延べ人数	24,597 人	5,115 人	29,712 人
一日平均利用者数	67.4 人	14.0 人	81.4 人
稼動率	96.2%	93.4%	95.8%
稼動日数（延べ）	365 日	365 日	365 日
単価（一人一日当り）	11,890 円	11,568 円	11,835 円
サービス活動収益(千円)	293,851 千円	59,174 千円	353,026 千円
職員数（常勤換算）	43.12 人	7.41 人	50.53 人

花屋敷栄光園

特別養護老人ホーム花屋敷栄光園、短期入所生活介護
花屋敷デイサービスセンター
花屋敷地域包括支援センター

2016年度、分野を問わない地域の実情に見合った総合的なサービス提供が行えることを目指し、次世代の担い手の育成を意識した組織編制を行うとともに各事業の認知症や中重度利用者ケアの機能維持強化に取り組んだ。入居サービスにおいては、年間の入院者数は増加傾向にあったが、看取りを含む退居者数や市への事故報告件数は、2015年度比25～35%減少している。また、短期入所においても、認知症や医療的ケア利用者の受け入れ件数も増加しており、職員一人ひとりが、中重度利用者ケアを意識し実践してきた結果と言える。通所介護では、要支援利用者が増加し、利用者層の変化からサービスや体制を見直す良い機会となった。

地域貢献については、地域包括支援センターと協働し地区の祭事やサロンなどに職員を積極的に派遣、また、新たに近隣地区と福祉避難所としての協定を結び、市や園内の防災訓練などを通して地域と親交を深めることができた。2018年の同時報酬改定に向けて、更なる人材育成体制と施設機能を強化したい。

１．個々の利用者に日常的な居心地のよさを提供する

（ア）　認知症利用者の尊厳を大切にするケアを継続して実践する

①プランと記録が連動するICT化までは進めることができなかったが、生活シートを活用したケアを実践することができた。

②認知症実践者研修修了者が中心となり、現状の認知症ケアについて見直しを図った。

③認知症対応型通所介護において、認知症機能アセスメントツールを活用した機能訓練を実施した。

④短期入所生活介護と通所介護の併用利用を希望する認知症利用者について、担当者会議を開催し情報共有を図った。

（イ）　中重度要介護者の尊厳を大切にするケアを継続して実践する

①摂食・嚥下委員会を中心に、継続した取り組みを行い嚥下や口腔機能維持に努めた。

②寝台浴、リフト浴、見守りシルエットセンサーを購入し、福祉機器の充実を図った。

③短期入所生活介護利用管理表をICT化させ、タイムリーな情報共有により緊急利用等への対応力を高めることができた。

④看取り介護委員会を中心に、指針やマニュアル等の見直しを行い、看取り介護について説明会を開催した。

⑤衛生及び感染予防対策委員会を中心に、マニュアルの更新や職場環境の整備を行った。

（ウ）　オール個室、ユニット化に見合う質の高いケアを確立する

①リーダーシップ研修の受講により、ユニットリーダースキルの向上を図った。

②生活シートを活用した情報共有を行い、利用者の要望や状態に応じた支援に努めた。

③食事形態及び提供方法について試行錯誤を重ねたが、確立させるまでには至らなかった。

２．専門職の人材育成と人員の効果的な配置、定着化の推進

（ア） 人材育成委員会を再編成し、人材育成の基本方針や体制構築を行った。

（イ） 相談員ラダー、看護職ラダーを促進し、求められる職員の知識・技術の理解を深めた。

（ウ） 短期入所生活介護の医療的ケアを必要とする利用者を受け入れ、医療と介護の連携ケアの対応力を高めることができた。

（エ） 各事業配置事務員の役割を整理し、マニュアル整備を行った。

（オ） 事務職員の業務と役割を明確化し、目標参画で評価することを行った。今後スキルアップの仕組みを整えたい。

（カ） 加算に関連した外部研修に各専門職が受講し、会議等を通じて伝達講習を行った。

（キ） 地域サロンへ専門職の派遣やユニットリーダーが中心となり地区研修の講師を行った。

３．地域包括ケアの推進に積極的に取り組む

（ア） 相談支援専門員研修を受講し 2017 年度 4 月に相談支援事業所を開設。2017 年度は空床利用で障害者の短期入所を受け入れるための準備を促進させたい。

（イ） 各種業務の細分化と移譲を検討し、介護補助業務を確立。未経験者や高齢者の非常勤雇用を行った。また、現況から事業所内保育所の利用希望者数は少なく、人材の確保からも開設は困難と判断した。

（ウ） 地域包括支援センターと情報共有を行い、新日常生活総合支援事業に対する準備、体制を整えることができた。

（エ） 花屋敷ホールで開催されている介護を行っている地域の方々の集いに参加し、介護技術や介護保険制度の説明など行った。今後も、当園が集いを通して地域に活用されるように取り組みを継続する。

（オ） 近隣地区と新たに福祉避難所としての協定を締結した。近隣地区防災担当者との防災訓練や研修会に参加し、福祉避難所としてだけでなく地域防災としての共同した取り組みを行うことができた。

（カ） 2015 年度の未実施だった箇所の LED 化を施工した。

４．地域における公益的な取組について

（ア） 地域住民に対し、「介護技術講習会」「認知症介護教室」「食事講座」を各 2 回/年開催。

（イ） 宝塚市住宅供給公社が所有する団地での福祉相談会 1 回/2 ヶ月を開催。

【数値実績】

高齢者入居・短期入居・通所関係事業

	特養入所	短期入所	通所介護			合計
	ユニット	ユニット	一般	予防	認知	
利用者定員	108 名	12 名	47 名		12 名	
利用者延べ数	38,290 名	4,307 名	7,567 名	1,335 名	1,888 名	
稼動延日数	365 日	365 日	310 日			
一日平均利用者数	104.9 名	11.8 名	24.4 名	4.3 名	6.1 名	
稼働率	97.1%	98.3%	69.7%	35.8%	50.8%	
単価（1人1日当り）	14,291 円	14,089 円	10,837 円		14,582 円	
サービス活動収益	547,203 千円	60,682 千円	96,474 円		27,532 千円	731,891 千円
職員数（常勤換算）	79.5 名	13.9 名	26.9 名			120.3 名

地域包括支援事業（花屋敷地域包括支援センター）

宝塚市受託収入（千円）	予防プラン請求件数	予防プラン委託件数	予防プラン単価（円）	ｻｰﾋﾞｽ活動収益	職員数（常勤換算）
30,617 千円	276 件	66 件	4,881 円	50,651 千円	9.5 名

ケアハウス花屋敷

2016 年度は、重点を 2 点置き運営を行った。一点目は、宝塚市の総合事業の本格始動を見越しての情報取集と入居者への情報提供・代替えサービスの確保であった。宝塚市は利用者・市民が混乱することの無いよう現行相当のサービスを継続し、徐々に移行したため、入居者からも不安の声が上がることはなかった。二点目は、入居者の皆さんが健康を維持しながら、より生活を楽しんでいただきたいと考え、健康体操のプログラムの充実や新たな行事の催しなどを取り組んだ。特に入居者の方々と芋の苗植えから収穫までを共にし、共同で焼き芋会を催したことは、入居者・職員にとって充実した時間となった。職員がおもてなしをする行事と、入居者の豊富なアイデアをもらって一緒に行う行事、目的によって切り替えて行うことで、より充実した行事となるため今後も実践していきたい。職員の育成については、認知症実践者研修に 1 名参加でき、その職員が中心となって、全員で情報の取り方から対応方法まで、具体的に考え、実践することが出来た。また、認知症予防等、心の健康増進の取り組みの準備が出来た一年でもあった。

１．自立の支援、認知症の症状や介護の必要性があっても対応できる柔軟性・対応力の強化

（ア）認知症についての知識・対応能力の取得・向上

①認知症実践者研修の受講 1 名、鳥取県琴浦町の認知症予防実践現場視察、鳥取大学浦上医師の講演 4 名参加等、認知症に対する知識の向上は出来た。また、学びを実際の事例を通して、全員で取り組むことが出来きたことは大きな成果であった。

②アセッサーを 1 名養成出来た。介護ラダーの実施には至らなかったが準備はできた。

（イ）介護技術の習得と強化

施設内研修（接遇、急変時の対応、認知症の方への対応等）を実施した。

（ウ）入居者の健康増進・健康維持

①健康体操のプログラムに音楽やビデオを使用してのメニューを加えた。

②地域の精神科医による講演（老いることによる自然な変化と認知症について）を入居者を対象に実施した。

(エ)自立支援

毎日のショートカンファレンスで、タイムリーに利用者の課題について検討することは出来た。今後は、入居者個々の状態や変化についての情報の取り方や分析する力を更に高める必要がある。

２．介護職員等確保の難しさを鑑みてのケアハウス人員配置等の検討

(ア)介護職員の配置や無資格者の雇用については諸事情により取り組めなかった。

(イ)駅前までの園の送迎シャトルバスを、9 月に大型免許が不要な 10 名定員の車に変更し、便数を増加した。2 名の運転手が 70 歳で退職となったため、地域の方の同乗を廃止した。

３．生活の中で楽しむことや心地よさの提供

（ア）アンケートにて入居者の意見を聞きながら、行事内容の変更や新たな行事を企画した。

（イ）畑を増設し、職員が入居者と一緒に苗を植え、芋ほりをし、共に準備をして焼き芋会を楽しむことが出来た。

４．運営安定の維持

（ア）一人の入居者の事情で入居率は99%となった。

（イ）大規模修繕がなかったため、2018年度の修繕に向けて費用の積み立てを実施している。

（ウ）①天井電熱ヒーターの廃止を予定していたが、代替え機能が見つからず、継続となった。

②施設外周の水銀灯のLED化と事務所のLED化は、諸事情により延期となった。

５．安心安全で美味しい食事の提供と安定した喫食数の確保

（ア）季節感や伝統行事などを考慮し、五感で楽しめる食事、産地や品種の選択・調理の工夫により、より食べやすい食事を提供し、良い評価を得ることができた。

（イ）喫食数については、夕食は平均80食以上となったが、昼食は70食に届かなかった。年度初めに急な費用変更依頼があり、献立の立て直しに注力せざるを得ず、食数を伸ばすための試みが十分出来なかったことも影響している。

６．防災対策

火災等災害時の体制について、花屋敷せいれいの里として一体的に考えることは出来た。しかし、ケアハウスの入居者の協力を得ての防災訓練までは至らず、2017年度の課題となった。

７．安全で快適な生活環境の整備、老朽化に伴う修繕や設備更新を計画的に行う。

外壁は直近での修繕の必要なしとの判断されたため、共有冷暖房機の更新は2017年度検討することとした。

【入居者状況】（2017年3月31日現在）

（ア）年齢

	人数（名）	最高年齢（歳）	最低年齢（歳）	平均年齢（歳）
男性	17	96	67	82.4
女性	82	98	71	85.5
合計	99			平均（85.0）

（イ）介護度内訳（名）

要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
18	18	6	2	0	0	0	44

（ウ）入居前居住地（名）

宝塚市	49	市外（他府県込）	50

【数値実績】

定員（名）	100
稼働率（%）	99
単価（一人一日：円）	4,444
ｻｰﾋﾞｽ活動収益（千円）	160,603
職員数（名）	13.8

宝塚第二地区在宅複合事業（社会福祉事業）

聖隷ヘルパーステーション宝塚
聖隷逆瀬川デイサービスセンター
聖隷逆瀬川デイサービスセンター虹

2016 年度、聖隷ヘルパーステーション宝塚では、介護職員の確保が困難な中、サービスの質を確保しつつ、喀痰吸引等を必要とする重度要介護者の対応をしっかりと行うことができた。また、同時に重度の認知症や障害児の対応等、サービスの幅も広げることができた。職員不足により一時的な利用人数低下傾向もあったが、その期間は職員の教育期間として質の向上を図り、2017 年度の職員体制への布石とすることができた。

通所介護事業では、パート介護職員が必要数確保できない中、業務改善を行うことで安全にかつ、利用者の受け入れも原則断ることなく事業運営ができた。管理者の変更もあり、正職員・パート介護職員への教育体制の構築ができなかったため、教育体制の明確な役割分担、計画的な勉強会等の実施は 2017 年度への継続課題である。

１．利用者が安心で穏やかに在宅生活が過ごせるように支援する
（ア）多職種間の連携は必要に応じて取れるようになっている。
（イ）夏祭り・敬老会・クリスマス会等季節を感じるレクリエーションの実施ができた。
（ウ）利用者とコミュニケーションを図り、特性に応じた適切な介護を提供することができた。
２．人材確保
（ア）正職員の補充に関しては、人事企画部関西採用センター・宝塚せいれいの里運営管理課と連携し人材を確保することができた。パート介護職員に関しては、必要数の確保ができなかった。
（イ）無資格者の採用に関して、受け入れ体制はできているが、2016 年度は求める人材とのマッチングができず採用には至らなかった。
３．人材育成の推進
（ア）同法人内・他事業所の交換研修 2 名を受け入れることができた。
（イ）法人内喀痰吸引 2 号研修の終了者 1 名を確保することができた。
（ウ）職場内研修を毎月行うことができた。
４．リスクマネジメントの向上
（ア）リスクマネジメント委員会の運用が円滑に実施できなかった。
（イ）事故報告書の作成に関しては意識が高まったが、ヒヤリハット報告書の作成に関しては、浸透しなかった。
（ウ）事故報告書・今後の対策・事故を未然に防ぐポイントを随時ミーティング等で申し送ることで、危険予知能力に関しては高まった。
５．地域における公益的な取組
（ア）教育職員免許法の特例にもとづく社会福祉施設等における「介護等体験」受入
（イ）地域包括支援センターより、社会福祉士受験資格取得のための実習生 1 名受入

【数値実績】

訪問介護事業（聖隷ヘルパーステーション宝塚）

介護給付			予防給付		単価(円)		サービス活動収益	職員数（常勤換算）
平　均 利用者数	月　間 利用者数	年　間 利用者数	月間 利用者	年間 利用者	介護 （月）	予防 （月）		
108 人	1,130 人	13,565 人	107 人	1,278 人	3,858 円	17,904 円	106,554 千円	11.0 名

通所介護事業（聖隷逆瀬川デイサービスセンター）

介護給付			予防給付		単価(円)		サービス活動収益	職員数（常勤換算）
平　均 利用者数	月　間 利用者数	年　間 利用者数	月間 利用者	年間 利用者	介護 （月）	予防 （月）		
54 人	448 人	5,379 人	34 人	405 人	8,395 円	36,048 円	59,561 千円	9.1 名

通所介護事業（聖隷逆瀬川デイサービスセンター虹）

介護給付			予防給付		単価(円)		サービス活動収益	職員数（常勤換算）
平　均 利用者数	月　間 利用者数	年　間 利用者数	月間 利用者	年間 利用者	介護 （月）	予防 （月）		
20 人	193 人	2,312 人	0 人	0 人	13,586 円	0 円	31,498 千円	6.5 名

宝塚第二地区在宅複合事業（公益事業）

聖隷訪問看護ステーション宝塚
逆瀬川地域包括支援センター
聖隷ケアプランセンター宝塚

2016 年度、宝塚第二地区在宅複合事業（公益事業）の経営において訪問看護ステーション及び地域包括支援センターは、ほぼ予算通りに推移し安定経営が維持できた。ケアプランセンターの当期活動増減差額は赤字であったが、職員一人当たりの担当件数も平均 35 件を超え、経常増減差額では黒字となり、赤字脱却の見通しは立ったといえる。「看取りのカンファレンス」、「地域の居宅介護支援事業所や包括支援センター対象の訪問看護勉強会」「多職種対象の地域包括ケア勉強会」、「小中高の学校での認知症講座」などの開催を通じ、3 事業所の各々で、地域ニーズに対するアクション、ネットワーク作り（連携強化）への取り組みを実践できた。また、取り組んだスタッフそれぞれのスキルアップ、質の高いケアへの意識向上にもつなげることができた一年であった。

【訪問看護ステーション宝塚】

１．訪問看護サービスの質の強化

（ア）4 月に機能強化型訪問看護ステーション 2 の申請を行った

研修計画・参加・伝達講習が確実に行える仕組み作りを行った。伝達講習はステーション内にとどまらず、他職種への勉強会にも発進した。

２．訪問看護ステーション宝塚の PR と各居宅支援事業所との連携強化

（ア）居宅支援事業所向け研修会 3 回、ヘルパーステーションへの研修会 2 回、看取りカンファレンスを 3 回実施できた。

イ）関西 4 ステーション合同でステーション通信を利用者・関係者へ向けて 3 回発進した。

３．看取りケアの強化（施設との連携への取り組み）

（ア）施設の職員への参加を募り研修会を実施した。

（イ）施設の看護職員の交換研修の受け入れを行った。

【逆瀬川地域包括支援センター】

１．介護予防・日常生活支援総合事業の推進

（ア）総合事業に向け、地域住民主体の体操教室の立ち上げに協力、新しく 5 件が立ち上がった。また、2015 年度に実施した介護予防給付対象者全員を対象にしたアンケート結果から、今後の方向性を検討することができた。

（イ）当センター主催で多職種参加の包括ケア勉強会 3 回、事例検討会を 3 回実施できた。

２．認知症の啓発活動及び支援

（ア）小中高の各 1 校に認知症講座や勉強会を開催。サロン等地域でも 6 回開催できた。

【聖隷ケアプランセンター宝塚】

１．安定的な黒字化と業務環境整備

（ア）2016 年度の収支黒字は未達成であったが、年度の半数月で黒字を達成できた。

２．コンプライアンス強化及びアセスメント強化

（ア）アセスメント強化は未達成であったが、事業所内でのケアプランチェックを実施できた。

３．地域貢献（地域包括ケアシステムへの参画)。看取りカンファレンス継続実施

（ア）看取りカンファレンスを 3 回実施。地域包括ケアの研修に職員を多数派遣できた。

【地域における公益的な取組】

訪問看護及びケアプラン職員での看取りカンファレンスやサロン参加を通じ、地域の関係機関や住民と在宅の看取りやケアの質について意識を高め合うことができた。地域包括支援センターにおいても司法書士や調剤薬局など地元の多職種を招く研修会を積極的に開催し、地域包括ケアの推進に努めることができた。

【数値実績】

訪問看護事業（聖隷訪問看護ステーション宝塚）

	平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価	サービス活動収益	職員数（常勤換算）
医療	54 人	419 件	5,028 件	9,919 円	124,708 千円	13.8 名
介護	138 人	664 件	7,973 件	9,281 円		

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター宝塚）

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査年間件数	訪問調査単価	サービス活動収益	職員数（常勤換算）
介護	予防	介護	予防				
3,379 件	543 件	17,354 円	4,183 円	2,421 件	4,000 円	71,259 千円	9.4 名

地域包括支援センター事業〈逆瀬川地域包括支援センター〉

年間請求件数		平均単価(円)		サービス活動収益	職員数（常勤換算）
予防	予防（委託）	予防	委託（委託）		
4,574 件	2,840 件	4,886 円	4,886 円	76,625 千円	10.1 名

北神戸地区在宅複合事業

聖隷訪問看護ステーション北神戸
聖隷ケアプランセンター北神戸

24 時間 365 日地域の利用者の生活を支える安心・安全なサービスを目指し、訪問看護事業の拡大や複合事業化を検討したが、2016 年度も後半に職員の入れ替わりで人員体制が整わず、先送りする結果となった。事業所にとって一番大切な人材の部分が中々予定通りとならない現状があり、安定した人員体制確立が常に課題となっている。また聖隷として神戸市北区は、ケアプランセンターと訪問看護ステーションしかなく、事業所の特色と強みを生かした地域へアピールを行い、いかに他施設と連携を行っていくかが鍵となるが、病院、在宅事業や小規模多機能事業などいくつかの施設とは関係を深めることができた。その反面、近隣のクリニックが訪問看護ステーションを設立したことで、癌末期や看取りの依頼が減少している。今後も利用者のニーズに応え、周囲の事業の動向を踏まえ地域に根付き、連携を重視した事業拡大に繋げていきたい。

１．2016 年度 事業計画・予算の達成度

当ステーションが特色として重視している精神疾患の利用者に対しては、困難事例にも対応できる体制であり、近隣の病院・クリニック・支援センターとの連携も取れ、北区の多くの精神科医師より聖隷を選んでいただいている声も聞かれることも増え、利用者数は安定している。難病利用者に対しては、訪問回数も多く重介護が多いことから、ケアプランセンターと訪問看護ステーションの兼務職員による同行訪問を積極的に取り入れた。癌や高齢者の看取りに対して、2016 年度は看取り件数は 4 件に止まっている。2016 年度より機能強化型加算算定要件に小児重症児も入る事になったため、看取り件数が伸びない分、小児の訪問も積極的に受ける方針であったが、結果は超重症児 2 名に止まっている。

２．地域における公益的な取組

（ア） 神戸市看護大学生実習の受け入れ
（イ） 看護協会　看看連携実習の受け入れ
（ウ） 介護保険認定審査会に 3 名の職員が参加

【数値実績】

訪問看護事業（訪問看護ステーション北神戸）

	平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価(円)	サービス活動収益	職員数（常勤換算）
医療	50 人	376 件	4,507 件	10,062 円	83,965 千円	8.8 名
介護	62 人	360 件	4,316 件	8,751 円		

居宅介護支援事業（ケアプランセンター北神戸）

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査年間件数	訪問調査単価(円)	サービス活動収益	職員数（常勤換算）
介護	予防	介護	予防				
770 件	525 件	11,867 円	3,636 円	－	－	11,100 千円	2.7 名

宝塚第五地区在宅複合事業（公益事業）

聖隷訪問看護ステーション山本
聖隷ケアプランセンター花屋敷

【聖隷訪問看護ステーション山本】

1．職員全員が自身を成長するための目標が 1 つ以上達成でき、退職者ゼロを目指す

2016 年度はリハビリテーション担当のスタッフ全員が異動や退職で入れ替わり、思うような利用者サービスができなかった。また、職員採用をスムーズに行うために人材紹介派遣を利用したが、高額な紹介料が経営を圧迫する結果となった。

リハビリテーション担当の職員の定着の悪さは、リーダーシップをとる人材育成につながっておらず、関西地区在宅リハビリテーション研修を効果的なものにできないか、打診していく。訪問看護ステーション内でのコミュニケーションは引き続き密にし、職員の成長につなげていきたい。

2．超過勤務を減らし、有給消化率を高める

個々のスタッフの時間管理・休暇管理は計画的に行い、超過勤務は減少した。しかし、リハビリテーション担当のスタッフの休暇取得が不十分なため、2017 年度は継続して問題を抽出し、改善を図る。

3．居宅・包括との連携強化

2016 年度は宝塚東地区運営会議が発足し、より地域に目指したニーズの把握ができた。必要な情報の共有・統計化を行い、東地区の施設・在宅での連携可能な実践につなげたい。

4．聖隷訪問看護ステーション山本を拠点に置いた新規ケース開拓と介護サービス展開に向けての準備

グループホームとの契約を、宝塚市内の障害施設より相談を受けている。新しい居宅介護支援事業所の開拓は、営業の効果もあり 3 事業所より新規依頼があり、引き続き営業を行う。

管理者の講師・講演活動は市内・市外で実践でき外部への PR につながっている。

【聖隷ケアプランセンター花屋敷】

1．事務所移転後も安定した事業所運営ができるよう収支のバランスを整える

年間を通じて、終了件数が新規件数を上回る実績となり、事業所全体の件数が予算未達となった。来所相談は月平均 2 件と移転による効果が出ている。

2．法令順守を意識したケアプラン業務の展開と検証

相互チェックの継続とワイズマン活用方法の検証については、関西居宅マニュアル委員会での年間計画にて実施できた。アセスメントツールの見直しについては、2017 年度にタブレ

ット端末の導入を控えており、新システムを活用することになった。ケアマネジメントプロセスの遵守は、関西居宅マニュアル委員会を通じて検討でき、継続してマニュアルの作成に着手する。

３．法人内事業所との連携強化

宝塚東地区運営会議が発足し、毎月、地区の事業所間の問題を共有する仕組みができた。

４．宝塚東地区の事業展開への積極的参画

事務所移転は予定通り４月に実施できたが、空調や照明など設備に関する不都合が多い。地域住民との関わりの場作りについては、地域会議への参加は積極的に行うことができたが、事業所を地域住民との関わりの場とするような取り組みはできなかった。

【数値指標】

聖隷訪問看護ステーション山本

	平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価	サービス活動収益	職員数（常勤換算）
医療	27 人	198 件	2,373 件	9,449 円	70,168 千円	10.4 名
介護	86 人	433 件	5,199 件	9,001 円		

聖隷ケアプランセンター花屋敷

年間請求件数		平均単価		訪問調査年間件数	年間調査単価	サービス活動収益	職員数（常勤換算）
介護	予防	介護	予防	－	－	53,257 千円	9.6 名
3,005 件	379 件	15,752 円	3,947 円				

聖隷逆瀬台デイサービスセンター

利用者の状態を問わず幅広く受け入れができる大規模デイサービスとして、ケアの品質向上に努めた。中重度、認知症の利用者が安心して通えるデイサービスとしての期待に応える事ができた。利用者が地域社会の一員であるために、地域の交流の場としての役割を充分に発揮できた。

１.「最高のサービス」の提供

（ア）建物の老朽化も著しく、改修工事を計画的に行う

①館内空調設備、排煙窓修理、玄関外扉・内扉修理その他不具合箇所の軽微な補修も適宜実施した。

（イ） 新規利用者や移管ケースの方が安心して利用できる

①看取り期の利用者の緊急時の対応・連絡・相談の基準を明確化し利用ニーズにタイムリーに対応できた。

（ウ）根拠に基づく介護技術の指導ができておらず、指導側の論理的思考と伝え方に課題が残った。2017 年度は年間プランを設定し介護技術向上の勉強会の実施、新入職員用教育マニュアルの随時見直し、職場の OJT を充実させサービスの質の向上を図る。

２．運営の安定化の推進

（ア）中重度・認知症利用者を柔軟に受け入れできる

①稼働率 80～85%を維持できる受け入れ体制と人員配置を構築できた。

②相談員を配置することで窓口業務を円滑に、スムーズに利用者受入れができ年間通じて稼働率 80%を維持した。

（イ）チーム活動を活性化させ組織力が向上できる

①職種毎のチームに小分けしボトムアップによる提案、実践、実現ができるチーム再編をおこなったが、実践、実現には至らなかった。

②チームおよびリーダーを中心とした業務遂行を行ったが、リーダーの PDCA マネジメント力育成までには繋がらなかった。

３．地域における公益的な取組

（ア）教育課程の大学生実習受入れ・宝塚市自立支援配食の受託・施設 2 階の地域開放

（イ）地域の要望に応え、認知症予防教室の実施

【数値実績】大規模通所介護Ⅰ　利用定員 40 人（介護・予防を一体的に運営）

介護給付			予防給付		単価(円)		サービス活動収益	職員数（常勤換算）
平　均 利用者数	月　間 利用者数	年　間 利用者数	月間 利用者	年間 利用者	介護 （月）	予防 （月）		
83 人	746 人	8,946 人	8 人	98 人	12,367 円	35,731 円	123,578 千円	20.2 名

聖隷デイサービスセンター結い

2016 年度は、要介護利用者でも安心して利用できるサービスを充実させることを目標として運営を行った。2017 年度には総合事業がスタートとなるため、要支援利用者の受け皿としての役割を担うことも含め、2016 年度は運営の過渡期ではあったが、当初見込んでいた入浴・食事のサービスを希望する利用者は少なく、半日（3 時間）のサービスを希望する利用者が多いという傾向であった。この結果を基に利用者が求めるものは「何か」を再考し、ニーズに合わせたサービスを改めて検討する必要性がある。

１．要介護を中心とした地域密着型通所介護への変更に伴う事業運営の実施

（ア）介護予防中心から要介護中心への転換を図り、経営を安定させる。

① 要支援利用者は 4 月以降緩やかに減少し、2015 年度比 16%減であった。予算よりも減少率高く、予算差異が大きくなった。要介護利用者は 2015 年度比 35%増でほぼ予算通り推移した。入浴サービスを開始したが、希望者は僅かでありニーズが希薄と考察する。

（イ）予防から介護になっても継続して利用できるプログラム作り

① 機能訓練についてセラピスト常駐体制で直接実施する形で運営してきたが、年度途中の人員体制の変更に伴い常駐配置ができなくなったため、セラピストと他職種が協働して機能訓練を実施する形に変更した。利用者の満足度の担保が課題ではある。

２．2017 年度総合支援事業開始に向けての準備と地域における公益的な取組

（ア）UR 都市機構団地内自治会への参加及び地域住民との関係作り

① UR 団地との交流について、今年度は県委託事業「認知症予防教室」を団地住民向けに年間 2 回開催した。また住民からの依頼を受け、地域サロンでの出前講座も実施した。認知症分野や介護予防について、住民からは「教えてほしい、知りたい」という声も聞かれているため、今後もデイサービスとしてできる地域向けの活動を具体的に提示していく。将来的には地域での活動を通じ、地域の中で困っている人や軽度認知症高齢者が予見できるような関わりに発展できるよう関係構築していく。

（イ）介護保険から外れた後でも継続して利用できる仕組み作り

① 介護保険外のサービスについては検討機会を持てず、実施には至らなかった。

【数値実績】

介護給付			予防給付		単価(円)		サービス活動収益	職員数（常勤換算）
平　均 利用者数	月　間 利用者数	年　間 利用者数	月間 利用者	年間 利用者	介護 （月）	予防 （月）		
40 人	479 人	2,898 人	75 人	895 人	7,605 円	26,874 円	46,275 千円	8.7 名

聖隷コミュニティケアセンター宝塚店

2016 年度は、新しい取組みができた 1 年であった。2016 年度の目標として、介護保険サービスのみに依存しない新たなサービスの実践を掲げ、その第一歩を踏み出す事ができた。聖隷福祉事業団内施設と複数台の車椅子を年間契約することができ、また介護老人保健施設に対しても福祉用具のデモ機を複数台導入することができた。その結果、施設から在宅に戻られてからも当事業所から引き続きレンタルを開始していただける事ができた。

2017 年度に向けて、社会の動向を注視しながら福祉用具の提案方法を考慮し、職員全体の質を向上し、利用者に選ばれる事業所を目指さなければならない。

１．新サービスの開始

（ア） 施設向けに車いす長期レンタルの開始

①車いす 6 台を 1 年契約でレンタルする事ができた。施設の必要な車いすを適宜交換できる仕組み作りを行い、満足いただけるサービスに繋がった。

（イ） 介護老人保健施設へ退所に向けた福祉用具導入サービスの開始

①リハビリ室に複数台の福祉用具を導入した事で他法人施設との連携も深まり在宅復帰に向けての福祉用具の提案がスムーズに行えるケースが増加した。

（ウ） 障害給付（日常生活用具、補装具）への取組強化

①市役所や利用者家族からの問合せや相談から販売に繋がったが、アプローチが弱く強化には至らなかった。また実践経験が少ない為、対応できない案件もあった。

２．リスク管理

（ア）内勤事務のローテーションを行い職員同士がフォローできる職場作り。

①職員体制が整わない時期が長かった事もあり、ローテーションには至らなかったが、営業職員の事務処理の一部も内勤事務がフォローできるようになり、業務の幅を広げる事はできた。

３．質の底上げ

（ア）年間計画を作成し勉強会を毎月開催

①研修計画通りに勉強会を開催する事はできなかった。

②外部研修には各職員が興味をもった勉強会に参加し職員同士で共有する事はできた。

４．地域における公益的な取組

（ア）2016 年 11 月より宝塚安倉あんしんステーション開設において、地域住民を対象とした福祉用具の展示場を設ける事ができた。聖隷各施設と協力し、相談しやすい仕組み作りを構築し、福祉用具の講座等も開催を検討する。

【数値実績】

	ﾚﾝﾀﾙ件数	介護保険収益	販売収益	住宅改修	サービス活動収益	職員数（常勤換算）
宝塚店	8,763 件	103,716 千円	51,994 千円	30,215 千円	186,677 千円	11.0 人

聖隷カーネーションホーム

2016 年度は、主力としている高齢者介護サービスを選択され続けられるものへと質の磨き上げを図るだけではなく、地域の中で困窮している人々を広く救う目的で、新たに障害者福祉サービスを創造した。特別養護老人ホームでは空床発生を抑え、高稼働率を維持することができた上、看取り介護にも積極的に取り組み、職員の意識・技術の向上や、利用者・家族満足度の向上へと繋げることができた。デイサービスでは、2015 年度に開設した「デイサービスセンターうっとこ」の認知度の向上に伴い、淡路市全域から新たな利用者獲得に至っている。設備面では、利用者の負担軽減並びに業務の省力化のために、見守り支援センサーの導入や機械浴室の改修等を実施した。その一方、新たに障害者福祉サービスとして、9 月に短期入所事業を開始。10 月には障害者・児の総合相談窓口となる障害者相談支援事業所「聖隷はぐくみ」を開設し、淡路市等関係機関との連携を図りながら、利用者ニーズの達成に努めている。また、地域の介護力向上を目指す活動として「体験型介護講座」、「認知症サポーター養成講座」、「介護職員初任者研修」等を開講するとともに、介護のプロフェッショナルでなくとも働ける「ケアサポーター」を新たに設定し、主婦・高齢者層の雇用に繋げることができた。2017 年度は、高齢者、障害者のみならず保育事業にも視野を広げ、法人内外を問わず各種機関と連携し、住み慣れた地域で支え続けられるヘルスケアネットワークを構築していきたい。

1. 「選択され続ける」サービスの提供
   （ア）家族会やアンケート等にて提供サービスを評価し、適時、改善を実施。
   （イ）入院を伴う外科的・内科的事故件数 0。空床を大幅に抑制できた。
   （ウ）福祉体験他、地域住民向け講座開催は他法人とも連携し、計画的に実施。
   （エ）認知症 Cafe、家族介護者教室等を開催し、地域住民の意見を吸い上げ、対応。
2. 「安心して地域で暮らし続けられる」新たな福祉サービスの創造と定着
   （ア）研修修了者の配置増に伴い、経管栄養者の受入開始。淡路市外にも圏域を拡大し受入。
   （イ）障害者福祉サービス 2 事業開設。年齢、地域等を問わず、積極的に対応。
   （ウ）ヘルパー事業所、他法人施設等と連携を図り、対応力の強化、利用者確保を実施。
3. 地域包括ケアシステムの主軸となるために淡路地区総合化力を発揮
   （ア）医療・福祉連携会議を定期開催し、法人内ワンストップサービスを検討、実施。
   （イ）他法人医療機関、施設等と情報共有を促進し、情報停滞に伴うロスを改善。
   （ウ）障害者福祉サービスを創設し、地域ニーズへの対応力を強化。
4. 人材開拓・確保・育成
   （ア）地域の介護力向上を目指し「体験型介護講座」を他法人と共同開催。
   （イ）各種ラダーや目標参画システムも活用し、職員個々のレベル向上を図った。
   介護福祉士取得率向上（2015 年度　55.6%→2016 年度　67.9%）。
   （ウ）喀痰吸引等研修 3 名修了。認知症介護実践者研修 1 名修了。介護職員実務者研修 1 名受講。介護職員初任者研修 2 名受講。
   （エ）職員のライフプランや加算算定を踏まえ、人件費調整等に見合った人事異動を実施。

5. 運営の安定化

（ア）関連加算は適切に算定。利用者状況に応じ、適時、業務改善を実施。

（イ）適時、価格等を評価し、購入ルートや委託契約等の見直しを実施。

（ウ）利用者ニーズと収益状況に合わせ、計画的に備品購入、設備改修を実施。

6. 地域における公益的な取組

（ア）関西看護医療大学「領域別看護実習」受け入れ（6 名・計 30 日間）

（イ）兵庫県社会福祉協議会「介護等体験事業」受け入れ（2 名・計 10 日間）

（ウ）「体験型介護講座」開催（延 80 名・計 6 日間）、「認知症サポーター養成講座」開催（延 56 名・計 4 日間）、「認知症 Cafe」開催（約 30 名・計 1 回）、「ひょうご介護サポーター研修」開催（4 名・計 1 日間）

（エ）淡路市立東浦中学校「福祉活動」受け入れ（9 団体・計 18 日間）

（オ）「生きがい対応型デイサービス」（介護保険外低額サービス・介護保険非該当者対象）

（カ）淡路市高齢者住宅安心確保事業（市営・県営団地に居住する独居高齢者対象）

【数値実績】

特別養護老人ホーム・通所介護・地域密着型サービス

	聖隷カーネーションホーム		デイサービスセンター		
	特養入所	短期入所	通所介護		
	従来型	従来型	一般型	介護予防	認知症対応型
利用者定員	54 名	16 名	30 名	（30 名）	12 名
利用者延数	19,788 名	4,849 名	5,752 名	658 名	2,152 名
一日平均利用者数	54.2 名	13.3 名	18.5 名	2.1 名	6.1 名
稼働率（%）	100.4%	83.0%	68.7%		50.9%
稼働延日数	365 日	365 日	311 日		352 日
単価（一人一日）	11,120 円	10,944 円	9,043 円		12,026 円
サービス活動収益	220,458 千円	53,112 千円	58,180 千円		25,994 千円
職員数（常勤換算）	29.2 名	6.9 名	8.2 名		6.0 名

在宅介護支援事業（聖隷在宅介護支援センター淡路）

サービス活動収益	職員数（常勤換算）
7,164 千円	1.2 名

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター淡路）

年間請求件数	平均単価（円）	訪問調査	訪問調査	サービス活動	職員数
介護	介護	年間件数	単価（円）	収益	（常勤換算）
1,855 件	16,132 円	76 件	4,105 円	29,973 千円	6.6 名

障害者相談支援事業（聖隷はぐくみ）

年間請求件数	平均単価（円）	サービス活動収益	職員数（常勤換算）
19 件	17,134 円	326 千円	1.0 名

淡路栄光園

2016 年度は「地域に向けた様々な取り組み」を実践するとともに、より「質の高いサービスの提供」を目的に事業を推進した。「地域に向けた取り組み」として、体験型介護講座や認知症予防講座を開講し、介護や認知症に関する地域への啓蒙活動だけでなく、淡路栄光園を知ってもらうための貴重な交流の機会にもなった。通所介護では、地域の元気な高齢者を対象としたサロンに利用者と職員が参加し、交流の機会を持つことで地域に溶け込む活動ができた。「質の高いサービス提供」への取り組みとして、2015 年度より懸案事項であった入院や事故等のリスク管理の改善に取り組んだ。看護、介護、相談の各部門の連携を強化し、職員の技術や意識向上を目的とした取り組みにより、入院や事故件数等の減少は見られた。引き続き安全性向上のための意識、システムの強化に取り組んでいきたい。神戸市への営業活動や障害福祉サービスとしての短期入所事業の開始、看取り件数の増加等において 2016 年度は成果を上げたが、重度かつ多様なニーズをもつ利用者へ、よりきめ細かなサービスが今後も求められている。淡路栄光園の人財である職員一人一人の働きがい、未来志向を大切にしながら、その技術、意識、システムをさらに究めていきたい。

１.「人財育成」を軸とした質の高いサービスを提供する

（ア）目標参画システムや各種ラダーを軸に、年間の研修計画を実行し技術向上に効果を得た。

（イ）プリセプターの役割を強化し、新人職員を中心とした職員個々の介護技術の評価、向上に効果を得た。プリセプターの教育力、伝達力が継続課題である。

（ウ）利用者の安全確保を目的に超低床ベッド、手すりや見守りセンサー設置等のハード面とリスクに関する会議や研修等を通じソフト面の強化を図り、2015 年度比で入院及び事故件数は減少した。

（エ）利用者アンケートを通じ、ニーズの把握やサービスの課題を抽出し、改善を実施した。

（オ）喀痰吸引等研修 2 人修了。介護職員初任者研修 1 名修了。認知症介護実践者講習 1 名修了。

（カ）地元歯科医とのカンファレンスを実施した。栄養課では、特別な食事や酵素を使った新たな食形態の導入により食の楽しみと安全性の両面を向上した。

（キ）介護福祉士実務者研修 1 名修了。介護福祉士 1 名合格。

（ク）通所介護事業で認知症実践者講習へ職員を派遣した。11 月より認知症加算を算定開始。

２．施設経営の安定化

（ア）聖隷淡路病院と入院後の早期カンファレンスを積極的に実施し、早期退院に効果を得た。下半期に入居者の退所が急増し空床管理に追われる状況があり対応力向上が課題である。

（イ）神戸市への営業を強化。同地域より入所、ショートの利用者確保（4 名）を受入。

（ウ）島内の高等学校への挨拶回りを実施し、介護職員 1 名を確保した。

（エ）通所介護において認知症加算は算定開始。口腔ケア加算等の取得に向けた体制を整備。

（オ）生活相談員の利用前訪問に看護、介護職員の同行を増やし、重度利用者受け入れを強化。

（カ）緊急用の自家発電機の整備不良を発見し、タンク及び機器の修繕を実施した。

３．淡路地区における事業連携強化

（ア）淡路エリア会議をもとに、島外営業活動等の具体的な取り組みを実施し成果を得た。

（イ）園内学会開催及び法人内学会で実践発表。聖隷淡路病院との交換研修（2 人）。

（ウ）生きがい対応型デイサービス（介護保険外低額サービス・介護保険非該当者対象）

４．将来計画への取り組み

（ア）今後の介護保険事業の展開について情報収集し、各会議体での共有を実施。

（イ）障害福祉サービスの短期入所事業の指定を受け、サービス開始にむけ体制を整備。

５．環境対策への取り組み

（ア）環境対策への取り組み

①LED 工事調査を完了。工事に向けた体制を整備した。

②給湯設備を灯油燃料からエコキュートに切り替え、光熱水費を約 20%削減した。

６．地域における公益的な取組

（ア）「体験型介護講座」及び「認知症予防講座」を他法人と共同開催（延べ 175 名・6 日間）し、職員を講師派遣。ひょうご介護サポーター養成講座（延べ 2 名・1 日間）を開催。

（イ）岩屋地域サロンにデイ利用者と職員が参加（今年度 3 回）、地域交流を図った。

（ウ）兵庫式 24 時間 LSA 地域見守り事業を積極的に推進し、利用者も増加（6→8 件）。
配食サービスを地元業者への委託に変更し、共同して地域の見守りを強化。

【数値実績】

特別養護老人ホーム・通所介護・地域密着型サービス

	淡路栄光園		デイサービスセンター	
	特養入所	短期入所	通所介護	
	従来型		一般	介護予防
利用者定員	60 名	17 名	35 名	
利用者延数	21,435 名	4,948 名	7,309 名	1,076 名
一日平均利用者数	58.7 名	13.6 名	21.8 名	3.2 名
稼働率（%）	97.8%	80.0%	71.4%	
稼働延日数	365 日	365 日	336 日	
単価（一人一日）	11,258 円	11,105 円	8,803 円	
サービス活動収益	241,573 千円	55,282 千円	73,360 千円	
職員数（常勤換算）	36.8 名	8.5 名	12.5 名	

淡路地区在宅複合事業

聖隷訪問看護ステーション淡路
聖隷ケアプランセンター淡路第二

2016年度、聖隷訪問看護ステーション淡路は津名サテライトを改修し本拠地として移転し、聖隷ヘルパーステーション淡路の津名サテライト、聖隷ケアプランセンター淡路第二を同地に開設した。今後も地域の方々から選ばれる医療と介護のワンストップサービスの拠点として在宅事業を充実させていく。

1、訪問看護事業（聖隷訪問看護ステーション淡路）

（ア）土日、祝日の営業開始・24時間緊急連絡体制の強化

広域で効率的な訪問体制を構築する為、地区別チーム体制とし、緊急対応等での協力体制を構築した。これにより、重度者への頻回訪問や看取り等柔軟な対応が容易となり、医療依存度が高い方への訪問実績が増加した。

（イ）積極的な看取り対応

関連医療機関との連携により、積極的治療を終え在宅療養を選択された方々のサポートをを密に行うことができ、在宅での看取り件数が昨年比約35%/増加した。(28件/年)

（ウ）多職種連携推進

地域の居宅介護支援事業所や開業医等の関係者を対象とし、講演会や研修会を計4回実施し、参加者から好評を得た。それにより、顔と顔の見える関係づくりが行えた。

（エ）地域における公益的な取組

①関西看護医療大学実習生・兵庫県立淡路医療センター看護師在宅実習受け入れ
②淡路市立中田小学校・淡路市立生穂小学校・東浦中学校・塩田保育所への医療的ケア訪問
③グループホームへの定期医療連携訪問
④地域からの相談対応を随時受け入れ

2、居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター淡路第二）

（ア）医療的サポートが必要な方への迅速な受け入れ

訪問看護併設の強みを活かし、末期状態等での早期対応を実施した。

（イ）津名・一宮地区、洲本市での利用者確保

看護師の介護支援専門員が在籍している事業所としての強みを活かしていく。

【数値実績】

	予算	実績	予算比	2015年度比	ｻｰﾋﾞｽ活動収益
医療訪問件数	2,370件	3,495件	147.5%	149.9%	35,463千円
介護訪問件数	10,884件	10,326件	94.9%	98.6%	78,562千円
ｹｱﾌﾟﾗﾝ請求件数		96件			1,320千円

聖隷ヘルパーステーション淡路

2016 年度、当事業所は津名サテライトでの職員体制を整え、移動などに伴う業務上のロスを削減するとともに、新たな地区での新規受け入れにも随時対応した。結果、津名地区の利用者は 5%増となったが、岩屋地区の利用者減もあり予算は未達となった。

1、地域で選ばれる事業所になる

（ア） 職員教育充実については、4 月～6 月淡路栄光園への業務応援の機会があり、職員個々が身体介護のスキルアップを図ることができた。
また、同行援護研修に 4 名参加することにより、視覚障害者の受け入れ態勢を充実させた。

（イ）市内 3 地区の地域ケア会議に毎月参加し、各居宅介護支援事業所、地域包括支援センターとの連携を強化した。また、事業所パンフレットを更新し、配布した。

（ウ） 聖隷訪問看護ステーション淡路との共通利用者の情報共有を徹底し、相互の役割を確認しながら支援し、ケアマネジャーへのアピールへと繋げることができた。

（エ） 利用者ニーズの多い早朝、夕方訪問に随時対応できた。反面、対応し得る職員数が少ないことが今後の課題である。

（オ） 2017 年 4 月、予防給付の利用者全員が「介護予防・日常生活支援総合事業」に移行することから、新総合事業に対応すべく受け入れ態勢を整備した。

2、業務管理の徹底

（ア） 津名地区での職員体制と効率的なスケジュール管理を行うことができた。
山間部の訪問先が多く、今後も訪問スケジュールの効率化を進める必要がある。

（イ） サービス向上の為、利用者のモニタリング、評価の徹底をサービス提供責任者で共有し、『訪問介護計画書』の書式を変更できた。

（ウ） 加算要件の一つである利用者カンファレンスの実施を意識して行えた。

（エ） 登録ヘルパーが 2 名増員でき、稼働率がアップした。

3、地域における公益的な取組

（ア） 地域行事のボランティアに参加。

（イ） 淡路精神福祉大会の講師、パネラーとして参加。

【数値実績】

	予算	実績	予算比	前年比	サービス活動収益
介護給付訪問件数	13,905 件	13,844 件	99.6%	104.0%	45,860 千円
予防給付利用者数	645 名	658 名	102.0%	86.8%	12,457 千円
自立支援訪問件数	5,589 件	5,035 件	90.1%	100.5%	20,703 千円
移動支援訪問件数	991 件	897 件	90.5%	109.8%	1,897 千円

奄美佳南園

特別養護老人ホーム奄美佳南園・デイサービス・ホームヘルプ事業所
訪問入浴事業所・在宅介護支援センター（居宅介護支援事業）・春日デイサービス

2016 年度は、介護老人福祉施設を中心とした高齢者介護機能の強化、在宅介護支援センターを中心とした奄美市地域生活支援事業への貢献及びニーズの発掘、障害福祉サービスの一層の充実に向けての活動強化、の 3 点を主軸として事業活動を展開した。その結果、龍郷町における児童発達支援事業所「聖隷かがやき」の事業開始、奄美市における在宅機能（一部）の市街地移転、奄美佳南園特養 30 床ユニット化改修事業の認可、就労支援事業所「聖隷チャレンジ工房カナン」の開設準備に取り組むことができた。一方、自立した福祉人材の育成やサービスの質の向上、効率化・機会損失低減対策といった面では課題が残り、引き続き内部強化を促進していかなければならない。

また、事業面では高齢者・障害者・障害児の各相談支援機能及び受付機能の再構築、「聖隷かがやき」の児童発達支援センター化が当面の大きな課題であり、今後も実現に向けて取り組みを継続する。そして、2017 年度以降も奄美エリアの事業価値を一層高め、年齢や障害の有無にかかわらず、安心して暮らせる地域づくりに貢献していきたい。

１．利用者の尊厳を守るケアの実践

（ア）重度要介護者に関する専門スキルを高めるために、医療的ケアやターミナルケアに重点を置いた人材育成を推進し、喀痰吸引研修受講者を増加させた。

（イ）利用者が求めるケアの実現を図るために、利用者の尊厳を第一としたホスピタリティの向上を図るとともに、在宅ターミナル期利用者の受け入れを開始した。

２．利用者が安心で安全な生活を送ることができるケアの実践

（ア）特養の空床を活用し、自閉症など新たな障害者短期入所ニーズの受け入れを開始した。

（イ）利用者と職員が共に安心できるために夜勤シフトの安定化に取り組み、夜勤遂行可能な職員を育成し増加させることができた。

３．奄美エリアにおける事業拡大と安定した運営基盤の構築

（ア）施設入所サービスの価値の向上と経営基盤の強化を図るために、特養 30 床ユニット化改修事業に着手した。

（イ）障害児・者福祉の向上のために、龍郷町において児童発達支援事業所「聖隷かがやき」開始し、また奄美市において障害者就労支援事業所「聖隷チャレンジ工房カナン」の開設準備をおこなった。

４．地域における公益的な取組

（ア）周辺自治会・老人クラブの方々を定期的に招いて見学会・意見交換会の機会を設けた。また、春日デイサービスセンターを活用して「ゆてぃもれ会」を開催し、高齢者等の居

場所づくり・生き甲斐づくりに努めた。

（イ）県の社会福祉協議会と協働して、学生を含む一般市民向けの福祉施設見学会を開催し、幅広い層の方々との交流機会を持つことができた。

５．次世代を担う自立した職員の育成

（ア）奄美地区相談員基礎研修を実施し、ラダーの本格運用のための基礎を構築した。

（イ）奄美エリア役職者をファシリテーターとした各階層別研修（新入職員研修）を企画・実施した。

【数値実績】

	特養入所	短期入所	通所介護（佳南園）		配食サービス
			一般	予防	
利用者定員	80名	10名	20名		
利用者延べ数	27,556名	3,279名	4,422名	379名	19,281名
稼動延べ日数	365日	365日	365日		365日
一日平均利用者数	75.50名	8.98名	12.12名	1.04名	52.82名
稼働率	94.38%	89.8%	60.6%	0.05%	
単価（1人1日当り）	11,333円	10,805円	9,469円	5,517円	605円
サービス活動収益	312,285千円	35,430千円	41,870千円	2,091千円	11,660千円
職員数（常勤換算）	58.8名		10.7名		2.9名

	在宅介護支援	ケアプランセンター		ヘルパーステーション		
		一般	予防	一般	予防	障害
利用者定員						
利用者延べ数		805名	183名	4,579名	1,115名	1,914名
稼動延べ日数	365日	261日	261日	365日	365日	365日
一日平均利用者数				12.55名	3.05名	5.24名
稼働率						
単価（1人1日当り）		16,138円	3,918円	3,203円	3,781円	3,013円
サービス活動収益	5,958千円	12,991千円	717千円	14,667千円	4,216千円	5,766千円
職員数（常勤換算）	1.1名	3.0名		6.7名		

	訪問入浴		通所介護（春日）	
	一般	（障害）	一般	予防
利用者定員			15名	
利用者延べ数	526名	190名	2,077名	1,593名
稼動延べ日数	313日	313日	313日	
一日平均利用者数	1.68名	0.61名	6.64名	5.09名
稼働率			44.27%	33.93%
単価（1人1日当り）	14,814円	11,195円	10,105円	5,772円
サービス活動収益	7,792千円	2,127千円	20,988千円	9,194千円
職員数（常勤換算）	2.6名		5.8名	

のぞみ園

2016 年度、のぞみ園は開園から 20 年を迎え、児童発達支援センターとして更なる機能の充実を図ることを目標に事業を展開することができた。奄美地域における早期療育の支援を求める声は依然として高く、その多くの声に応えるべく、放課後等デイサービス事業の定員変更（15 名→20 名）、保育所等訪問支援事業を活用した業務連携の強化、聖隷かがやきの開設に向けた協力と業務連携、相談支援ソフトの活用など、年間を通して取り組み、安定した事業運営ができた。

その一方で、支援の質の向上や職員の採用と職場への定着、長期休暇中の子ども達の受け入れ体制をどのように行っていくのかなど、今後取り組まなければならない課題も多い。また、地域に新たな事業所の開設もあり、児童発達支援センターとして、これまで以上に地域支援・施設支援の機能が求められている。これまでの経験や事業実績を基礎として、児童発達支援センター機能の柱である「子ども達への支援」「保護者への子育て支援」「地域支援」を更に強化していきたい。

【事業実績】

１．児童発達支援センターとしての機能の充実

（ア） 個別支援計画を意識した支援体制作りは行えたが、よりその子の発達をとらえるためのアセスメントを今後どのようにしていくのか、また、児童発達支援管理責任者の負担・仕事の分担をどのようにしていくのかが今後の課題である。

（イ）相談支援との連携強化、個別の相談・面談体制の充実、そして、保護者会と協力しての家族と地域の合同行事の開催により、子育て交流や地域交流を深めることができた。また、満足度調査とサービス自己評価を実施することができた。

（ウ）事業説明の訪問や担当者会を通して、地域の支援施設との関係構築を行うと同時に、市町村・県の事業へ複数職員を派遣し、地域との連携強化・支援体制作りを進めることができた。しかし、学校関係との連携が難しく、教育委員会との連携強化を図り、更なる支援体制作りを進めていく必要がある。

（エ）関係機関との連携のもと、職員研修を行うことができた。しかし、意図する専門職の配置、日々の振り返りの徹底した実施には至らなかったため、引き続きこれを進めていく。また、自施設における職員育成体系作りにも力を入れていきたい。

（オ）地域住民との合同訓練の実施や座談会による施設の役割の模索など、協力体制の構築に向けた取り組みを行うことができた。今後も更なる連携強化を進めていく。

２．新たな事業展開と加算取得への取り組み

（ア） 聖隷かがやきの開設に伴う龍郷・笠利地域の子ども達の引き継ぎや業務連携を行い、より広域で支援を提供できる体制作りに参画することができた。

（イ） 相談支援ソフトの活用による業務の効率化アップと奄美佳南園との事務連携によるデータ管理により、多くの利用者を受け入れるための体制強化を進めることができた。

しかし、総合相談窓口の開設については、人材の確保も含め十分な取り組みができなかった。2017 年度もエリア内の各施設と協議しながら、開設にむけた取り組みを進めていきたい。

（ウ） 2017 年度の就労支援事業所の開設へ向け、奄美エリア各施設と連携して取り組むことができた。今後も地域ニーズに応えていける体制作りを進めていきたい。

（エ） 加算取得に向けた帳票の作成と勉強会の開催をすることができた。今後、保護者へ説明会を実施し、必要な加算取得に取り組んでいく。

３．人材育成

奄美エリアでの階層別研修の実施、外部研修への職員派遣と他施設見学など、年間を通して人材育成に取り組むことができた。また、事業団の業務支援を通して、支援体制の見直しや職員研修の取り組みを行うことができた。

４．地域における公益的な取組

親の会や親子のふれあい行事、のぞみ園卒園児の成人式開催など、地域との交流や子育て支援を目的とした取り組みを行うことができた。

【数値実績】

	児童発達支援	放課後等デイサービス	保育所等訪問支援	相談支援事業	
				障害児	特定相談
利用者定員	25 名	20 名			
利用者延べ数	6,320 名	4,123 名	45 名	547 名	13 名
稼働延べ日数	238 日	241 日	238 日	238 日	238 日
一日平均利用者数	26.55 名	17.11 名	0.19 名	2.30 名	0.05 名
稼働率	106.2%	85.55%			
単価（1 人 1 日当り）	11,878 円	5,797 円	12,089 円	16,194 円	26,231 円
サービス活動収益	75,070 千円	23,902 千円	544 千円	8,858 千円	341 千円
職員数（常勤換算）	13.8 名	6.5 名	0.9 名	2.0 名	

春日保育園

定員 120 名のスタートとなり入所の受け入れを市と協議しながら進めていった。0 歳児の希望が増え、クラス運営の在り方を検討しながら受け入れることができた。

保育学会では、「あいさつ・つながる・えがお」と題し取り組んだ実践は、まさに家族を巻き込み人と人が心を通い合わせる第一歩となった。また、核家族化が進む中、子育て支援が必要な保護者が増え、行政機関と連携をとる体制作りを行いしっかり繋がるように関わっていくことが必要であると感じた。

乳児期からの丁寧な発達の積み上げをしっかり行うことで人間形成が育成されていくことを重視し取り組んだ 1 年だった。また地域の方に素話を聞いたり、奄美の豊かな自然と文化を小さな時から経験させたりすることで豊かな感性を育むことに繋がっている。今後も継承していきたい。

１．入所状況

114 名でスタートし、ニーズの高い 0 歳児を多く受け入れ、月平均 121 名の園児数であった。

２．重点目標及び重点施策への振り返り

（ア）保育の質の向上

①継続した取り組みとして保育理念を共有するためにキリスト教保育指針・保育ハンドブックを学ぶことで、共通理解が深められた。

②発達の学習会や個別のカンファレンスを行うことで、職員間の共有と実践が出来た。

（イ）地域との連携・交流

①地域の保育所、小学校の交流や、中学校、高校の職場体験の受け入れ及び看護福祉専門学校・養成校の実習受け入れを行う。事業団施設との交流を行った。（夏まつり・運動会・敬老の日・クリスマス会・ソーメン流し等）

（ウ）食育と環境教育

①野菜の苗や種を植えることで、成長を経過観察しながら楽しみ収穫することで感謝の気持ちを育むことができた。

②クッキングを通して、作ることや食べることの喜びを感じることができた。

（エ）統合保育と他機関との連携

①親子教室の利用園児は 9 名であった。保健師・職員と一緒に保育園で開催することにより、親子の支援が十分にでき、職員も実践を通し学びが大きかった。

②のぞみ園並行児は 8 名在園し、情報交換を行い、連携した支援に繋がることができた。

（オ）身体能力推進

①リズムあそびや体操教室を行い身体能力を高めることができ、自信と意欲が育った。

（カ）地域における公益的な取組

①園庭開放を実施し、地域の親子が天気の良い日に利用し親子支援ができた。

②実習生を積極的に受け入れた。

③広報誌を配布し、行事の参加を呼びかけ、多くの地域の幼児が足を運んだ。

④同法人の高齢者との交流を行う機会を多く持った。

【数値実績】

①歳児別入所保育児童数(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	5	6	8	11	11	11	11	12	13	15	16	16	135	11.3
1歳児	18	18	18	17	17	18	18	17	17	17	17	17	209	17.4
2歳児	19	21	23	23	23	21	21	21	22	22	20	20	256	21.3
3歳児	25	25	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	310	25.8
4歳児	24	23	23	23	23	22	22	22	22	22	22	22	270	22.5
5歳児	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	276	23.0
計	114	116	121	123	123	121	121	121	123	125	124	124	1456	121.3

②保育日数及び出席状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延べ人数(名)	2272	2275	2650	2464	2236	2207	2407	2500	2303	2233	2378	2568	28,493
保育日数(日)	24	23	26	26	26	24	25	24	23	23	23	26	293
一日平均(名)	94.7	98.9	101.9	94.8	86.0	92.0	96.3	104.2	100.1	97.1	103.4	98.8	97.2

③職員の状況(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正)	9	9	9	9	9	9	9	8	8	8	9	9
調理師・栄養(正/パ)	1/3	1/3	1/3	1/3	1/3	1/3	1/3	1/3	1/3	1/3	1/3	1/3
事務員(パ)委託	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育パ・/保育補	14	14	14	14	14	14	14	14/1	14/1	14/1	14/1	14/1
合計	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	30	30

聖隷かがやき

2016 年 6 月に龍郷町りゅうゆう館にて児童発達支援事業・保育所等訪問支援事業を開始し、その後 7 月に久場集落集会場に移転して、龍郷町を中心とする北大島地区での療育の向上に尽力した。また、のぞみ園における 20 年間の経験・実績もあり、開設半年で定員を満たす状況となった。人員体制や設備環境など充分でない面もあるが、龍郷町役場・保健師・関係機関等の理解と協力、聖隷内での様々なバックアップ、そして何よりも龍郷町での療育事業の開始を切望していた利用者家族からの喜びの声に支えられながら事業を進めることができた。その一方、保育所等訪問件数や療育の質の向上、人材の発掘と育成、修了児（就学児）に対する持続的な療育支援体制の構築など、今後更に強化していかなければならない課題も明確になった。そのため、開設初年度の経験や事業実績を足掛かりに、現在利用している児童や今後利用する児童に対して、これまで以上に質の高い療育を提供できるよう法人内施設と連携を強化し、児童発達支援センター化を目指して事業を成長させていきたい。

１．児童発達支援事業の療育の質の向上のために、個別の支援や家族等との連携に取り組む

（ア）保護者との良好な関係構築・維持に努め、個別の発達段階に応じた支援計画作成に活かすことができた

（イ）小規模（定員 10 名）であることを活かして保護者の参加機会を定期的にもつことができ、家族に子どもの成長を感じていただくことができた。

（ウ）親子通園や個別面談等を通して、子育ての悩みを話せる場の機会づくり・環境づくりを行った。参加が少ない方もあり、今後どうアプローチしていくかが課題である。

２．地域との連携を強化する

（ア）保育所等訪問支援の要望に、充分な対応ができなかった。経験の浅い職員の育成強化や、地域内療育等支援活動などの業務バランスを見直しつつ、今後もっと保育所等訪問支援に対応できるようにしていく。

（イ）地域で開催される母子保健・健康教室に定期的に参加でき、早期療育につながるケースもあった。今後はできるだけ多くの職員が参加できるよう計画的に取り組んでいく。

（ウ）主要イベントをのぞみ園と合同開催にすることで、経験の浅い職員の育成に活かすことができたが、合同研修の機会が不足しているため、今後計画的に企画・実施していく。

３．就学児童への療育支援が途絶えることがないように放課後等デイサービスを開設する

（ア）就学児童個別の成長に応じた放課後等デイサービスプログラムの作成に着手したが、完成には至らなかったため、引き続きこれを進めていく。

（イ）放課後等デイサービスの開始に必要な人員体制等の構築に至らなかったため、次年度も継続的に取り組み、早期に開始できるよう計画を推進していく。

４．職員が成長できる体制の確立に取り組む

（ア）保護者・職員・関係機関と連携してペアレント・プログラム研修を開催できた。

（イ）奄美エリア聖隷福祉学会への参加等により、職員交流の機会をもつことができた。

【数値実績】

	児童発達支援	保育所等訪問支援
利用者定員	10 名	
利用者延べ人数	1,537 名	24 名
一日平均利用者数	7.88 名	0.12 名
稼働率	78.8%	
稼働日数（延べ）	195 日	195 日
単価（一人一日当り）	9,966 円	12,333 円
サービス活動収益	15,317 千円	296 千円
職員数（常勤換算）	3.9 名	

沖縄地区在宅複合事業

聖隷訪問看護ステーションゆい
聖隷居宅介護支援センターゆい

2016 年度沖縄地区在宅複合事業では、関係機関との連携に努め、地域の認知度は上がりつつある。しかし、職員の退職により新規依頼を受けられない状況となることも多かった。職員が定着するよう工夫するとともに、自宅で過ごしたい方がその生活を継続することができるよう、2017 年度には聖隷デイサービスセンターゆいを開設する予定である。

１．訪問看護事業（聖隷訪問看護ステーションゆい）
（ア）併設居宅介護支援事業所との連携により、毎月 23 名程度の利用者が確保できた。
（イ）カンファレンスの参加や書類等の提出にはできるだけ病院や施設に足を運ぶようにすることで、新規依頼の際、顔の見える連携ができるようになった。
（ウ）研修への参加やカンファレンスなどでの話し合いにより、少しずつ予防的な視点での訪問看護サービスの提供が実践できるようになっている。
（エ）嘉手納町高齢者生きがい健康つくり推進事業や地域の講演やシンポジストとして参加することにより地域での認知度は上がっている。
２．居宅介護支援事業（聖隷居宅介護支援センターゆい）
（ア）2016 年度は地域包括支援センターよりも病院からの新規依頼が多かった。しかし年度途中での職員の退職があり、新規依頼を断るケースが多く利用者数は伸びなかった。
（イ）人員の確保が難しく、研修への参加やカンファレンスも定期的に行うことが難しい状況であった。職員が定着する職場つくりを推進していく必要がある。
３．地域における公益的な取組
（ア）北部地区医師会北部看護学校の看護学生実習や琉球大学医学部附属病院の看護師実習等を受け入れた。
（イ）沖縄県介護保険広域連合区在宅医療・介護連携推進事業における在宅医療・介護連携推進会議の委員として活動した。

【数値実績】
１．訪問看護事業（聖隷訪問看護ステーションゆい）

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価	業務委託/月	サービス活動収益
23 名	137 件	1,513 件	9,070 円	72,000 円	15,803 千円

２．居宅介護支援事業（聖隷居宅介護支援センターゆい）

年間請求件数		平均単価		サービス活動収益
介護	予防	介護	予防	
312 件	330 件	10,700 円	4,300 円	4,975 千円

聖隷こども園わかば

2016 年度、聖隷こども園わかばの施設整備事業は、保育室の増築に加え、厨房及び事務所の改修、既存施設で修繕等が必要な箇所の工事も同時に行った。浜松市の待機児童解消の要望に応える形で、量の拡大に寄与することができると共に、職員にとっても働きやすい職場環境につながった。保育士不足が叫ばれる中、在宅・福祉サービス事業部及び人事企画部との連携により、年度当初より保育士の確保が十分に行えた為、ニーズの高い 0 歳児の受け入れを積極的に行うことができた。また、平均入所率も定員 150 人に対し、定員変更 2 年目で 102%となり、経営的にも安定した運営につながった。

もう一方、子ども・子育て支援新制度においては保育の質の向上が求められており、より質の高い教育・保育を行っていくために具体的な取り組みを推進した。職員一人ひとりが保育の質の向上を意識し、職場内及び外部研修への参加、保育環境の見直し、学びをいかした実践に取り組めたことは有意義であった。また、目標参画・保育士ラダーによって、保育者自身の課題が明確化され、具体的な目標をもって保育実践を行っていく事ができ、保育士の資質向上においても有効であった。今後は、更なるキャリアアップにつなげられる取り組みを進め、職員の仕事に対するモチベーションを向上させたい。また、新人職員が多くなる中、事業団の階層別研修や保育士初任者研修を活用し、今後の人材育成へとつなげていきたいと考える。

2017 年度は定員 200 人となり、施設の規模が大きくなる中、子どもたちの最善の利益を考え、質の高い教育・保育の提供ができるよう保育内容の充実を図りたい。

１．　入所状況

年間平均入所率は 102.1%

途中入所は 0 歳児 10 名　1 歳児 1 名　2 歳児 1 名　転居により 1・2 歳児各 1 名途中退園

２．　重点目標及び重点施策への取り組み

（ア）より質の高い教育・保育を実践するための保育環境整備

乳幼児期は環境を通した教育・保育が重要であり、子どもが自ら様々な発見をすることのできる環境設定、継続して遊びを繰り広げることのできる環境作りを目指し、子どもの姿をより丁寧に見ながら職員一丸となり園内研修を進めることができた。そして、継続した取り組みを保育学会の場で発表し、講師からの助言や他園での実践を生かし更なる創意工夫を続けたい。

（イ）保育職としての専門性を高める

目標参画・保育士ラダーの取り組みを通して、職員が自己の課題を明確にし、業務に取り組むことで資質向上につなげることができた。また、職員の自己評価を集計し、自園の強み・弱みを明確にしながら、課題に対しては改善に向けて話し合いを行い、公表を行った。

（ウ）子育て、親育ての支援

懇談会・面談・書面等を通して園の教育方針、保育理念、発達に応じた子どもの育ち、必要な大人の関わり等を分かりやすく保護者に発信するよう努めた。

子育て支援ひろばでは、年間を通して多くの子育て親子が参加した。常設のひろば・妊婦支援・孫支援・発達に不安のある子どもへの支援のほか、週 1 日は地域に出向いた出張ひろば等も行った。特に、相談事業に力を注ぎ、地域の子育て家庭を支援する地域の拠点として

の役割を微力ながら果たしていると感じた。

（エ）独自の取り組み

①食育

日々の食事体験を大切にするとともに、管理栄養士を中心に子ども・保護者に向けた食への意欲・関心を育てていく取り組みを継続的に行った。

また、厨房改修が行われた２ヶ月間、近隣の聖隷福祉事業団の施設の協力を得て、安全面に十分配慮し給食を提供することができた。

②病児保育事業（病後児型）

園内･園外共に多くの子どもの登録があり､2016年度は年間を通して利用者が多かった。また、病後児保育室便りを毎月発行し地域へも配布するなど新しい取り組みも行い、病後児保育室を広く認知してもらうき機会となったとともに､感染症予防の啓蒙活動ができた。

（オ）公益的事業

地域性を活かし、近隣施設との交流や、学生の受け入れ等を通して、世代間が交流できる機会を積極的に設けることができた。

園庭の開放や、電話による育児相談を行った。

【数値実績】

① 歳児別入所児童数（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	11	12	14	16	18	18	19	20	20	20	21	21	210	17.5
1歳児	24	24	23	24	24	24	24	24	24	24	24	24	287	23.9
2歳児	27	27	27	27	26	27	27	27	27	27	27	27	323	26.9
3歳児	29	30	29	30	30	30	30	30	30	30	30	30	358	29.8
4歳児	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	336	28.0
5歳児	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	324	27.0
合計	146	148	148	152	153	154	155	156	156	156	157	157	1,838	153.1

② 保育日数及び出席状況（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数	2822	2562	3095	2857	2628	2405	3163	2720	2861	2691	3115	3043	33,962	2,830
保育日数	25	23	26	25	26	24	25	24	23	23	23	26	293	24.4
１日平均	113	112	119	114	101	100	127	113	124	117	135	117	1392	116
一時預かり	0	6	7	10	11	16	15	13	16	13	17	16	140	11.6
病後児保育	9	18	30	24	10	31	17	31	22	5	21	19	237	19.75

※一時保育利用者は延べ140名、延長保育利用者延べ1520名、病後児保育室利用者は延べ237名

③ 職員の状況（名）11月より育休明け復職１名（保育士）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正)	19	19	19	19	19	19	19	20	20	20	20	20
保育士(パ)	14	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13
看護師（正）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理師（正・パ）	0･4	0･4	0･4	0･4	0･5	0･4	0･4	0･4	0･4	0･4	0･4	0･4
事務員・用務員	1･1	1･1	1･1	1･1	1･1	1･1	1･1	1･1	1･1	1･1	1･1	1･1
管理栄養士	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士助手	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計（換算数）	43	42	42	42	43	42	42	43	43	43	43	43

聖隷こども園桜ヶ丘

2016 年度は、定員が 30 名増加して 190 名となった。幼児クラスへの新入園児は少なく、2016 年度は定員を下回る園児数であった。1、2 歳児クラスへの入所希望は多いが、その年齢の枠を広げることが難しく待機児童解消に向けての課題はまだまだ多い。しかし、地域とのつながりの中で、一時預かり希望の子どもを年間通して受け入れることができたのは、職員にとっても大きな自信となり、社会福祉施設としての役割を改めて考える良い機会となった。

また、2016 年度も保育士ラダーや様々な勉強会を通して、質の高い保育をめざして実践を行ってきた。保護者の要望も多様化する中で、保護者支援はもちろんのこと、子どもの最善の利益につながることは何かを職員が理解し、保護者と一緒に考えることを今後も大切にしたい。

定員数が増えたことで、保育、行事等の細かな運用についても話し合いが多く持たれた年であった。2017 年度は実践できる環境を整えていきたい。

１．入所状況

4 月は 163 名でスタートした。兄弟枠で 0 歳児入所はほとんどが埋まってしまったが、職員の急な欠勤、退職等により全体的に十分な受け入れが行えなかった。3 月末には 176 名の入所児童が在園した。障がい児は一般 2 名、食物アレルギー児は 4 名の認定があった。

２．事業目標・重点施策への取り組み

（ア）質の高いサービスを提供する

①外部研修で学んだことを報告し合い、個々の学びを園全体の保育に生かすように心がけた。

②園内研修では「わらべうた」「環境」のグループに分かれ、それぞれに研究を深め保育実践に生かし、行事を通じて親子で楽しんだ。

（イ）安定した運営の意識を持つ

①一時預かり事業への問い合わせが多く、可能な範囲での受け入れを行ってきた。年間を通じて定期的に預かる子どももいたが、緊急の受け入れは困難であった。

②親子ひろばに継続的に参加する家庭が増え､2016 年度の入園につながった家庭もみられた。

③職員一人ひとりが省エネルギーやエコロジーに意識を持つことは今後も課題である。

（ウ）保育資源の活用、育児支援及び地域における公益的な取組

①地域の自治会やシニアクラブの方と年間を通した関わりが持てた。年々、保護者の理解も得られるようになり、行事に参加する方が増えた。子どもたちも名前や顔を覚えて共に過ごすことを喜び、世代間交流の良い機会となった。

②小・中・高校生の就業体験受け入れ、看護及び保育学科の実習受け入れを積極的に行ってきた。また、年長児の小学校体験等の受け入れを行ってもらうことができた。しかし、就学への理解、教育についての職員の学びという視点では課題が残った。

（エ）食育への取り組み

隣家からお借りしている畑で季節の野菜を栽培し、子どもが中心となって世話や収穫、クッキングを行い、食への興味を深めることができた。

（オ）保育環境および施設整備

西側通路に農機具小屋を設置、面談室内に書棚を設置することで園内外の環境を少しずつ整えることができた。定員増に伴い、様々な環境の見直しが今後の課題である。

【数値指標】

① 歳児別入所保育児童数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
0歳	8	9	10	11	12	13	14	16	16	18	18	18	163	13.5
1歳	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	360	30.0
2歳	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	360	30.0
3歳	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	420	35.0
4歳	33	33	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	406	33.8
5歳	30	30	30	30	30	29	29	29	29	29	29	29	353	29.4
合計	166	167	169	170	171	171	172	174	174	176	176	176	2062	171.8

② 保育日数及び出席状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延人数	4150	3841	4394	4250	4446	4104	4300	4176	4002	4048	4048	4576	50,335
保育日	25	23	26	25	26	24	25	24	23	23	23	26	293
日平均	166	167	169	170	171	171	172	174	174	176	176	176	2,062
一時預かり	8	8	15	11	2	12	11	9	7	8	11	11	113
延長保育	65	65	56	60	56	87	69	60	63	44	71	69	765

③ 職員の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正/ゾ)	5/14	5/14	5/14	5/14	5/13	5/13	5/13	5/13	5/13	5/13	5/13	5/12
保育士(パ)	8	8	9	9	9	9	9	10	10	10	10	11
准看護師(パ)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
調理員(パ)	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
事務員(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
その他	5	5	5	5	5	5	5	4	4	4	4	3
派遣保育士	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合　計	39	39	40	40	39	39	39	39	39	39	39	38

聖隷こども園ひかりの子

2016 年度は、女性の社会進出・子育て等の課題やニーズに対応するため、役割を見極めすべきことを推進した。その一つとして浜松市の待機児童解消の一端を担い、さらに 2017 年度の定員増（150 名⇒230 名）を視野に入れ、定員を上回る園児の受け入れを行った。また、増築工事は年度途中から 3 月中旬まで実施したが、地域・保護者の皆様に工事の状況を正確に伝え理解を得ながら推進した。3 月末日に、内覧会を無事に迎えることができたのは大きな喜びであった。

保育・教育の内容についても、あらためて職員間で考え合う機会となり変革の年となった。子どもを中心におきながら、安全・安心な環境の中で主体的に生活・遊び（行事等）を行うために必要な内容・環境は何かを問いながら改善していった。2016 年度の準備期間を終え、2017 年度は定員・職員・保育室の数が増える。今以上に職員間の協働性が重要となるため、施設の目指すべき方向性を共有しながら築き上げていきたい。また、保育運用の ICT 化を活用して記録業務の効率化を図りながら、ワークライフバランスを目指していきたい。

１．入所状況と保護者支援

4 月新入園児 24 名、年度途中新入園児 23 名のうち、育休明け 0 歳児 13 名、1 歳児 6 名、3 歳児 2 名、年度途中退園児 4 名となり、年間入園率は、105.9%であった。

２．重点目標及び重点施策への取り組み

（ア）保育の質の向上

①統合保育の実践

障がい児 3 名及び発達的に気になる児童（特別な援助を有する）4 名がそれぞれの保育室で集団生活を行えるように、他機関との連携を密に図った。浜松市発達支援センターの巡回事業を 2 回利用し、具体的なアドバイスを頂く。その内容を学習会や会議の中で、共有し担任だけでなく、職員全員が同じ対応を行えるようにした。平行通園や療育に通っている児童に関しては、見学や情報共有を行いより適切な援助を行った。

②保育及び教育の工夫と改善

増築工事により環境面で制限があったため、職員同士の話し合う提案の場を多く設け、方法を見出し対応した。2017 年度の定員増を見据え、行事の内容を検討・改善（クリスマス祝会・卒園式等）した。また、保護者に丁寧に説明し、理解を得るようした。

３．地域における公益的な取組

（ア）地域の子育て家庭に、集い・交流の場所を提供

親子が安心できる場となるよう、温かな雰囲気と対応を心がけた。そのため、継続してご利用いただける親子が多かった。

（イ）地域の子育て家庭への相談機会の提供（電話・メール・面談・図書館での出前相談）

図書館の『ブックスタート』事業と提携して実施することで、子育て支援センター等を利用しない親子の相談にも応じる事が出来た。

４．保育環境の改善、施設整備

（ア）園舎増築工事（4，5歳児保育室）

（イ）購入…防災用具（避難車）、体育遊具・玩具、保育室の環境整備（衝立・棚等）

修繕…既存の保育室を定員増に対応（保育室のネームプレート他）園庭の総合遊具

５．職員研修

（ア）園内研修（学習会）保育学会（楽しみながら生活できる保育環境の研究）

（イ）聖隷保育園・こども園浜松磐田地区初任者研修

（ウ）外部研修…障がい児研修、給食研修、保育専門研修、クリストファーこども園見学

【数値実績】

①　歳児別入所保育児童数(名)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	8	11	12	14	16	18	21	23	23	23	22	22	213	17.8
1歳児	26	27	29	31	31	30	31	31	31	31	30	30	358	29.8
2歳児	31	31	31	30	30	30	30	30	30	30	30	30	363	30.3
3歳児	28	28	28	27	27	27	28	28	28	28	29	29	335	27.9
4歳児	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	324	27
5歳児	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	312	26
合計	146	150	153	155	157	158	163	165	165	165	164	164	1905	158.8

②　保育日数及び延べ出席（利用）状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数(名)	2722	2533	3160	2910	2538	2636	3141	3115	3023	2764	2868	3033	34443	2870.3
保育日数(日)	25	23	26	25	26	26	27	26	23	23	24	25	299	24.9
1日平均(名)	108.9	110.1	121.5	116.4	97.6	101.4	116.3	119.8	131.4	120.2	119.5	121.3	1384.4	115.4
一時預かり(名)	18	20	17	4	18	22	0	0	0	0	0	0	99	8.3
延長保育（名）	167	165	279	296	300	256	363	251	324	314	340	192	3247	270
学童保育(名)	163	146	160	176	199	146	146	141	147	127	126	157	1834	152.8
親子ひろば（名）	70	65	94	112	85	93	83	73	62	71	84	55	947	78.9

③　職員の状況(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育教諭(正・パ)	15・21	15・21	15・21	15・21	15・21	15・21	15・21	15・21	15・21	15・21	15・22	15・22
調理師(正・パ)	1・4	1・4	1・4	1・4	1・4	1・4	1・4	1・4	1・4	1・4	1・4	1・4
事務員	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
用務員	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
保育補助	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2
計	46	46	46	46	46	46	46	46	46	46	47	48

聖隷浜松病院ひばり保育園

2016 年度は幼児クラスの園児数も増え、歳児別に活動ができる機会が増えたため、年齢発達に応じた保育活動を展開できた。しかし、集団としては小さく、育ち合いという点では課題も見えた。乳児クラスに関しては従業員枠、地域枠ともにほぼ定員通りの利用があり、0 歳児クラスについは従業員枠の定員を超える受け入れができ、働く親及び事業所への支援につながった。経験が浅い保育者が多い中、効果的な乳・幼児保育の方法や環境構成を模索しながらの一年であったが、保護者とは子どもの成長を喜び合い子育ての楽しさを共有することができた。ただし、保育の質を安定的に提供するための人材確保にはいまだ課題を感じている。地域とのつながりのという点では、園の行事に関わりを持つ機会を設けるとともに、日々笑顔であいさつを交わしたり、食育活動として朝市や近隣のスーパーを利用したりするなど、少しずつではあるが園の存在をアピールする努力を継続し、認知されるようになってきた。

１．主体性を育み、創造・展開のできる保育環境の整備

（ア）保育所保育指針に基づき年齢別、および個別カリキュラムを作成したが、経験がある職員が少なく、評価や保育活動の広がりに欠ける面もあった。

（イ）環境設定は検討中である。年齢ごとの発達理解を深めつつ、他園の見学等を行い、早急に改善を進めていきたい。

（ウ）体操・英会話教室は年長児のみ行っているが、子ども達と楽しみながら行うことで職員の経験につながった。

２．少人数保育・異年齢交流の実践

（ア）環境整備と合わせ、保育者間で少人数保育についての理解を共有できた。同じ目的のもとで保育実践を行う必要性を感じた。

（イ）頻度としては少ないが、異年齢での交流機会は意識して取り入れた。その中で、園児が他者を思いやる姿も多く見られた。

３．質の高い保育の提供

（ア）保育士ラダーや自己評価の分析・評価を行った。それにより見えた強み弱みを園内外の研修につなげる課題が残った。

（イ）外部研修の機会確保が難しく、参加も消極的であった。引き続き他園との情報共有や、自己啓発を行うことで積極的な研修計画を作成していきたい。

４．地域における公益的な取組

（ア）絵本講演会を開催し参加を呼び掛けた。

（イ）近隣の方々に対して、園の行事への招待や訪問行った。

【数値実績】

①歳児別入園児童数　（単位：名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	5	9	10	10	13	13	16	16	16	18	18	21	165	13.7
1歳児	28	29	30	31	31	32	31	31	31	31	31	31	367	30.5
2歳児	26	26	27	28	28	28	26	25	26	24	23	22	309	25.7
3歳児	13	13	13	13	13	13	12	12	12	12	11	11	148	12.3
4歳児	17	17	17	17	17	17	16	16	16	17	17	17	201	16.7
5歳児	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	156	13
計	102	107	110	112	115	116	114	113	114	115	113	115	1346	77.3%

②保育日数および述べ出席（利用）状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延人数(名)	1807	1867	2244	2135	1971	2147	2173	2055	2113	2006	2074	2122	24714	2059.5
保育日数(日)	25	23	26	25	26	24	25	24	23	23	24	26	294	24.5
1日平均(名)	72	81	86	85	76	89	87	86	92	87	86	82	84	85.7%

③職員の状況　（単位:名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正)	13	13	13	13	13	13	13	13	13	14	14	14
保育士(パ)	6	6	6	6	6	8	8	8	8	8	10	10
看護師(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育補助	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
事務員/用務員	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1
計	26	26	26	26	26	28	28	28	28	29	31	31

こうのとり保育園

2016 年度も待機児童の解消と保育等の質の改善が求められてきた。保育人材確保のための処遇改善の実施、キャリアアップの仕組みを設けていく等、やりがいを持って保育士の仕事を続けてもられるような仕組みが提案された。

保育の質を高めていくためには、乳児期からの育ちの充実を図ることが重要であり、それが基になって、幼児教育につながっていく。数値では表すことが難しい 0 歳からの育ちについて、映像等を通して保護者にも分かる形で伝えてきた。そして、保護者理解が重要であるという観点から 2016 年度の保護者会総会では、「乳幼児とテレビ・ゲーム・スマホ何がよくない？こうしたらいい！」をテーマに、NPO 法人の子ども並びにメディア代表の方に講師を依頼した。メディア依存になる危険性や日常生活の中での付き合い方について講演を聞き、子どもの健やかな成長発達を促すためにできることを職員も共に学ぶことができた。こうした学びを家庭と保育園が共有し、保育実践の場で具体化しながら継続していくことが必要だと感じている。

１．入所状況と保護者支援

4 月新入園児 18 名、年度途中新入園児 16 名のうち、育休明け 0 歳児が 12 名で、年間入園率は 119.1％であった。

２．重点目標及び重点施策への取り組み

（ア）保育の質の向上

①統合保育の実践

2016 年度は、新たに 2 名の障がいのある児童を受け入れ、計 8 名の障がいのある児童が在籍となった。うち 1 名は要支援児童である。市の関係機関（子育て支援課・幼稚園保育園課・発達支援センター「はあと」「かるみあ」）と密に連携を図りながら、慎重に受け入れを行った。浜松市発達医療総合福祉センター及びおおぞら療育センターに訪問し、具体的にどのような療育が行われているかを見学し、保育園での実践に生かすことができた。結果、子どものよりよい成長発達を促進することができた。また、障がい一時保育においては、クラスの枠組みを外し、必要に応じて同年齢の集団と関わる機会をつくり、在園児と相互に関係し合うことで、それぞれの子どもの育ちに大きな変化があった。これは障がいのある子どもたちだけでなく、健常児の育ちに与える影響も大きい。

一時預かりの利用延べ人数は、障がいの一時保育利用者数と合わせて 1,132 名となり、2015 年度と比較し 3 割増であった。これは、市との協議や保健師へのアピール等が効果をあげたと思われる。必要としている人は多く、日数の調整も困難であった。

②歳児別・異年齢クラスの中でも、小人数に分けて保育する

新人職員にも理解できるよう、少人数に分けて保育を行う意義や目的を伝え、指導保育士が一人ひとりにつくことで、実践の中での質問や疑問に丁寧に応じることができた。

③質の高い保育（者）＜保育園の職員として、誇りを持って働ける職場づくり＞

保育の質の向上を目指し職員一人一人が専門的視点を持ち、レベルアップのためのビデオカンファレンスを継続的に行った。問題・課題を自発的に発信し語り合う時間は、有意義で課題意識も高く、保育学会での発表につなげ職員のステップアップに結び付いた。

（イ）地域における公益的な取組

①サマーショートボランティアの受け入れ(市内中高生)、学校探検(市内小学・高等学校)、泉町老人会の寿会との交流等を通して、多世代の方たちが子育てに関わり、子育てに興味や関心を持てるように継続して取り組んだ。また、学生から新鮮な感動の声が聞かれた。

②大学からの保育実習の受け入れとボランティアの受け入れを行った。

（ウ）保育環境の改善、施設整備

①園庭拡張工事、総合遊具他、給食室の換気扇他の修繕を行った。

②防災用品(防災用シート他)、椅子と机、カーテン、給食用ワゴンと食器等を購入した。

（エ）職員研修

①園内研修(学習会・園内学会)、保育学会、福祉学会、聖隷合同研修(キリスト教保育研修)

②聖隷保育園浜松磐田地区初任者研修、保育士キャリアラダーの活用(自己評価と上司面接)

③外部研修…保育の質向上の専門研修、障がい児保育専門研修、給食研修、その他(視察)

【数値実績】

①歳児別入所保育児童数（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	10	10	12	14	17	18	18	18	18	20	22	22	199	16.5
1歳児	23	23	24	24	25	25	25	25	25	25	25	25	294	24.5
2歳児	26	26	26	25	25	25	25	25	25	25	25	25	303	25.2
3歳児	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	324	27.0
4歳児	25	25	25	25	26	26	26	26	26	26	26	26	308	25.6
5歳児	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	288	24.0
計	135	135	138	139	144	145	145	145	145	147	149	149	1716	143.0

②保育日数及び延べ出席(利用）状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数(名)	2597	2324	2880	2733	2367	2848	2712	2879	2655	2512	2759	2799	32065	2672.0
保育日数(日)	25	23	26	25	26	24	25	24	23	23	23	26	293	24.4
一日平均(名)	103.8	101.0	110.7	109.3	91.0	97.8	108.4	119.9	115.4	109.2	119.9	107.6	1294.0	109.5
一時預り(名)	37	46	81	60	66	99	109	142	112	117	160	103	1132	94.3
延長保育(名)	134	130	160	162	148	140	158	168	142	145	180	231	1898	
学童保育(名)	90	42	51	92	224	53	52	52	68	49	42	92	907	75.5
休日保育(名)	10	5	4	7	9	11	7	22	16	17	12	17	137	11.4
病後児（名)	5	1	4	3	4	3	6	2	1	5	6	3	43	3.58
支援ｾﾝﾀｰ(名)	574	354	488	490	502	363	513	490	547	310	398	694	5723	476.9

③職員の状況（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正・パ)	15・23	15・23	15・23	15・23	15・22	14・22	14・23	14・23	14・23	15・23	15・23	15・23
看護師(正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理師(正・パ)	2・2	2・2	2・2	2・2	2・2	2・2	2・2	2・2	2・2	2・2	2・2	2・2
事務員(正・パ)	0・2	0・2	0・2	0・2	0・2	0・2	0・2	0・2	0・2	0・2	0・2	0・2
補助他・ｱﾙﾊﾞｲﾄ	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
計	51	51	51	51	50	49	50	50	50	51	51	51

＊育児休暇中職員１名

磐田市子育て支援総合センター「のびのび」

1．子育て支援

2016 年度は子育て支援総合センターとしての役割を意識しながら、市から受託している各々の事業に対し、前向きに取り組んできた。

特に、ファミリーサポート事業と、一時預かり事業へのニーズが高かった。要因としては、家族のつながりや地域との関わりが希薄になり、孤立感を深め、相談に来る母親達に、多種多様な支援が存在することを伝え、それぞれの疑問や課題に寄り添ってきた結果と思われる。

2017 年度は、難しいケースの子育て親子を今まで以上に支えていくには、地域の人たちと共に連携し、サポートしていく事が大切だと考え、引き続き努力していきたい。

【利用人数】

大人	子ども	合計	月平均
10,816 人	10,782 人	21,598 人	1,799 人

（ア） 育児相談

2016 年度より相談件数が増えつつあると同時に、相談の内容も複雑なケースが増えているという実感があった。特にファミリーサポート事業及び一時預かり保育の相談から始まり、子育てだけではなく家庭の中の複雑な問題に発展するなど、母親達が様々な悩みを抱えている様子が浮き彫りになり、今の社会を反映しているかのようだった。

【相談数】

電話	面接	メール	出前	合計
779 件	5,278 件	182 件	225 件	6,464 件

（イ） 一時預かり保育

2015 年度は 508 件、2016 年度は 557 件と 50 件ほどの増加となりニーズの高さを感じた。保育園では待機児が多く、利用が難しいとされている反面、のびのびは登録すればいつでも気軽に利用できるというメリットが、利用者数の多さに反映されていると感じた。又、療育に通っている子ども達に関しても一時保育のニーズが多く、大きなトラブルもなく他の利用者の温かな理解を感じた年だった。

（ウ） 集団療育「ピポパ」

2016 年度は、91 名の子が集団療育であるピポパに参加した。2015 年度から利用を継続している子は自閉傾向が強く、さらに多動の子が数人いたため、集団療育としての機能を保つのに多くのエネルギーを要した。発達が気になる子ども達を抱えながら子育てをしている母親にとって、他の利用者に遠慮しないで遊べる空間は、癒しの場でもあると感じた。今後も、専門機関に繋げていく架け橋の役目を果たせるよう努めたい。

（エ） 季節の行事・講座等

育児講座は、母親達の子育ての資質向上を目的に専門講師を招いて行っており、参加希望者が多い。母親達の子育てへの意識の高さから、講師への質問も多かった。

また、新たに“サーキット遊び”や“県外ママ集まれ”などイベントを企画したが、予約が多く、駐車場の管理が大変な時もあった。しかし、子育てがマンネリ化しがちな親子には、新鮮な行事も必要だと考え、今後も地域の様々な知識をもった人たちへ協力を依頼し、母親達のニーズを探り、子どもたちの成長や発達に合わせて、今後もいろいろな企画を行っていきたい。

2．ファミリー・サポート・センター

（ア）　2016 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日

	会員数	年間会員数
依頼会員	698 人	50 人
援助会員	208 人	11 人
両方会員	92 人	4 人
合　　計	998 人	65 人
年間援助回数	4396 回	

（イ）援助活動内容

援助回数は、2015 年度に対して 855 回多く、援助の内容は例年と同様に幼稚園・保育園の送迎が 993 回と多く、それに次いで子どもの習い事等の援助が 565 回、放課後児童クラブの迎えが 495 回、保護者等の短時間就労&短時間就労の援助 427 回、その他の援助 1,394 回の順に、援助活動が多かった。

また、その他の援助の中で、母親が精神疾患を抱えて子育てが思うようにいかず、手助けが必要なケースも複数あった。例年に比べ、障がいのある子が保育園と療育の施設を平行通園している場合の送迎ニーズが高くなり、援助者のコーディネートに苦慮した一年だった。

（ウ）会員への活動

援助会員のための養成講座を 6 月・10 月の 2 回開催した。新規登録の会員数は、援助会員・両方会員合わせて 16 人だった。会員交流会は、例年出席者が少なく課題となっているが、2015 年度に比べ、イベントと併せて実施したこともあり、若干ではあるが参加者が増えた。

一時預かり保育は大半をファミリーサポートの提供会員に依頼しているため、一部の会員は、館内で顔見知りになり、交流を深めている。その事からもファミリーサポート事業への関心も高まりつつある。2016 年度は、磐田市や、ファミリーサポート事業を支援しているグループの代表者も加わり、援助活動費の改正も実施すると共に、広報活動にも力を注ぐことができた。

3．出前子育て支援センター（であいのひろば）

地域に 45 回出向き、地域で活躍している子育てサークル、高齢者サロン、主任児童委員、民生委員等との連携を深め、今まで以上に信頼関係が築けた。その背景の中に、地域のニーズに応える方向で事業を進めてきた事や、「であいのひろば」の担当が継続している事も大きな要因と感じている。利用者の延べ人数も 2015 年度は 2,569 人、2016 年度は 2,904 人と大幅に増えている事からも、地域の中に「であいのひろば」事業が根付いた事が理解できる。また、「であいのひろば」での子育て相談も例年に比べ増えていた事も良い傾向だと感じた。

2017 年度は、市の意向で全戸世帯への「であいのひろば」のチラシ配布が廃止となったため、違った形で広報活動をしていきたいと考えている。

こうのとり東保育園

放課後児童クラブ“オリーブ”

こうのとり東保育園は、地域のニーズから外国人保育、放課後児童クラブ等、多様な保育が求められている。2016年度はこのようなニーズに応えられるよう人材育成を目標とした1年だった。

子どもが体験しながら学んでいくアクティブラーニングを基本においた保育実践を通し、保育力を向上させる取り組みを行ってきた。その取り組みを通して、新人から、経験のある職員までが共に子どもの興味・関心を見つけ、広げる事のおもしろさを掴むことができた。

放課後児童クラブにおいては、保育者とのコミュニケーションを大切にし、児童が心地よく生活できる学習の習慣、事柄の良し悪しを皆で考えあう等の環境づくりに力をいれてきた。

１．入所状況

200名の定員となり2年目を迎え、園児数は順調に伸びている。外国人は通年30名を超えていた。障がい児7名、支援を必要とする児童1名の受け入れをした。

２．年度事業目標・年度重点施策

（ア）2016年度事業の振り返り

①保育力の向上・・保育理念、保育目標を基盤に、発達の繋がりを意識した保育の展開ができる保育者を目指し、学んできた。“子どもの探究心から保育を深める”をテーマに子どもの興味、関心を掴み、保育を広げられる関わりや環境を整えられるよう努めた。

②保護者支援の実践・・著書“ネットに奪われる子どもたち”の古野輝基氏による講演会を実施した。講演後のアンケートから、参加者が子どもとの関わり方を変えてみるよう実践してくれたことが解り、大きな収穫だった。外国人の保護者とは、こちらの思いが伝わりにくく、面接を行う回数が多かった。一方で、日本人の保護者とも子育ての情報共有をしっかり行うことを職員と共有した。

③統合保育・他機関との連携

磐田市児童発達支援センター（心愛・豆の木）への並行通園での繋がりを機会とし、お互いに見学をしあう事で、園児一人ひとりの保育の仕方を学んだ。

虐待のケースが4名（2件）あった。磐田病院ケース会議、児童相談所・磐田市子ども部支援課との定例会等で見守りを行ってきた。

④多文化共生推進

グローバル子育て教室を6回実施した。育児講座は園長、保育士、調理師が主体となり実施し、2016年度は外部講師による自然教室や災害時の対応等も企画し、外国人と共に、心、命（体）、食、自然等、幅広く学ぶことができた。“ここはどうして〇〇人？“という講座では、日頃から疑問に感じていたことを話し合い、お互いの文化をより知ることができた。

⑤食育の推進と環境

管理栄養士による食育に加え、作物を種（苗）から育てた。土作り、草取り、虫取りを経て収穫ができる事を、体験を通して知ることができた。また、収穫物を使った調理実習が充実した1年でもあった。お米でおにぎりを、大豆から味噌・豆腐を作り、物づくりの過程を知ることもでき、貴重な体験だった。

⑥放課後児童クラブ“オリーブ”

市の放課後児童クラブも人数の受け入れの幅を広げていることから、降園が夕方 6 時以降になる、長時間利用のニーズが増えている。長期休み（春・夏・冬）は利用児童が多く、園児との交流を深めながら、互いに年齢差のある中でも充実した日々を送った。カレー作りでは、計画、材料の計算、公共交通機関を利用した買い物など、学童児ならではの学習ができた。

（イ）地域における公益的な取組について

地域の交流センターや園内での保育園職員による育児相談を行ってきた。家庭で子育てをしている保護者は、相談ができる人がいないことが多く、看護師や栄養士等の専門性を生かしたアドバイスをしてきた。グローバル子育ての育児講座や交流センター祭りに協力し、東新横丁（バザー）に園児が出席し、体操や踊り等で地域住民との交流を図った。

【数値実績】

① 歳児別入所保育児童数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計	月平均
0 歳児	7	7	11	13	14	17	19	21	23	24	24	25	205	17.0
1 歳児	35	36	36	36	36	36	37	37	37	37	37	37	437	36.4
2 歳児	34	34	35	35	35	35	35	35	36	35	35	35	418	34.8
3 歳児	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	34	397	33.0
4 歳児	30	31	31	31	31	31	31	31	31	30	30	39	377	31.4
5 歳児	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	228	19
計	158	160	165	167	168	171	174	179	179	178	178	180	2053	171.0

② 保育日数及び延べ出席(利用) 状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計	月平均
延べ人数	2952	2627	3411	3173	2641	3135	3407	3378	3212	2658	3394	3347	37335	3111.2
保育日数	25	23	26	25	26	24	25	24	23	23	23	26	293	24.4
一日平均	118.0	114.2	131.1	126.9	101.5	130.6	136.2	140.7	139.6	115.5	147.5	128.7	1530.5	127.5
一時保育	36	27	43	11	37	12	2	1	2	14	14	19	218	18.1
延長保育	6	4	7	5	5	7	7	6	5	5	7	8	72	6
学童保育	418	375	459	480	564	428	413	430	455	312	378	451	5163	430.2
病後児	9	6	7	8	6	9	4	19	10	11	5	5	99	8.2
外国人保育	30	31	31	32	32	32	32	32	32	30	30	30	374	31.1

③ 職員の状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正･パ)	20・17	20・16	20・16	17・18	17・18	17・18	18・18	18・18	19・18	19・18	19・18	19・19
看護師(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理師(正・パ)	0・3	0・3	0・3	0・3	0・3	0・2	0・2	0・2	0・3	0・3	0・3	0・3
事務員（正～ﾊﾟ）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
補助他・ｱﾙﾊﾞｲﾄ	6・0	6・1	6・1	6・1	6・1	6・1	4・1	5・1	5・1	5・1	5・1	5・1
計	46	46	48	48	48	47	46	47	49	49	49	50

聖隷こども園こうのとり豊田

2016 年度は、2017 年 4 月からの認定こども園への移行準備段階として、新制度についての情報収集や保育の専門性、保育・教育の基本となる‘一人ひとりの育ちを踏まえた保育’について、園内研修や保育学会等で学びを深めた。特に聖隷こども園、保育園全体で定期的に行ったキリスト教保育の勉強会では、保育の具体的な場面と重ね合わせ、一人ひとりの職員が保育を振り返り、聖隷の保育の根底となる重要な部分を学ぶためのよい機会となった。また、開園 6 年目を迎え、地域のニーズに合わせて、こひつじ保育（障害児一時保育）や学童保育、育児講座等子育て支援事業にも積極的に取り組むことができた。

１．入所状況

2016 年度は、4 月に新入園児 24 名を迎え、152 名でスタートした。年度途中入所は 0～2 歳児クラスへ 15 名、3 名が転居のため退園した。定員 120 名に対して 132.9%の入所率であった。

２．年度事業目標・年度重点施策への取り組み

（ア）2016 年度事業の振り返り

①保育の質、専門性の向上

養護と教育的な配慮のもと、‘一人ひとりの育ちを踏まえた保育’を具体的に実践できるよう、子どもの言動からの心の読み解きや、保育の展開方法を継続的に職員同士で語り合った。保育を振り返り、新たな視点で PDCA サイクルを意識して保育を行うことができた。語り合うことで経験の少ない職員も保育の醍醐味を感じ、個々のスキルアップに繋がった。

②保護者支援

園内研究のテーマに沿った保育活動をドキュメンテーションにして壁新聞を作り、保護者にわかりやすく伝えた。また、親子で考える簡単なクイズを出したり、クッキングレシピを紹介したりする等、親子で関わりを楽しめる具体的な方法を伝えることができた。

③こひつじ保育・他機関との連携

こひつじ保育の利用が増え、年間で 65 名の利用であった。2015 年度までは知名度が低く需要が少なかったが、8 月以降に見学希望や利用希望が急増した。発達に偏りのある子どもを週に数日保育し、育児に不安を抱える母親の悩みを聴き、専門的な立場から助言やアドバイスをすることで前向きな気持ちで子育てができるよう支援することができた。また、必要に応じて磐田市発達支援センター「はあと」や、児童発達支援事業所「野楽っこ」、磐田市子育て支援センター「のびのび」等の専門機関と連携をとり、個別の関わり方を学んだ。

④学童保育

小学校低学年の児童の、放課後や長期休暇中の利用者が年間 173 名と、2015 年度よりさらに増加した。生活の中で園児との交流も積極的に行い、園ならではの学童保育が展開できた。また、長期休暇中に聖隷めぐみ保育園の学童や聖隷放課後クラブ「はなえみ」との交流をもち、様々な体験を通して仲間づくりを行った。

（イ）地域における公益的な取組

①育児支援

地域の子育て家庭に対し、月 2 回の園庭開放を行い、園の様子や雰囲気を伝え、入園に繋げ

る事ができた。また、職員の専門性を活かし、管理栄養士が離乳食や幼児食講座を行い、個別の相談を受けたり、給食で提供する離乳食の試食体験を行ったりした。ベビープログラムも実施し、子育てママの仲間づくりや親子のふれあいを体験し、子育て力の向上に繋がるよう働きかけを行った。

②中高生のサマーショートボランティアを受け入れることで、中高生自身が家族や周りの人に感謝の気持ちを持つきっかけとなった。

③保育士、管理栄養士、歯科衛生士、言語聴覚士など、各養成校より実習生の受け入れをした。

（ウ）保育環境整備

①園庭遊具（クライミングウォール）の塗装やグリップの付け替えの修繕を行った。

②園庭に新たに雲梯を設置することで年齢発達に合わせた全身運動を促すことができた。

③防災倉庫を設置し備蓄食料や防災テント等非常時の用具や機材を一括収納が可能になった。

【数値実績】

①歳児別入所保育児童数(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	7	9	10	10	13	13	14	16	17	17	18	18	162	13.5
1歳児	26	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	334	27.8
2歳児	30	29	30	30	30	30	30	30	29	30	30	30	358	29.8
3歳児	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	360	30.0
4歳児	30	30	30	30	30	30	30	30	29	29	29	29	352	29.3
5歳児	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	348	29.0
計	152	155	157	157	160	160	161	163	162	163	164	164	1914	159.5

②保育日数及び延べ出席(利用) 状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数(名)	3,075	2,641	3,303	3,102	2,682	3,096	3,223	2,977	2,879	2,655	3,131	2,884	35,648	2970.6
保育日数(日)	26	23	26	26	26	24	25	24	23	23	23	26	295	24.6
一日平均(名)	118.3	114.8	127.0	119.3	103.2	129.0	128.9	124.0	125.2	115.4	136.1	110.9	120.8	120.8
一時預り(名)	12	6	25	37	33	51	47	43	51	59	55	53	472	39.3
延長保育(名)	198	169	218	151	129	182	177	188	188	168	188	168	2,124	177
学童保育(名)	190	179	212	203	257	178	170	162	150	118	130	168	2,117	176.4

③職員の状況（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長(正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正)	16	15	15	15	15	15	15	15	15	14	14	14
保育士(パ)	18	18	18	18	18	18	18	19	19	19	19	19
管理栄養士(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
看護師（パ)	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理師(パ)	4	4	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5
事務員(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
用務員（パ)	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2
計	44	43	44	45	45	45	45	46	46	45	45	44

逆瀬川あゆみ保育園

2016 年度も保育目標より、「ひとり一人を大切にする保育」を行うべく、職員と共に考え取り組んだ。外部研修や園内研修の受講など、園全体の保育の質を高めるよう努めた。そして、園の理念に基づいた保育を日々実践するために、職員が自覚を持って子どもたちに向かうことができた。また、目標参画の実施により、個々が目標をしっかり意識して保育に取り組めたことを実感した一年であった。

１.入所状況

４月に新入園児（0 歳児 12 名　1 歳児 2 名　2 歳児 0 名　3 歳児 2 名）16 名を迎え、計 54 名でスタートした。定員 45 名に対して 120.0％の入所率であった。

２.重点目標及び重点施策への取り組み

（ア）保育内容

①統合保育

市の臨床心理士による巡回指導を受けた。診断はついていないものの集団で過ごす中で配慮が特に必要と感じる子どもの相談をし、より個々に対して寄り添った保育が出来るよう、指導を受けた。2017 年度は、特別支援として 1 名加配が付くこととなる。

②世代間交流

園の行事である花の日や感謝祭などで地域の方々、またデイサービスの利用者の方々にもお花や果物を届けるなどし、様々な人と接する機会を設けた。野上あゆみ保育園との園庭交流や歳児別交流も定期的に行った。2017 年度は、3 歳児を中心にデイサービスの方々を定期的に訪問する機会を増やし、共に楽しむ時間を持っていきたい。

③食育

3 歳児を対象に、年間計画を作成し季節の野菜や果物などの、形や色、香り、感触などの体験活動（ききイチゴ・ききブドウ等）を行った。毎月の旬の野菜や果物、それを使った給食や郷土料理を取り入れたご当地メニューなどを職員間で周知し各年齢に応じた食育に繋げた。園庭に植えた野菜を収穫しクッキングをして楽しんだ。給食だよりを 1 か月ごとに保護者向けに発行し情報の発信を行った。

（イ）保育ニーズに対応

①延長保育

11 時間を超え 1 時間の延長保育（18 時～19 時）を行い、月平均 9 名の利用があった。

②一時保育

妊娠・出産のための利用、就労、リフレッシュ利用など、様々な利用状況があった。また、非定型利用の低月齢化が進んでいる現状がある。

（ウ）地域における公益的な取組

①中学生体験活動「トライやる」で市内の中学 2 年生 3 校より 10 名、高校生 3 名、保育実習生延べ 3 名の受け入れをした。

②毎週月曜日午前に園庭開放、月１回室内開放を行い、保護者同士がつながることを意識した。保育士全員が、年間 1～2 回はプログラムを担当し在宅の保護者と触れ合う機会を持ち、地域の保護者との交流の中で情報の発信や収集をした。

（エ）保育室環境の改善、施設整備

子どもたちが落ちつける、遊びこめる環境をめざした。定期的に環境を見直し発達に合った玩具や遊びを職員間で考えて随時購入した。童話館より絵本を毎月 2 冊取り寄せ、保護者に質の良い絵本を紹介し貸し出しも実施。園の蔵書を充実させた。

（オ）職員研修

年１回（9 月）あゆみ合同研修。第 2 回宝塚保育学会を開催し、日頃の気づきを研究して発表し、わかちあった。職員会議中に時間を設け、園内研修を行い共に学び合うことを大切にした。

【数値指標】

①歳児別入所保育児童数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	144	12.0
1歳児	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	168	14.0
2歳児	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	168	14.0
3歳児	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	168	14.0
4歳児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
合計	54	54	54	54	54	54	54	54	54	54	54	54	648	54.0

②保育日数及び出席状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延べ人数	1027	915	1112	944	930	1044	965	981	929	913	1055	1091
保育日数	25	23	26	25	26	24	25	24	23	23	23	26
1日平均	41.1	39.8	42.8	37.8	35.8	43.5	38.6	40.9	40.4	39.7	45.9	42
一時保育	112	114	120	105	116	113	114	111	91	101	109	97

③職員の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正)	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
看護師(正、10月～ﾊﾟ)	1	1	1	1	0	0	1	1	1	1	1	1
管理栄養士	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員(正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
パート	15	14	14	14	15	15	14	15	15	15	15	15
計	31	30	30	30	30	30	30	31	31	31	31	31

給食業務は委託（管理栄養士１名、パート内【調理師３名】）

御殿山あゆみ保育園

2016 年度、子どもたち、保護者、保育士それぞれの思いに寄り添う、心を大切にするキリスト教保育を展開してきた。特に子どもたちにおいては人権を守り自ら遊びを選び取り、夢中に遊ぶ中で様々な事を学んでいく教育の働きの機会を大切にするため、職員みんなで同じ思いをもって取り組んできた。これは、近年改訂される保育所保育指針、小学校の教育要領の目指すところとする「アクティブラーニング・主体的で対話的で深い学び」に繋がることである。2017 年度も同じ思いで一つひとつ具体的に実現していきたい。

１．入所状況

4 月に 20 名の新入園児を迎え、計 129 名（緊急枠含む)でスタートした。0 歳児クラスはなかなか増えず、11 月にやっと定員の 15 名となり、伸び悩んだ年となった。

２．重点目標及び重点施策への取り組み

（ア）保育内容

①統合保育

障がい児は、5 歳児クラスに 1 名、4 歳児クラスに 1 名が在籍、年 2 回専門医による巡回指導を受け、専門機関との連携も取っていった。また保護者との面談も定期的に行いコミュニケーションをとるようにした。発達心理相談員による年 3 回の巡回指導により、発達に不安のある子どもの対応について助言を受けた。講義にも参加し、全職員で周知した。

②特定の大人との関わり

一人ひとりを丁寧に見ていき、子どもが安心感を持って過ごせるよう「室内環境」「日課」「保育士の動き」等、個々の成長発達に応じた関わりを考え実践した。

③食育

管理栄養士から次月メニューの食材の説明（旬の物など）による食育活動や、自分たちで収穫した野菜のクッキング等を通して食べ物への関心が高まった。

（イ）地域のニーズに対応

①延長保育

朝 7:00～7:30、夕方 18:15～19:00 までの延長保育を行っている。登録者は 12 名と少なめだが、18：15 までは子どもが減らないのが特徴的で、部分的な遅番保育士が慢性的に不足している。

②一時保育

非定型･緊急・私的等で受入れ、0～2 歳児の子どもが中心であった。入園に繋がったケースもあったが大半が幼稚園へ入園し、幼稚園の長期休暇に利用しようとしている方が目立つ。非定型が多く、ほとんどが半日ではなく、一日利用だった。

③子育て支援

担当保育士を中心に室内解放、給食体験などを行った。また、児童館と連携し、「園庭開放」、「観劇」、「おもちゃライブラリー」、「離乳食の試食会」を年 6 回、「看護師によるミ

ニミニ講座」の開催を 13 回、子育て相談を児童館プログラムに付設させ、行った。

（ウ）保育環境の改善、施設整備

園庭改修が決定し、2017 年度中に完成予定。保育環境は定期的に見直した。

（エ）職員研修

園内研修は時間が取れず資料の配布や読み合わせのみとなった。「あゆみ合同研修会」や「第 3 回宝塚保育学会」は開催した。グループに分かれて自主研究を行い、各学会や園内で発表した。

３．地域における公益的な取組

「トライやるウィーク」（中学生仕事体験活動）では御殿山中学校の生徒 6 名を受け入れ、短大保育科の保育実習では 2 名を受け入れた。インターンシップで大学生 1 名の受け入れも行った。また、行事で近隣高齢者デイサービスの訪問も行った。

【数値実績】

歳児別入所保育児童数（単位：名）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計	月平均
0 歳児	10	10	10	10	12	15	15	15	15	15	15	15	157	13.1
1 歳児	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	288	240.
2 歳児	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	288	23.8
3 歳児	23	23	23	23	23	23	23	23	25	25	25	25	284	23.7
4 歳児	24	24	24	24	24	24	24	24	24	25	25	25	291	24.3
5 歳児	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	288	24.0
合計	129	129	129	129	131	134	134	134	136	137	137	137	1596	132.9

保育日数及び出席状況（単位：名）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計	月平均
延べ人数	2384	2362	2612	2477	2270	2454	2604	2503	2426	2290	2576	2646	29604	2,522.4
保育日数	25	23	26	25	26	24	25	24	23	23	23	26	293	24.4
一日平均	95.3	102.7	100.4	99.1	87.3	102.2	104.2	104.3	105.5	99.6	112	101.8	1214.4	101.2
一時保育（延べ人数）	81.5	71.5	73.5	73.5	75	87	84	89	85	78	72.5	68	938.5	78.2

職員の状況（単位：名）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正)	19	19	19	19	20	20	20	20	20	20	20	20
看護師	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
パート	13	13	14	15	15	18	19	19	20	19	19	19
計	35	35	36	37	36	41	42	42	43	42	42	42

御殿山児童館

2016 年度は、乳幼児親子から中高生までの利用者のニーズを理解し、適切な支援を行うことができた一年であった。乳幼児親子プログラムでは、子育てをしている保護者が“ほっ”とできる機会を作り、プログラムの中で保護者がお互いの子どもを見守りながら、心休まる時間を保護者同士のエンパワメントで得ることができた。小学生においては自主的にプログラムを企画するなど社会へ参画する姿も見られ、ボランティアとして誰かの役に立つ活動が多く見られた。中高生は 2015 年度に比べ来館が増えており、中高生の居場所づくりや関わりを充実させた。

出前児童館事業については、必要とされる場所で必要な支援をすることにより、乳幼児・小学生の居場所づくりに貢献した。今後も引き続き、利用者のニーズを把握し応えていけるよう努めていきたい。

１．地域との連帯の強化

（ア） 地域との関わりを深め協力体制をとれるよう地域の会議に出席し、児童館での利用者の様子や気になる親子・児童についての情報の共有と連携に努めた。また、地域の方々にボランティアとして関わっていただき花壇の整備等の活動を充実させることができた。

２．サービスの質の向上

（ア）来館者が安心して遊ぶことができるよう、環境作りを考えた。また安全管理と事故等や有事の際に備え新規利用者は緊急連絡先等を登録し、管理を行った。

（イ）乳幼児親子を対象とした子育て支援プログラムは、参加したい親子すべてが参加できるよう内容や時間帯などを工夫するとともに、発達年齢に応じた遊びや仲間作り活動を提供し「子育ち」・「親育ち」を支援した。

（ウ）小学生を対象にした集団あそび支援プログラムについては、運動遊びや自然体験活動・創作活動や視聴覚活動等、みんなで楽しく遊べる内容の充実を図り、様々な体験を通じての仲間作りを行った。また、御殿山児童館フェスティバルへの参画活動も行った。

（エ）中高生を対象にした居場所づくり推進事業では、毎週 1 回開館時間を延長することで利用の機会を増やすとともに、クッキング、ボランティア体験等を通じた自立支援を行った。

（オ）出前児童館事業として、児童館が近隣にない地域に出向き、地域住民のより身近な居場所作りと、地域の子育て力の向上に繋がる、遊びのノウハウの提供や安全管理の指導を行った。

３．職員の資質向上

（ア）宝塚市児童館交流研修に参加し、技術や実施プログラムの内容の向上に努めた。

（イ）児童館事業に携わる職員全員が同じ方向性で取り組んでいけるように、月 1 回の職員会や担当（乳幼児・小学生・中高生・出前）ごとの部会を行い、話し合いの機会を持った。

４．地域における公益的な取組

（ア）館内プログラムより生まれた自主サークル主体のプログラムを行った。来館者自身の

自己実現など成果があった。

（イ）「トライやるウィーク」（中学生仕事体験活動）では中学校の生徒４名、短大保育科の保育実習では１名を受け入れた。

【延利用者数】

	就学前	小学生	中学生	高校生	こども計	大人	合　計	開館日数	一日平均
４月	899	753	314	30	1996	641	2637	25	105.48
５月	961	547	256	36	1800	613	2413	23	104.91
６月	1076	817	216	64	2173	783	2956	26	113.69
７月	750	1046	310	44	2150	729	2879	25	115.16
８月	823	1703	229	53	2808	799	3607	26	138.73
９月	857	767	229	36	1889	622	2511	23	109.17
10月	960	531	183	38	1712	658	2370	25	94.80
11月	990	653	276	42	1961	626	2587	24	107.79
12月	805	629	277	41	1752	481	2233	23	97.09
１月	884	497	114	34	1529	514	2043	23	88.83
２月	1020	346	171	46	1583	536	2119	23	92.13
３月	1101	770	277	92	2240	644	2884	26	110.92
計	11126	9059	2852	556	23593	7646	31239	292	106.98

【出前児童館回数・利用者数】

	常　設　型				派　遣　型				ｲﾍﾞﾝﾄ型
	回数	就学前	小学生	大人	回数	就学前	小学生	大人	回数
４月	4	52	0	43	6	13	42	13	0
５月	3	44	0	38	6	8	68	7	0
６月	4	78	0	69	8	31	136	29	0
７月	3	56	0	51	7	24	91	23	0
８月	3	65	0	50	5	22	81	20	0
９月	3	70	0	57	7	36	122	34	0
10月	4	70	0	61	6	26	94	25	0
11月	4	58	0	50	9	64	264	96	0
12月	4	81	0	69	5	23	94	19	0
１月	2	33	0	31	6	34	81	28	0
２月	3	69	0	62	8	27	151	19	0
３月	4	86	0	75	4	20	22	16	0
計	41	762	0	656	77	328	1246	329	0

野上あゆみ保育園

2016 年度は、保育環境についての見直しや、のがみっこくらぶ（学童保育）との連携について職員が主体的に考え取り組んだ 1 年だった。

また、園が目指す保育理念の意図について、職員自身が理解を深め、一人ひとりが丁寧な保育の提供を意識することができた。今後は、職員自らが、保護者、地域等への発信力を高め、園が目指す保育理念が地域に浸透していくよう働きかけていきたい。

１．入所状況

4 月に 0 歳児 9 名、1 歳児 6 名、逆瀬川あゆみ保育園より 4 歳児 14 名の計 29 名の新入園を迎え、108 名でスタートした。定員 90 名に対して 119.9%の入所率であった。

２．重点目標及び重点施策への取り組み

（ア）保育内容

①統合保育・・・障がい児 3 歳児 3 名、4 歳児 1 名、5 歳児 1 名が加配対象。発達の心配な子どもについては、市の臨床心理士による巡回指導や研修を受けた。年間 5 名の子どもの指導を受けた。クラスの一員としての視点を持ち、かかわるように心がけた。

②交流・・・・異年齢児交流・隣接する有料老人ホーム（グランダ逆瀬川）や聖隷逆瀬川ディサービスセンターへクリスマスのページェントを行った。子どもの経験が広がるよう、のがみっこくらぶの小学生とお手伝い交流を持ち、4 歳児クラスで一緒になる逆瀬川あゆみ保育園の 3 歳クラスとの交流も、月に一度は持つようにした。

③保護者に向けて・・園だより、クラスだよりなどで園の理念や子どもの発達についての発信をした。また、懇談会のもち方も保護者同士が交流をもてるように工夫をした。

④食育・・・作業は、幼児クラスが中心となったが、土作りから始め苗の生長を楽しんだり、野菜の食べ比べをするなど、積極的に取り組んだ。また、食育ボードを活用し継続して給食の食材にも自然に意識がいくよう試みた。

（イ）地域のニーズに対応

①一時保育・・年間を通してニーズは常にあった。また、問い合わせの電話も多く登録面接も常時行い、月平均 157 名一日平均 7 名の利用実績であった。

②延長保育・・18:15～20:00(約 13 名)の延長保育を行った。19:00 以降は約 3 名。残業などで延長申請以上の時間まで残る子どもも多かった。

（ウ） 職員研修

① 年 1 回(6 月)あゆみ合同研修（子どもを見る視点）

② 第二回宝塚保育学会　約 70 名と多くの職員が参加をし、宝塚地区らしいディスカッションを盛り込んだ学会となった。

③ 外部研修には保育の質を高める研修に積極的に参加をした。

④ 園内研修・・異年齢交流という大きなテーマをもち、「学童保育との交流」「逆瀬川あゆみ保育園との交流」「わらべうたを浸透させる会」の 3 つのグループで取り組んだ。発達については、3 園（野上・逆瀬川・御殿山）の看護師による 3 園合同での虫歯予防など

自主的な形も見られた。宝塚保育学会、聖隷保育学会に参加をした。

３．地域における公益的な取組

（ア）『トライやる』（中学生体験活動）中学生 15 名 5 日間の受け入れをした。

（イ）園庭開放、子育て相談随時、離乳食体験、コンサートやおもちゃライブラリーなど児童館と協力して行った。保育士がそれぞれ企画担当する機会を設け、在宅子育て親子の現状を知る機会を得た。また、母親向けに子育て講座を行う。子育ての悩みの糸口となるよう幅広い支援を目指したい。

４．のがみっこくらぶ（学童保育）では、4 月より定員 19 名の利用があった。クッキングや異年齢交流も積極的に行った。

【数値実績】

①歳児別入所保育児童数（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	108	9.0
1歳児	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	180	15.0
2歳児	15	15	15	15	15	15	15	14	15	15	15	15	179	14.9
3歳児	14	14	14	14	14	14	14	14	13	14	14	14	167	13.9
4歳児	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	336	28.0
5歳児	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	324	26.0
合計	108	108	108	108	108	108	108	107	107	108	108	108	1294	107.8

② 保育日数及び出席状況　延べ人数（名）保育日数（日）一日平均（名）一時保育（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延べ人数	1985	1901	2303	2059	1891	1983	2116	2002	1895	1772	2096	2222
保育日数	25	23	26	25	26	24	25	24	23	23	23	26
一日平均	79.4	82.5	88.8	82.6	72.3	82.3	84.4	83.2	82.3	77.4	91.3	85.6
一時保育	116	128	172	152	169	173	177	177	140	150	179	153

③ 職員数（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士	12	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13
看護師	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
パート	15	15	14	14	16	17	17	17	17	18	18	18
計	30	31	30	30	32	33	33	33	33	34	34	34
調理(外注)	5	5	5	6	5	5	5	5	5	5	5	5

野上児童館

2016 年度は、発達支援や養育支援を通して野上児童館を利用される方の地域性に気づき、アプローチの仕方を考え悩んだ 1 年だった。まずは、支援が必要なケースとして見ようとすることの大切さに気付くことができたので、今後もその視点は持ちつつ来館者と関わっていきたい。

また、これからの子育て世代の育成も意識しながら、学校や地域と連携をしながらプログラムの計画を立てていきたい。

１．利用状況

小中高生の来館は少しずつだが増えてきている。乳幼児の利用は、定着し安定した来館者数である。プログラムだけではなく、児童館まつりやミニ運動会などの来館者は増加している。

２．活動報告

（ア）乳幼児子育て支援活動

「こあら」「うさぎ」「パンダ」と 3 つのグループでそれぞれのねらいをもち、未就園児の親子を対象にプログラムを行った。子どもの年齢によって、保護者の求めていることも違うのではないかという気づきもあり、単発事業として『新米ママのふれあいタイム』、年 8 回の『栄養士・助産師巡回相談』を行った。どちらも好評であった。また、子育て支援活動が児童館に来るきっかけとしてうまく機能している。

（イ）小学生集団あそび支援活動

「児童館まつり」は「物語の世界」というテーマを持ち取り組んだ。「工作」「野外活動などを通じて異年齢の仲間作りを目的とした活動を行った。また、クッキングやランチタイムを導入し、長期休暇の時期は、昼食持参で長時間過ごせるようにした。

（ウ）中高生の居場所づくり推進事業

中高生部屋の整備を行った。学校と連携をし、「赤ちゃん学校へ行こう」へ参加をした。

（エ）地域における公益的な取組

中学生の職業体験活動の受け入れ（6 名）や実習生（1 名）の受け入れをした。

（オ）運営委員会との意見交換

年間 3 回行っている運営委員会に意見交換を取り入れ、率直な意見を聴くようにした。

（カ）職員の資質向上

①外部研修や、宝塚市内の各児童館が連携して行う事業（ミニたからづか）に参加することにより他児童館との交流を持ち職員のスキルアップを図ることができた。

②会議中に意見交換ができる場面を多く取り入れ、課題について一緒に考えていける体制作りを意識した。

【数値実績】

① 利用状況　本館　（単位：名）

	就学前	小学生	中学生	高校生	こども計	大人	合　計	開館日数	一日平均
4 月	316	707	93	5	1,121	368	1,489	25	59.56
5 月	308	371	19	8	706	318	1,024	23	44.52
6 月	486	560	18	1	1,065	454	1,519	26	58.42
7 月	518	1,049	55	1	1,623	523	2,146	25	85.84
8 月	572	1,415	74	6	2,067	663	2,730	26	105.0
9 月	463	636	18	0	1,117	444	1,561	24	65.04
10 月	416	549	27	3	995	407	1,402	25	56.08
11 月	371	575	66	3	1,015	352	1,367	24	56.96
12 月	404	689	28	7	1,128	385	1,513	23	65.78
1 月	385	338	12	0	735	351	1,086	23	47.22
2 月	468	356	14	6	844	424	1,268	23	55.13
3 月	587	919	65	7	1,578	563	2,141	26	82.35
計	5,294	8,164	489	47	13,994	5,252	19,246	293	65.69

② 利用状況　出前児童館　（単位：名）

	常設　型				派遣　型				イベント型
	回数	就学前	小学生以上	大人	回数	就学前	小学生以上	大人	回数
4 月	14	103	7	95	0	0	0	0	0
5 月	13	105	0	101	2	5	215	0	0
6 月	14	194	0	181	2	7	236	0	0
7 月	15	168	8	155	1	0	88	0	1
8 月	14	130	4	112	0	0	0	0	0
9 月	13	173	1	170	2	6	190	0	0
10 月	14	144	0	134	2	4	150	0	0
11 月	12	121	0	108	2	2	194	0	0
12 月	12	126	2	115	2	12	220	0	0
1 月	11	122	0	112	2	3	124	0	0
2 月	14	177	0	162	2	1	178	0	0
3 月	15	210	0	185	2	4	158	0	0
計	161	1,773	22	1,630	19	44	1,753	0	1

高齢者公益事業部

2016 年 4 月に熊本県で震度 7 を観測する大地震が発生した。これまでにも阪神淡路、東日本大震災と大災害が発生し、エデンの園においてもハード・ソフトの両面に関して、程度の差こそあれ影響があった。その都度、防災対策や避難誘導、さらには罹災後の運営について検証し検討を重ねてきたが、2016 年度は、改めて自然災害の脅威を知る年となった。今後もこれまでの経験を基に議論を深め、より実効性のある防災対策の構築に努める。一方、福祉施設や有料老人ホームでは、職員による悲惨な事件が発生し、職員の精神性、さらには職場環境に関して社会問題となった。このような事象に対し、事業部の各会議や研修を通して、この問題を取り上げた。今後も、風化させてはならないテーマとして議論を継続したいと考える。

さて、2016 年度、浜名湖エデンの園 1・2 号館の耐震対策建替え工事がスタートした。当事業部にとって長年の懸案事項であり、これを機に、エデン事業は新局面を迎えることとなる。半面、3 年半に及ぶ工事期間、入居者はもとより近隣住民や各施設の皆様に多大な迷惑を掛けることになる。このため、浜名湖エデンと事業部との連携を強化し皆様のストレス軽減に努める。また、この機会を生かして入居者の健康保持と生きがい対策面で新しいサービスを構築する。

2016 年度の経営面においては、新規入居者数が予算を大きく下回ることとなった。その原因には募集方法やタイミング等、具体論はいくつか挙げられる。しかし、入居者と職員の心の通い合うエデンであることが、最強の募集ツールである。その意味において、入居者や利用者の皆様にとって、我々職員が、最も頼れる隣人であったか否か反省させられる一年となった。2017 年度は、この経験を最大限活用した事業運営に邁進する。

１．聖隷理念の継承とエデン価値の確立と実践

6 年前から本部主導で取組んだパーソンセンタードケア・認知症ケアマッピングについては、2016 年度から各施設が主体的に取組むこととした。その結果、職員の意識が高まり全施設に広く浸透することとなった。また、サービスレベルの均一化と向上を目途とした EQC（エデン・クオリティ・コントロール）においては、本部及び各施設の連携により各種マニュアル、書式等の整備が進み、2017 年中の完成が可能との認識を持つに至った。

２．経営の安定と永続性の確保

経営安定の最大の要因である入居者募集においては、販売対象居室の入居率 95%を目指したが、浦安・油壺・松山エデンが目標に達することができず、目標（新規契約 105 戸、入園金合計 40 億円）の約 7 割にとどまった。この数値改善が、2017 年度の最大の課題である。

また、長年の懸案事項であった浜名湖エデンの園 1・2 号館耐震対策建替工事に着手し、これを機に、新規事業も含めたエデン事業の将来計画について具体的な検討を開始した。

３．人材の採用・育成・定着の強化

各施設において、徐々にではあるが入居者の平均年齢が高齢化しており、介護居室はもとより一般居室においても医療や一時的な介護サービスの需要が高まっている。そのため、事

業部内の委員会組織を改革し、新たに介護居室担当者会、一般居室担当者会、診療所事務長会を立ち上げた。2017 年度は、これらの委員会が主体となって研修に取り組む。また、日本老人福祉財団との交換研修では、確実に中堅職員のレベルアップにつなげることができた。

４．サービスの質・安全・効率の向上

感染症の拡大（集団感染）防止に関しては、前年に引き続き知識教育や予防策の徹底等を図った。その結果、2016 年度は、2000 年以降最も感染者の少ない年となった。また、施設担当者会を中心に防災・防犯体制の見直しを行い、浦安、藤沢の 2 施設において夜間警備業者を専門業者に変更し体制を強化した。省エネ・環境対策においては、電力デマンド管理での節電方法を共有し、全施設において電力会社による省エネ診断を実施-検証し改善点を明確にした。入居者満足度調査については、調査の内容や記入用紙の改善を行った。

５．新しい時代に向けた先駆的・開拓的な事業の発想

新しい高齢者の住まいを構築すべく、全国の高齢者の分布及び推移、経済状況を調査し、潜在的なエデンのニーズは十分にあると判断した。特に、高齢者の多い関東や関西の都市部にそれぞれ 300 戸程度の施設建設を想定し、経営シミュレーションを作成した。

また、2019 年度に予定されている運営ソフト ETS（エデン・トータル・システム）の更新に向け、今後も総合情報システム部と連携しながら次期システムの選定作業を継続する。

６.地域における公益的な取組

各施設では、それぞれが存立する地域と、特に、防災に関する協定を締結している。2017 年度には、すべてのエデンが各地域と防災協定を締結すべく努力する。また、高齢者の特性や介護に関する情報の発信基地として、今後も地域社会に貢献する。なお、2016 年度は、漢字検定（日本漢字能力検定）の試験会場として各施設を登録し、小学生を中心に近隣住民の検定受験の会場として無償開放した。

【数値実績】

（直営施設）		浜名湖	宝塚	松山	油壺	浦安	横浜	藤沢 1	藤沢 2	計
目標件数		0 件	17 件	15 件	30 件	28 件	8 件	6 件	1 件	105 件
募集実績		2 件 3 名	19 件 23 名	7 件 9 名	15 件 17 名	15 件 19 名	11 件 11 名	9 件 11 名	4 件 4 名	82 件 97 名
入居率	期首	96.8%	94.9%	90.6%	91.2%	91.2%	98.0%	97.1%	85.4%	93.8%
	期末	88.2%	97.7%	90.6%	90.3%	94.3%	96.0%	97.6%	83.3%	92.9%

介護付有料老人ホーム　浜名湖エデンの園

2016 年度は、4 月から新たな入居者の受け入れを停止したため、入居者数が減少する年となった。建て替え工事を控え、新規契約を行わなかったことによるものであるが、待機登録者数は順調に増加している。2016 年末には基本設計が完成し、工事施工業者が選定された。今後は、準備工事、解体工事、増改築工事と工程が進んでいく。1,2 号館の入居者の住み替え・仮住まいの準備も進み、今後、順次新たな部屋で生活を始められる。2016 年度は、1 年をかけて工事が本格化しても生活の質を落とすことのないような取り組みができるよう検討してきた。新たなアクティビティ（行事や催し）や介護予防活動の取り組みを行うことにより、従来の快適な生活を継続することができるよう検討・模索した 1 年であった。納涼祭の復活や職員参加型の行事、ラウンジコンサートなど、今後の工事期間への対応を視野に、2015 年度にはなかった取り組みを試みた。

設備整備面では、3 号館 1 階非常口の自動扉化のほか、3 号館ベランダ防水工事、新規駐車場整備などを行った。更に長年の課題であった温冷配膳車の導入の第 1 弾として、介護居室への導入を実現することができた。

経営的な面では、収入増加が難しく、工事の完了までは厳しい状況が続くことになるが、新たな契約に向けて、広報活動を通して待機登録者を増やすことができた。

１．個人の意思を尊重したエデンオリジナルサービスの確立と実践

（ア）パーソン・センタード・ケア（その人らしさを尊重した介護やサービス）の考え方を基に、引き続き認知症の勉強会や学会での発表を行い、その実践と意識の浸透を図ることができた。

（イ）ISO の維持審査受審により、サービスや業務の標準化を推し進めることができた。併せて、浜名湖エデンオリジナルサービスの確立を推進した。

（ウ）入居時から終末期までの連続性を重視した取り組みを組織全体で考えることができた。

（エ）より良い住環境を目指して、共用部の改修工事の他、建物周辺の環境整備に努めた。

２．次世代を担う人材確保と育成

（ア）「聖隷の理念」「施設理念」を継承すべく、研修や見学などでの啓蒙を行ったほか、施設内各所に理念を掲示した。

（イ）施設の「事業・運営計画」「予算」浸透のため園内勉強会を開催した。また、各職場に事業計画・運営方針を掲示し、職員の意識を高めることができた。

（ウ）毎月テーマを決め、職員への研修会や階層別（ラダー）勉強会を実施した。

（エ）職員健診の啓蒙やレクリエーションへの参加、超過勤務の削減など、職場環境の改善や福利厚生の増進に努めた。

３．安定した経営基盤の確立と事業の永続性の確保

（ア）全職員が募集スタッフの意識を持ち、常に入居率を意識することを目指した。4 月からの募集停止に伴い、待機登録者の増加に努めた。

（イ）ケア会議並びにサービス担当者会を通して、入居者一人ひとりの状況を確認し、最適な介護保険の適応を進めた。

（ウ）増収が難しい状況の中、職員一人ひとりがコスト意識を持ち、経費の削減に努めた。

（エ）受診機会の増加と加算の見直しなどを検討し、診療所の収入増加を検討した。

４．安全管理の徹底を図ったサービスの提供

（ア）様々なリスクについて各委員会を中心として、予防や予知の意識を高めるための取り組みを行った。また、感染については、2015 年度同様大きな感染の拡大はなかった。

（イ）リスク発生時の迅速な対応について、実地訓練し拡大防止と再発防止に努めた。

（ウ）コンプライアンス委員会を通し職員の法令順守の向上に努め、マニュアルを見直した。

（エ）三方原地区で広域防災無線の訓練を実施し、連携を確認した。

（オ）福祉施設の防犯強化に合わせて、訓練に参加した。さすまたや監視カメラを増設した。

（カ）職場巡視を実施し、適切な労働環境の整備に努めた。

５．未来へ繋がる建て替え計画の推進

（ア）基本設計に入居者や職員からの声を反映することができた。

（イ）ビオトープ導入に向けて見学を実施し、基本プランを検討した。

（ウ）園内建替工事事務所を開設し住み替え分科会、引越し分科会で具体的な対応を検討した。

（エ）今までの歴史と伝統を重んじた上で、新たなサービスや質の向上について検討した。

【数値実績】

表１：契約状況　（単位；名）

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	321 戸（53）戸	103	271	374

表２：地域別契約状況　（単位；名・％）

	関東	近畿	東海	九州	甲信越	四国	北海道	中国	東北	計
人数	87	18	253	3	7	0	1	3	2	374
構成比	23.3	4.8	67.6	0.8	1.9	0.0	0.3	0.8	0.5	100.0

表３：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	25	59	104	88	59	30	8	1	0	374
構成比	6.7	15.8	27.8	23.5	15.8	8.0	2.1	0.3	0.0	100.0

表４：平均年齢　（単位；歳）

平均	男性	女性
84.1	82.9	84.5

表５：入・退去状況　（単位；名）

	入居	退去	（死亡退去）
男	2	9	（ 7）
女	1	25	（22）
計	3	34	（29）

表６：介護保険利用者（介護保険請求者数）　（単位；名）

	合 計	内　訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	112	15	12	39	13	5	16	13
期末人数	114	14	15	35	17	5	21	7
月平均人数	116.6	15.0	13.9	36.6	16.4	5.8	19.3	9.6

ウェル・エイジング・コミュニティ　宝塚エデンの園

2016 年度は、運営、経営体質の改善に努め、今後の経営安定化の土台を築くことができた。

当園の事業運営の 3 つの柱である「入居者満足・職員満足・経営安定」の内の経営安定を最重点課題として、サービスと経営のバランスを図り、2016 年度経営実績はプラスで終えることができた。

2016 年度は、2015 年度末の退去者が多く、期首の入居者数が予算を大きく下回った状態でスタートした。経営上厳しい始まりであったが、募集活動は順調にすすみ新規入居契約は 19 件 23 名と目標を達成した。期末入居率は 96.0％で経営指標とした 97.0％を下回った。

入居者の平均年齢の増加とともに介護保険認定者数も増加しており、介護予防の取り組み強化や認知症ケアの充実の必要性を再度確認した。将来の介護に係る不安の軽減につながるサービスの在り方や人員配置に関し、2016 年度の実績をもとにサービスの質の向上への取り組み方を考えていく。

以下、2016 年度の取り組みを詳述する。

１．入居者満足の向上への取り組み

（ア）入居者満足度調査は、総合評価で星 4.0（前回、星 4.1）であった。2015 年度と比較し、良くなった 20.2％、変わらない 63.4％、悪くなった 1.6％との回答結果であった。

（イ）食事は、朝食と昼食において 2015 年度を上回った。入居者に新しいメニューによる変化を楽しんで頂く試みとして、調理師による料理対決企画を実施した。

（ウ）パーソン・センタード・ケアの研修を全職員対象に実施し、多職種間での意見交換の場を設け、認知症ケアの理解を深めた。また、身体機能の状況に応じて安心して参加できるように体操プログラムの種類を増やし、介護予防プログラムの充実を図った。

（エ）ISO9001 認証の更新は中止としたが、品質管理体制に基づいた内部監査、追跡監査、改善の取り組みを実施し品質の向上に努めた。

２．職員満足の向上への取り組み

（ア）役職者間の連携により、職場間の応援体制を築き、職員の負荷を分散する取り組みを園全体で実施した。

（イ）接遇研修を実施し、他者との関わりにおける職務遂行上の課題を考えることができた。

（ウ）管理会議において経営課題を毎月確認し、園としての判断の共有を図った。併せて、予算に対する実績を用い成果を明確に示した。

３．健全経営体制の維持

（ア）新規入居契約は、年間 19 件 23 名と目標を上回ることができた。期末の入居率は 96.0％であった。

（イ）附属診療所は、1 日当たりの平均入院患者数が 10 名と 2015 年度の 7.7 名を大きく上回った。1 日当たりの外来患者数は 2015 年度より少なかった。リハビリテーション室を地下 2 階から 2 階に移設することで受診時の動線を改善した。リハビリテーションは、予約枠の確保が課題であったが、理学療法士と作業療法士の 2 名体制にすることで課題を解決した。

（ウ）灯油価格の高騰により燃料費が 2015 年度実績を大きく上回った。電気、灯油を含めた総合的な省エネルギー対策の検討を 2017 年度の課題とした。

４．安全・安心な暮らしの提供

（ア）感染性胃腸炎（ノロウイルス）及びインフルエンザの集団感染の防止策として、全職員を対象とした研修と、食堂前での手洗い啓蒙活動を実施した。また、感染症発症者との濃厚接触者の共用部使用制限への協力により、2016 年度も集団感染の発生はなかった。

（イ）年 3 回の防災避難訓練を実施した。また、食堂での窒息事故を想定した緊急対応訓練を実施した。

（ウ）リスク、苦情発生時には対応部署を明確にして即時対応を行った。対応後は、リスクマネジメント委員会にて対応方法に対する評価を行った。

５．地域における公益的な取組

（ア）ゆずり葉自治会との「自然災害時の緊急避難場所提供に関する協定」の連携の一環として園内防災避難訓練の見学受入れを行った。

（イ）ゆずり葉自治会の会議に会場を提供し、運営に協力することで関係の維持に努めている。

【数値実績】

表１：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	388（62）	109	341	450

表２：地域別契約状況

	近畿	関東	東海	甲信越	中国	北海道	北陸	四国	九州	計
人数	402	21	16	1	6	1	1	0	2	450
構成比％	89.4	4.7	3.6	0.2	1.3	0.2	0.2	0	0.4	100

表３：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	28	61	122	112	70	36	18	3	0	450
構成比％	6.2	13.6	27.1	24.9	15.6	8.0	4.0	0.7	0	100

表４：平均年齢

平均	男性	女性
83.2 歳	82.2 歳	83.5 歳

表５：入・退去状況

人数	入居	退去	（死亡退去）
男	6	8	8
女	17	14	14
計	23	22	22

表６：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合 計	内　　訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	111.0	19.7	15.3	34.5	16.6	8.0	10.0	7.0
期末人数	116.3	17.7	18.4	26.1	27.2	14.0	8.8	4.0
月平均人数	114.6	20.6	15.8	31.4	21.2	10.0	10.0	5.6

介護付有料老人ホーム　松山エデンの園

2016 年度は、今までの活動を振り返り、園の運営を安定させる基盤づくりとして各活動並びに検証を行った。入居募集活動は、新規入居が 9 名と 2015 年度より新入居者数が減少する結果となったが、積極的な対応を継続しており 2017 年度の新たな入居契約に結びつけることができた。入居者の安心・安全な住まいを提供し続けていくためにも、安定基礎となる入居率 90％達成に向けて積極的な募集活動に取り組み、多くの新しい入居者をお迎えする事ができるよう力を注いでいきたい。

１．質の高いケアの提供

（ア）居室訪問や個別対応等から入居者が求めるニーズの把握や継続した生活支援の実施を見出す事ができた。

（イ）パーソン・センタード・ケアの考え方に基づいた認知症ケアの実践を行い、入居者視点の環境づくりに継続して取り組んでいく。

（ウ）介護予防活動は、定期的に行う事で参加人数も維持できており入居者に浸透している。新たな取り組みも合わせて充実した活動が今後も必要である。

（エ）ターミナルケアの実践については、園内での職員研修、入居者向けの講演を行い、入居者の気持ちを大切にしたケアを意識できる活動を行った。

（オ）集団感染の発生は防止できたが、感染予防・発生時の対応については、看護師を中心とした職員間の連携力を今よりも強化したい。

２．安全で美味しい食事の提供

（ア）2016 年度より食事料金が値上げとなり食事メニューの充実や新しい取り組み等充実したサービス提供が求められる中で、安定した食事提供を行う事ができた。

（イ）食材で高騰している物もあるが業者選定や調理法等コスト削減に努めた。

（ウ）介護食については、ケアサービス課と食事サービス課が連携してソフト食の提供改善を行う事ができている。引き続き美味しく食べて頂ける改善を行っていく。

（エ）入居者の食事アンケートをもとに、季節感のある献立や特別メニューを取り入れるなどサービスの質の向上を目指した。

３．人材の育成

（ア）基礎研修や全体研修等を通じて聖隷理念に基づく職員倫理・接遇の向上に取組んだ。

（イ）認知症ケアマッピングができる人材育成に力を入れた。

（ウ）施設内・法人研修に加え、外部研修に各職員が積極的な参加を行い、各個人のスキルアップを積極的に取り入れる事ができた。

４．安定した園運営を永続するための入居率の向上

（ア）新規契約戸数は 15 戸 18 名を目標としたが、7 戸 9 名であった。

（イ）介護居室直接入居の体験入居の実施や受入体制づくりに力を入れた。
2017 年度も入居に結びつける対応を継続していく。

（ウ）水道の契約変更を実施し、費用削減を行った。

５．地域貢献・交流の推進（地域における公益的な取組）

（ア）地域合同の防災避難訓練を行い、聖愛会、町内会との関係を深める事ができた。環境保全活動として年１回行われる市民大清掃に入居者と職員が地域の方と一緒に継続して参加している。

（イ）エデン納涼祭や市民清掃、地方祭の受け入れによる地域との交流の定着や介護フェスタを開催し地域との関係づくりを進めている。

（ウ）隣接する松山ベテル病院と医療面のサポートのみならず学会発表を通じての専門性を高めあう交流連携を深めている。

【数値実績】

表１：契約状況　（単位：名）

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	122 戸（17 戸）	41	101	142

表２：地域別契約状況　（単位：名・%）

	四国	近畿	関東	東海	九州	中国	計
人数	108	13	9	5	2	5	142
構成比	76.1	9.2	6.3	3.5	1.4	3.5	100.0

表３：年齢構成　（単位：名・%）

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	計
人数	8	21	46	33	17	8	4	5	142
構成比	5.6	14.8	32.4	23.3	12.0	5.6	2.8	3.5	100.0

表４：平均年齢　（単位：歳）

平均	男性	女性
83.61	82.78	83.94

表５：入・退去状況　（単位：名）

	入居	退去	(死亡退去)
男	3	1	(1)
女	6	5	(5)
計	9	6	(6)

表６：介護保険利用者（介護保険請求者数）　（単位：名）

	合 計	内　訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	58	17	6	6	6	11	8	4
期末人数	57	19	4	9	4	11	5	5
月平均人数	58.8	16.7	5.3	8.3	6.5	10.3	6.4	4.9

介護付有料老人ホーム　油壺エデンの園

2016 年度は、11 月 1 日に無事開園 30 周年を迎えることが出来た。これもひとえに入居者、地域住民の皆様のご支援・ご協力の賜物であり、感謝申し上げる。この日を迎えるにあたり記念歌、記念誌等入居者皆様のご協力を頂き素晴らしい作品が完成した。特に記念歌「油壺エデンの園」は入居者の皆様と歌い続けるものとしたい。

さて、運営面では相模原の障害者施設での残虐な事件、他施設での入居者虐待等施設での安全面が社会問題とされ当園でも多くのご意見を頂いた。職員教育等進める中、改めて入居者皆様の安全・安心のあり方を再認識した。また経営面では、新入居者募集の予算未達、退去者数の増加などにより入居者率低下、診療所においても医療費改定などにより収益減となった。これらにより施設会計が厳しい結果となった。経営安定の為には、入居率アップが必須であることから今後も入居者の皆様にご支援を頂き新入居者募集活動に尽力したい。

１．安全、安心を基盤とした各種サービスの質向上

（ア）喫茶、トイレ、相談室等共用部の環境整備をするとともに防犯体制強化の為に防犯カメラ、受付カメラの設置を行った。

（イ）温冷配膳車を導入し、診療所、介護居室等の入居者への適温食事提供を開始した。また初めて食事懇談会を開催、今後の食事を考える機会となった。

（ウ）診療所受診時の予約制を導入、待ち時間短縮に繋がった。また介護予防と転倒事故防止の観点からフットケア外来を 2017 年 4 月より実施する為の準備を行った。

（エ）ケアプラン作成に関して新たな手法を用い、入居者の個別性を重視したプラン作りを意識的に行われるようにした。

（オ）慰霊会にて集骨用の墓石を建立した。また、定期墓参り便を 2017 年 4 月より開始する予定である。

２.自ら考え行動できる職員の育成

（ア）係、委員会活動、個人受持ち、プリセプター等を職員個々に役割として課すことにより自主自立した職員の育成を進めている。

（イ）リスク事例の振り返りを通して役割、専門職としてのあり方を考える場としている。

（ウ）ケア・フロント・食事部門等ゆうゆうの里との現場職員交流研修を実施、互いに良い点学ぶ機会とした。

（エ）パーソン・センタード・ケアの考え方をもとに関連職場、他職種による会議のあり方が定着した。これにより各課間の連携の強化に繋げた。

３.安定した施設運営・経営

（ア）新入居者件数は実績 15 件 17 名(予算 30 件 37 名)と予算未達の結果となった。記念行事に合わせた見学会、入居検討者のすそ野を広げる為の大規模セミナー開催、入居者より直接体験談を伝える企画などにより一定の成果は確認出来た。

（イ）入居者のご理解のもと生活支援から要介護認定申請への移行、区分変更申請が適正に行われ介護報酬アップに繋げることが出来た。

（ウ）2016 年 4 月より「食の質向上及び経営改善」を目的に食事価格改定を行い一定の成果に繋げることが出来た。

４.環境・省エネへの取組みと地域との関わり

（ア）電気のデマンド管理(最大需要電力管理)及び各所の効率的なエネルギー使用コントロールにより大幅な電力使用量の削減が出来た。

５.災害時の対策、防災教育の徹底

（ア）地震・火災総合訓練に加え、別に職員による夜間想定訓練を実施、訓練時には避難場所で職員の対応状況をライブで放送、入居者にも臨場感が伝わった。

（イ）職員安否情報システムを導入、今後震災等発生時に全職員の安否情報を確認出来る体制を整えた。また同システム利用にて緊急連絡・招集も可能とした。

６.地域における公益的な取組

（ア）地域への開放も含めた介護フェスタを開催した。(介護予防活動紹介)

（イ）社会福祉協議会主催の地域住民介護予防インストラクター養成講座へ園職員を講師として派遣した。今後、両者協力による地域住民へのセミナー等を検討している。

【数値実績】

表１：契約状況　（単位:名）

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	372（92）	138	326	464

表２：地域別契約状況　（単位:名・%）

	関東	近畿	東海	九州	信越	四国	北海道	中国	東北	外国	計
人数	436	9	8	1	3	1	1	0	3	2	464
構成比	94.1	1.9	1.7	0.2	0.6	0.2	0.2	0.0	0.6	0.4	100.0

表３：年齢構成　（単位:名・%）

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	35	75	116	104	78	36	18	2	0	464
構成比	7.5	16.2	25.0	22.4	16.8	7.8	3.9	0.4	0.0	100.0

表４：平均年齢　（単位:歳）

平均	男性	女性
83.7	82.8	84.1

表５：入・退去状況　（単位:名）

	入居	退去	(死亡退去)
男	10	6	(5)
女	11	25	(22)
計	21	31	(27)

表６：介護保険利用者（介護保険請求者数）　（単位:名）

	合 計	内　訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	114	14	15	23	19	10	22	11
期末人数	111	9	14	23	24	13	17	11
月平均人数	115.0	13.3	17.7	25.3	16.8	11.3	19.3	11.3

介護付有料老人ホーム　浦安エデンの園

2016 年度は、2015 年度に引き続き 20 名を超える退去数となり新入居数が追い付かない厳しい年となった。しかしながら浦安地区周辺に特化した PR 活動を推進したことにより、近隣からの新規来園者も増え、地域における認知度が高まったことを実感することができた。ハード面においては、築 25 年経過する既存棟の老朽化に伴う配管の漏水対策工事や破損した屋根の一部改修などの対応が続き、入居者が安心して生活できるための環境整備が大きな課題となった。生活サービス面では、入居者の変化するニーズに合わせた共用部のリニューアルや園バスのダイヤ改正など利便性を高めることができた。介護サービスについては、自立の方を対象に生活支援サービスの説明会を開催し、理解を深めていただくことができた。

１．良質なサービスの追及

（ア）エデン・クオリティ・コントロール（EQC）によるサービスの質向上の取り組みを開始。各部門で目標値を設定し、進捗状況を確認しながら業務の標準化を推し進めた。

（イ）パーソン・センタード・ケアによる入居者本位のケアに取り組み、適切なサービスの実践と現場へのフィードバックで、更なる職員への浸透を図ることができた。

（ウ）レストランのカウンター席、多目的トイレ新設などニーズに応じた環境整備を進めた。

（エ）エンド・オブ・ライフケアについて家族懇談会で議題に掲げ、入居者の家族に理解を深めていただくことができた。

（オ）入居者の情報共有や情報整理により一般居室係と生活サービス係が連携し入居者支援に繋げることができた。

（カ）園で起きた問題について、事例ごとに説明会を開催し、入居者への情報提供と理解を深めていただくことに努めた。

２．働きがいのある職場風土の醸成

（ア）理念・経営方針及び施設運営方針について、職員研修を通して浸透に努めた。

（イ）外部の介護部門研修の機会を増やし、積極的に参加することができた。

（ウ）看護・介護ラダーの活用が十分ではなく、更なる取り組みが課題となった。

（エ）ワークショップ形式の職場討議により、お互いを尊重し合える風土の形成を図った。

３．安心・安全な施設づくり

（ア）感染症の発生はあったが、早期対応により感染拡大を抑えることができた。

（イ）転倒などのリスク事例は迅速にカンファレンスができているが、全員への周知と再発防止の課題が残っている。

（ウ）浦安市消防局と共同で夜間想定防災訓練を企画し、防火区画形成など実態に合った避難誘導訓練を実施できた。

４．安定した施設経営の実現

（ア）新規入居契約については高い目標値を掲げたが達成率は60%弱となった。

（イ）特定施設入居者生活介護の適正な締結と加算の算定を進めてきたが、逝去、入院が多く、目標値には届かなかった。

（ウ）職員の費用に対する意識が向上し、2015年度に引き続き水光熱費を抑制することができた。

５．地域社会貢献活動の積極的開催と環境・省エネルギーへの取り組み

（ア）浦安市内のNPO法人が企画する市内クリーン活動に入居者と職員が共に参加し、地域貢献に寄与できた。

（イ）入居者と協働で行っているグリーンカーテンの育成は毎年継続できている。

（ウ）近隣保育園の避難場所として訓練を継続的に受け入れることができている。今後は共同訓練も視野に入れたい。

【数値実績】

表１：契約状況

	戸数 （複数入居）	男性	女性	計
人数	195戸 （24戸）	66名	153名	219名

表２：地域別契約状況

	関東	近畿	東海	九州	中国	東北	計
人数	202名	6名	3名	3名	0名	5名	219名
構成比	92.2%	2.7%	1.4%	1.4%	0.0%	2.3%	100.0%

表３：年齢構成

	95以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60未満	計
人数	9名	44名	47名	53名	37名	17名	12名	0名	0名	219名
構成比	4.1%	20.1%	21.4%	24.2%	16.9%	7.8%	5.5%	0.0%	0.0%	100.0%

表４：平均年齢

平均	男性	女性
83.2歳	80.8歳	84.2歳

表５：入・退去状況

	入居	退去	（死亡退去）
男	8名	7名	（6名）
女	12名	14名	（13名）
計	20名	21名	（19名）

表６：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合 計	内　　訳						
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
期首人数	64名	12名	6名	15名	10名	11名	5名	5名
期末人数	56名	13名	4名	12名	7名	7名	10名	3名
月平均人数	62.0名	13.0名	5.2名	13.9名	8.7名	9.8名	7.8名	3.6名

介護付有料老人ホーム　横浜エデンの園

2016 年度は、聖隷横浜病院等の医療機関との連携の維持、「パーソン・センタード・ケア」の継続による職員教育の実施等を通して、入居者に安心して生活していただける環境づくりに取り組んだ。2016 年 5 月に聖隷横浜病院の往診医師が交代したが、情報共有に努め、入居者や家族が違和感を抱くことなく移行することができた。また、「パーソン・センタード・ケア」に基づく活動として、特に終末期の入居者に対して実践した。

一方、経営面については、退去者が増加したこと（2015 年度：4 名、2016 年度：12 名）、特に上半期に新規入居が伸び悩んだ影響（上半期：1 戸 1 名、下半期：10 戸 10 名、計 11 戸 11 名）から厳しい 1 年となった。しかし、2016 年度末の入居率は 96%と改善がみられる。今後も有望顧客の入居が見込まれており、2017 年度は目標達成を目指したい。

1．安全・安心・良質なサービスの提供

（ア）特に看取りについて、各部署が情報を共有して、それぞれ対応可能なものを見つけ、実践することができた。今後も看取りケアの充実に欠かせないため、継続していきたい。

（イ）要検討事例について、適宜分析を実施し結果について共有した。なお、インシデントの報告数が依然として少ないことから、提出を促す具体的対策を実施したい。

（ウ）終末期の入居者を対象に「情報共有シート」を作成し、職員間、聖隷横浜病院緩和ケアチームと情報を共有することによって、パーソン・センタード・ケアに基づくケアの提供を行った。また、「認知症ケアマッピング」のマッピング、フィードバックを継続した。

（エ）緩和ケアチームと連携し、自宅への退院が困難な方の入居につなげた（4 名）。また入居後については、前述の「情報共有シート」等を用いて情報を共有した。

（オ）満足度調査の結果について評価・分析の上、家族との懇談会において報告して、具体的な改善に取り組んでいる。

2．人財の育成

（ア）各部署の目標に施設理念・方針を盛り込むことによって、各職員の目標とリンクして実践することができた。

（イ）接遇の自己チェック・他者チェックを実施し、客観的な評価で改善を促すよう対応した。

（ウ）新規採用職員、特に新人職員に対して、余裕を持った教育プログラムを実施した。

（エ）メンタル不全者ゼロを維持することができた。今後も継続できるよう「ストレスチェック」の活用等によって、早期のメンタルケアを実施するとともに、職場環境に配慮する。

3．経営基盤の安定と永続性の確保

（ア）2016 年度の居室の平均入居率は 92.8%（平均 46.4 戸）と、目標の 98%（平均 49 戸）を下回った。しかし、新規契約数は 11 戸と目標の 8 戸を達成した。積極的な募集活動の他、聖隷横浜病院からの終末期患者の新規入居を想定し、空き居室の迅速な改修を行う。

（イ）光熱費の削減につき全体会や職員への配付物へのデータの記載等行い、電気使用量が約 5%減少した。今後、光熱水費の他、他のコスト削減の手段について調査する。

（ウ）運営管理課職員の配置を見直し、一部経理業務の高齢者公益事業部への移行を行った。

４.地域社会との連携と協働

（ア）近隣の消防署・消防団による合同の避難訓練を実施した。

（イ）町内会活動への参加、公園清掃や地元祭事への参加等交流を図った。

５.環境・省エネルギー活動への取り組みの強化

（ア）グリーンカーテンの栽培、テラスの植物栽培等を入居者の協力のもと実施した。また、園外部の花壇に季節の草花を植える等、環境美化活動を実施した。

（イ）職員に対し、省エネルギー意識を持つよう各種活動を実施した。LED 導入については引き続き検討課題とする。

【地域における公益的な取組】

1　園主催の「ミニセミナー」を開催し、地域住民に対して参加を呼びかけ、交流を図った。

2　近隣の保育園へ、有料で夕食を提供している。

【数値実績】

表 1：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	48 戸（0 戸）	9 名	39 名	48 名

表 2：地域別契約状況

	関東	近畿	東海	九州	中国	東北	ハワイ	計
人数	43 名	1 名	3 名	0 名	0 名	0 名	1 名	48 名
構成比	89.6%	2.1%	6.2%	0%	0%	0%	2.1%	100.0%

表 3：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	6 名	15 名	13 名	9 名	4 名	0 名	1 名	0 名	0 名	48 名
構成比	12.5%	31.2%	27.1%	18.8%	8.3%	0%	2.1%	0%	0%	100.0%

表 4：平均年齢

平均	男性	女性
88.0 歳	82.9 歳	89.4 歳

表 5：入・退去状況

	入居	退去	(死亡退去)
男	5 名	4 名	(4 名)
女	6 名	8 名	(8 名)
計	11 名	12 名	(12 名)

表 6：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合 計	内　　訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	49 名	4 名	6 名	9 名	8 名	6 名	7 名	9 名
期末人数	48 名	2 名	3 名	11 名	3 名	10 名	6 名	13 名
月平均人数	46.4 名	2.6 名	4.0 名	11.7 名	5.9 名	6.7 名	5.7 名	9.8 名

表 7：サービス活動収益

金額	245,947 千円

聖隷藤沢ウェルフェアタウン

2016 年度、聖隷藤沢ウェルフェアタウンは開設 6 年目を迎えた。4 月には総園長以下、運営管理体制が一新され、開設当初からこれまでの検証と、将来にむけた方向性を示すための基盤づくりをする重要な年度として運営をスタートした。新たな体制においても、これまで以上に「安心・安全」を第一義に、質の高いサービスの提供を掲げ運営をすすめてきた。

入居者、利用者、行政や地域からの多大なる協力、さらには職員全員の努力、聖隷の総合化力によるサポートにより、各事業が取り組んできた 2016 年度の成果、および聖隷藤沢ウェルフェアタウンの事業目標・重点施策の成果について以下のとおり報告する。

【藤沢エデンの園一番館】

入居率は 100%に近い状況となり、この状況を維持していく上で必要な体制の整備と、更なるサービスの向上を目指し、業務全般の現状を精査し改善に取り組んだ。特にサービスの可視化を図るため、他のエデンの園を参考に、冊子「生活・防災のしおり」を作成し、全戸に配布したことで、入居者が日常生活でお困りになることを低減することができた。また、全職員を対象に、ホームの運営についてより理解を深めるために、あらためて管理規定および重要事項説明書の勉強会等を実施し、ホームにおいてわたしたちが重要な役割を担っていることを再認識し、全員で運営していく風土の醸成を推進してきた。

【藤沢エデンの園二番館】

2016 年度は、一番館から 4 名が住み替えとなり、提携ホームとしての機能は年々高まっている。それらを踏まえ、入居者一人ひとりへの最適なケアサービスの提供、認知症ケア、看取りの体制等について、これまで以上に注力していくために、環境整備を行うと共に、知識・技術の研鑽に努めた。

【藤沢愛光園・在宅サービス部門】

多くの特別養護老人ホームを有する藤沢市において、その中から選ばれる施設を目指し運営に取り組んできた。短期入所の稼働率は苦戦を強いられたが、入所については、入院させないケアの実践、入所者および家族の声を大切にしたケアに取り組んできた。また、EPA による介護福祉士候補生も就業 2 年が経過し、2017 年度には国家試験を迎えることから、これまで以上のサポートで資格取得に向け支援していく。

訪問看護・通所介護事業も、入所事業と同様に人員確保に苦戦したことから、2015 年度を超える展開はできなかった。しかしながら、地域医療機関とも円滑な連携体制を維持し、事故やトラブルなく質の高いサービスが提供できていることは、2016 年度の大きな成果といえる。また、居宅介護支援事業は、一番館入居者の対応をはじめニーズが高まりつつある。2016 年度は、安定したサービス提供の維持と、利用者確保のための体制見直しと再構築に時間を費やす一年となった。

1. 各事業・職場において経営・運営のあり方を再検証する

開設以来 5 年が経過し、入居者・利用者数は大幅に増加しており、管理規約に示すサービスが適切に行われているかを検証し、根拠あるサービスの提供に努めることに注力してきた。EQC 活動により、様々なルールが可視化できたことも、大きな成果である。

2. 技術向上、他職種連携ができる職員育成を目指した職員教育

2016 年度も、ウェルフェアタウン全体でパーソン・センタード・ケア、認知症ケアマッピングについての学びを継続してきたことにより、職場や職種を超えて利用者中心のケアを推進してきた。各事業を理解し連携を深めるために、勉強会・事例検討会等の開催も積極的に行うことができた。

3. 次世代に向けた人材確保やボランティア育成の体制づくり

ケア部門の離職率は 2015 年度を上回る悪い結果であった。特に非常勤職員の離職が大きく影響している。今後、業務内容や教育体制等の精査と改善により、離職率低下を目指す。ボランティアについての方針や、方向性については、タウン全体で大幅に役職者が交代したこともあり、十分な検討や取り組みができなかったことから、今後の検討課題としたい。

4. 地域包括ケアシステムを意識した地域連携の推進と地域における公益的な取組

近隣の医療機関が主催するセミナー等への参加、近隣病院の医師を招聘しての勉強会開催等により、利用者の安心と安全を確保するための活動をおこなってきた。

また、社会福祉法人として地域・行政から積極的な参画を求められている「藤沢市家族介護者教室事業」には、2012 年度より継続して関わることができている。今後も公益的活動や地域包括ケアシステムにおけるウェルフェアタウンの役割をしっかりと認識し、様々な取り組みを行っていく。

【藤沢エデンの園一番館－数値実績】

表１：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	205（57 戸）	84 名	178 名	262 名
サービス活動収益	397,651 千円			
職員数(常勤換算)	52.0 名			

*ｻｰﾋﾞｽ活動収益は内部取引消去前の数値

表２：地域別契約状況

	関東	近畿	東海	九州	中国	東北	四国	計
人数	235 名	4 名	16 名	1 名	3 名	2 名	1 名	262 名
構成比	89.7%	1.5%	6.1%	0.4%	1.1%	0.8%	0.4%	100.0%

表３：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	2 名	8 名	48 名	75 名	69 名	38 名	17 名	5 名	0	262 名
構成比	1.2%	2.7%	13.8%	29.6%	25.4%	18.1%	6.2%	3.0%	0.0%	100.0%

表４：平均年齢

平均	男性	女性
79.3 歳	79.8 歳	78.8 歳

表５：入・退去状況

	入居	退去	(死亡退去)
男	4 名	6 名	(3) 名
女	8 名	5 名	(1) 名
計	12 名	11 名	(4) 名

【藤沢エデンの園二番館－数値実績】

表１：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	40 戸（1 戸）	15 名	26 名	41 名
サービス活動収益	166,775 千円			
職員数(常勤換算)	37.5 名			

*ｻｰﾋﾞｽ活動収益は内部取引消去前の数値

表２：地域別契約状況

	関東	近畿	東海	九州	中国	東北	計
人数	35 名	2 名	0 名	1 名	3 名	0 名	41 名
構成比	85.4%	4.9%	0.0%	2.4%	7.3%	0.0%	100.0%

表３：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	5 名	11 名	10 名	11 名	2 名	2 名	0 名	0 名	0 名	41 名
構成比	12.2%	26.8%	24.4%	26.8%	4.9%	4.9%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

表４：平均年齢

平均	男性	女性
86.6 歳	85.9 歳	87.3 歳

表５：入・退去状況

	入居	退去	(死亡退去)
男	2 名	1 名	(1) 名
女	6 名	8 名	(8) 名
計	8 名	9 名	(9) 名

表６：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合 計	内 訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	43 名	0 名	5 名	9 名	10 名	4 名	5 名	4 名
期末人数	40 名	0 名	3 名	14 名	7 名	6 名	5 名	5 名
月平均人数	40.3 名	0 名	3.5 名	13.8 名	6.8 名	6.4 名	5.0 名	4.8 名

【藤沢愛光園－数値実績】

	特養入所		短期入所		合計
	既存	ユニット	既存	ユニット	
利用者定員	名	100 名	名	20 名	－
利用者延べ数	名	35,337 名	名	6,303 名	－
稼動延日数	365 日		365 日		－
一日平均利用者数	名	96.8 名	名	17.3 名	－
稼働率	%	96.8%	%	86.5%	－
単価（1人1日当り）	14,064 円		13,329 円		－
サービス活動収益	496,982 千円		84,014 千円		580,996 千円
職員数(常勤換算)	64.9 名		12.6 名		77.5 名

*ｻｰﾋﾞｽ活動収益は内部取引消去前の数値

【聖隷訪問看護ステーション藤沢】

	平均利用者数	月間訪問数	年間訪問数	単価	サービス活動収益	職員数（常勤換算）
実績	79.2 名	554 件	6,648 件	9,575 円	63,666 千円	8.7 名

*ｻｰﾋﾞｽ活動収益は内部取引消去前の数値

【聖隷ヘルパーステーション藤沢】

	介護給付			予防・総合事業		自立支援		単価			サービス活動収益	職員数（常勤換算）
	平均利用者数	月間訪問数	年間訪問数	月間訪問数	年間訪問数	月間訪問数	年間訪問数	介護給付(回)	予防総合事業(回)	自立支援(回)		
実績	31.3 名	474.9 件	5,699 件	117.3 件	1,408 件	251 件	3.013 件	3,566 円	16,357 円	3,992 円	40,974 千円	5.9 名

*ｻｰﾋﾞｽ活動収益は内部取引消去前の数値

【聖隷ケアプランセンター藤沢】

	年間請求件数		単価		訪問調査		サービス活動収益	職員数（常勤換算）
	介護	予防	介護	予防	件数	単価		
実績	1,057 件	491 件	15,184 円	4,191 円	41 件	5,000 円	18,316 円	3.1 名

*ｻｰﾋﾞｽ活動収益は内部取引消去前の数値

【聖隷デイサービスセンター藤沢】

	介護給付			予防・総合事業		単価		サービス活動収益	職員数（常勤換算）
	平均利用者数	月間利用者数	年間利用者数	月間利用者数	年間利用者数	介護給付(回)	予防総合事業(回)		
一日	26.1 件	616.5 件	7,398 件	15.5 件	186 件	10,172 円	40,343 円	84,708 千円	11.1 名
半日	1.4 件	35.8 件	430 件			5,640 円			

*ｻｰﾋﾞｽ活動収益は内部取引前の数値

ウェル・エイジング・プラザ　奈良ニッセイエデンの園

2016 年度は有料老人ホームにおいては「エンド・オブ・ライフケア」を推進するために、介護居室と一般居室でのサービスや取組について、入居者へ説明会を実施した。健幸（造語）生活推進活動においては、MCI（経度認知障害）チェックからウォーキングプログラムに繋げ大学との共同研究をまとめて最終報告まで結び付けることができた。2015 年 8 月の食事料金改定後、喫食数増加を目指しプロジェクトで取組んできたが、残念ながら大きな成果達成に至らなかった。経営面では、2015 年に引き続き好調な入居率を維持しつつ、適切な介護認定に向けた介護保険契約を推進し、身体状況を踏まえて介護居室を必要とされる方への適正な住み替えを実施することができた。水光熱費において、2015 年度から導入した省エネルギー活動が年間を通じて効果を表し、価格単価の抑制等と併せて費用削減に大きな影響をもたらした。クリニックでは、外部からの入院患者の受入れを再開し、入院・外来のハード面の整備による療養環境を充実させたところ、改善傾向は見られるものの厳しい経営状況が続いている。奈良ベテルホームは渉外活動と環境整備により、通所リハビリテーションはもとより大幅に利用者を増加することができた。在宅 3 事業は西大和地区への事業集約化としてスタートし、地域との連携強化により安定した利用者の確保の中、それぞれ利益計上ができた。なお、各施設別の取り組みについては、以下の通り報告する。

◆有料老人ホーム「奈良ニッセイエデンの園」

１．聖隷理念の浸透とトータルケアサービスの実践

健幸（造語）チェックを年 3 回行い、MCI の早期発見と進行予防のためのウォーキング教室を 6 ヶ月間行った。参加者 16 名からは、入居者同士の繋がりができたことや、自主トレを考えるなどの行動変容が現れて、最終報告に結びつけられた。看取りのプラン立案、同意書の取得を看護師中心に早めに行うことで、介護居室での看取りを 8 名（10 名中）実施できた。ケア内容も身元引受人と連絡を密に取ることで本人や家族の希望により近づけることができた。食堂運営において、喫食数向上のために、日清医療食品とともにポスター掲示や特別食の提供などのアピールを行ったが、微増にとどまった。

２．安定した経営基盤の確立

2015 年度の介護保険制度改定による減収の中、他課との連携を継続し必要とされる方への介護居室への住み替えを 10 室行い、新入居 22 件 30 名の入居契約につなげ、入居率 97.3%を維持して安定した収入確保に繋げられた。介護保険新規契約者は、目標の 13 件を達成し、より適正な介護保険の区分変更も進んでいる。居室訪問は、2015 年度より居室サービス課を中心に生活サービス課、運営管理課の連携で進めることにより、効率的且つ計画的に進められ、未訪問居室 0 件に向かっている。省エネルギー活動については、LED 化の促進やボイラー関連のこまめな運転制御、電気使用量や燃料費の低価格効果により費用削減に成果が得られた。

３．人材の育成・活用・定着の強化

目標参画の際に介護ラダー、看護ラダーを活用して面接を行ったが、具体的な OJT に繋げられず課題を残した。介護職員の自主勉強会を 1 年間実施し、プリセプターのフォロー機会増による育成、職員個々の特性を活かした委員会や研修への参加により職場活動の活性化が図られた。また、インシデントを記載することで意識付けが進み、毎月の職場会で共有し、事故防止に繋げられた。

４．サービスの質・安全・効率の向上

感染対策の一環として大型加湿器を園内共用部複数個所に配置して拡大防止に努め、集団感染の防止に大きな効果が得られた。リスクマネジメント委員会では各部署のリスク情報・改善報告の共有を継続し、リスク回避の一助となっている。本格的に取り組み始めた EQC（エデン・クオリティ・コントロール）は、各職場の進捗差はあるものの一部部署で先行しながら着実に進められている。開園以来初めて防犯対策訓練を実施し、入居者と共に意識向上に努め、園内各所の防犯対策上のハード面の整備を一部補助事業として実施した。

５．地域及び他施設との連携・交流

4 回目となる地域の総合防災訓練や大和川一斉清掃に参加し、園と近隣自治会、町と連携が一層深められた。また、奈良ニッセイエデンの園学会を地域の福祉事業所や教育機関を招待し開催して好評を得た。地域連携グループを中心に、地域向け介護講座や出張介護講座（転倒予防）の開催や河合町主宰のフリーマーケットへの参加など地域に根差した活動を継続して行った。

■入居者募集活動状況

新規契約戸数は 22 戸で、(対前年+3 戸）その内、8 戸が 2 人入居であった。また、退去が 26 戸(一般 16 戸、介護居室 10 戸)、介護居室への住替えが 10 戸(対前年比-3 戸)あった。その結果、年度末の入居状況は一般居室 356 戸 (対前年比±0 戸)、介護居室 40 戸 (対前年比±0 戸) となり、入居率は一般居室 98.3%、介護居室 89.1%、全体で 97.3%であった。

■介護保険状況

介護保険認定者は 2017 年 3 月 31 日現在で要支援 1；28 名（含介護居室 0 名)、要支援 2；24 名（同 0 名)、要介護 1；25 名（同 6 名)、要介護 2；21 名（同 11 名)、要介護 3；15 名（同 12 名)、要介護 4；11 名（同 10 名)、要介護 5；4 名（同 2 名)、合計；128 名（同 41 名）となった。
介護保険認定者数は、2016 年度当初の 122 名から 6 名増加した。

【数値実績】

■表 1:契約状況　(3 月末現在)

	居室数	契約数（内複数入居）	入居率
一般居室	362	356（105）	98.3%
介護居室	46	41（　0）	89.1%
合　　計	408	397（105）	97.3%

(3 月末現在)

男　性	女　性	全　体
149	353	502
29.7%	70.3%	100.0%

■表２:地域別契約状況　(3 月末現在)

	近畿	関東	中国	東海	北陸	四国	九州	北海道	合計
件　数	350	19	1	18	3	5	1	0	397
構成比	88.2%	4.8%	0.3%	4.5%	0.8%	1.3%	0.3%	0.0%	100.0%

■表３:年齢構成　(3 月末現在)

	～60	～64	～69	～74	～79	～84	～89	～94	95～	合計
人　数	1	6	31	46	97	121	120	61	19	502
構成比	0.2%	1.2%	6.2%	9.2%	19.3%	24.1%	23.9%	12.2%	3.8%	100.0%

■表４:平均年齢　(3 月末現在)

男　性	女　性	全　体
81.1 歳	82.3 歳	82.0 歳

■表５:入・退居状況

	入居	退去(内死亡退去)
男性	14	11(9)
女性	22	17(16)
合計	36	28(25)

■表６:介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合　計	内				訳		
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	112 人	26 人	15 人	29 人	20 人	10 人	7 人	5 人
期末人数	120 人	25 人	22 人	23 人	17 人	16 人	13 人	4 人
月平均人数	108.4 人	25.7 人	18.6 人	28.5 人	18.8 人	13.3 人	8.7 人	4.9 人

◆高齢者総合福祉センター「ふれあいプラザ」

毎月開催する 2 講座（朗読・色鉛筆ぬり絵）が継続して定員を満たしており、講師の都合上、枠拡大が難しいことから、外部の新規受講希望者が受けられない状況が続いている。他の講座についても安定的に受講者が確保できている。ホールイベントにおいては、参加費無料のものに限り募集定員の 2～3 倍の申込みがあり、イベントの安全及び快適な環境での開催を優先して抽選でもれる方を多数発生させている。外出企画もニーズが高まり続けており、募集開始 1～2 日で定員となるほどの好評を得ているが、多くの方がキャンセル待ちとなる課題を残す。講座受講者数 1,063 名(2015 年度 988 名)、イベント参加者数 2,270 名(2015 年度 1,930 名)、外出企画 129 名(2015 年度 130 名)

◆ニッセイ聖隷クリニック

診療報酬改定への対応、看取りや個別ケアの充実、介護居室との関わりにより介護居室への住替え促進に積極的に取り組んだ。在宅事業所との連携による要介護者の入院受入れの再開など、外部からも着実な患者確保に努めてきた。リハビリテーションの減算措置に対応すべく新規患者獲得に向け、エデンの園との新たな連携を模索した。また、外来・病棟のハード面の整備により

療養環境を充実させたが、改善傾向は見られるものの厳しい経営状況が続いている。

◆奈良ベテルホーム

2015 年度同様に安定した経営基盤を確立する為、引き続き渉外・広報活動及び利用者管理の強化を図ってきた。その結果、通所リハビリテーションは年間を通じて大幅に予算達成ができた。入所は利用者数減と加算未取得により予算未達となった。ケア面においてはセンター方式の活用を推進し、利用者個々の「楽しみ」「喜び」につなげる活動提供を行い、生活意欲の向上に努めた。また 2015 年度に続き各フロアのハード面の整備を行い、利用者・家族等にとってより良い療養環境を提供できた。

◆ニッセイせいれい在宅介護サービスセンター・ベル　西大和店

訪問介護収益は、介護・予防の利用者増により予算を達成することができた。福祉用具貸与収益については、職員パートを増員したことからメンテナンスや業者との連携を図ることができ、件数を順調に伸ばして利益計上ができた。

◆訪問看護ステーション西大和

ターミナル訪問件数増により看取り件数が増加したが、訪問時間の短縮・リハビリテーション職員の欠員などで月平均利用者数、訪問件数共に予算未達となった。その中で訪問看護の専門性を発揮し、積極的に幅広く訪問への関わりを行い、近隣介護事業所とのケア共有（吸引指導など）を実施し、利用者のニーズに応える事ができた。

◆ニッセイせいれいケアプランセンター西大和

特定事業所加算Ⅱ取得継続に向けて可視化を進め、医療・介護・地域などの連携を強化したことや、例年夏場に入院・逝去などで件数が減少する中、大きく減少させずに秋にかけて利用者数が増加し、予算を達成して利益計上ができた。

◆その他、地域における公益的な取組

（ア）実習生受入(実人数 17 名　延べ日数 83 日)
（イ）職場体験学習受入(河合第二中学校　1 名　実日数 1 日間)※受講生体調不良のため。
（ウ）ボランティア受入(実人数 40 名　延べ日数 273 日)・行事ボランティア(実人数 278 名)
（エ）介護の日ふれあいフェスタ開催（入居者 61 名、外部 15 名）
（オ）文化教養講座(開催数 44 回　参加者 1,063 名)
（カ）地域住民・入居者を対象としたコンサート・講演会(開催数 13 回　参加者 2,270 名)
（キ）河合町総合防災訓練への参加（6 名、内入居者 2 名）
（ク）河合町開催マーケットへ参加・売上金は町社協寄贈（来場者約 700 人、売上 26,750 円）
（ケ）大和川清掃活動への参加（職員 13 名）

ウェル・エイジング・プラザ　松戸ニッセイエデンの園

2016 年度は開園 20 周年という節目に当たり、園の運営について様々な機会で振り返りを実施し、一部の介護サービスを見直すなど「適正化」と「重点化」に着手した。また、広報宣伝活動に努めた結果、2015 年度に引き続き好調な入居者募集活動が展開できたため、年間を通してほぼ満室の状況であった。しかし、ここ数年の介護認定者の増加傾向は止むことなく、最高齢 109 歳を筆頭とする入居者の平均年齢は 84.3 歳に達し、介護認定者数は年間を通じて 130 名以上で推移し、医療や介護を必要とされる入居者に溢れた状況であった。

そのため、介護居室及びクリニックは満床の期間が長く、各課の情報共有を密にし、医療依存度と本人・家族の意向のバランスを取りながら、職員一丸となってクリニック病床と一時介護室のコントロールを行い、その適正利用に取り組んだ一年であったといえる。

（ア）2016 年度事業の振り返り

１.有料老人ホーム「松戸ニッセイエデンの園」

（１）各課の協力と情報の融合による総合力の発揮とサービスの向上

既存の入居者については、職員 2 名体制で居室訪問に伺い現在の心身や常用薬の状況、心配事や園への要望等の確認を、2015 年度に引き続き行った。また、自立の方に対して、生活支援サービスの長期化が予想される場合には、介護保険申請への意向確認を早期に行い、適切な時期に認定が受けられるよう、ケアマネージャーを中心に関わった。

（２）人材育成

職員の質を向上させるため、喀痰吸引研修、医療的ケア講習、DCM のマッパー育成研修、心肺蘇生法トレーニング研修、介護予防運動トレーナー養成講習など、外部研修に積極的に参加し、専門職としての知識向上、自己研鑽を推奨するとともに、園としても費用面の補助を行い、参加しやすい環境づくりを図った。

（３）経営基盤の安定

医療依存度の高い方はクリニック病床を優先的に使用して頂くことで、一時介護室の適正利用を促した。また、各課の情報共有を密にすることで円滑な住替えを図った。

（４）リスク管理体制の強化

冬期を前に、大食堂での嘔吐を想定した訓練の実施や、マニュアルの確認など事前準備を行った。結果、インフルエンザ・ノロウイルスについては、単発の発症はあったものの拡大せずに経過した。

（５）社会・地域への貢献と連携

3 月に行われた 20 周年記念イベントでは、地域の方々へも開放し、多くの方にご参加いただいた。

２．松戸ニッセイ聖隷クリニック

外部医療機関に入院した入居者については、一般居室サービス課・介護居室サービス課と連携し、医師を中心として早期の転入院の受け入れが可能な体制を整備し、入院患者数は大幅な増加となり、結果 2 年続けての黒字決算となった。また、9 月にはオーダリングシステムを導入し、各部署の負担軽減とリスク管理を図った。

３．高齢者総合福祉センター

2016 年度は、3 月に 20 周年を迎え、式典をはじめ内外の様々なイベントを開催し、入居者にも大変好評であった。また、落語会を年 4 回開催したり、2015 年度より立ち上げた能楽教室を月 1 回の開催を継続したりと、入居者の世代交代を意識した主催教室や企画の創出に取り組んだ 1 年であった。

４．ニッセイエデンヘルパーステーション（訪問介護）

大型プランの契約終了や地域包括支援センターからの指導が増えたことから利用が始まってもすぐに終了という現状ではあったが、職員一人ひとりのスキル向上により質の高い支援ができ、黒字基調での事業運営が継続できた。

また、障害総合支援法による居宅介護事業への参入のための、調査・準備を開始した。

（イ） 公益的事業について

・東松戸病院へのセミナー会場の提供

・教員免許特例法に基づく介護等体験受入（実人数 2 名、延べ日数 10 日間）

・「ニッセイ夏休みフェス」へのブース出展

・ペットボトルキャップ回収によるポリオワクチン寄付（116kg→58 人分）

表１：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	345（78）	108	315	423

表２：地域別契約状況

	関東	近畿	東海	九州	北海道	甲信越	東北	北陸	中国	計
人数	400	4	9	0	0	3	3	2	2	423
構成比	94.6	0.9	2.1	0.0	0.0	0.7	0.7	0.5	0.5	100.0

表３：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	21	74	139	96	56	16	21	0	0	423
構成比	5.0	17.5	32.8	22.7	13.2	3.8	5.0	0.0	0.0	100.0

表４：平均年齢

平均	男性	女性
84.3	83.5	84.6

表５：入・退去状況

	入居	退去	（死亡退去）
男	6	8	(8)
女	14	11	(11)
計	20	19	(19)

表６：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合 計	内　　訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	115	23	16	26	20	10	10	10
期末人数	122	27	15	27	22	9	8	14
月平均人数	115.1	23.8	15.0	27.1	20.6	9.7	8.2	10.7

ケア付き高齢者住宅　明日見らいふ南大沢

2016 年度、明日見らいふ南大沢（東京都住宅供給公社「以下公社」からの運営受託事業）は開設 20 周年記念の 1 年間であった。まず、入居者をはじめとする関係者の皆さま方のご理解とご協力のもと、毎年恒例の行事・催し、そして記念講演会や一泊旅行等も開催するなど 1 年間を通して“20 周年”をともに祝い、喜びを共有することができたことを感謝したい。一方、開設 20 年を経て入居者の平均年齢は 84.8 歳となった。2015 年度と比較すると大食堂配膳(43%増)、居室清掃(20%増)、入浴介助(11%増)、洗濯(18%増)、巡回(60%増)、一時介護室（40%増）等、一般棟入居者への生活支援サービス量が大幅に増加した 1 年間でもあった。この傾向はこれからも続くことが予想されており、入居者が安心して暮らし続けられる環境づくりに取り組んでいかなければならない。

以下、2016 年度事業の結果・成果について報告する。

１.『いきいき』　『あんしん』の提供

（ア）すべての入居者へ「健康長寿」を目指したサービスの提供

①介護予防活動委員会を中心に運動機能・認知機能・閉じこもり予防・口腔ケアのテーマに沿った活動に取り組んだ。

（イ）一人ひとりを、より大切にしたケアとサービスの実践

①“その人らしい生活”を実践するためにセンター方式によるアセスメントや DCM(認知症ケアマッピング)の継続によりケアの質の向上を図った。

（ウ）入居者、家族と共に実践する「看取り介護」

①いつか迎える“看取り”についてタブー視せず、日頃から入居者本人・家族の意向を確認しながら、本人・家族が看取りの受入れができるよう取り組んだ。

（エ）認知症ケアの啓蒙

①職員だけでなく、入居者向けに認知症サポーター養成講座を開催することができた。今後も認知症の症状・認知症ケアへの理解を深めるよう継続して取り組みを続けていく。

２．人材の育成

（ア）その時その時が育成の機会（OJT の強化）

（イ）職業人としての技術と意識の向上

（ウ）働きがい、生きがいを感じる職場環境づくり

OJT による育成、研修委員会を中心に施設内研修、法人主体の階層別研修、施設外研修等を活用して専門職としての技術向上、職業人としての意識向上等を図った。人材育成は今後も引き続き取り組んでいく。

３．さらなる効率的な運営

（ア）改善・改革の提案と実践（ムダ・ムラをなくし、新たな価値を創造する）

（イ）業務における 5W2H の明確化

「いつ（When）どこで（Where）だれが（Who）なにを（What）なぜ（Why）
どのように（How）いくらで（How Much)」

①法人本部の協力も得て電力会社との交渉で電気料金を削減した。

②今後のケアセンター利用者数増に対応するために増床・夜勤体制の整備を行った。

４．地域に開かれた施設づくり

（ア）地域における施設の価値創造（自治会との災害時協力等）

（イ）行政、企業、地域との協力、連携（認知症理解への啓蒙活動、各種イベントの共催等）

（ウ）地域活動への積極参加

災害時協力等について、近隣の福祉施設である南多摩幼稚園との防災協定を締結し、地域との結びつきを形にすることができた。今後も入居者のご理解・ご協力を得ながらボランティア受入れ、施設行事・講演会等の地域開放や地域行事への協力等、近隣住民・自治会・行政・企業等との交流を広げながら信頼・協力関係を築いていきたい。

５．環境・エコ活動への取り組み

（ア）入居者と共同・協働による活動（ペットボトルキャップ回収等）

（イ）環境美化活動の継続（周辺ゴミ拾い活動）

６．入居者募集

（ア）セミナー他、公社募集業務への協力と連携

【数値実績】

表１：契約状況

	戸数（複数入居）	男　性	女　性	計
人　数	341 戸（44 戸）	104 名	281 名	385 名

表２：地域別契約状況　（単位：名･%）

	関東	近畿	東海	九州	北海道	甲信越	東北	計
人　数	361 名	9 名	7 名	1 名	2 名	2 名	3 名	385 名
構成比	93.8%	2.3%	1.8%	0.3%	0.5%	0.5%	0.8%	100.0%

表３：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人　数	13 名	58 名	141 名	109 名	49 名	9 名	6 名	0 名	0 名	385 名
構成比	3.4%	15.1%	36.6%	28.3%	12.7%	2.3%	1.6%	0%	0%	100.0%

表４：平均年齢

全　体	男　性	女　性
84.8 歳	84.4 歳	85.0 歳

表５：入・退去状況

	入居	退去	（死亡退去）
男　性	10 名	5 名	（5 名）
女　性	15 名	10 名	（10 名）
計	25 名	15 名	（15 名）

表６：介護保険利用者（介護保険請求）

	合 計	内　訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	103 名	12 名	11 名	30 名	21 名	10 名	10 名	9 名
期末人数	107 名	16 名	16 名	24 名	20 名	9 名	14 名	8 名
月平均人数	109.2 名	15.9 名	15.1 名	24.5 名	23.9 名	10.9 名	11.0 名	7.9 名

法人本部

社会福祉法が改正され、社会福祉法人のガバナンスに大きな変更が求められた。2016 年度内に定款変更、新理事会や新評議員会の準備、経営会議の設置準備、経理規程の改定や法定外部監査の準備を進め、2017 年 4 月の施行を前に改正社会福祉法に沿った対応を完了した。

人材の確保と育成は聖隷にとってサービスを維持し競争力を生み出すための最重要課題である。人事部と人材開発部を統合した「人事企画部」を発足し、より機能性の高い組織とした。新人事制度の検討が進み、多様な働き方の創出と人材の確保、定着に資する制度設計の骨子が整った。関東・関西地区における採用担当者の増強や介護職向け奨学金や就職準備金制度の整備も行い、採用力の強化に努めた。

介護職員初任者研修や介護福祉士実務者研修、喀痰吸引等研修を聖隷外部向けに展開し、各所から好評を得ている。

各病院の電子カルテの更新準備や在宅・福祉サービス事業部における ICT の導入について検討を進める支援ができた。災害時においても機能を維持していくための BCP 策定、情報セキュリティの強化など危機管理体制についても整備を進めることができた。コンプライアンス体制の強化やハラスメント防止への取組みによるリスク回避機能の整備を推進した。

2016 年度は聖隷の 2020 年のあるべき姿“VISION2020”の実現に向けて新たに策定された「中期事業計画 2016－2020」のスタートの年として、社会福祉法改正、新人事制度、ICT、BCP など中長期的な成長の視点を持って事業を進めていくことができた。

【各部の報告】

《総務部》

2016 年度は、改正社会福祉法に伴う組織管理体制の変更への適時・適切な対応が求められた。国からの政省令の発出が遅れる中で、総合企画室や財務部と連携を図り、積極的な情報収集と綿密な打合せを重ねて対応することができた。

防災体制強化の一環としての BCP の策定については、事業団広域防災マニュアルの大幅改訂を行い大規模災害への体制を強化した。

新人事制度に向けた詳細制度設計においては、人事企画部を中心に連携を図り、より詳細で正確なシミュレーションを作成し、制度案の作成に寄与することができた。

2017 年 1 月に育児・介護休業法及び男女雇用機会均等法の改正が行われ、職員の家族等にかかる介護に関するアンケートを実施し、実態把握を行ったうえで、規則改訂を行うことができた。また、新たにハラスメント防止規程を策定した。

労働安全衛生法の改正によるストレスチェック制度の実施においては、メンタルヘルス推進委員会事務局として事業団全体の統一的な体制を構築することができた。

さらには、年末調整の WEB 化、一部事業部における身上異動手続き等に関する WEB 化に取り組み、業務効率やペーパーレス化の推進に寄与することができた。併せて、総務業務の生産性向上を目指して、総務課長会を通して事業団全体として総務業務の明確化と効率化を推進して、取組みを始めることができた。

《人事企画部》

2016 年 4 月に組織変更が行われ、人事部と人材開発部が統合され人事企画部が発足した。

人事制度の設計については、人事企画部に組織変更したこともあり、新たな体制で再度検討を行った。現行制度のメリット・デメリットを検証し、課題を抽出し、新人事制度（案）の骨子を固めた。地域採用を軸としたコースの変更、手当の改善、を鑑みた制度（案）を作成した。多様な働き方については、女性活躍推進法に基づく「えるぼし（認定段階 3)」認定を全国 46 企業のうちの 1 企業として厚生労働大臣より受けることができた。また障害者雇用は法定雇用率 2.0%を達成する見込みである。

人材を確保する仕組み作りは、人事課より採用に特化した採用課を独立させ、関東地区・関西地区に在宅・福祉サービス事業部所属の採用担当を 1 名ずつ増員し体制を強化した。採用困難である介護職については、介護福祉士奨学金制度を全国の養成校で活用できるようにし、事業団への採用に繋げることとした。

人事給与システムは、情報の信頼性を高めるために、職員個人による情報の確認、追加修正作業を実施するなど、整備を行った。勤務意向調査、目標参画についても、WEB 実施の対象者を拡げ人材情報を充実することができた。今後はデータへの活用方法を明確にしていく課題に注力する。

人材育成、研修は、法人本部研修の階層別研修のプログラム、時期などの検討を行い、2018 年度計画の変更、改善を実施することができた。また、職員のキャリアパス（案）や新たな役職者研修の議論を開始し、採用、育成、離職防止に役立てたいと考える。

EPA 介護福祉士候補者（5 期生）が国家試験に合格した。2016 年度までに総人数 37 名を受け入れた。また 2017 年度受け入れ予定の 9 期生はフィリピンの 17 名がマッチングした。ベトナムの受け入れも挑戦したがマッチングに至らず、2017 年度に向けた対策を講じた。また、静岡県の委託事業として外国人職員の受け入れ施設のためのセミナーや雇用後の学習サポートを実施した。

外部事業として介護職員初任者研修や介護福祉士実務者研修および喀痰吸引等研修を運営し、介護職人材の確保や資格取得支援を推進している。特に介護福祉士実務者研修については、介護福祉士国家試験に必須と位置づけられ受験者のニーズに応える研修と実地研修の評価者の拡大のために指導看護師養成研修を実施した。

事業団の事業の根幹となる人材の確保と、さらなるサービスの向上に向けての職員育成に尽力していく。

《財務部》

2016 年度は、2017 年 4 月の社会福祉法改正に伴い、外部監査の法定監査化に向けての準備、財務情報の電子開示への対応、経理規程の改訂等を行い、法改正に備えた。

事業団の経営管理としては、月次決算早期化に取り組み、経営層に対してスピーディな

経営報告ができる体制を整えた。また、聖隷佐倉市民病院の第4期建築計画においては、総合企画室、病院スタッフとともに投資回収可能性を中心に検討を行った。

さらに2016年度は、事業団全体のキャッシュ・フローに目を向けた経営管理を行い、銀行借入についても、過不足のないスムーズな資金調達を行うことができた。

他部門との連携も活発化し、総合企画室とは、月1回の定例会議を設け、事業団のみならず、関連法人を含めた経営課題の把握と、経営支援、銀行対応等の実践を行った。

経理職員教育については、2年目を迎える新会計基準による決算処理の正確性と、源泉税処理の判断能力を醸成する研修を実施した。

2017年度に向けては、引き続き、新規事業計画に対する事前および事後検証の機能を強化し、また、働き方改革に合わせた、経理業務の時間短縮の方策を検討していきたいと考えている。

《総合企画室》

中期事業計画 2016-2020 が作成されたところであるが、中期事業計画 2011-2015 の期間終了に伴い数値化による振り返りを実施し、執行役員会、理事会、評議員会にて報告を行った。経営の可視化については、保健事業部と協力した予約状況の見える化や各事業部の人時生産性の算出を行った。また、聖隷沼津病院、聖隷富士病院の経営支援も積極的に推進した。聖隷淡路病院の支援では予算達成に貢献することができた。社会福祉法改正については総務部、財務部等と協力し情報収集及び関係部署との打合せを繰り返し、新たなガバナンス体制の構築、定款変更を行った。

戦略的な広報としてホームページ（HP）を中心に聖隷への理解を深めるコンテンツを展開し「実践躬行」「iam…」の定期発行体制を確立した。海外からの問い合わせ、人材採用に備えて英語版、ベトナム語版の法人案内を作成しHPに掲載。HPセッション数は目標としていた月あたり30,000件以上を12か月連続で達成できた。

《総合情報システム部》

聖隷らしいサービスの提供に寄与するシステムの構築について、情報システムグランドデザインに基づき、事業ごとに統一性のあるシステムの導入を目指して、横浜・佐倉の両病院における電子カルテシステム導入の検討及び構築支援を行った。また、両病院に続き病院システムの導入が予定されている、浜松・三方原・浜リハ・袋井・淡路の各病院に対しても、新システム検討における情報共有ならびに連携を強化して作業を進めている。在宅・福祉サービス事業部では、導入検討中の介護記録・保育園・障害施設の各システム導入についても、検討初期段階からの積極的な支援を実施し、より良いシステムの構築を目指している。

情報システムの災害対策及び事業継続のための環境整備については、事業団内広域ネットワークの NGN 化と次世代ファイアーウォール導入によるセキュリティ強化を行い、基幹システム（財務・人事給与など）についてはクラウドバックアップサービスへの移行を実施した。これにより、コストの削減とBCP実効性の向上が実現できた。

経営資源の有効活用については、人事課・労務課への支援を行い、人事給与システムのWEBサービス機能（CWS）を活用した年末調整の電子申請を稼働させることができた。今後も既

存システムの更なる活用を行い、業務効率化を推進していきたいと考える。

2017 年度以降も、各事業部における業務システムの構築・稼働が多数予定されており、各 PJ 運営の支援を実施したい。今後も積極的な支援を通じて、個別最適のみならず事業団全体にも価値のあるシステム構築を目指した活動を行いたい。

《監査室》

2016 年度は、①施設のガバナンス体制強化、②内部監査の効率的・効果的実施、③コンプライアンスホットライン制度の充実を目標に掲げ業務を推進した。

内部監査は 63 施設に対して往査を行った。法令遵守状況の確認を行うとともに業務改善に関する助言を行い、施設の自浄能力向上に寄与した。チェックシートの定期的な見直し等、内部監査の継続的な質の改善を図ったが、監査手法は従来のコントロールベースの網羅的な手法であり、リスクベース監査の実現に向けて今後も改善を行っていく。

内部通報・相談窓口としてのコンプライアンスホットライン周知と、職員のコンプライアンス意識啓発を目的として、5 月から定期的な情報発信を開始した。その結果、相談受付件数は 5 年連続で増加し、重大事故の予防に貢献した。また、ハラスメント防止ガイドラインの全面改訂にあたり、監査室で原案を作成した。

2016年度施設整備事業報告

施設種別	病院
施設名	聖隷浜松病院
所在地	静岡県浜松市住吉2-12-12
工事名	聖隷浜松病院第4期増築工事に伴うSTEP7既存改修追加変更工事 A棟・B棟・C棟・リハ棟・先行対応及び総合設計制度対応外構工事
事業完了年月日	2016年12月28日
施設の構造	鉄筋コンクリート造、他
延床面積	病院全体を部分ごとに改修しているため算出不可能
総事業費	¥521,640,000.－　（税込、工事費のみ）
財源	借入金を含む自己資金
備考	

2016年度施設整備事業報告

施設種別	病院
施設名	聖隷浜松病院
所在地	静岡県浜松市住吉2-12-12
工事名	聖隷浜松病院第4期増築工事に伴うリハ棟2階改修工事
事業完了年月日	2016年12月28日
施設の構造	鉄筋コンクリート造
延床面積	1191.9㎡（工事範囲のみ）
総事業費	¥297,000,000.－　（税込、工事費のみ）
財源	借入金を含む自己資金
備考	

2016年度施設整備事業報告

施設種別	幼保連携型認定こども園	
施設名	聖隷こども園めぐみ	
所在地	浜松市中区和合町555-1	
工事名	（仮称）聖隷こども園和合増築工事	
事業完了年月日	2017年3月15日	
施設の構造	鉄骨造・3階建	
延床面積	2,550.96㎡	
総事業費	建築工事費	729,192,358円
	外構工事費	28,940,642円
	設計監理費	39,528,000円
	その他	78,252,517円
	備品費	101,000,869円
	事業費　計	976,914,386円
財源	国市補助金	179,111,000円
	福祉医療機構借入金	150,000,000円
	聖隷福祉公益事業推進基金	450,000,000円
	当初自己資金	197,803,386円
	財源　計	976,914,386円
備考	上記工事費には、和合せいれいの里センター厨房工事費・設備整備費含む	

2016年度施設整備事業報告

施設種別	幼保連携型認定こども園	
施設名	聖隷こども園わかば	
所在地	浜松市北区根洗町645-1	
工事名	聖隷こども園わかば増築工事	
事業完了年月日	2017年2月28日	
施設の構造	鉄骨造・平屋建て	
延床面積	218.75㎡	
総事業費	建築工事費	130,686,682円
	外構工事費	7,540,358円
	設計監理費	7,560,000円
	その他	180,700円
	備品費	12,781,134円
	事業費　計	158,748,874円
財源	国市補助金	56,491,000円
	自己資金	102,257,874円
	財源　計	158,748,874円
備考		

2016年度施設整備事業報告

施設種別	幼保連携型認定こども園	
施設名	聖隷こども園ひかりの子	
所在地	浜松市東区天王町1896	
工事名	聖隷こども園ひかりの子増築工事	
事業完了年月日	2017年3月13日	
施設の構造	鉄骨造・2階建	
延床面積	372.39㎡	
総事業費	建築工事費	140,976,320円
	解体工事費	2,112,499円
	外構工事費	6,455,541円
	設計監理費	8,424,000円
	その他業務費	436,410円
	備品整備費	12,510,451円
	事業費　計	170,915,221円
財源	国市補助金	86,819,000円
	自己資金	84,096,221円
	財源　計	170,915,221円
備考		

法人の概要

・ 法人名　　社会福祉法人 聖隷福祉事業団（せいれいふくしじぎょうだん）

・ 創立　　1930 年（昭和 5 年）5 月

・ 基本理念　　キリスト教精神に基づく「隣人愛」

・ 代表者　　理事長　山本（やまもと）　敏博（としひろ）

・ 所在地　　静岡県浜松市中区住吉 2 丁目 12 番 12 号（法人登記）

・ 事業内容　　１．医療事業（病院・診療所・ホスピスなど）
２．保健事業（健康増進・健康診断・人間ドック・疾病予防・労働環境測定など）
３．福祉事業（特別養護老人ホーム・身体障害者支援施設・救護施設・無料又は低額診療・保育事業・有料老人ホーム事業など）
４．介護サービス事業（介護老人保健施設・通所事業・訪問看護ステーション・在宅訪問事業など）

・ 事業規模　　施設・事業数　：　146 施設　301 事業　（2017 年 3 月時点）
職　員　数　：　13,898 名（非常勤含む）　（2017 年 3 月時点）
サービス活動収益：　1,098 億円　（2016 年度）

実施する事業の概要

【第1種社会福祉事業】

2017年3月31日現在

施設(事業)の種類	施　設　名	定　員	開設年月日	所　在　地
救護施設	聖隷厚生園讃栄寮	60	1978年4月1日	静岡県浜松市
特別養護老人ホーム	奄美佳南園	80	1974年5月1日	鹿児島県奄美市
特別養護老人ホーム	宝塚栄光園	70	1979年4月1日	兵庫県宝塚市
特別養護老人ホーム	横須賀愛光園	104	1992年6月1日	神奈川県横須賀市
特別養護老人ホーム	森町愛光園	80	1993年4月1日	静岡県周智郡森町
特別養護老人ホーム	森町愛光園天宮サテライト	29	2012年4月1日	静岡県周智郡森町
特別養護老人ホーム	いなさ愛光園	70	1997年4月1日	静岡県浜松市
特別養護老人ホーム	和合愛光園	90	1999年4月1日	静岡県浜松市
特別養護老人ホーム	和合愛光園初生サテライト	29	2012年4月1日	静岡県浜松市
特別養護老人ホーム	和合愛光園和合サテライト	29	2014年4月1日	静岡県浜松市
特別養護老人ホーム	浜北愛光園	150	1999年4月1日	静岡県浜松市
特別養護老人ホーム	花屋敷栄光園	108	1999年4月1日	兵庫県宝塚市
特別養護老人ホーム	淡路栄光園	60	1999年4月1日	兵庫県淡路市
特別養護老人ホーム	浦安市特別養護老人ホーム(受託経営)	100	1999年8月1日	千葉県浦安市
特別養護老人ホーム	松戸愛光園	100	2003年5月1日	千葉県松戸市
特別養護老人ホーム	浦安愛光園	74	2006年4月1日	千葉県浦安市
特別養護老人ホーム	藤沢愛光園	100	2011年4月1日	神奈川県藤沢市
特別養護老人ホーム	聖隷カーネーションホーム	56	2014年4月1日	兵庫県淡路市
特別養護老人ホーム	宝塚すみれ栄光園	100	2014年4月1日	兵庫県宝塚市
軽費老人ホーム	もくせいの里	50	1978年12月1日	静岡県浜松市
軽費老人ホーム	ケアハウス花屋敷	100	1999年4月1日	兵庫県宝塚市
軽費老人ホーム	浦安市ケアハウス(受託経営)	50	1999年8月1日	千葉県浦安市
軽費老人ホーム	ケアハウス宝塚	60	2014年4月1日	兵庫県宝塚市
障害者支援施設	障害者支援施設 みるとす	20	2003年4月1日	静岡県浜松市
障害者支援施設	聖隷厚生園信生寮	60	1978年4月1日	静岡県浜松市
障害児入所施設	聖隷おおぞら療育センター	170	2006年10月1日	静岡県浜松市

【第2種社会福祉事業】

施設(事業)の種類	施　設　名	定　員	開設年月日	所　在　地
医療保護施設	聖隷三方原病院	934	1942年11月9日	静岡県浜松市

施設(事業)の種類	施　設　名	定　員	開設年月日	所　在　地
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園わかば	150	1966年11月1日	静岡県浜松市
保育所	こうのとり保育園	120	1971年11月1日	静岡県磐田市
保育所	春日保育園	120	1972年4月1日	鹿児島県奄美市
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園桜ヶ丘	190	1975年4月1日	静岡県浜松市
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園ひかりの子	150	1976年4月1日	静岡県浜松市
保育所	こうのとり東保育園	200	1978年4月1日	静岡県磐田市
保育所	逆瀬川あゆみ保育園	45	2002年4月1日	兵庫県宝塚市
保育所	御殿山あゆみ保育園	120	2003年4月1日	兵庫県宝塚市
保育所	野上あゆみ保育園	90	2009年4月1日	兵庫県宝塚市
保育所	こうのとり豊田保育園	120	2011年4月1日	静岡県磐田市
事業所内保育所	聖隷浜松病院ひばり保育園	145	2015年4月1日	静岡県浜松市
事業所内保育所	聖隷めぐみ保育園	30	2015年4月1日	静岡県浜松市
地域子育て支援拠点事業	聖隷こども園わかば	—	2009年4月1日	静岡県浜松市
地域子育て支援拠点事業	こうのとり保育園	—	2009年4月1日	静岡県磐田市
地域子育て支援拠点事業	磐田市子育て支援総合センター のびのび(受託経営)	—	2003年7月1日	静岡県磐田市
一時預かり事業	聖隷こども園わかば	—	2009年4月1日	静岡県浜松市
一時預かり事業	こうのとり保育園	—	2009年4月1日	静岡県磐田市
一時預かり事業	春日保育園	—	2009年4月1日	鹿児島県奄美市
一時預かり事業	聖隷こども園桜ヶ丘	—	2009年4月1日	静岡県浜松市
一時預かり事業	聖隷こども園ひかりの子	—	2009年4月1日	静岡県浜松市
一時預かり事業	こうのとり東保育園	—	2009年4月1日	静岡県磐田市
一時預かり事業	逆瀬川あゆみ保育園	—	2009年4月1日	兵庫県宝塚市
一時預かり事業	御殿山あゆみ保育園	—	2009年4月1日	兵庫県宝塚市
一時預かり事業	野上あゆみ保育園	—	2009年4月1日	兵庫県宝塚市
病児保育事業	聖隷こども園わかば	4	2015年4月1日	静岡県浜松市
病児保育事業	こうのとり保育園	6	2015年4月1日	静岡県磐田市
病児保育事業	こうのとり東保育園	4	2015年4月1日	静岡県磐田市
児童厚生施設	御殿山児童館	—	2003年4月1日	兵庫県宝塚市
児童厚生施設	野上児童館	—	2008年11月4日	兵庫県宝塚市
助産施設	聖隷浜松病院併設助産所	10	1969年6月1日	静岡県浜松市
助産施設	聖隷三方原病院併設助産所	6	1994年9月19日	静岡県浜松市

施設(事業)の種類	施　設　名	定 員	開設年月日	所　在　地
老人デイサービスセンター	横須賀愛光園デイサービスセンター	40	1992年6月1日	神奈川県横須賀市
老人デイサービスセンター	奄美佳南園デイサービスセンター	20	1993年2月1日	鹿児島県奄美市
老人デイサービスセンター	森町愛光園デイサービスセンター	42	1993年4月1日	静岡県周智郡
老人デイサービスセンター	聖隷逆瀬台デイサービスセンター	40	1995年10月1日	兵庫県宝塚市
老人デイサービスセンター	奄美佳南園春日デイサービスセンター	15	1996年11月1日	鹿児島県奄美市
老人デイサービスセンター	いなさ愛光園デイサービスセンター	45	1997年4月1日	静岡県浜松市
老人デイサービスセンター	和合愛光園デイサービスセンター	62	1999年4月1日	静岡県浜松市
老人デイサービスセンター	高薗デイサービスセンター	40	1999年4月1日	静岡県浜松市
老人デイサービスセンター	花屋敷デイサービスセンター	59	1999年4月1日	兵庫県宝塚市
老人デイサービスセンター	デイサービスセンター淡路	35	1999年4月1日	兵庫県淡路市
老人デイサービスセンター	浦安市高洲高齢者デイサービス センター(受託経営)	20	1999年8月1日	千葉県浦安市
老人デイサービスセンター	浦安市猫実高齢者デイサービス センター(受託経営)	20	1999年10月1日	千葉県浦安市
老人デイサービスセンター	聖隷逆瀬川デイサービスセンター	40	2000年4月1日	兵庫県宝塚市
老人デイサービスセンター	聖隷デイサービスセンター住吉	35	2001年8月1日	静岡県浜松市
老人デイサービスセンター	松戸愛光園デイサービスセンター	29	2003年5月1日	千葉県松戸市
老人デイサービスセンター	聖隷デイサービスセンター初生	50	2004年4月1日	静岡県浜松市
老人デイサービスセンター	聖隷リハビリプラザIN高丘	65	2007年4月1日	静岡県浜松市
老人デイサービスセンター	聖隷逆瀬川デイサービスセンター虹	12	2010年10月1日	兵庫県宝塚市
老人デイサービスセンター	聖隷デイサービスセンター三方原	65	2011年3月15日	静岡県浜松市
老人デイサービスセンター	聖隷デイサービスセンター藤沢	30	2011年4月1日	神奈川県藤沢市
老人デイサービスセンター	聖隷デイサービスセンター結い	10	2013年6月3日	兵庫県宝塚市
老人デイサービスセンター	聖隷カーネーションホーム	42	2014年4月1日	兵庫県淡路市
老人デイサービスセンター	宝塚すみれ栄光園デイサービス センター	30	2014年10月1日	兵庫県宝塚市
老人デイサービスセンター	聖隷リハビリプラザいなさ	45	2015年10月1日	静岡県浜松市
老人短期入所事業	老人短期入所事業(横須賀愛光園)	16	1992年6月1日	神奈川県横須賀市
老人短期入所事業	老人短期入所事業(森町愛光園)	12	1993年4月1日	静岡県周智郡
老人短期入所事業	老人短期入所事業(宝塚栄光園)	15	1993年4月1日	兵庫県宝塚市
老人短期入所事業	老人短期入所事業(いなさ愛光園)	20	1997年4月1日	静岡県浜松市
老人短期入所事業	老人短期入所事業(和合愛光園)	20	1999年4月1日	静岡県浜松市
老人短期入所事業	老人短期入所事業(浜北愛光園)	40	1999年4月1日	静岡県浜松市
老人短期入所事業	老人短期入所事業(花屋敷栄光園)	12	1999年4月1日	兵庫県宝塚市

施設(事業)の種類	施　設　名	定 員	開設年月日	所　在　地
老人短期入所事業	老人短期入所事業(淡路栄光園)	17	1999年4月1日	兵庫県淡路市
老人短期入所事業	浦安市特別養護老人ホーム (受託経営)	50	1999年8月1日	千葉県浦安市
老人短期入所事業	老人短期入所事業(奄美佳南園)	10	1999年4月1日	鹿児島県奄美市
老人短期入所事業	老人短期入所事業(松戸愛光園)	20	2003年6月1日	千葉県松戸市
老人短期入所事業	老人短期入所事業(藤沢愛光園)	20	2011年4月1日	神奈川県藤沢市
老人短期入所事業	聖隷カーネーションホーム	14	2014年4月1日	兵庫県淡路市
老人短期入所事業	老人短期入所事業 (宝塚すみれ栄光園)	20	2014年4月1日	兵庫県宝塚市
老人介護支援センター	奄美佳南園在宅介護支援センター (受託経営)	—	1993年2月1日	鹿児島県奄美市
老人介護支援センター	いなさ愛光園在宅介護支援センター (受託経営)	—	1997年4月1日	静岡県浜松市
老人介護支援センター	森町愛光園在宅介護支援センター (受託経営)	—	1998年10月1日	静岡県周智郡
老人介護支援センター	聖隷在宅介護支援センター淡路 (受託経営)	—	1999年4月1日	兵庫県淡路市
老人介護支援センター	浦安市高洲在宅介護支援センター (受託経営)	—	1999年8月1日	千葉県浦安市
老人居宅介護等事業	奄美佳南園	—	1993年10月1日	鹿児島県奄美市
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーセンターいなさ	—	1997年4月1日	静岡県浜松市
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーセンター	—	1997年4月1日	静岡県浜松市
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション宝塚	—	1997年10月1日	兵庫県宝塚市
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーセンター森町	—	1998年10月1日	静岡県周智郡
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション 横須賀	—	2000年8月1日	神奈川県横須賀市
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション淡路	—	1999年4月1日	兵庫県淡路市
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション藤沢	—	2011年4月1日	神奈川県藤沢市
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーセンター初生	—	2012年7月1日	静岡県浜松市
老人居宅介護等事業	聖隷巡回ヘルパーぐるり和合	—	2013年8月1日	静岡県浜松市
老人居宅介護等事業	聖隷巡回ヘルパーぐるり横須賀	—	2014年4月1日	神奈川県横須賀市
認知症対応型老人共同生活援助事業	ほのぼのケアガーデン	9	2001年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 居宅介護等事業	奄美佳南園	—	1993年2月1日	鹿児島県奄美市
(障害福祉サービス事業) 居宅介護等事業	聖隷ヘルパーセンター	—	1997年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション宝塚	—	1999年4月1日	兵庫県宝塚市
(障害福祉サービス事業) 居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション 横須賀	—	2000年8月1日	神奈川県横須賀市
(障害福祉サービス事業) 居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション淡路	—	2012年4月1日	兵庫県淡路市
(障害福祉サービス事業) 居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション初生	—	2012年7月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション藤沢	—	2011年4月1日	神奈川県藤沢市

施設(事業)の種類	施　設　名	定 員	開設年月日	所　在　地
(障害福祉サービス事業) 重度訪問介護事業	奄美佳南園	—	1993年2月1日	鹿児島県奄美市
(障害福祉サービス事業) 重度訪問介護事業	聖隷ヘルパーセンター	—	1997年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 重度訪問介護事業	聖隷ヘルパーステーション宝塚	—	1999年4月1日	兵庫県宝塚市
(障害福祉サービス事業) 重度訪問介護事業	せいれいヘルパーステーション 横須賀	—	2000年8月1日	神奈川県横須賀市
(障害福祉サービス事業) 重度訪問介護事業	聖隷ヘルパーステーション淡路	—	2012年4月1日	兵庫県淡路市
(障害福祉サービス事業) 重度訪問介護事業	聖隷ヘルパーステーション初生	—	2012年7月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 重度訪問介護事業	聖隷ヘルパーステーション藤沢	—	2011年4月1日	神奈川県藤沢市
(障害福祉サービス事業) 同行援護事業	聖隷ヘルパーセンター	—	2011年10月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 同行援護事業	聖隷ヘルパーステーション宝塚	—	2012年3月1日	兵庫県宝塚市
(障害福祉サービス事業) 同行援護事業	聖隷ヘルパーステーション淡路	—	2012年4月1日	兵庫県淡路市
(障害福祉サービス事業) 同行援護事業	聖隷ヘルパーステーション初生	—	2012年7月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 自立訓練(生活訓練)	生活訓練事業所ナルド	14	2010年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 自立訓練(機能訓練)	聖隷厚生園まじわりの家	6	2011年10月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 生活介護	聖隷厚生園信生寮	60	1993年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 生活介護	生活訓練事業所ナルド	6	2011年10月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 生活介護	聖隷厚生園まじわりの家	14	2011年10月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 生活介護	障害者支援施設 みるとす	40	1999年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 生活介護	あさひ	35	2006年10月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 療養介護	聖隷おおぞら療育センター	150	2006年10月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	聖隷厚生園信生寮	10	1978年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	聖隷厚生園讃栄寮	4	1978年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	障害者支援施設 みるとす	2	2003年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	聖隷おおぞら療育センター	20	2006年10月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	奄美佳南園	—	2015年6月1日	鹿児島県奄美市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	浜北愛光園	—	2013年1月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	森町愛光園	—	2013年11月1日	静岡県周智郡
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	和合愛光園	—	2014年8月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	和合愛光園初生サテライト	—	2014年8月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	和合愛光園和合サテライト	—	2014年8月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	聖隷カーネーションホーム	—	2016年9月1日	兵庫県淡路市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	淡路栄光園	—	2016年9月1日	兵庫県淡路市

施設(事業)の種類	施　設　名	定 員	開設年月日	所　在　地
(障害福祉サービス事業) 就労移行支援事業	ナルド工房	20	2007年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 就労移行支援事業	聖隷厚生園チャレンジ工房	15	2012年3月15日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 就労移行支援事業	聖隷厚生園きらめき工房	15	2014年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 就労継続支援事業	ナルド工房	15	2007年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 就労継続支援事業	聖隷厚生園チャレンジ工房	15	2012年3月15日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 就労継続支援事業	聖隷厚生園きらめき工房	15	2014年4月1日	静岡県浜松市
地域活動支援センター	ナルド(受託経営)	—	2003年4月1日	静岡県浜松市
移動支援事業	聖隷ヘルパーセンター	—	1997年4月1日	静岡県浜松市
移動支援事業	聖隷ヘルパーステーション宝塚	—	1999年4月1日	兵庫県宝塚市
移動支援事業	聖隷ヘルパーステーション 横須賀	—	2000年8月1日	神奈川県横須賀市
移動支援事業	奄美佳南園	—	2007年7月1日	鹿児島県奄美市
移動支援事業	聖隷ヘルパーステーション淡路	—	2012年4月1日	兵庫県淡路市
移動支援事業	聖隷ヘルパーセンター初生	—	2012年7月1日	静岡県浜松市
無料又は低額診療事業	聖隷淡路病院	152	1999年12月1日	兵庫県淡路市
無料又は低額診療事業	聖隷横浜病院	300	2003年3月1日	神奈川県横浜市
無料又は低額診療事業	聖隷佐倉市民病院	400	2004年3月1日	千葉県佐倉市
無料又は低額介護老人保健施設	三方原ベテルホーム	150	1991年5月1日	静岡県浜松市
無料又は低額介護老人保健施設	浦安ベテルホーム	100	2006年4月1日	千葉県浦安市
障害児通所支援事業 (児童発達支援)	のぞみ園	25	2014年1月1日	鹿児島県奄美市
障害児通所支援事業 (放課後等デイサービス)	のぞみ園	20	2014年1月1日	鹿児島県奄美市
障害児通所支援事業 (保育所等訪問)	のぞみ園	—	2015年3月1日	鹿児島県奄美市
障害児通所支援事業	磐田市発達支援センターはあと (受託経営)	—	2007年11月1日	静岡県磐田市
障害児通所支援事業 (児童発達支援)	児童発達支援センターひかりの子	15	2012年4月1日	静岡県浜松市
障害児通所支援事業 (放課後等デイサービス)	児童発達支援センターひかりの子	5	2013年4月1日	静岡県浜松市
障害児通所支援事業 (保育所等訪問)	児童発達支援センターひかりの子	—	2015年4月1日	静岡県浜松市
障害児通所支援事業 (児童発達支援)	児童発達支援事業所かるみあ	20	2013年10月1日	静岡県磐田市
障害児通所支援事業 (保育所等訪問)	児童発達支援事業所かるみあ	—	2013年10月1日	静岡県磐田市
障害児通所支援事業 (児童発達支援)	聖隷かがやき	10	2016年6月1日	鹿児島県大島郡
障害児通所支援事業 (保育所等訪問)	聖隷かがやき	—	2016年6月1日	鹿児島県大島郡
障害児通所支援事業 (児童発達支援)	児童発達支援事業所かるみあ豊田	10	2016年4月1日	静岡県磐田市
障害児通所支援事業 (放課後等デイサービス)	聖隷放課後クラブはなえみ和合	10	2016年10月1日	静岡県浜松市

施設(事業)の種類	施　設　名	定　員	開設年月日	所　在　地
障害児相談支援事業	信生	—	2012年6月1日	静岡県浜松市
障害児相談支援事業	浜松東	—	2013年9月1日	静岡県浜松市
障害児相談支援事業	指定相談支援事業所くすのき	—	2015年4月1日	静岡県浜松市
障害児相談支援事業	指定相談支援事業所おおぞら	—	2014年10月1日	静岡県浜松市
障害児相談支援事業	のぞみ園	—	2014年4月1日	鹿児島県奄美市
障害児相談支援事業	障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ	—	2016年10月1日	兵庫県淡路市
障害児相談支援事業	聖隷相談支援事業所森町	—	2017年3月1日	静岡県周智郡
一般相談支援事業	信生	—	2013年4月1日	静岡県浜松市
一般相談支援事業	ナルド	—	2013年4月1日	静岡県浜松市
特定相談支援事業	浜松東	—	2007年4月1日	静岡県浜松市
特定相談支援事業	信生	—	2012年4月1日	静岡県浜松市
特定相談支援事業	ナルド	—	2012年4月1日	静岡県浜松市
特定相談支援事業	指定相談支援事業所くすのき	—	2012年4月1日	静岡県浜松市
特定相談支援事業	のぞみ園	—	2014年4月1日	鹿児島県奄美市
特定相談支援事業	指定相談支援事業所おおぞら	—	2014年10月1日	静岡県浜松市
特定相談支援事業	障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ	—	2016年10月1日	兵庫県淡路市
特定相談支援事業	聖隷相談支援事業所森町	—	2017年3月1日	静岡県周智郡

【公　益　事　業】

施設(事業)の種類	施　設　名	定　員	開設年月日	所　在　地
医療施設	聖隷浜松病院	750	1962年3月5日	静岡県浜松市
医療施設	聖隷浜松病院附属診療所 聖隷健康診断センター	—	1975年5月16日	静岡県浜松市
医療施設	宝塚エデンの園附属診療所	19	1979年4月1日	兵庫県宝塚市
医療施設	油壺エデンの園附属診療所	15	1986年11月1日	神奈川県三浦市
医療施設	診療所聖隷予防検診センター	11	1987年4月1日	静岡県浜松市
医療施設	診療所聖隷クリニック南大沢	—	1996年6月1日	東京都八王子市
医療施設	浜名湖エデンの園診療所	—	2000年3月15日	静岡県浜松市
医療施設	浦安せいれいクリニック	—	2006年4月1日	千葉県浦安市
医療施設	浜松市リハビリテーション病院 (受託経営)	225	2008年4月1日	静岡県浜松市
医療施設	袋井市立聖隷袋井市民病院 (受託経営)	150	2013年5月1日	静岡県袋井市
医療施設	聖隷健康サポートセンター*Shizuoka*	—	2010年4月1日	静岡県静岡市
医療施設	聖隷静岡健診クリニック	—	2013年4月1日	静岡県静岡市

施設(事業)の種類	施　設　名	定　員	開設年月日	所　在　地
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 浜名湖エデンの園	519	1973年5月1日	静岡県浜松市
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 松山エデンの園	169	1980年6月20日	愛媛県松山市
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 油壺エデンの園	550	1986年11月1日	神奈川県三浦市
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 浦安エデンの園	324	2007年7月1日	千葉県浦安市
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 横浜エデンの園	50	2010年4月1日	神奈川県横浜市
有料老人ホーム	住宅型有料老人ホーム 藤沢エデンの園一番館	418	2011年4月1日	神奈川県藤沢市
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 藤沢エデンの園二番館	54	2011年4月1日	神奈川県藤沢市
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 結いホーム宝塚	100	2013年11月1日	兵庫県宝塚市
地域における公的介護施設等の 計画的な整備等の促進に関する 法律第2条に規定する特定民間施設	ウエル・エイジング・コミュニティ 宝塚エデンの園	551	1979年4月1日	兵庫県宝塚市
医療施設、福祉サービス及び介護保険の 事業への業務支援・指導の事業	ウエル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園	598	1992年4月1日	奈良県北葛城郡
医療施設、福祉サービス及び介護保険の 事業への業務支援・指導の事業	奈良ベテルホーム	116	1992年4月1日	奈良県北葛城郡
医療施設、福祉サービス及び介護保険の 事業への業務支援・指導の事業	ウエル・エイジング・プラザ 松戸ニッセイエデンの園	456	1997年3月1日	千葉県松戸市
ケア付高齢者住宅	明日見らいふ南大沢 (受託経営)	536	1996年6月1日	東京都八王子市
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	訪問看護ステーション住吉	—	1993年1月18日	静岡県浜松市
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	訪問看護ステーション細江	—	1995年3月1日	静岡県浜松市
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	訪問看護ステーション浅田	—	1995年10月1日	静岡県浜松市
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション宝塚	—	1995年10月1日	兵庫県宝塚市
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	訪問看護ステーション貴布祢	—	1997年2月1日	静岡県浜松市
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション北神戸	—	1997年5月1日	兵庫県神戸市
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	訪問看護ステーション高丘	—	1997年11月1日	静岡県浜松市
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	せいれい訪問看護ステーション横浜	—	1997年12月1日	神奈川県横浜市
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション油壺	—	1998年10月1日	神奈川県三浦市
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション横須賀	—	1998年11月1日	神奈川県横須賀市
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション淡路	—	2000年3月1日	兵庫県淡路市
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	せいれい訪問看護ステーション佐倉	—	2010年1月1日	千葉県佐倉市
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	訪問看護ステーション三方原	—	2011年3月15日	静岡県浜松市
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション藤沢	—	2011年4月1日	神奈川県藤沢市
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	訪問看護ステーション住吉第二	—	2012年7月1日	静岡県浜松市

施設(事業)の種類	施　設　名	定　員	開設年月日	所　在　地
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション山本	—	2012年11月1日	兵庫県宝塚市
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーションゆい	—	2013年3月1日	沖縄県中頭郡
指定老人訪問看護ステーション及び 訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション浦安	—	2016年3月1日	千葉県浦安市
高齢者生活支援ハウス	やまぶき(受託経営)	20	1999年4月1日	静岡県浜松市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター浜松	—	2000年4月1日	静岡県浜松市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター細江	—	2000年4月1日	静岡県浜松市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター浜北	—	2000年4月1日	静岡県浜松市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンターいなさ	—	2000年4月1日	静岡県浜松市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター森町	—	2000年4月1日	静岡県周智郡
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター宝塚	—	2000年4月1日	兵庫県宝塚市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター北神戸	—	2000年4月1日	兵庫県神戸市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター横須賀	—	2000年4月1日	神奈川県横須賀市
居宅介護支援事業	奄美佳南園　在宅介護支援センター	—	2000年4月1日	鹿児島県奄美市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター花屋敷	—	2003年10月1日	兵庫県宝塚市
居宅介護支援事業	松戸愛光園ケアプランセンター	—	2004年4月1日	千葉県松戸市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター和	—	2007年2月1日	静岡県浜松市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター淡路	—	2010年5月1日	兵庫県淡路市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター三方原	—	2011年3月15日	静岡県浜松市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター藤沢	—	2011年3月1日	神奈川県藤沢市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター浦安	—	2011年6月1日	千葉県浦安市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンターすみれ	—	2014年10月1日	兵庫県宝塚市
居宅介護支援事業	聖隷居宅介護支援センターゆい	—	2015年1月1日	沖縄県中頭郡
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンターいなさ南部	—	2015年10月1日	静岡県浜松市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター浅田	—	2016年10月1日	静岡県浜松市
居宅介護等事業	聖隷ケアプランセンター淡路第二	—	2016年10月1日	兵庫県淡路市
訪問入浴介護事業	奄美佳南園訪問入浴事業所	—	2000年4月1日	鹿児島県奄美市
福祉用具貸与事業	聖隷コミュニティケアセンター	—	2000年4月1日	静岡県浜松市
福祉用具貸与事業	聖隷コミュニティケアセンター 宝塚店	—	2000年10月1日	兵庫県宝塚市
特定福祉用具販売事業	聖隷コミュニティケアセンター	—	1990年4月1日	静岡県浜松市
特定福祉用具販売事業	聖隷コミュニティケアセンター 宝塚店	—	2000年10月1日	兵庫県宝塚市
居宅療養管理指導事業	聖隷三方原病院	—	2000年4月1日	静岡県浜松市

施設(事業)の種類	施　設　名	定　員	開設年月日	所　在　地
訪問看護事業	聖隷三方原病院	—	2000年4月1日	静岡県浜松市
地域包括支援センター	地域包括支援センター和合 (受託経営)	—	2006年4月1日	静岡県浜松市
地域包括支援センター	地域包括支援センター細江 (受託経営)	—	2006年4月1日	静岡県浜松市
地域包括支援センター	花屋敷地域包括支援センター (受託経営)	—	2006年4月1日	兵庫県宝塚市
地域包括支援センター	地域包括支援センター北浜 (受託経営)	—	2007年4月1日	静岡県浜松市
地域包括支援センター	逆瀬川地域包括支援センター (受託経営)	—	2007年4月1日	兵庫県宝塚市
地域包括支援センター	西第二地域包括支援センター (受託経営)	—	2008年4月1日	神奈川県横須賀市
地域包括支援センター	地域包括支援センター高丘 (受託経営)	—	2012年10月1日	静岡県浜松市
身体障害者向け住宅の事業	シオンハウス (身体障害者用住宅)	5	1992年10月1日	静岡県浜松市
障害者の日常生活及び社会生活を 総合的に支援するための法律の規定に 基づく市町村地域生活支援事業	浜松市障害者相談支援事業所 くすのき(受託経営)	—	1999年4月1日	静岡県浜松市
障害者の日常生活及び社会生活を 総合的に支援するための法律の規定に 基づく市町村地域生活支援事業	浜松市障害者相談支援事業所 ナルド(受託経営)	—	2003年4月1日	静岡県浜松市
障害者の日常生活及び社会生活を 総合的に支援するための法律の規定に 基づく市町村地域生活支援事業	浜松市障害者相談支援事業所 信生(受託経営)	—	2003年4月1日	静岡県浜松市
障害者の日常生活及び社会生活を 総合的に支援するための法律の規定に 基づく市町村地域生活支援事業	聖隷おおぞら療育センター	—	2006年10月1日	静岡県浜松市
障害者の日常生活及び社会生活を 総合的に支援するための法律の規定に 基づく市町村地域生活支援事業	聖隷厚生園信生寮	—	2006年10月1日	静岡県浜松市
障害者の日常生活及び社会生活を 総合的に支援するための法律の規定に 基づく市町村地域生活支援事業	みるとす	—	2006年10月1日	静岡県浜松市
障害者の日常生活及び社会生活を 総合的に支援するための法律の規定に 基づく市町村地域生活支援事業	浜松市障害者相談支援事業所 浜松東(受託経営)	—	2007年4月1日	静岡県浜松市
入浴、排せつ、食事、外出時の移動、 コミュニケーション、スポーツ・文化的活動、 就労、住環境の調整等を支援する事業	聖隷コミュニティケアセンター	—	1990年4月1日	静岡県浜松市
入浴、排せつ、食事、外出時の移動、 コミュニケーション、スポーツ・文化的活動、 就労、住環境の調整等を支援する事業	聖隷コミュニティケアセンター 宝塚店	—	2000年10月1日	兵庫県宝塚市
浜松市生活困窮者 自立促進支援モデル事業	浜松市生活自立相談支援センター つながり(受託事業)	—	2014年4月1日	静岡県浜松市
社会福祉の増進に資する人材の育成・ 確保に関する事業	法人本部	—	2007年4月1日	静岡県浜松市

【収益事業】

施設(事業)の種類	施　設　名	定　員	開設年月日	所　在　地
貸事務所	法人本部	—	2005年1月1日	静岡県浜松市

役員の状況

【理事】

No.		氏　名	関 係 役 職 名
1	理事長	山本　敏博	評議員・代表執行役員 (公財)ニッセイ聖隷健康福祉財団会長
2	常務理事	荻野　和功	評議員・専務執行役員・聖隷三方原病院院長 (学)聖隷学園理事
3	常務理事	福田　崇典	評議員・常務執行役員・保健事業部長
4	常務理事	鳥居　裕一	評議員・専務執行役員・聖隷浜松病院院長 (学)聖隷学園理事
5	常務理事	津幡　佳伸	評議員・常務執行役員・在宅・福祉サービス事業部長 (福)十字の園理事・(福)神戸聖隷福祉事業団
6	理事	青木　善治	評議員・常務執行役員 (財)芙蓉協会理事
7	理事	石岡　晃	評議員・常務執行役員 (公財)ニッセイ聖隷健康福祉財団評議員
8	理事	日下部　行宏	評議員・常務執行役員 (財)恵愛会評議員
9	理事	鈴木　睦明	評議員・常務執行役員・高齢者公益事業部長 (公財)ニッセイ聖隷健康福祉財団常務理事
10	理事	平川　健二	評議員・常務執行役員・法人本部総務部長 (公財)ニッセイ聖隷健康福祉財団評議員
11	理事	小野田　全宏	(特非)静岡県ボランティア協会常務理事
12	理事	小柳　守弘	(学)聖隷学園専務理事・法人事務局長
13	理事	背戸　好廣	評議員 (財)恵愛会常務理事

【監事】

No.		氏　名	関 係 役 職 名
1	監事	石打　剛義	
2	監事	上野　桂子	(社)全国訪問看護事業協会理事
3	監事	白木　政幸	
4	監事	佐野　國治	

理事会、評議員会運営の状況

開催年月日	会議名
2016年4月22日(金)	理事会
2016年5月27日(金)	評議員会・理事会
2016年6月24日(金)	理事会
2016年7月22日(金)	理事会
2016年8月26日(金)	理事会
2016年9月23日(金)	評議員会・理事会
2016年10月28日(金)	理事会
2016年11月25日(金)	理事会
2016年12月16日(金)	理事会
2017年1月27日(金)	評議員会・理事会
2017年2月24日(金)	理事会
2017年3月24日(金)	評議員会・理事会

附属明細書

該当ありません。